

【科目名】基礎ゼミ I		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】教養分野(導入教育)	【授業コード】1-00-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】必修	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月～木曜日の8:30～9:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は社会人としての協調性やコミュニケーション能力、学習の方法を養う科目です。本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による科目です。病院、施設など社会環境の中で体験したことから、学習方法、協調性の大切やコミュニケーションの取り方について学んでいきます。また、各専攻のホームルームを通して、大学での教育、職業理解についてを理解します。講義形態はアクティブラーニングと講義・演習で構成されます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この講義は全専攻で行う全体講義と、各専攻で行うホームルームがあります。学外から講師に来ていただくこともあります。その為、シラバスの講義順が変更になることがあります。生成AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 *障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 作成したレポート・課題については大学にて保管し、返却はしません。担当する教員で共有いたします。		
【講義概要】 (目的) 大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, P-1, O-1, S-3, R-1 (方法) この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 また、「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・大学生や医療人に必要とされる協調性、コミュニケーション能力などの資質を修得する。 ・大学生活に必要な知識を修得する。 ・目標を達成させるための手段を身につける。 【行動目標(SB0)】 ・大学生として必要な行動ができるようになる ・集団活動の中で協調した行動が実施できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて、資料を配布		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 レポートの返却は行いません。		

レコードの返却は行いません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価 指標	取り込む力・知識			10			10	10	30
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ			10			10		20
	発表力			5			5		10
	学修に取り組む姿勢			5			5	10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 自己紹介 動機付け	講義・アクティ ブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
2	学生生活について 大学で学ぶ準備	講義・アクティ ブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
3・4	大学生活について インターネットセキュリティーについて セキュリティ登録の方法	講義・アクティ ブラーニング 木村和樹（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
5・6	自己理解（マイナビ）	講義・アクティ ブラーニング 外部講師（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
7・8	租税教室	講義 外部講師（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
9・10	レポート作成について	講義 （星野浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
11.12	大学生活を送る中での食育について	講義 外部講師（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
13・14	図書館の利用方法。文献検索	講義 図書館職員 （星野浩通） PT1年生教室	配布資料	15分

[illegible]

【科目名】	基礎ゼミ I		【担当教員】	星野 浩通	
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0000-1		
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	30		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は社会人としての協調性やコミュニケーション能力、学習の方法を養う科目です。本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による科目です。病院、施設など社会環境の中で体験したことから、学習方法、協調性の大切やコミュニケーションの取り方について学んでいきます。また、各専攻のホームルームを通して、大学での教育、職業理解についてを理解します。講義形態はアクティブラーニングと講義・演習で構成されます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この講義は全専攻で行う全体講義と、各専攻で行うホームルームがあります。学外から講師に来ていただくこともあります。その為、シラバスの講義順が変更になることがあります。生成AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 作成したレポート・課題については大学にて保管し、返却はしません。担当する教員で共有いたします。					
【講義概要】					
(目的)					
大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, P-1, O-1, S-3, R-1					
(方法)					
この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 また、「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義します。					
【一般教育目標(GIO)】					
・大学生や医療人に必要とされる協調性、コミュニケーション能力などの資質を修得する。 ・大学生活に必要な知識を修得する。 ・目標を達成させるための手段を身につける。					
【行動目標(SB0)】					
・大学生として必要な行動ができるようになる ・集団活動の中で協調した行動が実施できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
必要に応じて、資料を配布					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 出席点は評価に含みません。 レポート、ポートフォリオの内容にて評価を行います。					

レコードの返却は行いません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40			40	20	100
評価 指標	取り込む力・知識			10			10	10	30
	思考・推論・創造の力			10			10		20
	コラボレーションとリーダーシップ			10			10		20
	発表力			5			5		10
	学修に取り組む姿勢			5			5	10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 自己紹介 動機付け	講義・アクティ ブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
2	学生生活について 大学で学ぶ準備	講義・アクティ ブラーニング 星野浩通 PT1年生教室	配布資料	15分
3・4	大学生活について インターネットセキュリティーについて セキュリティ登録の方法	講義・アクティ ブラーニング 木村和樹（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
5・6	自己理解（マイナビ）	講義・アクティ ブラーニング 外部講師（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
7・8	租税教室	講義 外部講師（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
9・10	レポート作成について	講義 （星野浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
11.12	大学生活を送る中での食育について	講義 外部講師（星野 浩通） PT1年生教室	配布資料	15分
13・14	図書館の利用方法。文献検索	講義 図書館職員 （星野浩通） PT1年生教室	配布資料	15分

[illegible]

【科目名】		基礎ゼミⅡ		【担当教員】	若菜 翔哉
【授業区分】		教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(前期)	【選択必修】	必修	wakana@nur.ac.jp
【単位数】		1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。 ・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。 ・秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。					
【講義概要】					
(目的)					
大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2					
(方法)					
・「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験する。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。					
【一般教育目標(GIO)】					
・今後の地域課題を理解する。 ・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。					
【行動目標(SBO)】					
・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。 ・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。					
【教科書・リザーブドブック】					
なし					
【参考書】					
なし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・成績評価は、出席点とレポート課題の点数で評価する。 ・出席点：出席状況に応じて、出席点を付与する（60点満点）。 ・レポート点：提出されたレポート課題を提出したレポート内容に応じて点数を付与する（40点満点）。					

- ・レポート点：提出されたレポート課題を提出し、レポート内容に応じた点数を付与する（40点満点）
- ・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じ補講等にて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	0	40	0	0	0	60	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							60	60

[illegible]

【科目名】		基礎ゼミⅡ		【担当教員】	若菜 翔哉
【授業区分】		教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0005-1	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(後期)	【選択必修】	必修	wakana@nur.ac.jp
【単位数】		1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。 ・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。 ・秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。					
【講義概要】					
(目的)					
大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2					
(方法)					
・「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験する。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。					
【一般教育目標(GIO)】					
・今後の地域課題を理解する。 ・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。					
【行動目標(SBO)】					
・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。 ・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。					
【教科書・リザーブドブック】					
なし					
【参考書】					
なし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・成績評価は、出席点とレポート課題の点数で評価する。 ・出席点：出席状況に応じて、出席点を付与する（60点満点）。 ・レポート点：提出されたレポート課題を提出したレポート内容に応じて点数を付与する（40点満点）。					

- ・レポート点：提出されたレポート課題を提出し、レポート内容に応じた点数を付与する（40点満点）
- ・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて補講等にて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	0	40	0	0	0	60	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							60	60

[illegible]

【科目名】臨床倫理学		【担当教員】村井 絹子
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30～17:30 (保健室)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、医療現場の倫理的課題を取り上げ、どのようなことが倫理的視点から問題となるのか提示し考えていきます。看護に従事した経験から、実際に臨床現場で起きている身近な倫理問題を通して、一人ひとり異なる価値観を理解し、自分の考えを広め、思索することができるよう講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) オンデマンド配信でテキストにそって講義を行います。 講義を聞き、知識・考えを広め、自分の考えを自由記述でまとめる過程で学びを深めていきます。 課題は期限内に提出してください。試験・課題については、必要に応じて解説を行います。 生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、および、予復習、課題等の作成において自由に利用してください。 使用した場合にその旨を課題等に記載してください。		
【講義概要】 (目的) 医療従事者には、一般の人より多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場の倫理的問題を思索し、実践するための知識を深め、自己啓発に向けて修養することを目的としています。加えて、将来臨床現場に従事する学生として、生命倫理を中心に、現代医療をめぐる倫理的諸問題の題材を多角的に捉え、視野を広げる機会となることを目指します。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1 (方法) 主として教科書を中心に、パワーポイントを使用して講義を行います。 内容については、指定教科書に準じます。 関連資料がある場合は配布します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・将来、医療に関わる専門職としての倫理観を深め、「なぜ今、医療において倫理が問われるのか」「患者の人権や自律の尊重がなぜ必要なのか」について理解する。 ・一人ひとりが異なる価値観を有する他者の気持ちを理解し、柔軟な思考と態度を養い「医の倫理」の知識を修得する。		
【行動目標(SB0)】 ・医療における原理・原則について説明できる ・「倫理とはなにか」自分の言葉で述べることができる ・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べることができる		
【教科書・リザーブドブック】 教科書：伏木信次、生命倫理と医療倫理第4版、金芳堂出版、2020年、¥2,700（税別）		
【参考書】 雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理 河出書房新社 伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会 塩野寛他著、生命倫理への招待改訂6版 南山堂		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、期末試験及び課題レポート点により総合的に評価する。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することをお願いいたします。		

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	オリエンテーション 臨床倫理・医療倫理・生命倫理とは 道徳・倫理・法律について 生命倫理の基本原則について 生命倫理・臨床倫理の歴史的変遷	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 2～P. 13 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
3. 4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パートナーリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 23～P. 35 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
5. 6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報の保護と倫理	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 202～P. 229 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
7. 8	生命誕生のあらまし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 62～101 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
9. 10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 131～P. 143 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
11. 12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ・ケア（終末期医療） 安楽死と尊厳死	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 104～P. 115 教科書P. 116～P. 130 教科書P. 144～P. 153 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
13. 14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 154～P. 165 教科書P. 230～P. 240 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる	オンデマンド 配信	予習：身近な臨床倫理問題を調べる 復習：課題レポート（まとめ）	30分

【科目名】		地域文化論		【担当教員】	桑原 猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0005-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	edu@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 学務課で対応(9:00～17:00)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
特に無し					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。					
【講義概要】					
(目的)					
本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。					
【一般教育目標(GIO)】					
身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。					
【行動目標(SB0)】					
毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書	桑原猛	地域文化論ノート『地域文化』	自費出版	2021	¥1,500(税込)
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	15		15					30
	思考・推論・創造の力	30		30					60
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	5		5					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	講義概要のガイダンス 城下町として発展してきた町。そこで培われて地域の歴史と文化は現在も生き続けている。ここでは村上城下の近世から現代までの変遷の中で城下町の機能、果たしてきた役割について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
3-4	城下町には、武家町と町人町があり、それぞれ特性を有していた。ここでは武家の住宅(屋敷)と町人地の住宅(町家)の比較から、町家の構造・特徴について考える。また、村上城下の通り名などから昔と現在の比較を行う。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
5-6	村上城下の祭 羽黒神社例大祭(村上大祭)と七夕祭・獅子舞などの歴史と、村上の伝統行事・地域文化を通して連綿と受け継がれてきた人々の思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
7-8	村上のお茶・村上漆器 村上の伝統産業としての村上茶と村上木彫堆朱の歴史と地域に及ぼしてきた物心両面から、地域文化として形成され根付いてきた背景をたどり、人々思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内のお茶屋や堆朱販売店などを訪ねる。 「地域文化論ノート」による学習	90
9-10	村上の鮭 村上は古代から鮭とのつながりの深い町であり、村上独自の鮭文化を形成してきた。その鮭文化の原点ともいえる「種川の制」などを考証することによって、村上の人々の鮭への思いやこだわりについて考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) いよぼや会館を訪ね実際の鮭の静態を監察する。 「地域文化論ノート」による学習	90
11-12	村上に残る「九品仏」の由来などを通して、九品仏とその配置から鬼門鎮護の思想、及び「お地藏様」と民衆信仰について考える。 村上に残る地藏様と地藏様祭りを通して、庶民の身近な進行としての地藏様を考える。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
13-14	地域の記憶と地域文化 地域文化は地域の記憶として過去から現在へそして未来へ受け継がれていくことが大切である。そのためには、地域文化の持つホスピタリティ性が理解されなければならないという点から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
15	地域文化と介護 地域文化の持つホスピタリティと介護との関係を、地域の人とのコミュニケーション形成のという面から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90

【科目名】		日本語表現法	【担当教員】	上松 恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。				
【講義概要】 (目的) 正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2 (方法) 基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代にあった表現方法を学習する。				
【一般教育目標(GIO)】 ・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する ・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる ・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する				
【行動目標(SBO)】 ・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる ・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる ・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる				
【教科書・リザーブドブック】 上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）				
【参考書】 講義内で適宜資料を指示する				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価 指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンライ ンの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法についてーどのような方法でまとめ、どう考察するのかー	講義と実践	講義内で適宜指示	40
10	レポートの書き方1 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	40
11	レポートの書き方2 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	40
12	レポートの書き方3 正しい日本語を使った発表の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
13	インターネットにおける日本語表現とスキル	講義と実践	講義内で適宜指示	40
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	40
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	40

【科目名】		心理学概論Ⅰ		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0015-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識はすべての人に必要なものです。特に将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で貢献していくことを希望する学生には受講していただきたいと思います。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て配布資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータ（個人情報）は、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。 ②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。 ③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。 ④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。					
【当該科目と学位授与方針との関連性】 A-1, A-2, P-1, O-1, R-2					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 理解度確認テストを実施した場合は、回収後に解答の解説を行います。 心理テストの実施については、その目的や結果の解説は行いますが、データは回収しません（各自で適宜保管する）。					
【一般教育目標(GIO)】					
人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。 人の心のはたらきはどのようにして客観的に観察・測定されるのかを知る。 心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。 社会人として良好な人間関係が構築できるよう場面に相応しい態度やコミュニケーション能力を培う。					
【行動目標(SB0)】					
科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。 心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。 「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”（感情や態度）を自己コントロールできる。 保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2, 2,900円＋税, ISBN978-4-263-42223-6					
【参考書】					
フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」 金剛出版, 2015/9/25, 24,200円(税込) 「ゼロからわかる心理学」増補第2版(Newtonムック別冊), 2021/1/18, (株)ニュートンプレス, 1,500円＋税 繁舩算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う。					

・成績評価基準は全学子別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第1章「知覚」 知覚成立の基礎 ・感覚器官と適刺激 ・刺激の閾値 ・物理的環境と心理的環境	講義 討議：ストレスと知覚過敏	【予習】指定教科書p. 2-5を読む 【復習】知覚はどのように成り立っているのかを理解する	15 30
2	第1章「知覚」 知覚の体制化 ・図と地 ・恒常現象	講義 一部演習：知覚の体制化の体験	【予習】指定教科書p. 5-9 【復習】知覚成立の特徴を説明できる。	15 30
3	第1章「知覚」 知覚の諸相 ・錯視 ・時間・空間・運動の知覚	講義 一部実習：錯視現象の体験	【予習】指定教科書p. 10-12を読む 【復習】自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する。	15 30
4	第1章「知覚」 社会的知覚 ・欲求と価値 ・知覚的防衛 ・臨床応用	講義 討議：“ものの見方・見え方”の個人差	【予習】指定教科書p. 12-14を読む 【復習】注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する。	15 30
5	第2章「学習・記憶」 ・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・条件づけの臨床応用	講義 討議：条件づけ原理とPTSDのメカニズム	【予習】指定教科書p. 15-19 【復習】学習の定義を説明できる。 学習成立の主なメカニズムを理解する。	15 30
6	第2章「学習・記憶」 ・観察学習 ・自己効力感	講義 討議：社会的学習理論から考察する攻撃の心理	【予習】指定教科書p. 19-20を読む 【復習】社会的行動における観察学習の重要性を理解する。	15 30
7	第2章「記憶・記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	【予習】指定教科書p. 20-23を読む 【復習】記憶のモデル構造やその過程を理解する。記憶の測定法を説明できる。	15 30
8	第2章「記憶・記憶」 ・忘却のメカニズム ・記憶の歪み ・記憶障害の病理	講義 一部実習：記憶検査	【予習】指定教科書p. 24-26を読む 【復習】日常場面における記憶現象を知る。忘却の要因を説明できる。 記憶の歪みや病理を理解する。	15 30

9	第3章「動機づけ」 ・動機づけの定義 ・動機づけの分類と機能	講義 討議：やる気が失せる要因	【予習】教科書p. 27-34を読む 【復習】動機づけの分類とメカニズムを理解する。動機づけの適応的機能が理解できる。	15 30
10	第3章「動機づけ」 ・欲求 ・自己効力感/学習性無気力 ・セルフエフィカシーの測定	講義 一部実習：自己効力感の測定	【予習】教科書p34-38を読む 【復習】やる気の生起または消失の要因を理解する。セルフエフィカシーの概念を説明できる。	15 30
11	第4章「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義 討議：感情の発達と人格形成	【予習】教科書p. 39-45を読む 【復習】感情発生の機序を知る。感情の種類を知る。感情の適応的機能を理解する	15 30
12	第4章「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス ・ストレス・コーピング	講義	【予習】教科書p. 45-52を読む 【復習】欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。ストレスとその対処法を理解できる。	15 30
13	第12章「精神的健康」 ・WHO「健康」の定義 ・心の健康を測定する ・抑うつ/不安/ストレス尺度	講義 一部実習：ストレスの測定	【予習】教科書p. 150-153を読む 【復習】心が健康な状態を理解する。心の健康が損なわれているサイン（兆候）を把握することができる	15 30
14	第14章_4「健康心理学」 ・タイプA行動と特定疾患/寿命への影響 ・行動特性の修正（認知行動療法等）	講義 一部実習：タイプA行動のチェック	【予習】指定教科書p. 188, p. 202を読む 【復習】「タイプA」行動の特性を理解し、認知行動療法の実際を学ぶ。	15 30
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・傾聴と共感	講義	【予習】人の心の基本的な仕組みと働き、及び心の不適応状態を確認しておく 【復習】「優しい目、大きな耳、小さい口、広いところ」を身につける	30 15

【科目名】		心理学概論Ⅱ		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0020-3	(メールアドレス) nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識はすべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で貢献していくことを希望する学生には受講していただきたいと思います。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータ（個人情報）は、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。 ②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。 ③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。 ④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。					
【当該科目と学位授与方針との関連性】 A-1, A-2, P-1, O-1, R-2					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 理解度確認テストを実施した場合は、回収後に解答の解説を行います。 心理テストの実施については、その目的や結果の解説は行いますが、データは回収しません（各自で適宜保管する）。					
【一般教育目標(GIO)】					
人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。 人の心のはたらきはどのようにして客観的に観察・測定されるのかを知る。 心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。 社会人として良好な人間関係が構築できるよう場面に相応しい態度やコミュニケーション能力を培う。					
【行動目標(SBO)】					
科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。 心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。 「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”（感情や態度）を自己コントロールできる。 保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版，医歯薬出版，2016/9/2， 2,900円＋税，ISBN978-4-263-42223-6					
【参考書】					
フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳) 「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版，2015/9/25，24,200円(税込) 「ゼロからわかる心理学」増補第2版 (Newtonムック別冊)， 2021/1/18，(株)ニュートンプレス，1,500円＋税 「知能と心の科学」 (Newtonムック別冊)， 2012/11/01，(株)ニュートンプレス，2,300円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に準ずる。					

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第5章「パーソナリティ」(1) ・パーソナリティの記述	講義	【予習】教科書p. 54-59を読む。 【復習】パーソナリティの主な分類法を学び、パーソナリティの特徴とその記述法を理解する。	15 30
2	第5章「パーソナリティ」(2) ・パーソナリティの測定法	講義	【予習】教科書p. 60-63を読む。 【復習】パーソナリティの構成要因とその測定法を理解する。	15 30
3	第5章「パーソナリティ」(3) ・演習：性格検査	演習：性格検査の実施と結果の評価	【予習】指定教科書p. 60-61を読む 【演習】パーソナリティはどのように客観的に測定されるのかを体験する。	30 60
4	第5章「パーソナリティ」(4) ・パーソナリティの異常と障害	講義 一部実習：人格障害チェックリスト	【予習】指定教科書p. 63-65を読む 【復習】パーソナリティの障害を理解し、適切に配慮できる。	15 30
5	第6章「知能」(1) ・知能の定義 ・知能の構造	講義	【予習】指定教科書p. 68-71を読む 【復習】知能検査開発の歴史的経緯を知り、知能の定義及び知能の構成要因を説明できる。	15 30
6	第6章「知能」(2) ・知能の測定 ・知的能力障害（知的発達症）	講義 一部演習：知能検査	【予習】指定教科書p. 71-79を読む 【復習】知能はどのように測定されるのかを学ぶ。知的発達症の定義（基準）を理解し、適切に配慮できる。	15 30
7	第7章「思考」(1) ・思考とは？ ・概念 ・問題解決	講義 討議：思考を言語及び概念の発達の観点から考察する。	【予習】指定教科書p. 82-86を読む 【復習】考える機能を説明でき、ヒトの思考と言語の関係を理解する。問題を解決する方略（思考）を学ぶ。	15 30
8	第7章「思考」(2) ・推論 ・創造性 ・創造的思考力の開発	講義 一部演習：思い込みの心理を体験する。	【予習】指定教科書p. 86-92を読む 【復習】推論とその誤りを知る。新たなものを創り出すプロセスを学び、創造性を開発する手法を理解する。	15 30

9	第10章「人間関係」(1) ・対人認知 ・帰属理論	講義 一部演習: 「P-0-Xモデル」で自身の人間関係を考察する。	【予習】教科書p. 126-131を読む。 【復習】他者の印象形成について学び、その誤りについて理解する。	15 30
10	第10章「人間関係」(2) ・対人魅力	講義 一部討議: 人に好かれる要因を心理学的に考察する。	【予習】教科書p. 131-134を読む。 【復習】他者に好感を、あるいは嫌悪感をいだく要因は何かを学び、良好な人間関係を構築する言動を身につける。	15 30
11	第11章「集団」(1) ・集団の心理 ・社会的影響	講義 一部討議: 周りに合わせる、傍観者になる心理を考察する。	【予習】教科書p. 136-143を読む。 【復習】集団の特徴と分類を学ぶ。また、他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる。	15 30
12	第11章「集団」(2) ・態度 ・流行と流言	講義 一部演習: 悪徳商法の心理テクニックを考察する。	【予習】教科書p. 143-148を読む。 【復習】態度の適応的機能を知り、相手の態度の変容を促す手法を学ぶ。個々人の欲求と社会現象との相互関係について理解する。	15 30
13	第14章「心理学の応用分野」(1) 「災害心理学」より ・被災者の心理状態 ・ASD/PTSDへの対応	講義 一部実習: ASD/PTSDチェックリスト	【予習】教科書p. 194-196を読む。 【復習】被災者への適切な対応、心のケアを理解する。	15 30
14	第14章「心理学の応用分野」(2) 「産業・組織心理学」より ・ライフ・キャリア・レインボー ・「働き方改革」ワーク・ライフ・バランス	講義 実習: 自身のキャリアレインボーを描く。	【予習】教科書p. 196-197を読む。 【演習】自身のキャリア・レインボーを描く。その過程を通して、自身の職業アイデンティティを考察する。	15 60
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・質疑応答	講義 討議: 全体の質疑応答	【予習】アイデンティティの定義を確認する。 【復習】心理学の知識をいろいろな場面で応用できる。	15 30

【科目名】医療行動科学Ⅰ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0030-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) *1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。		
【講義概要】 (目的) 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2 (方法) 主として配布資料を使用して講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。 【行動目標(SB0)】 各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 山田富美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900（税別） 津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの作成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの作成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの作成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理 解することについて	講義	講義ノートの作成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの作成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの作成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの作成	90
15・試験	「医療行動科学Ⅰ」まとめ 試験	講義・試験	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】医療行動科学Ⅱ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) *1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。		
【講義概要】 (目的) 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2 (方法) 配布資料を使用して講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。 【行動目標(SB0)】 各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 山田富美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900（税別） 津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの作成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの作成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの作成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの作成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの作成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの作成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの作成	90
15・試験	「医療行動科学Ⅱ」まとめ 試験	講義・試験	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】		社会と健康 I		【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】		教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0000-2	(メールアドレス) yamakura@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	
【単位数】		1	【コマ数】	15	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高校・大学での学校臨床の経験や大学院附属の臨床心理センターでのカウンセリング経験から、社会生活で起こりうるメンタルヘルスの問題について、症状、予防法、治療的介入法を講義します。またストレスへの対処法や自己分析のツールについて解説します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・本科目では、具体的な疾患の病態や予防法に加え、健康を維持・増進するためのさまざまな概念を取り上げて、事例を交えながら解説します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。					
【講義概要】					
(目的)					
メンタルヘルスの問題について、症状、予防法、治療的介入法を理解することを目的とする。また、ストレスへの対処法や自己分析のツールについて理解することを目的とする。 ※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。授業回によっては事例検討を組み入れて進行する。					
【一般教育目標(GIO)】					
現代社会におけるメンタルヘルスの問題について理解できる。 ストレスへの対処法や自己分析のツールについて理解できる。					
【行動目標(SB0)】					
メンタルヘルスの問題に対する予防方法や、介入方法について説明できる。 ストレスへの対処法や自己分析のツールについて説明できる。また、自身で活用することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
授業資料を毎回配布します。					
【参考書】					
ベティー・キッチナーほか／メンタルヘルス・ファーストエイド／創元社／2021年／3,600円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポートと定期試験を実施する。 ・レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。					

・ 出席率は評価に反映しません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		45		35				20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25		20					45
	思考・推論・創造の力	20		15					35
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション ストレスマネジメント	講義	講義プリントの復習 ストレスに曝された時のセルフコン trolについて理解する	120
3-4	燃え尽き症候群（バーンアウト）	講義	講義プリントの復習 対人援助職によく起こり得る精神衛 生上の問題とそれに対する対処につ いて理解する	120
5-6	メンタルヘルスファーストエイド メンタルヘルスの問題（1）うつ病	講義	講義プリントの復習 メンタルヘルスファーストエイドに ついて、うつ病の症状と治療・介入 方法について理解する	120
7-8	メンタルヘルスの問題（2）不安障害、精神病、	講義	講義プリントの復習 不安障害、精神病の症状と治療・介 入方法について理解する	120
9-10	メンタルヘルスの問題（3）物質使用障害、ギャンブル依存	講義	講義プリントの復習 物質使用障害、ギャンブル依存の症 状と治療・介入方法について理解す る	120
11-12	メンタルヘルスの問題（4）摂食障害、自殺念慮 と自殺企図	講義	講義プリントの復習 摂食障害、自殺の現状と支援・介入 方法について理解する	120
13-14	復職支援と自己分析	講義	講義プリントの復習 休職に至る経過や復職支援の方法と 自己分析のためのツールについて理 解する	120
15	まとめ	講義	講義の振り返り	120

【科目名】		社会と健康Ⅱ		【担当教員】	柳澤 博
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0005-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yanagisawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
医療者として、健康に対する意識を高める科目です。 社会と健康Ⅰを受講していること。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目は、実務経験者対応科目である。・講義は映像視聴、課題による方法で行う。・映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。・課題の提出期限は守ってください。・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1, 2、O-1, 2、R-1, 2					
【講義概要】					
(目的)					
人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。					
(方法)					
社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。 この授業はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料を必要に応じて配布					
【参考書】					
資料を必要に応じて配布					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	・オリエンテーション ・イントロダクション 社会と健康：「医療社会学とは」	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
3, 4, 5, 6	医療社会学 入門	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
7, 8, 9, 10	医療社会学 一批判的な観点から一	課題	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
11, 12, 13, 14	社会（文化・教育・テクノロジー）と健康との関 係	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
15	まとめ	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分

【科目名】 法律と医療 I		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 教養分野(社会科学)	【授業コード】 1-02-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 火・木 12:40-13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目である。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要である。可能な限り受講するのが望ましい。この講義は医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障がない限り返却する。1・2回目のみ対面講義とし、3回目以降はオンデマンド配信での講義とする。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2 (方法) 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心にを行い配布資料を補助的に用いる。 本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・法学について理解する。 ・憲法の基本的な考え方に基づき人権について理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・法学について説明出来る。 ・憲法の基本的な考え方に基づき人権について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会 法学一権利擁護と成年後見制度、へるす出版 2, 310円(税込) 野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、2011年、¥2,500円(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。 ・レポートのフィードバックについては、個別にコメントを付けて返却する。		

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	日本国憲法の基本原理・基本的人権	対面講義	日本国憲法とは何か、インターネットや文献などで予習。	90分
3・4	日本国憲法の基本原理・人権各論 生命・自由および幸福追求権	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
5・6	日本国憲法の基本原理・人権各論 法の下での平等	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
7・8	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(1)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
9・10	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(2)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
11・ 12	日本国憲法の基本原理・人権各論 経済的自由権	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
13・ 14	人権各論 身体・生命の自由(人身の自由)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
15	今までの振り返り	配信講義	今までの資料を復習しておくこと。	90分

【科目名】	法律と医療Ⅱ		【担当教員】	向田 怜史	
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0015-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・木 12：40～13：30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・法律と医療Ⅰを合わせて履修することが望ましい。 ・医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目である。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要である。可能な限り受講することが望ましい。この講義は、医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障がない限り返却する。1、2回目のみ対面講義とし、3回目以降はオンデマンド配信での講義とする。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2					
(方法)					
授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。 本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。					
【一般教育目標(GIO)】					
医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。					
【行動目標(SB0)】					
法律と医療の関連性について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特になし					
【参考書】					
安藤秀雄ほか、これだけは知っておきたい医療事務101法最新医療関連法の完全知識、医学通信社、2022年、3,200円（税別） 野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、2011年、2,500円（税別）精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会 法学－権利擁護と成年後見制度、へるす出版 2,310円(税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。 ・レポートのフィードバックについては、個別にコメントを付けて返却する。					

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	民法の理解 契約・不法行為	対面講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
3・4	民法の理解 親族・相続	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
5・6	行政法の理解	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
7・8	医療契約の基礎 医療契約・医療事故・医療過誤	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
9・10	個人情報保護法	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
11・ 12	医療と契約	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
13・ 14	脳死・臓器移植・安楽死・尊厳死	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
15	今までの振り返り	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション コミュニケーション心理学とは	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
3-4	社会的認知1：自己認知	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
5-6	自己を表現するコミュニケーション：自己開示と 自己呈示	講義・演習	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
7-8	社会的認知2：印象形成①	講義・演習	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
9-10	社会的認知2：印象形成②	講義・演習	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
11-12	社会的認知3：ヒューリスティック、バイアス	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
13-14	自己表現と社会的認知：リーダーシップ	講義・演習	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
15・試験	まとめ 試験	講義	これまでの講義をもとに、講義ノート を作成・完成させておく。	240分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	集団におけるコミュニケーション1:集団の形成	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
3-4	集団におけるコミュニケーション2:集団凝集性	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
5-6	集団におけるコミュニケーション3:同調行動・態度形成	講義・演習	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
7-8	集団におけるコミュニケーション4:対人説得・態度変容	講義・演習	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
9-10	集団におけるコミュニケーション5:親密な他者との関係	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
11-12	集団におけるコミュニケーション6:家族との関係	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
13-14	集団におけるコミュニケーション7:権威の服従	講義	配布資料を読む、小テスト提出 講義ノート作成	240分
15・試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240分

【科目名】	統計学Ⅰ		【担当教員】	丁子 雄希
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) メールにて適宜対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
・高校数学の基礎知識を有していることが望ましい。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として臨床研究に従事してきた経験から、統計学に関して講じていきます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・本講義では、パソコンを使用しますので必ず持参ください。 ・授業中に統計ソフトのインストール方法についてお知らせします（Windows対応）。もし使用するパソコンがMacの方は事前にお知らせください。 ・生成AIの使用は禁止します。 ・授業は、オンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。				
【講義概要】				
(目的)				
保健医療分野において求められる統計学的な考え方や基礎的な統計学的手法を理解することを目的とする。 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2				
(方法)				
統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。 授業はオンデマンド配信で行います。				
【一般教育目標 (GIO)】				
統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析、さらに推測統計の基礎について説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
山本 澄子(監修)、谷浩明(監修)：すぐできる!リハビリテーション統計[解析ソフト付](改訂第2版)：データのみかたから検定・多変量解析まで。2019。				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30				10	40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション 記述統計と推測統計	講義	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	60
3・4	尺度、分布、グラフ	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。 比率尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度の違いを理解する。	60
5・6	検定の基礎	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。推測統計の流れを理解する。	60
7・8	2群パラメトリック検定（対応あり）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、t検定を理解する。	60
9・10	2群パラメトリック検定（対応なし）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、t検定を理解する。	60
11・12	ノンパラメトリック検定（Mann-WhitneyのU検定）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、Mann-Whitney検定を理解する。	60
13・14	ノンパラメトリック検定（ χ^2 検定）	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、 χ^2 検定を理解する。	60
15・16	相関と回帰	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、相関と回帰を理解する。	60

17・18	3群のパラメトリック検定	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、3群間比較を理解する。	60
19・20	3群のノンパラメトリック検定	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、3群間比較を理解する。	60
21・22	重回帰分析	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、重回帰分析を理解する。	60
23・24	ロジスティック回帰分析	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。統計ソフトを用い、ロジスティック回帰分析を理解する。	60
25・26	診断の指標 感度、特異度	講義・演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。感度・特異度を理解する。	60
27・28	まとめ① (基本統計1)	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる。	60
29・30	まとめ② (基本統計2)	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる。	60

【科目名】		統計学Ⅱ		【担当教員】	古西 勇
【授業区分】		教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	
【単位数】		1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) 来学曜日、授業終了後					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
前期で「統計学Ⅰ」もしくは「心理学統計法Ⅰ」を履修した学生を対象とします。「統計学Ⅰ」や「心理学統計法Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用する科目です。授業を通して、実際の世界において統計学を活用することの意義を理解し、応用力をつけてください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
授業開始時刻より15分経過してから30分までの入室は遅刻とします。それ以降の入室および途中退室や早退などによりその日の授業時間の3分の2以上の出席が確保できなかった場合は欠席とします。 生成AIについては、演習により自身がまとめた結果をAIに解説させるなど、積極的な使用を推奨します。					
【講義概要】					
(目的)					
データの収集と分析の方法についての基礎的知識を確認し、応用として、統計学を活用し実際の世界の現象について推論し結論を出す過程を幅広く経験します。それにより、これからの在学期間を含めた将来、不確実性に直面した際に、問題解決のためにデータを効果的に利用することに役立ちます。＊これは「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2, 3					
(方法)					
教科書とそれに付属の解析ソフトを用いて個別のあるいはグループでの演習を行います。解析ソフトをインストールした自身のパソコンを毎回持参してください。初回に、データの収集と分析の方法についての基礎的知識を確認するアンケートを行います。授業時間内で、講義、個別の演習、グループでの演習、発表の時間を区切って行います。 最終的な達成度は、個別の演習の成果をまとめたレポートとグループでの発表を評価して行います。レポートと発表については、評価表（ルーブリック）による採点基準をあらかじめ説明します。					
【一般教育目標（GIO）】					
将来、不確実性に直面した際に、問題解決のためにデータを効果的に利用できるようになるために、実際の世界の現象のデータを用いて、データに基づいて推論し結論を出す過程を経験することを通して、データの処理方法と要約の仕方、結果の解釈と考察への流れの視点を獲得する。					
【行動目標（SBO）】					
・データの収集と分析について、基礎的な範囲で、適切な方法を選ぶことができる。 ・実際の世界の現象について推論し結論を出すためのデータの処理方法を模倣することができる。 ・表のまとめ方、グラフの表現方法など、データの数値的・視覚的な要約の仕方を模倣することができる。 ・結果の解釈とそれを踏まえた考察への流れを自分の視点で述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
・山本澄子・谷浩明（監修）、すぐできる！リハビリテーション統計 改訂第2版 データのみかたから検定・多変量解析まで、南江堂、2019年、3,740円					
【参考書】					
・David M Diaz, Mine Çetinkaya-Rundel, Christopher D Barr （著）、国友直人、小暮厚之、吉田靖（訳）、データ分析のための統計学入門（原著第4版）、日本統計協会発行、2022年 （入手方法については授業の中で紹介します）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
出席点（出席回数に応じて点数を与えること）は評価に含まれません。成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従います。 レポートと発表については、評価表（ルーブリック）による採点基準をあらかじめ説明します。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80	20				100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	コースオリエンテーション、基礎的知識確認、パソコンでの解析ソフト等の動作確認 統計学の活用 (1) 健康と富を通じた200年の歴史	講義・演習、グループワーク	予習：変数について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：変数のデータをどう処理すると何ができるかを考える	90
3・4	統計学の活用 (2) 世界子供白書2024：2050年の子どもたち データの並べ方、散布図、バブルチャートの作成	講義・演習、グループワーク	予習：散布図の作成について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：グループワークで行ったことを再度、個別に行う	90
5・6	統計学の活用 (3) 相関係数の検定、回帰分析 (単回帰、重回帰)	講義・演習、グループワーク	予習：相関係数の検定について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：グループワークで行ったことを再度、個別に行う	90
7・8	統計学の活用 (4) 2時点間の変化を明らかにするには	講義・演習、グループワーク	予習：関連2群の検定について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：グループワークで行ったことを再度、個別に行う	90
9・10	統計学の活用 (5) 3時点間の変化を明らかにするには	講義・演習、グループワーク	予習：3群以上の検定について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：グループワークで行ったことを再度、個別に行う	90
11・12	統計学の活用 (6) 群に分けての分析 (群間、2群・2時点間、2群・3時点間)	講義・演習、グループワーク	予習：対応のない群間の検定について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：グループワークで行ったことを再度、個別に行う	90
13・14	統計学の活用 (7) 表のまとめ方、グラフの表現方法、結果の解説の流れ、結果を踏まえた考察の書き方	講義・演習、グループワーク	予習：図表の作成方法について、教科書の該当ページを読み直す	90
			復習：グループワークで行ったことをまとめ、発表の準備をする	90
15	発表会、まとめ、レポートの作成方法	演習	復習：発表に対する意見を踏まえ、個別にレポートを作成する	90

【科目名】基礎生命科学		【担当教員】平田 恒彦
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0010-2	(メールアドレス) qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp (オフィスアワー) 来校時に対応
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。 高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。講義中に試験問題等を提供する。 試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。 試験後、回答例を示します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必須な学習事項を中心に概説する。		
【一般教育目標 (GIO)】 世間一般で話題となっている「生命（いのち）＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。		
【行動目標 (SB0)】 「生命（いのち）＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。		
【教科書・リザーブドブック】 特に使用せずプリントを提供する。		
【参考書】 高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。 必要な場合にその都度紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価 指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物〇〇・・・」の高校での学習の有無につ いてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命 (いのち) ＝生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の(化学)反応(系) ～ ① 加水分解・酸化還元・酸と塩基 からだの中の(化学)反応(系) ～ ② 酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応…そして、生活空間＝環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環 ～ ① 体液 循環 ～ ② 気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン…そして、生活空間＝環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】		医生物科学 I		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0015-2	(メールアドレス) qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp (オフィスアワー) 来校時に対応	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
高校等で「生物基礎」を選択履修したものとして講義を執り行う。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションという現実直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野に必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物（学）の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。これらの事柄と関連して、現代のAIがどの様に関わっている（関わってくる）か、についても学習する。					
【一般教育目標(GIO)】					
常識程度の医生物科学（生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学）を語れるようになること。					
【行動目標(SB0)】					
基礎医学及び医療に関する昨今話題をまとめ、語れるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
必要な資料を提示する。					
【参考書】					
高校の教科書・参考書、新聞 必要な場合にその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。 講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。 試験後回答例を提示し、コメント					

映画後出賃割合を低減しよ。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価 指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	子供＝少年・少女時代に帰ってやってみよう。 「もの」を云いながらおしゃべりをしながらや てみよう。	講義	新聞等マスメディアの生命に関する 記事を熟読すること。	10分
3-4	「一」から「九」までの乗算数を書き並べて下 さい。	同上	同上	同上
5-6	テーマ：「動物の超能力」	同上	同上	同上
7-8	テーマ：「大超能力者から超能力とヒトの進化」	同上	同上	同上
9-10	テーマ：ヒトは「思う」・「考える」…「夢の 中」に居れる？居れない？	同上	同上	同上
11-12	テーマ：知能って？！	同上	同上	同上
13-14	テーマ：ヒト以外の動植物の知能とは？？？	同上	同上	同上
15	テーマ：AIはどこから…？！	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】		医生物科学Ⅱ		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0020-2	(メールアドレス) qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp (オフィスアワー) 来校時に対応	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ヒトというものに対して科学的に考えてみたいな～の思いを持っていることを期待したい。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 試験後回答例を提示します。					
【講義概要】 (目的) リハビリテーションという場を思いながら、現実直面する生きている人の肉体と心のあり方、それが人の生まれから生長（成長）への流れ＝赤子から老いの中で、どのような動きを見せ、人の消失へ繋がるのかを辿ってみる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 胎児のあり方、幼児 ～ 児童、少年少女、青年、壮年、晩年への辿りの中における人の「いのち（命）」のあり（＝有り ～ 在り）様を伺う。					
【一般教育目標(GIO)】 人として生まれ・生きる・生きていることを「あらためて」思い・考えてみて、それを自分の実生活の中に反映させられるようになること。					
【行動目標(SB0)】 このコロナ時代にあって、人のいのち（命）についての思いを新たになされるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】 特に使用せずプリントを提供する。					
【参考書】 高校の教科書・参考書、 必要な場合にはその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価 指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	アトムは完成した。・・・が、生まれたのだろうか？ 「いのち」、この世への息吹きとは・・・??? 胎児への問い掛け（父親からの胎児への問い掛け）	講義	新聞・マスメディアの記事等に関心を抱くこと。	10分
3-4	赤ちゃんは顔を観・読む！ 赤ちゃんの学び・・・観る聞く・・・思って・考 えているのだろうか???	同上	同上	同上
5-6	聞いて・・・見て・・・の世界へ。童話・童謡の 世界へ・・・。	同上	同上	同上
7-8	幼児＝子どもの・・・生長（成長）しているヒト の・・・大人の・・・世界へ・・・。	同上	同上	同上
9-10	ヒトの世界へ・・・ヒトの社会生活・・・の世界 へ。	同上	同上	同上
11-12	ヒトの・・・生きものの・・・「いのち（命）」 とは・・・その「いのち（命）」が・・・。	同上	同上	同上
13-14	「いのち（命）」のあること・・・「生きる ≈ 生 きている」こと・・・その支え・・・へ。	同上	同上	同上
15 16	まとめ ≈ 「生きる ≈ 生きている」ことに何を思 う???	同上	同上	同上

【科目名】人間支援科学 I		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0025-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。 この授業はアクティブラーニングを用います。クリッカーを使用した双方向型講義です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義ではグループ演習を含む。		
【講義概要】 (目的) 多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労い支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に付けていくことを目的とする。 当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、O-1、A-1、A-2 (方法) 資料を元に、演習などを取り入れて講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。 社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。		
【行動目標(SB0)】 講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 授業内また授業後に実施する小テスト、試験により評価する。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	コミュニケーションの構成要素	講義	講義ノートを作成する。	90
3. 4	言語・非言語コミュニケーション	講義	講義ノートを作成する。	90
5. 6	コミュニケーションスキル：自己を知る	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
7. 8	コミュニケーションスキル：自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
9. 10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(1)	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
11. 12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(2)	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
13. 14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(3)	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】		人間支援科学Ⅱ		【担当教員】	丁子 雄希
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tyouji@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・全専攻1・2年生 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として従事してきた経験から、人間支援科学に関して講じていきます。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。					
【講義概要】					
(目的)					
人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2					
(方法)					
自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
生活に不都合を感じている方にとって、生活支援に役立つ「モノ」とは何かについて理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
各生活場面における、福祉用具、自助具について説明できる。 またその効能について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特になし					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	生活支援とは何か 生活分類について	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
3、4	生活支援の視点 FIMを用いて	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
5、6	ADL①に役立つモノについて 食事支援	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
7、8	ADL②に役立つモノについて 腰部・股関節疾患の事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
9、10	移動に役立つモノについて 車椅子	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
11、12	高次脳機能障害者に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
13、14	運転支援に役立つモノについて 連携シートの活用事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30
15	発達障害児に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義	配布資料に関して該当箇所の復習を行うこと。	30

【科目名】物理学 I		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 (方法) ・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。 ・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。 【行動目標(SB0)】 学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 ・試験・レポートの解答の返却は行いません。 ・リザーブドブックは必ず授業終了後返却してください。		

・ 訳文 ・ レポートの勝負の返答はわかりません。レポートハックは必妥に心し備講守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60					40		100
評価 指標	取り込む力・知識	20							20
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						40		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学・単位	講義（対面）・ 演習 星野浩通	復習：四則演算。単位を復習しておく	30
3, 4	バネの伸びと力の合成	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：教科書 p 5～12を読んでおく。 復習：P 1 2 練習問題の実施	30
5, 6	テコの原理と第 1 のテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 13～20を読んでおく 復習：P 20練習問題実施	30
7, 8	第 2 のテコと第 3 のテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 21～26を読んでおく 復習：P 26練習問題実施	30
9, 10	輪じく・滑車・歯車	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 27～35を読んでおく 復習：P 34～35練習問題実施	30
11, 12	生体内のテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 37～45を読んでおく 復習：P 45練習問題実施	30
13, 14	下肢の存在するテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 47～50を読んでおく 復習：P 50練習問題実施	30
15	まとめ演習	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 5～50を読んでおく 復習：各講の練習問題を復習する	30

[illegible]

【科目名】		物理学Ⅱ	【担当教員】	星野 浩通
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0040-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は実務経験者対応科目である。履修規程に則り実施する。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。				
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2				
(方法) 教科書と配布資料などによる講義（映像配信）と演習を行う。 対面講義で行う場合には、アクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GIO)】 ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。				
【行動目標(SBO)】 学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。				
【教科書・リザーブドブック】 江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800				
【参考書】				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 ・試験・レポートの解答の返却は行いません。リザーブドブックは必ず授業終了後返却する必要があります。				

・ 訳文 ・ レポートの勝負の返答はわかりません。レポートハックは必妥に心し備講守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60					40		100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						40		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	作用・反作用、力の分解、斜面、振り子、摩擦力	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p51～59を読んでおく 復習：教科書p59の練習問題実施	30
3, 4	物体の位置と座標系 物体の速度と座標系	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p61～86を読んでおく 復習：教科書p72、86の練習問題実施	30
5, 6	物体の速度と加速度 力と加速度	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p87～105を読んでおく 復習：教科書p97、105の練習問題実 施	30
7, 8	力学的仕事とエネルギー	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p107～116を読んでおく 復習：教科書p116の練習問題実施	30
9, 10	浮力と水圧	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p117～128を読んでおく 復習：教科書p128の練習問題実施	30
11, 12	電気回路	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p129～140を読んでおく 復習：教科書p140の練習問題実施	30
13, 14	波・音・熱・光・電波	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p141～153を読んでおく 復習：今までの総復習	30
15	総まとめ演習の解説	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p51～140を読んでおく 復習：教科書の練習問題を復習	30

[illegible]

【科目名】レクリエーション		【担当教員】上松 恵理子
【授業区分】教養分野(体育関係学)	【授業コード】1-04-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、随時メールで応じます
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。 ・この科目では、楽しさをおして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。 ・実技試験は、グループで行います。授業を通して学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、この授業の基礎的な内容の確認を行います。		
【講義概要】 (目的) ・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等でチームで行う仕事に活かせる力をつける。 ・児童から高齢者まで幅広い対象者にして実技を通じて目的に応じた適応力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1 (方法) ・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。 ・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。		
【一般教育目標(GIO)】 ・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場の仕事の活動につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。		
【行動目標(SBO)】 1) レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。2) レクリエーションの機能・効能について説明できる。 3) 幅広い対象者に応じたレクリエーションの企画を立てることができる。4) レクリエーション活動実習をおして実践ができる。5) レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明できる。6) レクリエーションの特性を踏まえた計画を立て、指導ができる。8) レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料は授業時に提示する		
【参考書】 無し		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・試験（筆記試験30%、レポート50%、実技20%）で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	0	50	0	20	0	0	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	0	0	0	0	0	0	30
	思考・推論・創造の力	0	0	50	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	20	0	0	20
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション レクリエーションとは何か レクリエーション科目の授業の説明	講義	予習：これまで経験したリクリエーションについての感想を考える 復習：授業の資料で指示 次の時間の予習も授業の資料で指示	30
3・4	レクリエーションの課題とポイント グループでオリジナルの作戦の立案と実践	講義、実技	授業の資料にて指示	30
5・6	自らの動きの映像を題材にポイントを学ぶ チームの改善点を議論し、作戦を修正する 修正した作戦で再度行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
7・8	フラッグフットボールのルールを変更し、変更に対応した作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する ルール変更したゲームを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
9・10	映像を元に変更したルールの対応 グループで作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する 修正した作戦でレクリエーションを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
11	これまで経験したレクリエーションの特徴を踏まえ、グループ別に内容を企画する	講義、実習	授業の資料にて指示	30
12・13・14	それぞれのグループが企画した内容でレクリエーション大会を実施する	実技	授業の資料にて指示	30
15	レクリエーション大会の評価と各大会の実施報告書の作成	講義、実習	授業の資料にて指示	30

[illegible]

【科目名】		スポーツ実践		【担当教員】	伊藤 渉
【授業区分】		教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	w.ito@nur05.onmicrosoft.com ※Teamsチャットより連絡してください
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・水・木 14:00～16:00
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
1学年前期の必修科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 村上看護専門学校の「健康とスポーツ」と同時開講（合同）で実施します。 この科目は実務経験（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者）を有する教員が担当します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
運動をおこないやすい服装で参加してください。体育館で活動するため屋内用の運動シューズを持参してください。水分補給の準備、タオル、着替え等を持参し、各自の体調管理、安全管理に配慮してください。 この授業はアクティブラーニングを用います。この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 この科目は実務経験を有する教員が担当します。					
【講義概要】					
(目的)					
スポーツ活動を通して、人々と相互に信頼された関係を築き、個々が意思決定する。 お互いの考えを認知・共感・理解し、有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。 対象者の健康に関連した諸課題に向き合うにあたり、スポーツと健康との関係について学ぶ。 社会生活をおこなっている対象者に対して、社会環境の中でスポーツと健康がどのように関係しているかについて学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1、A-2					
(方法)					
スポーツ活動の実践としての演習を主としてすすめます。 グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションをおこないます。 本講義のまとめとしてレポート課題を課します。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。					
【一般教育目標(GIO)】					
良好な人間関係を築く 信頼関係の構築と協働作業を実践する スポーツと健康の関係について学ぶ スポーツ活動支援における関連職種の役割を学ぶ 障がい者スポーツ支援について学ぶ					
【行動目標(SBO)】					
良好な人間関係のもとでスポーツ活動をおこなうことができる スポーツ活動を協働作業として実践し、信頼関係の構築することができる スポーツと健康の関係について考えることができる スポーツ活動支援における関連職種の役割を考えることができる 障がい者スポーツを実践し、障がい者スポーツ支援につちえ考えることができる					
【教科書・リザーブドブック】					
なし					
【参考書】					
なし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。 出席点は評価に含みません。ただし、単位取得には授業の3分の2以上の出席が必要です。 授業での取り組み、レポート課題を総合的に評価します。レポート課題はTeamsを用いて提出し、授業で提示するルーブリックに則り評価をおこないます。生成系AIによる情報の相対的（おへぞう）改ざん、盗用、悪用（おこらせ）は生成系AI使用者					

に別リ評価をおこないまゝ、生成系AIによる情報の伝達（457ページ）、取さん、盗用、剽窃（ひようせつ）は生成系AI使用者（学生）の責任となり、学内規定による措置の対象となるため注意して利用してください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40				60	100
評価 指標	取り込む力・知識			10				12	22
	思考・推論・創造の力			10				12	22
	コラボレーションとリーダーシップ							12	12
	発表力			10				12	22
	学修に取り組む姿勢			10				12	22

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	スポーツと健康	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
3・4	スポーツ実践活動1 バレーボール，バドミントン，卓球	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
5・6	スポーツ実践活動2 ポッチャ	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
7・8	スポーツ実践活動3 ウォーキング，ランニング	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
9・10	スポーツ実践活動4 車いすバスケットボール	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
11・12	スポーツ実践活動5 スポーツ活動の企画	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
13・14	スポーツ実践活動6 スポーツ活動の運営	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30
15	まとめ	講義・演習	予習：なし 復習：授業の振り返り	30

【科目名】		情報処理技法 I		【担当教員】		浅海 岩生	
【授業区分】		教養分野(情報)		【授業コード】		1-05-0000-1	
【開講時期】		前期		【選択必修】		必修	
【単位数】		1		【コマ数】		30	
【メールアドレス】							
igasami@nur05.onmicrosoft.com uematsu@nur05.onmicrosoft.com							
【オフィスアワー】 月曜～金曜(9-17時)Teamsにて対応							
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。							
【講義概要】							
(目的)							
情報処理技法Iの目的は情報処理に関わるITリテラシーやスキルを身につけることにあります。							
また数理・データサイエンス・AI教育として、「情報学」(データ収集・加工・処理)、「統計学」(データ分析・解析)、AIの導入項目(総論)を学びデータサイエンティストの基礎を築いていきます。							
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3							
(方法)							
情報リテラシー、スキルまた数理・データサイエンス・AI教育の基礎知識について講義を通じ学び、実習を行うことにより具体的方法を学習していきます。							
【一般教育目標(GIO)】							
・現代の社会人として必要な情報リテラシーやスキルの習得を目指す。 ・これからのコモンリテラシー教育の一つに位置付けされている数理・データサイエンス教育の基礎の習得を目指す。							
【行動目標(SBO)】							
・データサイエンス、AIの概要を説明できる ・ビックデータを使用したデータ収集・加工・処理、データ分析・解析が行える。 ・数理・データサイエンス・AIの関連性を説明できる。 ・パソコンのセキュリティー設定が行える。 ・Office365の基本機能(Word, Excel, PowerPoint, Teams, OneDrive)を使用できる。							
【教科書・リザーブドブック】							
必要に応じ資料を配布します。							
【参考書】							
必要に応じ資料を配布します。							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。							



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価指標	取り込む力・知識	0	20	25	0	0	0	0	45
	思考・推論・創造の力	0	20	25	0	0	0	0	45
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	#オリエンテーション #情報リテラシー(1) ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・シラバスを見ておく ・データセキュリティについて復習	・10分 ・30分
2	#情報リテラシー(2) ・SNSの使用について ・Teamsの投稿・チャットの使用 ・メールの利用と注意点	浅海(講義・演習)	・SNS・メールの種類と使用時の注意事項について調べておく ・SNS・メールの使用時の注意点についてまとめる。	・15分 ・30分
3	#情報リテラシー(3) ・社会で起きている変化 ・データ・AI利用の最新動向 (ビックデータ、IoT, AI, ロボット)	浅海(講義)	・AIの定義について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
4	#情報リテラシー(4) ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域 (コーディング支援などAI支援など)	浅海(講義)	・AIの利用領域について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
5	#情報リテラシー(5) ・データ・AI利用活用のための技術 ・データ・AI利用の現状 ・生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)	浅海(講義)	・AIの活用の現状について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
6	#情報リテラシー(6) ・データ・AI利用活用における留意事項 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションなど) ・データを守る上での留意事項	浅海(講義)	・AIの活用の危険性について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
7	#ICTリテラシー(1) ・コンピュータの基本構造と周辺装置 ・OSの種類とアプリケーション	浅海(講義)	・パソコンの基本構造について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
8	#ICTリテラシー(2) ・電源のON, OFFとスリープモード ・文字入力方法(キーボード・手書き・音声) ・Webブラウザの操作 ・Office365の基本操作	浅海(講義・演習)	・自分のPCのキーボード操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

9	#ICTリテラシー(3) Wordの基本操作(1) ・キーボード使用練習 ・文字入力の方法(ローマ字入力/全角・半角) ・Wordの起動と終了、文書の保存	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
10	#ICTリテラシー(4) Wordの基本操作(2) ・文書レイアウトの設定 ・フォントの設定と文字配置 ・あいさつ文の挿入とインデント	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
11	#ICTリテラシー(5) Wordの基本操作(3) ・罫線と表の挿入・写真と図の挿入 ・箇条書きと段落番号 ・ヘッダーフッター・印刷	上松(講義・演習)	・Wordの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
12	#ICTリテラシー(6) PowerPointの基本操作(1) ・PowerPointの機能と特徴 ・スライドマスターの設定 ・アウトラインで構成を練る	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
13	#ICTリテラシー(7) PowerPointの基本操作(2) ・表紙の作成、文字入力とレイアウトの調整 ・テキストボックスの挿入、アニメーションの設定	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
14	#ICTリテラシー(8) PowerPointの基本操作(3) ・ヘッダー・フッターの編集と挿入 ・ブラフの作り方	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
15	#ICTリテラシー(9) PowerPointの基本操作(4) ・音声・動画の挿入 ・スライドの印刷 ・スライドショーの方法	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
16	#ICTリテラシー(10) PowerPointの基本操作(5) ・プレゼンテーションの操作方法 ・発表者ツールとタイミングの方法 ・発表済みファイルの保存	上松(講義・演習)	・PowerPointの操作について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
17	#ICTリテラシー(11) Excel (1) ・Excelの基本概念、データ(数値・文字)の入力 ・数式を入力する、関数の利用	浅海(講義・演習)	・Excelの基本概念について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
18	#ICTリテラシー(12) Excel (2) ・セルとの書式設定と表示形式、セルの複写・結合・挿入 ・罫線とセルの塗りつぶし、グラフの作成	浅海(講義・演習)	・Excelの書式について調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
19	#ICTリテラシー(13) Excel (3) ・データベースとテーブル	浅海(講義・演習)	・データベースについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分

20	#ICTリテラシー(14) Excel (4) ・ピボットテーブルの使用方法	浅海(講義・演習)	・ピボットテーブルについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
21	#ICTリテラシー(15) Excel (5) ・Formsの利用 ・アドインの組み込み(統計ツールなど)	浅海(講義・演習)	・Formsについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
22	#ICTリテラシー(16) Excel (6) ・その他発展的利用方法 ・生成AIを活用したデータ加工	浅海(講義・演習)	・Excelのアドインについて調べておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
23	#総合演習(1) オリエンテーション ・地域の課題を公開データより収集する。 ・Excel等を用いてデータを分析する。 ・分析したデータを用い問題点・考察・提言などをP.Pでまとめる。	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
24	総合演習(2) テーマ決定 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・総合演習のテーマについて考えておく。 ・復習と課題の作成	・10分 ・30分
25	総合演習(3) データ収集 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
26	総合演習(4) データ収集・分析 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
27	総合演習(5) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
28	総合演習(6) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
29	総合演習(7) 分析・PPT作成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分
30	総合演習(8) PPT完成 グループワーク	浅海・グループ 担当教員(講義・演習)	・グループ内で役割を分担し作業を行う。	・30分

【科目名】情報処理技法Ⅱ		【担当教員】浅海 岩生
【授業区分】教養分野(情報)	【授業コード】1-05-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時) Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・情報処理技法Ⅱでは数理・データサイエンス(DS)を学ぶ上で、データ処理・分析を自分で行えることを目的としてブロックプログラム(Scratch)と記述プログラム言語Pythonについて学びます。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・プログラミングの基礎的概念を理解するためScratchを用いたブロックプログラムについて講義と演習により学びます。 ・より詳細なデータ処理と分析が行えるよう記述式プログラミング言語Pythonの使い方を講義と演習により学びます。		
【一般教育目標(GIO)】 ・データの分析と処理を独自に行ない、日常の業務や研究に活かせることを目標にプログラミングの基礎を修得します。 【行動目標(SB0)】 ・Scratch言語を使用し簡単なプログラムを作成できる。 ・Python言語を用い基本的データ処理と分析ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・阿部和広 監修/横川耕二：おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション ¥1650 ・新井くみ子 他：Pythonの絵本、株式会社アଙ୍କ ¥1780		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション ・プログラミング言語の役割 Scratch (1) ・Scratchでのプログラミングの概要 ・Scratchエディタの使用方法	講義・演習	・シラバスを読んでおく ・課題の実施	・15分 ・30分
2	Scratch (2) ・スプライトと背景 ・イベントによるプログラムの実行	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
3	Scratch (3) ・アニメーションの使用方法 ・インタラクション(メッセージ)の利用	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
4	Scratch (4) ・角度の測定 ・タイマーを使用した時間の測定 ・まとめ	講義・演習	・スプライト言語にいて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
5	Python(1) ・Python言語について ・利用環境を調える。 ・Google Colaboratoryの基本操作	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
6	Python (2) ・変数とデータ型 ・四則演算 ・注釈の書き方 ・プログラムの共有方法	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
7	Python (3) ・書式指定出力-1 ・キーボードよりの入力	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分
8	Python (4) ・リストの利用 ・条件分岐と繰り返し処理	講義・演習	・Pythonについて予習しておく ・課題の実施	・15分 ・30分

9	Python (5) ・ 書式指定出力-2 ・ moduleの使用と統計関数 ・ 乱数・日付の使用	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分
10	Python (6) ・ 辞書の利用 ・ Pandasと配列処理1 ・ Excelデータの利用1	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分
11	Python (7) ・ Pandasと配列処理2 ・ Excelデータの利用2	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分
12	Python (8) ・ データのフィルタリング1 ・ 時系列データの利用1 ・ グラスの作成-1	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分
13	Python (9) ・ データのフィルタリング2 ・ グラフの作成-2	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分
14	Python (10) ・ データ分析の実際 ・ インターラクティブなグラフの作成	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分
15	Python (11) ・ まとめ	講義・演習	・ Pythonについて予習しておく ・ 課題の実施	・ 15分 ・ 30分

【科目名】	医療英語ベーシック		【担当教員】	大平 芳則	
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 授業後・教室or水曜12:40～13:30	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 毎回、スマホまたはPC、およびイヤフォンを必ず持参すること。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。					
【講義概要】 (目的) 医学に関連する表現について、「聞く」「読む」を中心に講義と演習を通して医学の語彙や表現に慣れる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 医学用のテキストを用い、講読と音声聴取により、医学用語を身につける。テキストの課題とシャドウイングに取り組み、定着を図る。生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。 スマホまたはPCを必ず持参すること。ただし、それらは全て適切に使わなければならない。引用した場合には、文献を明記すると同時に、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。					
【一般教育目標(GIO)】 医療現場のカルテは、しばしば英語で書かれているため、それをある程度読解できることが必要である。そのために、医療現場における基礎英語運用能力を向上させる。					
【行動目標(SBO)】 医療現場における基本的な言い回しを理解できるようになる、また、基礎的な医学用語を身につける。					
【教科書・リザーブドブック】 仁木久恵 Nancy Sharts-Hopko 横田まり子 Let's Listen, Speak & Learn 臨床看護英語 医学書院 2020年 1700円＋税					
【参考書】 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 中間試験（50％）と期末定期試験（50％）により評価する。 出席点は評価に含まない。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	50						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	50						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション テキストpp.1 2 3 5 8 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
3・4	テキストpp.9 10 11 13 14 15 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
5・6	テキストpp.17 18 20 21 22 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
7・8	テキストpp.23 24 26 27 28 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
9・10	テキストpp.29 30 33 34 35 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
11・12	テキストpp.36 37 40 41 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
13・14	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
15・16	中間試験 解説	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

17・18	テキストpp.43 44 46 47 48 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
19・20	テキストpp.49 50 52 53 54 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
21・22	テキストpp.55 56 58 59 60 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
23・24	テキストpp.61 62 64 66 67 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
25・26	テキストpp.68 69 70 72 73 74 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
27・28	テキストpp.76 77 78 81 82 83 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
29・30	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

【科目名】医療英語アドバンス		【担当教員】大平 芳則
【授業区分】教養分野(外国語)	【授業コード】1-06-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】2	【コマ数】30	(オフィスアワー) 授業後・教室or水曜12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。		
【講義概要】 (目的) 医学に関連する表現について、「聞く」「読む」を中心に講義と演習を通して医学の語彙や表現に慣れる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2		
(方法) 医学用のテキストを用い、講読と音声聴取により、医学用語を身につける。テキストの課題とシャドウイングに取り組み、定着を図る。 スマホまたはPCおよびイヤホンを使って授業を進めるので、毎回必ず持参すること。もし、それらを持参できない場合は、事前に教員に相談してください。		
【一般教育目標(GIO)】 医療現場のカルテは、しばしば英語で書かれているため、それをある程度読解できることが必要である。そのために、医療現場における基礎英語運用能力を向上させる。		
【行動目標(SBO)】 医療現場における基本的な言い回しを理解できるようになる、また、基礎的な医学用語を身につける。		
【教科書・リザーブドブック】 仁木久恵 Nancy Sharts-Hopko 横田まり子 Let's Listen, Speak & Learn 臨床看護英語 医学書院 2020年 1700円＋税		
【参考書】 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 中間試験(50%)と期末定期試験(50%)により評価する。 出席点は評価に含まない。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学位規定のCPA制度に定める。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	50						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	50						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション テキストpp. 1-8 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
3・4	テキストpp. 9-16 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
5・6	テキストpp. 17-22 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
7・8	テキストpp. 23-28 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
9・10	テキストpp. 29-35 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
11・12	テキストpp. 36-42 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
13・14	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
15・16	中間試験 解説	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

17・18	テキストpp. 43-48 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
19・20	テキストpp. 49-54 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
21・22	テキストpp. 55-60 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
23・24	テキストpp. 61-67 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
25・26	テキストpp. 68-75 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
27・28	テキストpp. 76-83 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
29・30	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

【科目名】 医療英会話ベーシック		【担当教員】 Sam Suleiman
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	sammybegood666@hotmail.com
【単位数】 2	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 放課後、教室にて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。		
【講義概要】 (目的) 『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い、学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 英語教材で導入した基礎英会話・表現を使用し、会話の定着を図る。演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。		
【一般教育目標(GIO)】 英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。 【行動目標(SB0)】 日常英会話を聴き理解できるようになる。また英語で楽しく対話ができるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 OXFORD UNIVERSITY PRESS 『PASSPORT 2』 English for International Communication - SECOND EDITION		
【参考書】 辞書（英和、和英）あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 試験の結果、授業内参加度、配布されるプリントの習熟度、ノートの筆記状態の計4点を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： Unit 1 「What's the purpose of your visit?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： Unit 2 「How much is it?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： Unit 3 「When is the next train to Xi'an?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： Unit 4 「The TV is broken.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： Unit 5 「What is there to see?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： Unit 6 「I'd like to rent a snowboard, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： Unit 7 「Tell me about your country.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： Unit 8 「How was your weekend?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： Unit 9 「Does it hurt?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： Unit 10 「I'd like a cup of coffee please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： Unit 11 「Would you like to visit the Temple of Heaven?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： Unit 12 「I want to send an attachment.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： Unit 13 「I'd like a chicken sandwich, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： Unit 14 「Go straight along this road.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	試験	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【科目名】 医療英会話アドバンス		【担当教員】 Sam Suleiman
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0015-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	sammybegood666@hotmail.com
【単位数】 2	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 放課後、教室にて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。		
【講義概要】 (目的) 『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 英語教材で導入した基礎英会話・表現を使用し、会話の定着を図る。演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。		
【一般教育目標 (GIO)】 英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。 【行動目標 (SB0)】 日常英会話を聴き理解できるようになる。また英語で楽しく対話ができるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 OXFORD UNIVERSITY PRESS 『PASSPORT 2』 English for International Communication - SECOND EDITION		
【参考書】 辞書（英和、和英）あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 試験の結果、授業内参加度、配布されるプリントの習熟度、ノートの筆記状態の計4点を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： Unit 1 「What's the purpose of your visit?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： Unit 2 「How much is it?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： Unit 3 「When is the next train to Xi'an?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： Unit 4 「The TV is broken.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： Unit 5 「What is there to see?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： Unit 6 「I'd like to rent a snowboard, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： Unit 7 「Tell me about your country.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： Unit 8 「How was your weekend?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： Unit 9 「Does it hurt?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： Unit 10 「I'd like a cup of coffee please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： Unit 11 「Would you like to visit the Temple of Heaven?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： Unit 12 「I want to send an attachment.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： Unit 13 「I'd like a chicken sandwich, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： Unit 14 「Go straight along this road.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	試験	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【科目名】	解剖学・総論Ⅰ		【担当教員】	松村 博雄	
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0000-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載してください。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2					
(方法)					
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の構造などを講義します。					
【一般教育目標(GIO)】					
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に体幹についてその構造や働きを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
ヒトの体幹を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
坂井建雄/監、町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社, 2023年. ¥5,800＋税					
【参考書】					
森 於菟/著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985年. ¥9,765 平沢 興/著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984年. ¥11,130 小川 鼎三/著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982年. ¥9,030 坂井 建雄/監訳, 市村 浩一郎・澤井 直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』医学書院, 2022年. ¥9,500＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	みずから考え、学習するということ。医学を学ぶということ。脊椎動物について。身体の組織について。骨の組織構造および脊柱について。関節の構造について。	講義		
3・4	胸郭の構造－胸郭を構成する骨格について。筋肉・腱・靱帯の組織構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	胸郭の構造－胸郭を構成する筋肉について。神経組織について。脊髄神経について、筋肉と神経の関係について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	腹部の筋肉とその支配神経について。横隔膜と呼吸運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	腹壁と鼠径部の構造について。鼠径管について。腰部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	頸部の骨格、頸部の筋肉とその支配神経について。胸郭への入り口の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	頸部表面に投影される三角のいろいろ。頸部の大血管について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。解剖学的な肢位、運動の軸や面について。 試験	講義と試験	前回の講義の復習	30分

【科目名】解剖学・総論Ⅱ		【担当教員】松村 博雄
【授業区分】専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】2-11-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 木曜日、12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。 試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載してください。これ以外の場面での利用は禁止します。		
【講義概要】 (目的) 医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2 (方法) 教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、上肢帯および上肢の解剖学を講義します。		
【一般教育目標(GIO)】 医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ、特に上肢帯と上肢についてその構造や働きを理解する。		
【行動目標(SB0)】 ヒトの上肢及び上肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連の関節の構造やその運動を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 坂井建雄/監, 町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社, 2023年. ¥5,800+税		
【参考書】 森 於菟/著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985年. ¥9,765 平沢 興/著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984年. ¥11,130 小川 鼎三/著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982年. ¥9,030 坂井 建雄/監訳, 市村 浩一郎・澤井 直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』医学書院, 2022年. ¥9,500+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	上肢帯と上肢の骨格について。上肢帯の関節について。肩関節について。	講義	解剖学・総論 I の復習	40分
3・4	上肢帯の筋肉について。肩甲骨の運動について。肩関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
5・6	腕神経叢について。腋窩の構成について。上肢の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
7・8	前腕の骨格について。肘関節について。肘関節の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
9・10	前腕の筋肉について。肘窩について。上肢の脈管について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
11・12	手の骨格について。手根管について。手関節の筋肉と運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
13・14	手内筋について。母指球と小指球について。手指の運動について。	講義	前回の講義の復習	30分
15	橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。指の屈曲・伸展機構について。 試験	講義と試験		

【科目名】	解剖学・総論Ⅲ		【担当教員】	松村 博雄	
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0010-3		
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のときに配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作成、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載してください。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学を学びます。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解することが出来ます。これらにより、ヒトの心身機能と身体構造について説明できるようになります。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1、A-2					
(方法)					
教科書、プリントを主に学習します。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにします。本科目は主として、下肢帯および下肢の解剖学，上肢と下肢の比較を講義します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトのからだ，特に下肢と下肢帯についてその構造や働きを理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
ヒトの下肢及び下肢帯を構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。関連する関節の構造やその運動を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
坂井建雄/監, 町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社, 2023年. ¥5,800＋税					
【参考書】					
森 於菟/著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985年. ¥9,765 平沢 興/著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984年. ¥11,130 小川 鼎三/著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982年. ¥9,030 坂井 建雄/監訳, 市村 浩一郎・澤井 直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』医学書院, 2022年. ¥9,500＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。毎講義終了後，チームスを用いて小テストを出題する。期限内に解答が必須です。また，全講義終了後，試験を実施する。成績評価は、講義中に出した課題，小テストと試験トにより総合的に行う。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	35					15	100
評価 指標	取り込む力・知識	50	35						85
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	骨盤と大腿骨について。骨盤の男女差について。骨盤の靱帯について。股関節とその運動(1)について。	講義	解剖学・総論Ⅰと総論Ⅱを復習	40分
3・4	股関節とその運動(2)について。股関節の筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	膝関節を構成する骨について。膝関節の構造について。膝関節の靱帯について。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	膝関節の運動について。大腿部の筋肉とその支配神経及び大腿部の血管について。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	上肢と下肢の比較について。腰・仙骨神経叢―坐骨神経などについて	講義	前回講義の復習	30分
11・12	足部の骨格について。足関節の靱帯について。足関節の運動について。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	距骨下関節を構成する骨について。距骨下関節の運動について。足底の靱帯について。足弓について。	講義	前回講義の復習	30分
15	足根管について。下腿と足の筋肉について。 試験	講義と試験		

【科目名】		解剖学・各論Ⅰ		【担当教員】	西野 幾子
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業終了後、非常勤控室で対応。
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻1年次に在学している学生が対象。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。 小テストの結果は全て返却します。 定期試験結果については必要に応じて解説を行います。					
【講義概要】					
(目的)					
人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒(胴体と上・下肢)－(頭部と内臓)に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3					
(方法)					
教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。 本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。					
【一般教育目標(GIO)】					
医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。					
【行動目標(SB0)】					
人体を構成する細胞・組織について、その構成や特徴を説明できる。 人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版、東洋療法学校協会、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税					
【参考書】					
藤田恒夫、入門人体解剖学 改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90	10						100
評価 指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人体の細胞： 細胞の基本的な形態と構成 細胞の活動 人体に存在する様々な細胞	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
3・4	人体の組織： 上皮組織と腺組織 種類と人体における分布	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
5・6	人体の組織： 支持組織 筋組織 神経組織	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
7・8	循環器系： 循環器系の構成 心臓の形態と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
9・10	循環器系： 血管の基本構造 大動脈と主な枝	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
11・12	循環器系： 静脈系 胎児循環 リンパ管系とリンパ性器官	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
13・14	呼吸器系： 外鼻と鼻腔 咽頭 喉頭	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分
15	呼吸器系： 気管 肺と胸膜	講義	講義内容の復習 配布レジュメの内容の理解	40分

【科目名】		生理学 I	【担当教員】	山口 賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kenbo2@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて質問・相談に対応する
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高等学校で生物を履修していない学生は、高校生物の教科書、または参考書を使い、自ら学習して、生理学を理解する上で必要な基礎知識を補って下さい。この点について要望のある場合はいつでも相談に応じます。また、障がいをもつ学生や外国人留学生など、配慮の必要な者も、自由に教員に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 他の受講学生の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退室を求めることがあります。試験結果・レポートは他に支障をきたさない場合に限り返却します。 生成 AI を授業の予習や復習で活用することは意義があります。しかし、AI で得た知識に誤りが含まれる場合があることを知ると同時に、それをレポート等の提出物に利用する場合は、必ず自分の文章に直してから使うように心がけて下さい。				
【講義概要】 (目的) 生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなしくみで発現するのかを理解する学問が生理学である。正常な生体機能を維持するための水分調節、血液、心臓循環系、老廃物排泄などのしくみを学んだ後、これらを調節する神経系と内分泌系の役割を学習する。これらの学習を通して、身体の成分や構造と心身の機能を総合的に理解することを目標とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2				
(方法) 「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を対面授業を通して学生に考えさせ、予め一人一人に配布したカードに、授業の疑問点や質問等を時間ごとに書いて貰う。小テストも随時実施する。毎時間その結果を確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復して説明する。本科目では、主に、「体液の種類や性質とその調節」、「血液の成分と働き」、「心臓循環系の成り立ちと機能、その調節」、「泌尿器官による老廃物の排泄」などを重点的に講義する。				
【一般教育目標(GIO)】 人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。				
【行動目標(SB0)】 生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、体液の性質と調節、血液の成分とそれぞれの働き、心臓血管系のしくみと機能、泌尿器系の役割などについて説明できること。				
【教科書・リザーブドブック】 内田さえ・鍵谷方子・上田晃・原田彰広 著 「人体の構造と機能 第6版」 医歯薬出版社 ¥3,300 (税込み 以下同)				
【参考書】 貴邑 富久子・根来 英雄 著 「シンプル生理学(改訂第8版)」南江堂 ¥3,300 高松研・堀内ふき 監修 「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター ¥4,180 田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 [Web講義動画付] 第4版」 医学書院 ¥2,970 (税込み)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価 指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	生理学とはどんなことを学ぶ教科であるのか、大学でどのような姿勢で生理学を学ぶべきか、ヒトが生きるために何が必要であるのか、人体各器官の種類、役割、機能協調の重要性や病気の意味を考える。	講義 (担当山口)	化学エネルギー、ADP、ATP、三大栄養素、TCA回路、酸化、活性酸素、生物学的仕事、内部環境、細胞外液、組織液、リンパ、器官分化、恒常性の維持	15分
3・4	体内の水の種類、組織液（間質液・細胞外液）と細胞内液の性質、成分表示の表現法や単位、細胞内外における電解質の種類と働き、浸透圧の意味、組織液の移動に働く要因、体液バランスの異常に由来する病気、体液のpH調節のしくみ。	講義 (担当山口)	細胞内液、細胞外液、組織液、間質液、電解質、非電解質、モル濃度、当量、半透膜、浸透圧、氷点降下度、オスモル、一次脱水、二次脱水、浮腫、pH、アシドーシス、アルカローシス、ヘンダーソン・ハッセルバルツ式	15分
5・6	血液の成分とそれぞれのはたらき-1。 血漿と血清の違い、それらの成分、赤血球の働き、赤血球の産生と破壊、白血球の種類、白血球の働き、アレルギー、抗原抗体反応。	講義 (担当山口)	ヘマトクリット、赤血球、ヘモグロビン、メトヘモグロビン、CO中毒、酸素解離曲線、網状赤血球、エリスロポエチン、ビリルビン、食球、走化性、血管外遊走、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、T細胞、B細胞、抗体、他	15分
7・8	血液の成分とそれぞれのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、止血作用と血液凝固反応、血小板に係わる病気、血液型の種類と特徴、輸血や臓器移植に係わる問題。	講義 (担当山口)	血液凝固、フィブリン、ビタミンK、カルシウム、線溶、プラスミン、止血作用、凝固因子の種類と働き、血友病、塞栓症、ABO血液型、交差試験、Rh血液型、胎児赤芽球症、MHC抗原	15分
9・10	心臓循環系-1。心臓の構造、左右の心臓を介する血液循環系、心臓のペースメーカー、心臓の刺激伝導系、心筋の性質、伝導の異常と心臓の病気、心電図の記録とその意義、心音の由来と聴診法、心臓のポンプ作用と心臓弁の開閉。	講義 (担当山口)	歩調取り、洞結節、前電位、房室結節、ヒス束、プルキン線維、脚、刺激伝導系、期外収縮、代償性休止、不整脈、伝導ブロック、加速伝導、心電図記録法、心電図波形と意味、心拍出量の低下と要因	15分
11・12	心臓循環系-2。心臓拍動に伴う諸現象の変化とそれらの機能連関、全身の血管系と血流の概観、血管の構造と種類、各血管系の特徴と働き、動脈の性質と血圧の測定、毛細血管と静脈の働き。	講義 (担当山口)	僧帽弁、二尖弁、大動脈弁、肺動脈弁、心房圧、心室圧、等容性収縮期、等容性拡張期、心音、心不全、弾性血管、抵抗血管、高血圧、交換血管、容量血管、上腕動脈、マンシェット、真毛細血管、他	15分
13・14	心臓循環系-3。体循環系・冠状循環系・肺循環系・脳血管系の成り立ち、それぞれの特徴と働き、心血管機能の調節、血管内皮細胞の働き、心臓・血管障害と病気、リンパ液・脳脊髄液の流れとそれぞれの働き。	講義 (担当山口)	冠状動脈、狭心症、心筋梗塞、肺動脈、肺動脈楔入圧、肺高血圧、内頸動脈、脳底動脈、圧受容器、化学受容器、伸展受容器、α受容体、β受容体、血管内皮細胞、アセチルコリン、一酸化窒素、他	15分
15	腎臓の構造と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿細管や集合管の働きとその調節、クリアランス、尿の性状と排尿のしくみ、利尿薬の作用。	講義 (担当山口)	ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、糸球体濾過量、原尿、近位尿細管、遠位尿細管、集合管、尿管、傍糸球体細胞、アンギオテンシンII、アルドステロン、抗利尿ホルモン(ADH)、利尿薬、尿素、オキシチン回路、排尿反射。	10分

【科目名】		生理学Ⅱ		【担当教員】	山口 賢一
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0035-3	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	kenbo2@gmail.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて質問・相談に対応する
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
生理学Ⅰを履修すること 障がいやその他の理由から配慮を必要とする学生は教員に自由に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
他の受講学生の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても改めない場合は、退出を求めることがあります。 試験結果・レポートは他に支障をきたさない場合に限って返却します。 生成 AI を授業の予習や復習で活用することは意義があります。しかし、AI で得た知識に誤りが含まれる場合があることを知ると同時に、それをレポート等の提出物に利用する場合は、必ず自分の文章に直してから使うように心がけて下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなしくみで発現するのかを理解する学問が生理学である。正常な生体機能を維持するため、脳や脊髄などの中枢神経系や末梢神経系、および体内の様々な器官や組織から放出されるホルモンやオータコイドなどが、体内でどのような調節作用を演じているのかを学修する。さらに、感覚機能や運動機能が、神経や筋肉のどのような働きによって実現するのかを修得する。これらにより、身体の成分や構造と心身の機能について、総合的な理解を深化させることを目標とする。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を対面授業を通して学生に考えさせ、予め一人一人に配布したカードに、授業の疑問点や質問等を時間ごとに書いて貰う。小テストも随時実施する。毎時間その結果を確認し、学生の理解度と授業の進展速度の適否を判断する。理解の足りない点や重要事項は反復して説明する。本科目では、主に、「脳神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉の収縮と運動の調節」などを重点的に講義する。					
【一般教育目標(GIO)】					
人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。					
【行動目標(SB0)】					
脳神経系の成り立ち・構造と機能、全身の内分泌器官の種類と各器官から分泌されるホルモンの物性と作用、体を司る筋肉の分類・特徴・収縮の機構、感覚の種類やしくみなどについて説明できること。					
【教科書・リザーブドブック】					
内田さえ・鍵谷方子・上田晃・原田彰広 著 「人体の構造と機能 第6版」 医歯薬出版社 ¥3,300 (税込み 以下同)					
【参考書】					
貴邑 富久子・根来 英雄 著 「シンプル生理学(改訂第8版)」南江堂 ¥3,300 高松研・堀内ふき 監修 「生体のしくみ 標準テキスト 第3版」 医学映像教育センター ¥4,180 田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 [Web講義動画付] 第4版」 医学書院 ¥2,970 (税込み)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	15	5				20	100
評価 指標	取り込む力・知識	50	5						55
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10					20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達と受容体、神経伝達物質の種類と作用。	講義 (担当山口)	軸索、樹状突起、膜電位、脱分極、過分極、全か無の法則、イオンチャネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エキサイト-シス、神経伝達物質受容体。	15分
3・4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的な神経の分類、末梢神経系と中枢神経系、体性神経系・自律神経系の成り立ちと働き。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、前索、側索、後索、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、体性神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経。	15分
5・6	神経系の構造と機能-3。脊髄と脳の構成、各領域区分の構造と働き、脳波の記録と波形の分類・意味、睡眠の状態と病気に伴う脳波の変化。	講義 (担当山口)	脳幹、延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、脳幹網様体、徐波睡眠、逆説睡眠。	15分
7・8	内分泌系とホルモンの作用-1。体内の調節物質の種類と分類、内分泌器官の種類と部位、ホルモンの種類と化学的分類、ホルモン受容体の種類と特徴、ホルモンの作用機構と分泌調節。脳下垂体ホルモンの種類・作用・分泌の調節。	講義 (担当山口)	セカント・メッセンジャー、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、視床下部ホルモン、正中隆起、フィードバック調節、IGF-1。	15分
9・10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎から分泌されるホルモンの種類と作用、分泌の調節。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、上皮小体、カルシトニン、パルソルモン、ランゲルハンス島、インスリン、インクレチン、グルカゴン、ソマトスタチン。	15分
11・12	内分泌系とホルモンの作用-3。腎臓、性腺、心臓、消化管、その他の組織から分泌されるホルモンやホルモン類似物質の種類と作用。	講義 (担当山口)	レニン・アンジオテンシン系、ANP、アンドロゲン、エストロゲン、プロゲステロン、hGG、hPL、オクシトシン、ヒスタミン、消化管ホルモン。	15分
13・14	筋肉の収縮と運動の調節-1。筋の分類と特徴、全身の骨格筋、骨格筋の命名法・各部の名称・筋繊維の分類、運動単位と筋電図の記録、骨格筋の興奮(活動電位)と収縮の連関、骨格筋の分子構造と収縮のメカニズム。	講義 (担当山口)	横紋筋、平滑筋、赤筋、白筋、ミオグロビン、単収縮、強縮、終盤、ニコチン受容体、筋電図、アクチン、ミオン、筋小胞体、カルシウム、ATP、ADP。	15分
15	筋肉の収縮と運動の調節-2。筋運動をもたらすエネルギーの流れ、脊髄を介する筋反射の種類と神経性調節、脳による筋運動の調節。	講義 (担当山口)	解糖系、クエン酸回路、クレアチリン酸、伸張反射、筋紡錘、腱器官、膝蓋腱反射、拮抗抑制、内臓反射、屈曲反射、交差性伸展反射、小脳、中脳、脊髄、除脳固縮。	10分

【科目名】		生理学Ⅲ		【担当教員】	宮岡 洋三
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0040-3	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nuhw.ac.jp
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業開講日非常勤講師控え室で面談
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
生理学Ⅰ、同Ⅱの単位履修。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
私語は他受講者の迷惑となるので、厳に慎んでください。注意しても守れない場合には、退出を求める可能性があります。 なお、特段の事情がなければ、試験結果(答案用紙)は返却します。					
【講義概要】					
(目的)					
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのような機序(メカニズム)で生じるのかを考えるのが生理学である。「生理学Ⅰ、同Ⅱ」では、主に「体液、水・電解質・浸透圧の調節、血液、心臓と血管の働き、腎臓の機能、神経機能の概要、内分泌器官とホルモンの作用、筋肉と運動」について学んだ。「生理学Ⅲ」では、主に「感覚機能、呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能、生殖と老化」について学ぶ。これらにより、身体構造を基礎とした心身機能を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2、A-3					
(方法)					
各時間の講義内容中で、どこが「核となる内容」なのかを意識しながら授業を進める。また、生理学は「積み重ね」の学問であり、先に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」で学んだ内容が、「生理学Ⅲ」でもしばしば出てくる。既習内容の確認をするため、できるだけ頻繁に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」の質問も交えて授業を展開していく。なお、授業中には理解・記憶を確かめるために随時質問をし、その回答は成績評価に反映する(下記の【評価に関わる情報】(評価の基準・方法)を参照)。					
【一般教育目標(GIO)】					
・人体機能の機構(メカニズム)を学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための基礎知識を修得する。					
【行動目標(SB0)】					
・感覚、呼吸、消化・吸収、栄養・代謝、体温調節、生殖・老化の諸機能について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
上田晃・内田さえ・鍵谷方子・原田彰宏著「人体の構造と機能(第6版)」、医歯薬出版、3,300 円					
【参考書】					
大地陸男著「生理学テキスト(第9版)」、文光堂、6,050 円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、小試験と期末試験の得点によっておこなう。 小試験は口頭による質問への回答をもって代える。 なお、小試験と期末試験の得点割合はそれぞれ10%と90%とする。					

なわ、小沢と新沢の待合割合はそれぞれ46.10%と90%となる。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	75							75
	思考・推論・創造の力	15							15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感覚機能-1: 感覚一般 (感覚受容器を含む) 感覚機能-2: 視覚機能 感覚機能-3: 聴覚機能	講義	・適刺激、刺激強度と感覚強度、感覚受容器と起動電位、順応 ・眼球と網膜、視力と視野、色覚、視覚伝導路、眼球運動 ・聴覚と聴力、内耳とコルチ器官の働き、聴覚伝導路	15分
3・4	感覚機能-4: 平衡感覚、嗅覚、味覚 感覚機能-5: 体性感覚、内臓感覚 感覚機能-6: 痛覚	講義	・平衡器官と伝導路、嗅覚・味覚受容器、嗅覚・味覚伝導路 ・表面感覚の受容器、深部感覚の受容器、体性感覚の伝導路 ・痛覚受容器、表面と深部の痛み、内臓痛覚、関連痛	15分
5・6	呼吸機能-1: 呼吸器系の構造、呼吸運動、肺容量、気道抵抗 呼吸機能-2: 肺のガス交換、血液ガス分圧の変化 呼吸機能-3: 血液ガス (酸素、二酸化炭素) の運搬と交換	講義	・気道と肺、呼吸筋、肺胞・胸腔内圧、肺容量、1秒率 ・拡散、肺胞換気量、ガス分圧、物理的・化学的溶解 ・ヘモグロビン、酸素結合曲線、重炭酸イオン	15分
7・8	呼吸機能-4: 呼吸の神経調節、気道の防御反射 呼吸機能-5: 呼吸の化学性調節、異常呼吸 消化と吸収-1: 消化器の構造と機能概要	講義	・呼吸中枢、呼吸反射、肺伸展受容器、上気道由来の反射 ・末梢・中枢化学受容器、呼吸調節、異常呼吸 ・各器官の配置、内臓平滑筋、消化管・実質臓器の構造	15分
9・10	消化と吸収-2: 消化管の運動 消化と吸収-3: 消化液の分泌 消化と吸収-4: 消化管運動と消化液分泌の調節機構	講義	・咀嚼・嚥下、分節運動、蠕動運動、胃-大腸反射、排便調節 ・唾液・胃液・腸液・膵液・胆汁分泌、各種消化酵素の働き ・神経性調節、液性調節 (各種消化管ホルモン)	15分
11・12	消化と吸収-5: 三大栄養素の吸収 栄養と代謝-1: 栄養素の摂取と欠乏、無機質、ビタミン類 栄養と代謝-3: 物質代謝とエネルギー代謝, 運動エネルギー	講義	・三大栄養素、円柱上皮細胞、毛細血管、リンパ管 ・異化・同化、欠乏症、必須アミノ酸・脂肪酸、ブドウ糖、糖新生 ・吸収期、空腹期、基礎・活動代謝量、エネルギー所要量	15分
13・14	体温調節機能-1: 体温の各種変動, 熱産生, 熱放出 体温調節機能-2: 体温調節中枢 (視床下部), 調節機構 生殖と老化-1: 女性の生殖機能, 男性の生殖機能, 発生と発育	講義	・日内変動、性周期変動、輻射・伝導・対流 ・ふるえ、温熱性発汗、気化熱、セットポイント ・卵巣と卵巣周期、受精・妊娠、胎盤、発生、胎児の発育	15分
15	生殖と老化-2: 個体の成長、老化	講義	・個体の成長、各器官の成長、感覚と運動機能の発達、生殖機能の発達、各種身体機能の加齢変化	15分

【科目名】 神経生理学 I		【担当教員】 黒瀬 雅之
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0050-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	kurose@iwate-med.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目では、20年以上の基礎医学の講義がある教員が担当します。関連する講義を、様々な医療系学部で教授した経験を活かして、理解しやすいように、配布資料への工夫や動画を活用します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では、30分以上で遅刻となります。 試験結果については、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室にて対応しますが、事前に学務課にてアポイントメントをお願いします。講義内容に関する質問には適宜対応しますが、メールでの回答が困難なことが多く、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室または講義室にて対応します。生成系 AI の利用に関しては、特に予復習において自由に利用してください。		
【講義概要】 (目的) 生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、生体内での情報の伝達のKey Playerとなる電気信号：活動電位の発生メカニズムを段階を追って理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。		
【一般教育目標(GIO)】 すべての生体現象の基盤となる細胞の特性、そして細胞周囲の環境、入力と出力となる活動電位の発生機序、発生した活動電位の情報伝導、そして上位中位に至るまでのシナプスでの情報伝達機構などの生理学における重要な基本的事項を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・静止膜電位とその発生機構を説明できる ・膜電位の発生機序を物理化学的に説明出来る ・活動電位の発生と興奮伝導のしくみを説明出来る ・無髄および有髄神経における活動電位の伝導機構を説明できる ・シナプスにおける伝達機構を説明出来る。		
【教科書・リザーブドブック】 大地 陸男著：「生理学テキスト（第9版）」文光堂、2022年 角田 亘、後藤 純信(編集)：「生理学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト）」メジカルビュー社、2022年		
【参考書】 高松研、堀内ふき監修：「生体のしくみ標準テキスト（第3版）」株式会社医学映像教育センター		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。 ・成績評価は、試験(90%)と授業態度と出席数を含めた平常点(5%)により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	0						10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生理学総論・神経総論 生理学という学問を学ぶ意義を理解する。情報処理機構の主役である神経系の役割を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(1-10p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
2	膜電位の構成と活動電位① 神経系の主役となる電気信号の成り立ちを理解する。細胞の構造と機能を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(1-10p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
3	膜電位の構成と活動電位② 細胞が有するイオンチャンネルとポンプの構造と機能を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(26-35p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
4	膜電位の構成と活動電位③ 細胞の周囲環境である細胞外液と内液を学び、イオン構成を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(26-35p)を読んでおく。膜電位の構成と活動電位①から③までの内容を復習すること 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
5	膜電位の構成と活動電位④ 活動電位が発生するまでの課程を順を追って学び、活動電位の各相を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(26-35p)を読んでおく。膜電位の構成と活動電位①から③までの内容を復習すること 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
6	神経細胞の構造と機能① 活動電位を伝達する神経細胞の解剖学的構造を学び、神経細胞の特徴を概説できる。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(36-43p)を読んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
7	神経細胞の構造と機能② 神経細胞の主たる仕事である情報の伝搬方法を学び、興奮伝導の3原則を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(36-43p)を読んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
8	シナプスでの情報伝達① 神経細胞間のつなぎ目に位置するシナプスの解剖学的特徴を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(61-84p)を読んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分

9	シナプスでの情報伝達② 主役となる神経伝達物質と受け手となる受容体の種類を列挙し、伝達過程を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(61-84p)を読 んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
10	シナプスでの情報伝達③ シナプスでの情報伝達の修飾機構について、薬剤 や実例を使って理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(61-84p)を読 んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
11	感覚総論 生体反応を誘発する各種感覚の種類と受容器の種 類を学び、感覚受容の過程を概説できる。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(125-145p)を 読んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
12	聞こえる感覚：聴覚受容 関連する感覚器の解剖学的特徴を学び、振動が電 気信号に変換されるまでの過程を理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(153-166p)を 読んでおく。 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
13	膜電位に関する知識の確認 生体での電気信号の発生と伝達に間する知識の再 確認を行う。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：膜電位の構成と活動電位の項 目で配付された講義資料を読んでお くこと。 復習：重要事項に関して、自身で説 明できるように理解すること。	予習 20分 復習 30分
14	シナプスでの情報伝達に関する知識の確認 生体での電気信号の発生と伝達に間する知識の再 確認を行う。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：シナプスでの情報伝達の項目 で配付された講義資料を読んでおく こと。 復習：重要事項に関して、自身で説 明できるように理解すること。	予習 20分 復習 30分
15	神経生理学Ⅰまとめ	演習 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：演習問題を用いて知識の再確 認を行う。	予習 60分

【科目名】 神経生理学Ⅱ		【担当教員】 黒瀬 雅之、山村 健介
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	kurose@iwate-med.ac.jp, yamamurak@dent.niigata-u.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目では、20年以上の基礎医学の講義がある教員が担当します。関連する講義を、様々な医療系学部で教授した経験を活かして、理解しやすいように、配布資料への工夫や動画を活用します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 履修条件：神経生理学Ⅰを履修していること。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では、30分以上で遅刻となります。 試験結果については、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室にて対応しますが、事前に学務課にてアポイントメントをお願いします。講義内容に関する質問には適宜対応しますが、メールでの回答が困難なことが多く、神経生理学Ⅱの開講日に非常勤控え室または講義室にて対応します。生成系 AI の利用に関しては、特に予復習において自由に利用してください。		
【講義概要】 (目的) 生体は、環境の変化に対して適応する。このような適応は、感覚・認知により環境変化を捉え、神経系での情報処理された結果、適切な運動・行動・自律反応を起こすことに基づいている。本講義では、このような神経系における情報処理と機能発現の基礎を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 神経生理学Ⅰで学んだ神経機構を基礎として、円滑な生体機能を営む上で重要となる背景にある神経機構を中心に、パソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。		
【一般教育目標(GIO)】 生体機能の円滑な遂行を理解するために、神経生理学Ⅰで学習した内容を基盤として、各種感覚情報の発生と伝達そして運動機能発現に至る処理機構を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・感覚(特殊感覚と体性感覚)受容のメカニズムを説明できる ・脊髄の構造と各種脊髄反射を概説できる ・姿勢制御のしくみを概説できる ・大脳皮質・小脳・大脳基底核による運動制御を概説できる ・脳波波形の種類を列挙できる・覚醒・睡眠と脳波を関連づけることができる		
【教科書・リザーブドブック】 大地 陸男著：「生理学テキスト(第9版)」文光堂、2022年 角田 亘、後藤 純信(編集)：「生理学(Crosslink basic リハビリテーションテキスト)」メジカルビュー社、2022年		
【参考書】 高松研、堀内ふき監修：「生体のしくみ標準テキスト(第3版)」株式会社医学映像教育センター		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。 ・成績評価は、試験(90%)と授業態度と出席数を含めた平常点(5%)により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	0						10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	脳の概要 脳の区分を学び、感覚・運動との関連を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(189-210p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
2	運動系① 脊髄の構造を学び、前角から出力される運動ニューロンの特性を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(91-101p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
3	運動系② 2大脊髄反射である伸張反射と屈曲反射の神経機構を学び、反射の意義を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(91-101p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
4	運動系③ 2大脊髄反射である伸張反射と屈曲反射の神経機構を学び、反射の意義を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(91-101p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
5	運動系⑤ 大脳皮質による運動調節を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(102-124p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
6	運動系⑥ 大脳基底核・小脳による運動調節を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(102-124p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
7	脳波記録 脳の活動を可視化する脳波記録の手法と記録される波形について理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(213-215p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
8	覚醒と睡眠 脳波記録から検出できる覚醒と睡眠の特徴を理解する。	講義 山村健介 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(213-226p)を読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分

9	触圧感覚の情報処理機構 触圧刺激を電気信号に変換する過程を学び、触圧 覚の情報処理について理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(125-137p)を 読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
10	温度感覚の情報処理機構 温度刺激を電気信号に変換する過程を学び、温冷 覚の情報処理について理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(125-137p)を 読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
11	痛覚の末梢情報処理機構 末梢部での侵害刺激受容を学び、「痛み」のメカ ニズムを理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(137-144p)を 読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
12	固有感覚の情報処理機構 筋紡錘の構造と機能を学び、固有感覚の情報処理 について理解する。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：生理学テキスト(125-137p)を 読んでおく 復習：講義資料の重要事項に対する 知識の再確認をすること。	予習 20分 復習 30分
13	運動機能に関する知識の再確認を行う。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：運動系の項目で配付された講 義資料を読んでおくこと。 復習：重要事項に関して、自身で説 明できるように理解すること。	予習 60分 復習 60分
14	一般的な体性感覚である触圧・温度・痛覚・固有 感覚についての知識の再確認を行う。	講義 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：各種感覚の項目で配付された 講義資料を読んでおくこと。 復習：重要事項に関して、自身で説 明できるように理解すること。	予習 60分 復習 60分
15	神経生理学Ⅱまとめ	演習 黒瀬雅之 (非常勤講師) 学務係より連絡	予習：該当する項目を教科書や講義 時の配付資料を参照して行う。ま た、演習問題を用いて知識の再確認 を行う。	予習 60分

【科目名】		医学概論		【担当教員】	鈴木 薫
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (非常勤取次用アドレス)
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール質問・相談可
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
現在の臨床医学を学ぶ上で基礎となる科目である。確実な知識を得ることが必要である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
中学・高校時代に学習した生物学などの知識と結び付けて理解してほしい。これらの科目を復習しておくことが望ましい。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に関わる専門職業人として、医の本質について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
健康の概念や疾病・障害の概念を中心に医学の発展や将来などについて、講義を行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
医学の目指すものは何かを考え、生命の尊厳性、神秘性を実感する。健康がどのように障害され、どうしたら、予防や回復が図れるか、理解を深める。また、疾病の自然史を理解する。さらに、社会医学的なことがらについて理解する。					
【行動目標(SBO)】					
医学・医療の本質について説明できる。病むという状態がどのようにして起こるのか、宿主要因と環境要因の関わり合いで生じることを理解する。社会医学的な事象を理解する。					
【教科書・リザーブドブック】					
小橋元、近藤克則、黒田健司研二、千代豪昭、学生のための医療概論 第4版、医学書院、2020年2月、¥3,000 (税別)					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則規定のGPA制度に従う。本講義に関する記述式試験を実施する。100点満点で60点以上を合格とする。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70						30	100
評価 指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	健康・病気・医学の体系	講義		
3・4	病気の原因	講義		
5・6	病気による身体の変化	講義		
7・8	病気の診断	講義		
9・10	病気の治療とリハビリテーション	講義		
11・12	病気の予防	講義		
13・14	新しい医療システム	講義		
15	医学および看護の生命へのアプローチ、衛生統計	講義		

【科目名】	公衆衛生学 I		【担当教員】	高橋 英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hidencchi@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。				
【講義概要】				
(目的)				
これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症により全世界がその健康を脅かされることとなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生的視点を養うことを目的とします。				
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3				
(方法)				
医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作ることは重要です。そのために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。				
スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。何か疑問あれば課題の時間とその後5分の間に質問して下さい。最後に課題の解説をします。				
【一般教育目標 (GIO)】				
医療従事者として必要な公衆衛生学についての知識を習得しましょう。				
【行動目標 (SB0)】				
衛生学・公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は使いません。講義のスライドハンドアウトで復習するようにしてください。				
【参考書】				
小山洋、辻一郎監修「シンプル衛生公衆衛生学2024」南江堂、¥2,860				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（出席並びに課題の提出）により評価します。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 衛生と健康について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
2	② 保健統計・人口について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
3	③ 疫学について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
4	④ EBMについて	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
5	⑤ 疾病リスクについて	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
6	⑥ 健康増進について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
7	⑦ 健康格差について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
8	⑧ 感染症について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分

9	⑨ 循環器系疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	⑩ 癌予防について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	⑪ 食品保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	⑫ 環境管理について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	⑬ 環境要因について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	⑭ 空気、水、廃棄物について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	⑮ 死をめぐる問題について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
16	試験		講義1-12までの内容から出題します。	30分

【科目名】 公衆衛生学Ⅱ		【担当教員】 高橋 英明
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	hidencch@gmail.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。		
【講義概要】 (目的) これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症により全世界がその健康を脅かされることともなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3 (方法) 医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作ることは重要です。そのために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。何か疑問あれば課題の時間とその後5分の間に質問して下さい。最後に課題の解説をします。		
【一般教育目標(GIO)】 医療従事者として必要な公衆衛生学についての知識を習得しましょう。		
【行動目標(SB0)】 衛生学・公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使いません。講義のスライドハンドアウトで復習するようにしましょう。		
【参考書】 小山洋、辻一郎監修「シンプル衛生公衆衛生学2024」南江堂、¥2,860		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（出席並びに課題の提出）により評価します。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 高齢者保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
2	② 母子保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
3	③ 学校保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
4	④ 歯科保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
5	⑤ 産業保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
6	⑥ 職業病について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
7	⑦ 精神保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分
8	⑧ 障害者保健について	「講義」と講義 後の「課題作 成」	配布資料の復習を。またスマホ等で 関連する知識を調べていきましょ う。	30分

9	⑨ 災害保険について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	⑩ 国際保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	⑪ 保健所、地域医療について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	⑫ チーム医療と医師法について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	⑬ 国民医療費と医療保障について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	⑭ 医療と福祉について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	⑮ 脳卒中の公衆衛生学的意義について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
16	試験		講義1-12までの内容から出題します。	30分

【科目名】		臨床心理学概論Ⅰ	【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
精神医療分野における臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
受講者は、臨床心理学概論Ⅰと臨床心理学概論Ⅱを併せて履修登録すること。 講義で実施した心理検査結果は提出を求めない。また評価に影響しない。 講義後、小テストを実施する。				
【講義概要】				
(目的)				
臨床心理学の要点を理解する。 リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。 臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2、O-2				
(方法)				
主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。 必要に応じて、追加資料を配布する。				
【一般教育目標(GIO)】				
臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
中川明仁・江越正次朗・長谷川裕・高橋圭三 他(著) Crosslink basic リハビリテーションテキスト心理学・臨床心理学 メジカルビュー社 ￥3,520				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じて補講等にて解説をおこないます。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	臨床心理学とはどのような学問か	講義	講義ノートの完成	240分
3-4	臨床心理学はどう役立つか	講義	講義ノートの完成	240分
5-6	異常心理①	講義	講義ノートの完成	240分
7-8	異常心理②	講義	講義ノートの完成	240分
9-10	精神力動的アプローチ/精神分析学	講義	講義ノートの完成	240分
11-12	心理検査①	講義・演習	講義ノートの完成	240分
13-14	心理検査②	講義・演習	講義ノートの完成	240分
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	240分

【科目名】臨床心理学概論Ⅱ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 精神医療分野における臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。 この授業はアクティブラーニングを用います。 グループによる演習を行います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、臨床心理学概論Ⅰと臨床心理学概論Ⅱを併せて履修登録すること。 講義で実施した心理検査結果は提出を求めない。また評価に影響しない。 講義後、小テストを実施する。		
【講義概要】 (目的) 臨床心理学の要点を理解する。 リハビリテーション現場や社会生活において、心理的な問題を抱える人と関わることはままある。 臨床心理学の視点からそれらの人たちの状態を把握し、援助するための理論や方法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2、O-2 (方法) 主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。 【行動目標(SB0)】 臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 中川明仁・江越正次朗・長谷川裕・高橋圭三 他(著) Crosslink basic リハビリテーションテキスト心理学・臨床心理学 メジカルビュー社 ¥3,520		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	アセスメント	講義	講義ノートを作成する	240分
3-4	臨床心理学における支援Ⅰ 「クライアント中心療法」を理解する	講義・演習	講義ノートを作成する	240分
5-6	臨床心理学における支援Ⅱ 「行動療法」を理解する	講義・演習	講義ノートを作成する	240分
7-8	臨床心理学における支援Ⅲ 「認知行動療法」を理解する	講義・演習	講義ノートを作成する	240分
9-10	臨床心理学における支援Ⅳ 「遊戯療法」を理解する	講義・演習	講義ノートを作成する	240分
11-12	臨床心理学における支援Ⅴ 「集団療法」を理解する	講義・演習	講義ノートを作成する	240分
13-14	●臨床心理学における支援Ⅵ 「ナラティブ・アプローチ」を理解する	講義・演習	講義ノートを作成する	240分
15・試験	「臨床心理学概論Ⅱ」まとめ 試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	240分

【科目名】 発達心理学 I		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業内にて知らせます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、発達心理学について講義します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性: A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) 講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)について考察し、適切な対処法を習得する。 本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期」などを講義する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【一般教育目標(GIO)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの 1. 身体的発達の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 各ステージの心理的危機に対して、適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 林 創(編著)「公認心理士スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学」 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】 本郷一夫編(2018) 発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房. 向田久美子(2017) 発達心理学概論. NHK出版. 秦野悦子・近藤清美編(2020) 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験60%(配布資料持ち込み可)・小テスト40%(出欠確認を兼ねる)で評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	発達心理学の基礎 ・ 発達心理学とは ・ 発達の生物学的基礎	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
3. 4	出生前後～児童期までの発達 ・ 感覚と運動の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
5. 6	出生前後～児童期までの発達 ・ アタッチメントの発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
7. 8	出生前後～児童期までの発達 ・ 認知の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
9. 10	出生前後～児童期までの発達 ・ 社会性の発達 ・ 感情と自己の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
11. 12	出生前後～児童期までの発達 ・ 遊びと対人関係の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
13. 14	出生前後～児童期までの発達 ・ 言葉と思考をめぐる発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
15. 試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの資料に目を通しておく	240

【科目名】 発達心理学Ⅱ		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 授業内にて知らせます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、発達心理学について講義します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) 講義が中心である。 講義資料は、当日に配布する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【一般教育目標(GIO)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 青年期～成人期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。 1. 身体的発達(変化)の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 心理的危機に対して、適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書等は特になし。 毎回資料を配布する。		
【参考書】 本郷一夫編(2018) 発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房。 向田久美子(2017) 発達心理学概論. NHK出版。 秦野悦子・近藤清美編(2020) 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験60%(配布資料持ち込み可)、小テスト40%(出欠確認を兼ねる)で評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	青年期の発達(前期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
3. 4	青年期の発達(中期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
5. 6	青年期の発達(後期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
7. 8	成人期の発達(前期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
9. 10	成人期の発達(中期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
11. 12	成人期(後期)・老年期の発達	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
13. 14	定型発達と非定型発達 ・神経発達症群／神経発達障害群	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
15. 試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通しておく	240

【科目名】	リハビリテーション医学		【担当教員】	高橋 明美、小林 量作、栢森 良二	
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0070-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・理学療法、作業療法、心理全専攻の学生にとり重要不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席して下さい。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医師や理学療法士の資格を持つ教員が、臨床で培った経験を下に、疾患別リハビリテーションについて講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
試験の解答については、原則返却しません。 ただし、必要に応じて解答の解説は行います。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できることを目標とします。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3					
(方法)					
主として配布資料を使用して講義を行います。授業内容によって、演習を行います。 脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学びます。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等についても学びます。					
【一般教育目標 (GIO)】					
リハビリテーション医学の基本を理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
脳卒中、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、整形疾患、内部疾患等について説明できる。 治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
栢森良二著：学生のためのリハビリテーション医学概論 第4版，医歯薬出版，2024， 3520円					
【参考書】					
真柄彰・鴨下博編：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション医学，理工図書，2017， 5000円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験およびその他学習に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2 後期	リハビリテーション医学総論 対象疾患、他オリエンテーション	講義 (高橋)	(予習) リハビリテーション概論で 学んだことを復習しておくこと (復習) 配布資料を読んでおくこと	90 90
3. 4 後期	脳卒中のリハビリテーション： 脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血	講義・演習 (高橋)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90
5. 6 後期	変性疾患のリハビリテーション： パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、 脊髄小脳変性症(SCD)等	講義 (小林)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90
7. 8 後期	整形外科疾患のリハビリテーション： 関節リウマチ(RA)、変形性関節症(OA)、骨折(Fx) 等	講義 (小林)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90
9. 10 後期	脊髄損傷のリハビリテーション： 脊髄損傷(頸髄損傷、胸腰髄損傷)	講義 (栢森)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90
11. 12 後期	小児のリハビリテーション： 発達評価、小児疾患	講義 (栢森)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90
13. 14 後期	疾患別リハビリテーション(心大血管疾患、呼吸 器、廃用性)	講義・演習 (高橋)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90
15 後期	まとめ	講義 (高橋)	(予習) 前回の講義の復習。 (復習) 今回の講義の復習。配布資 料を読んでおくこと	90 90

【科目名】 救急救命医学		【担当教員】 村井 絹子、山村 千絵
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0075-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月・水 8:30~17:30 (保健室)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、看護の実務経験者がある教員による授業科目です。看護師の臨床経験から、医療における医療安全の目的、救急救命の役割、急性期の経時的変化の適切な観察と処置などの知識と技術について講じていきます。リハビリテーション学科においては、将来、医療従事者として臨床現場で活躍することが期待されています。そのため、医療における安全管理及び緊急事態の適切な判断、素早い処置ができる知識と技術を身につけておく必要があります。臨床実習に備えた必修科目となっています。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 命の連鎖に繋がる応急手当講習は真摯な態度で臨んでください。また、学内のAED配置の場所について確認をしてください。小テストは解答・解説を行います。レポートについても必要に応じて解説を行い支障がない限り返却します。生成AIの利用を全面的に許可しています。授業内、予復習、レポート等の作成において自由に利用してください。但し、使用した場合にその旨をレポート等に記入してください。		
【講義概要】 (目的) この科目は、救急救命医学の基礎知識及び安全管理について学ぶことを目的としています。リハビリテーションの臨床現場は生命に関わる心疾患、脳卒中等の急性期管理の必要な患者が対象となり、生命に直結する緊急時に遭遇することが想定されます。そのため、緊急事態発生時に、適切かつ安全な医療を提供できる知識、技術を学んでいきます。また、医療現場における安全管理についても理解を深め、基本的知識を修得することを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 (方法) 主としてテキストと配布資料を使用し、対面で講義を行います。 緊急時の応急手当方法については、実技演習を通して習得していきます。 講義内容に「村上市消防本部救命講習普通救命講習1（応急手当WEB講習eラーニング、実技救命講習）」が含まれています。		
【一般教育目標(GIO)】 ・医療の安全管理の基本的知識を修得し、多職種と継続的に連携した安全の取り組みを理解する。 ・救急医療体制を知り、救急医療の諸問題について理解する。 ・医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法について、知識を活用し技術を修得する。		
【行動目標(SBO)】 ・医療安全の用語、医療安全体制について説明できる。 ・救急医療体制と救急疾患の特性を説明できる。 ・成人の一次救命処置が実施できる。 ・小児の一次救命処置を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 内山靖（他）編、安全管理学・救急医療学、医歯薬出版、2021年、¥2700（税別）		
【参考書】 瀬尾憲治（著）、AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために、医歯薬出版、2016年 二宮啓子（編著）、小児看護学概論改正第3版、南山堂、2017年 中野綾美（編著）、小児の発達と看護、メディカ出版、2018年		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、小テスト及びレポート点数、実技点数により総合的に評価する。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前にご相談するをお願いします。		

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			30	10		60			100
評価 指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					50			50
	学修に取り組む姿勢			10		10			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	医療安全の概要、基本的な考え方 ・ 医療安全の変遷 ・ 人間がもつ特性 ・ 医療安全の共通用語	講義	予習：テキストP8～13を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
3・4	医療安全の概要、医療安全体制について ・ 国の医療安全対策 ・ 組織の医療安全対策	講義	予習：テキストP24～27を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
5・6	医療事故における法的責任 ・ 医療過誤で問われる法的責任 ・ 有害事象の対応	講義	予習：テキストP20～23を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
7・8	救急医療 ・ 救急医療の特徴 ・ 緊急を要する病態・臨床所見・バイタルサイン の特徴	講義	予習：テキストP64～69を読んでおく 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
9・10	小児のバイタルサイン ・ 小児のバイタルサインの特徴 ・ 小児、乳児の心肺蘇生	講義	予習：小児のバイタルサインの正常 値を調べる 復習：小テストでポイントを確認	30分 15分
11・12	成人の救急救命・心肺蘇生 ・ 応急手当WEB講習e-ラーニング受講	e-ラーニング 受講	予習：BLSの手順について調べる 復習：課題レポートで振り返り	30分 30分
13・14	一次救命実習 ・ 村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	予習：AEDの設置場所（大学）につい て調べる 復習：BLSの手順振り返り	15分 30分
15	一次救命実習 ・ 村上市消防本部救命講習、普通救命講習1	講義・実習	予習：AEDの設置場所（大学）につい て調べる 復習：BLSの手順振り返り	15分 30分

【科目名】		栄養学		【担当教員】		宮岡 里美	
【授業区分】		専門基礎分野(臨床医学)		【授業コード】		2-12-0080-3	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		15	
【メールアドレス】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、理学療法学専攻及び作業療法学専攻の必修科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での栄養教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、生命維持に欠かせない栄養の基本的な仕組みと、ライフステージや疾患に応じた栄養摂取法について講義・演習を行っていきます。臨床経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 講義中あるいは終了後にレポートを課す場合があります。また、自身の食生活調査や栄養計算等も行っていきます。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。							
【講義概要】 (目的) 私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。 本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防・改善できる基礎を学ぶことを目的とします。また、高齢社会において注目されているサルコペニア/フレイルと栄養の関係も説明でき、適した栄養摂取法により摂食嚥下障害や誤嚥性肺炎を予防・改善することも可能であることも学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3、P-2、O-2、R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。							
【一般教育目標(GIO)】 「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解する。 健康な日常生活及び社会生活を営むため、日常的に食する主な食品の栄養特性を理解する。 栄養と健康の維持・増進、栄養と疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。 フレイル及びサルコペニアの予防、更に認知機能障害の予防を栄養管理の面から説明できる。							
【行動目標(SB0)】 栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。 ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。 保健・医療・福祉等でのリハビリテーションにおける栄養管理法の基礎を修得する。 経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。 栄養状態とうつ症状等の心理状態の関係性を理解し、臨床現場で身体と心の両面から適切な支援ができる。							
【教科書・リザーブドブック】 特に指定しない							
【参考書】 栢下淳・若林秀隆(編著) 「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎; 第3版」医歯薬出版(2022/12) ¥4,180 若林 秀隆(著)「PT・OT・STのための リハビリテーション栄養; 第3版」医歯薬出版(2020/10/30) ¥3,630 「食と栄養の大百科; 第2版」(Newtonムック別冊), (株)ニュートンプレス(2021/8/5) ¥1,980							
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。また、相談することによって不利が生ずることはありません。							

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。同、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		30					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク・エネルギー低栄養状態(PEM)とは ・栄養状態の評価法(栄養スクリーニング)	講義	【復習】加齢による「食べる」機能の障害を知り、適切な栄養サポート法があることを理解する。	20
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・低栄養とうつ ・脳と栄養	講義	【復習】栄養状態とうつ症状等の心理状態との関係性を理解する。	20
3	なぜ栄養を摂取するのか？ ・人体の構成 ・消化、吸収、代謝	講義 一部講義	【予習】生理学等のテキストで、栄養素の消化・吸収のしくみを確認しておく。	30
4	経口摂取と非経口摂取法 ・摂食嚥下障害 ・食形態 ・栄養投与ルート	講義	【復習】非経口摂取法の基本を人体の解剖・生理から理解する。	20
5	栄養素Ⅰ_3 大栄養素① ・三大栄養素とは 1)炭水化物 糖質の成分と栄養特性 食物繊維のはたらき	講義	【復習】三大栄養素の定義を再確認する。炭水化物の種類と機能を理解する。	20
6	栄養素Ⅰ_3 大栄養素② 食品の成分と栄養特性 2)脂質 3)たんぱく質	講義 確認テスト：三大栄養素のはたらき	【復習】脂質とたんぱく質の種類と機能を確認する。必須脂肪酸/必須アミノ酸の機能を理解する。	20
7	栄養素Ⅱ_5 大栄養素① ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義	【復習】ビタミンの種類とその生理機能を確認する。	20
8	栄養素Ⅱ_5 大栄養素② ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状 ・脱水症状	講義 確認テスト：主なビタミン・ミネラルの生理作用	【復習】ミネラルの生理機能を理解する。脱水症状とその予防法を理解する。	20

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン ・ 栄養計算（演習） ・ エネルギーバランスの計算	講義 一部演習	【復習】エネルギー代謝と食事摂取基準を確認する。 【レポート課題】エネルギーバランスを計算し、図示する。	15 30
10	食品群別摂取量 ・ 栄養バランス ・ 栄養バランスガイド（演習）	講義 一部演習	【復習】バランスがとれた食事を理解する 【レポート作成】食事調査を実施し、考察する。	15 120
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義	【復習】乳幼児期、児童期、青年期、成人期、妊娠・授乳期、高齢期の各身体の特徴と主な食事の留意点を理解する。	20
12	健康と食生活 ・ 心疾患、脳血管疾患、高血圧、糖尿病等	講義	【復習】栄養と疾患の関係を理解し、適切な栄養管理ができる。	20
13	介護予防のための栄養食事管理法① ・ 骨粗鬆症	講義	【復習】資料【[食べて]+[動く]→[健康寿命]】の意味（栄養と運動の重要性）を理解する。	20
14	介護予防のための栄養食事管理法② ・ フレイルとは ・ サルコペニア/フレイル予防と栄養	講義 一部演習：フレイルチェック法	【レポート作成】自身でフレイルチェックを行い、その結果を考察する。	20
15	まとめ 多職種連携における ・ 栄養サポートチーム (NST) ・ 栄養ケアマネジメント (NCM)	講義	【復習】臨床における栄養管理法の概要を知り、NSTとは多職種で構成された医療チームであることを理解する。	20

【科目名】 リハビリテーション概論		【担当教員】 高橋 明美、丁子 雄希、大平 芳則、大矢 薫
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からリハビリテーションやその分野における各専門職の役割などについて講じていきます。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 小テストについては、返却します。 試験の解答については、原則返却しません。ただし、必要に応じて試験内容について解説します。 予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2, 3 (方法) ・資料・教科書を用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。		
【行動目標(SB0)】 1. リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。2. 障害の概念や分類について説明できる。3. リハビリテーションの過程について説明できる。4. 各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5. リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6. ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
【参考書】 ①真柄彰, 他：リハビリテーション概論, 理工図書, 2017, ¥4700 (税別) ②上好昭孝, 他：医学生・コメディカルのための手引書, リハビリテーション概論, 改訂第3版, 永井書店, 2014, ¥3000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テスト、その他学修に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 (高橋明美)	(復習) 講義で配布された資料を読むこと	90
2 前期	疾病と障害の概念、分類	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度 理学療法概論	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
5 前期	作業療法概論	講義 (丁子雄希)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
6 前期	言語聴覚療法概論	講義 (大平)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
7 前期	リハビリテーション心理概論	講義 (大矢)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
8 前期	まとめ 試験	小テスト、講義 レポート (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90

【科目名】		社会保障論		【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】		専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0010-3	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この講義は医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障のない限り返却する。配信での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。					
生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。					
※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
本邦における社会保障の現状、社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障と財政、社会保険と社会扶助の関係、公的年金制度、医療保険制度の内容とその課題、制度の動向について学ぶことを目的とする。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
教科書、レジュメを用いて講じていく。					
【一般教育目標(GIO)】					
・ 社会保障制度の概要について理解する。					
・ 年金保険制度について理解する。					
・ 医療保険制度・介護保険制度について理解する。					
・ 社会福祉制度・サービスについて理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・ 社会保障制度の概要について説明できる。					
・ 年金保険制度について説明できる。					
・ 医療保険制度・介護保険制度について説明できる。					
・ 社会福祉制度・サービスについて説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 社会保障 中央法規 2,900円+税 一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟 編集					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。					
・ 成績評価はレポートにより評価する。					
・ 出席点は評価に含めない。					
レポートのフィードバックについては、個別にコメントをのけて返却する。					

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	現代社会と社会保障	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	社会保障の概念や対象およびその理念	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	社会保障の財政	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	社会保障制度の体系①	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	社会保障制度の体系②	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	諸外国における社会保障制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：教科書と配布資料を事前に読 んでおく	90分

【科目名】 公的扶助論		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この講義は、医療福祉分野の相談職としての臨床経験がある講師が講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障がない限り返却する。対面での講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とし、特に、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) ・教科書と配布資料を用いて講じていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ・公的扶助について理解する。 ・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。 ・生活保護制度の原理・原則・仕組みについて理解する。 【行動目標(SB0)】 ・公的扶助とは何かを説明できる。 ・公的扶助が必要となるさまざまな社会的背景を説明できる。 ・生活保護制度の原理・原則・仕組みについて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 貧困に対する支援 ミネルヴァ書房 2022年05月01日出版 2,400円+税 杉本 敏夫 監修 金子 充 田中 秀和 中村 健立 花 直樹 編著		
【参考書】 ・特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	・ 貧困の概念と公的扶助の意義・範囲 ・ 貧困状態にある人と社会環境	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	・ 貧困状態にある人に対する福祉の理念 ・ 貧困観とスティグマ	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	・ 世界における貧困に対する制度の歴史 ・ 日本における貧困に対する制度の歴史	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	・ 生活保護法の概要と役割 ・ 生活困窮者自立支援制度の概要と役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	・ 低所得者対策の概要と役割 ・ ホームレス対策の概要と役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	・ 貧困に対する支援における関係機関の役割 ・ 貧困に対する支援における専門職の役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	・ 生活保護制度における専門職の役割と自立支援 ・ 生活困窮者自立支援制度における専門職の役割 と自立支援 ・ 生活福祉資金貸付制度にみる専門職の役割と自 立支援	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	・ 今までの振り返り	対面講義	復習：配布資料、教科書を読んでお く	90分

【科目名】 権利擁護と成年後見制度論		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は、医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) オンデマンド配信での講義であるがアクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。レポートについては、他の支障のない限り返却する。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 超高齢化社会と呼ばれる世の中で、認知症の方や障がいをもたれた方への支援に対する重要性が高まりつつある。この科目は特に権利擁護と成年後見制度についての基礎的知識を理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書とレジュメを用いて講じていく。オンデマンド配信にて講じていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ・権利擁護について理解する。 ・成年後見制度について理解する。 ・権利擁護と成年後見制度についての社会的背景を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・権利擁護について説明できる。 ・成年後見制度について説明できる。 ・権利擁護と成年後見制度についての社会的背景を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 精神保健福祉士・社会福祉士 養成セミナー 法学 権利擁護と成年後見制度 編集 精神保健福祉士・社会福祉士 養成基礎セミナー編集委員会 へるす出版 2,100円+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う ・成績評価はレポートにより評価する ・出席点は評価に含まない		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	相談援助活動において想定される法律問題	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	日本国憲法の基本原理の理解	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	民法の理解	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	成年後見制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	日常生活自立支援事業	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	成年後見制度利用支援事業	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料を読んでおく	90分

【科目名】		地域包括ケア論		【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0025-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障のない限り返却する。配信講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。					
生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。					
※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
医療・福祉・介護など様々な領域で地域福祉の理解は必要不可欠である。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や多職種と連携することの意義や重要性について理解することを目的とする。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1、A-2					
(方法)					
教科書と配布資料を用いて講じていく。					
【一般教育目標(GIO)】					
・地域福祉に関する概要を理解する。					
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて理解する。					
・地域における住民と多職種との連携の必要性について理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・地域福祉に関する社会背景を説明できる。					
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。					
・地域福祉に関わる制度等について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
「よくわかる地域包括ケア」ミネルヴァ書房 2,400円+税 隅田 好美 藤井 博志 黒田 研二 編著					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う					
・成績評価はレポートにより評価する					
・出席は評価に含まない					
・レポートのフィードバックについては、個別にコメントをのけて返却する					

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	地域包括ケアとは何か	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	地域包括ケアと地域福祉	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	地域包括ケアを支える制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	地域福祉の基本理念と生活支援	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	地域包括ケアを支える制度支える専門職	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	保健予防と介護予防	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	多様な対象者に対する地域包括ケア	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料を読んでおく	90分

【科目名】福祉財政論		【担当教員】向田 怜史
【授業区分】専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】2-13-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火・木 12：40～13：30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この講義は、医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障のない限り返却する。配信講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 社会保障・福祉制度における国・都道府県・市町村の役割とその財源について理解することを目的とする。国と地方との関係、組織及び団体、専門職の役割等の概要について理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2		
(方法) 教科書・レジュメを用いて講じていく		
【一般教育目標(GIO)】 ・社会福祉政策を遂行する行政システムや財政システムについて理解する。 ・福祉行財政について理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・日本の福祉行財政の動向について概説できる。 ・福祉行財政についての政治的経済的背景について説明できる ・社会福祉に関連する法規と課題について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 福祉+α 11 福祉財政 高端正幸 伊集守直 編集 橘木俊詔 宮本太郎 2018年9月20日 ミネルヴァ書房 3,500円+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う ・成績はレポートにより評価する ・出席点は評価に含めない レポートのフィードバックについては、個別にコメントをつけて返却する		

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	・日本における福祉財政の特徴 ・日本の福祉財政の歴史	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
3・4回	・税と社会保険料 ・福祉を支える政府間財政関係	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
5・6回	・年金財政 ・医療保障の財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
7・8回	・介護保障の財政 ・児童福祉財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
9・10回	・障害者の社会生活支援と財政 ・生活保護制度と財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
11・12回	・雇用保障の財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
13・14回	・諸外国の福祉財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
15回	・今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料、教科書を読んでおく	90分

【科目名】 チーム医療学Ⅰ		【担当教員】 知名 規人、長島 裕子、加藤 真由美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0025-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	china@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 火曜日13:30-15:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、グループ演習を中心とした双方向型授業（アクティブラーニング）の科目です。 患者や利用者中心の価値観やチーム形成・コミュニケーションに関する力は、リハビリテーション医療に限らず、社会に求められる知識・態度・技能です。積極的に受講してください。 本科目は、病院や施設において専門職としてチーム医療に実務経験をもつ複数の教員が担当します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 同級生との討論・まとめ・発表などの自主的な活動を中心に授業が進むので、率直な意見交換ができるよう、日ごろから自分の考えや感じたことを他の人に伝えたり、他の人の意見を聴くように心がけてください。 授業で話題にするテーマに関して、HP、雑誌、新聞、図書、参考資料等での予習復習をしてください。 生成系AIの利用は、発表用資料を作成するうえで参考にする場合のみ利用を許可しています。ただし、その出力結果をそのまま使用することは禁止します。オリジナルの考えやアイディアを必ず組み合わせてください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、理学療法、作業療法、心理職をはじめとする多くの保健・医療・福祉職の連携が必須である。本科目では、まず、患者・利用者中心に考える視点や専門用語、チーム形成に必要な心構えなどを学ぶ。そして、関連する専門職とその役割を知り、多職種連携の重要性について理解することを目的とする。 (当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2) (方法) 基本的には、講義30分、グループワーク（ディスカッション）、まとめ という進行手順で授業を構成します。 グループワークでは学生同士の討論を中心とし、リーダーシップ、メンバーズシップが実践できるようにグループ全体で協力してください。 討論テーマについての情報や資料は、講義内容、図書、ネット、事前学習等で収集してください。		
【一般教育目標(GIO)】 ①社会で求められている態度、コミュニケーション力の必要性を理解する。 ②生きること、老いること、障害があること等が人間にとってどのような意味を持つのか理解する。 ③多くの専門職を知り、連携の重要性を理解する。 ④チーム医療の一員としての自分に求められる知識と役割を理解する。		
【行動目標(SBO)】 ①グループワークにおいて、各自が役割を認識し、リーダーシップ、メンバーズシップが発揮できる。 ②人の気持ちに寄り添い、悩みや苦しみに共感できる。 ③リハ医療に関連する専門職10種類以上の名称と役割の概要について説明できる。 ④各自の目指す専門職を具体的にイメージし、必要な専門用語を使って説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 適時、資料を配布する。 「保健・医療・福祉のための 専門職連携教育プログラム」柴崎智美他編集 ミネルヴァ書房		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・学内試験規定に基づく授業態度、レポート、試験により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まない。 ・試験結果については、必要に応じて解説を行う。		

・ 訃報届来について、必安に心して葬儀を行いませう。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30		70					100
評価 指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ	20							20
	発表力	10							10
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	- 科目についてのオリエンテーション - アイスブレイキング - チーム医療とは何か - ヒューマンケアとは何か	- 講義 - 演習 (知名)	- チーム医療について、予習、復習を行う。 - チーム医療、ヒューマンケアについて書籍、ネット等で調べる。	90分
3, 4	- コミュニケーションの知識 - 基礎的知識 - コミュニケーションの重要性 - ロールプレイ	- 講義 - 演習 (長島)	- コミュニケーション論について、書籍、ネット等で調べる。 - 演習で学んだことをまとめる。	90分
5, 6	具体的なストーリー（１） (病気)	- 講義 - 演習 (加藤)	- 具体的なストーリーをメモする。 - 討論メモをまとめる。	90分
7, 8	具体的なストーリー（２） (老い)	- 講義 - 討論 (知名)	- 具体的なストーリーをメモする。 - 討論メモをまとめる。	90分
9, 10	具体的なストーリー（３） (生・死)	- 講義 - 討論 (長島)	- 具体的なストーリーをメモする。 - 討論メモをまとめる。	90分
11, 12	具体的なストーリー（４） (障害)	- 討論 - 演習 (加藤)	- 各専門種の役割を調べる。 - 各専門職の役割と、近來の自分の職業とのつながりをまとめる。	90分
13, 14	- 専門職の役割を学ぶ - グループディスカッション - 専門職理解ゲーム	- 討論 - 演習 (知名)	- 事例について、各専門種の役割を考える。 - 各専門職の役割と、近未来の自分の職業とのつながりをまとめる。	90分
15	まとめ	- 講義 - 演習 (知名)	振り返り（各回のポイントを確認する）	45分

【科目名】	心理学統計法 I		【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0020-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～木曜日 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的検定について電卓を使ってその方法を練習します。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓（√機能のついた電卓）を持参してください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。				
【講義概要】				
(目的)				
統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2、R-2 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。				
(方法)				
心理統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。 この講義はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標 (GIO)】				
統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析について説明ができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
授業資料を毎回配布します。				
【参考書】				
吉田（著）本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房，2018年，¥2,750				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストの成績と授業への参加態度を総合して評価する。 試験、小テストの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 心理学の学びに統計学が何故必要なのか	講義	心理学領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3-4	種々の変数について	講義・演習	心理学で扱われる種々の変数の違いを説明できる	120
5-6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7-8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9-10	散布度（分散と標準偏差）	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11-12	共分散と相関（１）	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13-14	共分散と相関（２）	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】心理学統計法Ⅱ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0025-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】		
(目的)		
統計学的な知識の習得を通じて行動やところを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2、R-2 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。		
(方法)		
心理学統計法Ⅰで学んだ記述統計の知識を土台として、推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】		
統計学的な考え方を身に着けるために、推測統計の基礎を理解する。		
【行動目標(SB0)】		
推測統計の考え方について説明ができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
授業資料を毎回配布します。		
【参考書】		
山田・村井(著) よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥2,800+税		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストの成績と授業への参加態度を総合して評価する。 試験、小テストの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	共分散と相関 (3)	講義・演習	共分散と相関の内容を理解できる	120
3-4	順位相関とクロス集計	講義・演習	順位相関とクロス集計を理解できる	120
5-6	推測統計について	講義・演習	推測統計および統計的仮説検定の意味を理解できる	120
7-8	正規分布と信頼区間	講義・演習	正規分布と信頼区間の考え方を理解できる	120
9-10	統計的仮説検定	講義・演習	統計的仮説検定の考え方を理解できる	120
11-12	対応のないt検定	講義・演習	対応のないt検定の考え方、またどのような場合に適用されるのかを理解できる	120
13-14	対応のあるt検定	講義・演習	対応のあるt検定の考え方、またどのような場合に適用されるのかを理解できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】		人体の構造と機能及び疾病Ⅰ		【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0145-2	(メールアドレス) murai@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月・水 8：30～17：30（保健室）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。心理職は、こころの専門職として人間の仕組みを「こころ」と「からだ」の両面から理解する必要があります。身体各部の構造を知り、どのように機能しているのか、また「こころ」とどのような繋がりがあるのかを理解し、専門的知識を身につける必要があります。看護師としての臨床経験から、身体の構造と機能及び疾患について、具体的にイメージができるよう、また専門用語を知識として定着できるように講じていきます。この科目は、公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目は、10分以上の遅れで遅刻となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。この講義のほかに、「解剖学」や「生理学」、「内科学」などの医学関連科目と関連し、より医学的専門知識の理解を深めることができます。毎回、講義の前に知識のポイントを復習します。小テストは正解を解説し返却します。生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予復習において自由に利用してください。					
【講義概要】					
(目的)					
公認心理師とは、「保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識と技術をもって心理に関する様々な支援を行う者」とされています。心理に関する専門家として、人の「こころ」と「からだ」の成長・発達を解剖学的に理解し、日常生活への関連性を踏まえた支援を行うため、専門的医学知識を修得することを目的とします。人体の構造と機能及び疾患Ⅰは、正常な人体構造と機能の基礎知識を学んでいきます。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：R-1					
(方法)					
主として教科書を中心に、パワーポイントを使用し対面による講義を行います。					
内容については指定教科書に準じます。					
関連資料がある場合は必要に応じて配布します。					
【一般教育目標(GIO)】					
・こころの問題とそれが原因となる身体的問題を生物学的に理解するため、正常な人体構造と機能の基礎知識を修得する。					
・疾病がもたらす心理面への影響や支援のありかたを考察するため、人体についての医学的知識を修得する。					
【行動目標(SBO)】					
・身体各臓器の構造と機能を説明できる。					
・人体の解剖学的用語を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
武田克彦編著、公認心理師カリキュラム準拠人体の構造と機能及び疾病第2版、医歯薬出版、2024年、¥3,300（税別）					
【参考書】					
さわ研究所講師陣著、解剖と疾患と看護がつながる、医歯薬出版、2015年					
小林芳郎編著、健康のための心理学、保育出版、2012年					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・出席点は評価に含みません。					
・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。					
・成績評価は、小テストの点数及び期末試験により総合的に評価する。					
※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。					

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	オリエンテーション (シラバスの説明) 細胞、組織、器官、器官系	講義	予習：教科書P14～19を読んでおく 復習：1. 2コマ小テスト	30分 15分
3・4	身体の構造と機能 物質の取り込み：呼吸器系・消化器系	講義	予習：教科書P19～22を読んでおく 復習：3. 4コマ小テスト 1. 2コマ振り返り	30分 15分 15分
5. 6	身体の構造と機能 物質の循環と排泄：血液・循環器系・泌尿器系	講義	予習：教科書P22～26を読んでおく 復習：5. 6コマ小テスト 3. 4コマ振り返り	30分 15分 15分
7. 8	身体の構造と機能 個体の複製：生殖系 形の維持と運動：運動器系	講義	予習：教科書P26～31を読んでおく 復習：7・8コマ小テスト 5・6コマ振り返り	30分 15分 15分
9・10	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：感覚器系	講義	予習：教科書P33～38を読んでおく 復習：9・10コマ小テスト 7・8コマ 振り返り	30分 15分 15分
11・12	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：神経系	講義	予習：教科書P38～49を読んでおく 復習：11. 12コマ小テスト 9・10コマ振り返り	30分 15分 15分
13・14	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：内分泌系	講義	予習：教科書P49～53を読んでおく 復習：13・14コマ小テスト 11・12コマ振り返り	30分 15分 15分
15	身体の構造と機能 全コマのまとめ（各コマの小テストで振り返り）	講義	予習：1～14コマをまとめる 復習：小テストで振り返り	30 15

【科目名】		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ		【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0150-2	(メールアドレス) murai@05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月・水 8：30～17：30（保健室）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、看護の実務経験のある教員による授科目です。人体の構造と機能Ⅰの知識を土台に、解剖学的構造と疾病の関係を深めていきます。疾病の原因、病態、治療、疾病が与える身体的影響、心理的影響について、看護師としての臨床経験をもとに、対象者の状態を具体的に講じていきます。人の一生を縦断的にみた加齢に伴う疾病について学び、健康への影響についても理解を深めていきます。この科目は公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では、10分以上の遅れで遅刻となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。この講義のほかに、「解剖学」や「生理学」、「内科学」などの医学関連科目と関連し、より医学的専門知識の理解を深めることができます。毎回講義の前に、知識のポイントを復習します。小テストは正解を解説し返却します。生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予復習において自由に利用してください。					
【講義概要】					
(目的)					
生命の誕生から老化における身体の変移を理解し、各ライフステージで発症しやすい臓器別の疾患の概要、治療についての医学的知識を深めることを目的としています。人体の構造と機能Ⅰで得られた知識を基に、重要な疾病、社会環境の変化によって出現した疾病、生命を脅かす疾病、重大な感染症、心身の障害についても考え、これらの成り立ち、予防・治療についても説明できるよう学んでいきます。心理の専門職として、各疾患の心理的アプローチや社会的支援に繋がる医学的知識を修得することを目的としています。当該科目と学位授与方針等との関連性：R-1					
(方法)					
主として教科書を中心に、パワーポイントを使用し対面による講義を行います。内容については指定教科書に準じます。関連資料がある場合は必要に応じて配布します。					
【一般教育目標(GIO)】					
人体の構造と機能Ⅰの医学的基礎知識を活用し、身体各部の疾患、原因、病態、治療を踏まえた心理面的アプローチ方法を習得するため、人間を「こころ」と「からだ」の両面から理解する。健康増進対策を実践するため、心理職がこころの健康づくりに果たす役割について理解する					
【行動目標(SB0)】					
・身体各部の疾患の成り立ちを、医学的知識を用いて説明できる。 ・心理職が、「こころ」と「からだ」の健康づくりに果たす役割について述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
武田克彦編著、公認心理師カリキュラム準拠人体の構造と機能及び疾病第2版、医歯薬出版、2024年、¥3,300（税別）					
【参考書】					
さわ研究所講師陣著、解剖と疾患と看護がつながる、医歯薬出版、2015年					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、小テストの点数及び期末試験により総合的に評価する。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前にご相談ください。					

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	疾病の概要と特徴 小児の成長発達と疾患 小児診療の特殊性、小児の成長と発達 小児に特徴的な疾患と障害 先天性疾患、遺伝性疾患	講義	予習：教科書P55～68を読んでおく 復習：1・2コマ小テスト	30分 15分
3・4	疾病の概要と特徴 加齢と疾患 加齢に伴う生理的変化の特徴 各器官系の老化と影響	講義	予習：教科書P69～81を読んでおく 復習：1・2コマ振り返り 3・4コマ小テスト	30分 15分 15分
5・6	疾病の概要と特徴 内科疾患 生活習慣病の実態と疾患への影響 内科疾患の特徴と実態	講義	予習：教科書P84～96を読んでおく 復習：3・4コマ振り返り 5・6コマ小テスト	30分 15分 15分
7・8	疾病の概要と特徴 がん がんの理解（疫学と特徴）、小児がんの理解 感染症 感染症の特徴、感染対策	講義	予習：教科書P97～119を読んでおく 復習：5・6コマ振り返り 7・8コマ小テスト	30分 15分 15分
9・10	疾病の概要と特徴 脳血管疾患 脳卒中の病型と特徴、脳血管疾患の主要症状 神経疾患 神経疾患の特徴、難病の各症状	講義	予習：教科書P120～139を読んでおく 復習：7・8コマ振り返り 9・10コマ小テスト	30分 15分 15分
11・12	疾病の概要と特徴 機能性疾患 てんかん、機能性神経疾患の分類、病態、治療 整形外科疾患 運動器の代表的疾患、ICF	講義	予習：教科書P140～167を読んでおく 復習：9・10コマ振り返り 11・12コマ小テスト	30分 15分 15分
13・14	疾病の概要と特徴 緩和ケア、終末期ケア 緩和ケアの概要、サイコオンコロジーの概要 健康と健康増進 健康の定義、疾病予防、ヘルスプロモーション	講義	予習：教科書P182～205を読んでおく 復習：11・12コマ振り返り 13・14コマ小テスト	30分 15分 15分
15	疾病の概要と特徴 1コマ～14コマの振り返り	講義	予習：全コマのポイントを振り返る	45分

【科目名】		基礎ゼミⅢ	【担当教員】	長谷川 裕、浅海 岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0016-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00-13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神科領域で作業療法士として従事してきた経験から、他者とのコミュニケーション・協力・役割分担をしながら課題を解決する体験の場を構成して、講じていきます。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・本科目の単位付与の条件としてエルコアを受講完了し証明書の提出が必要です。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。				
【講義概要】				
(目的)				
将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性： A-2, 3				
(方法)				
このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。				
【一般教育目標(GIO)】				
・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。				
【行動目標(SBO)】				
・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、Power BIを学習する。 ・e-learningとしてエルコアを授業の教材として用い、「医療倫理」についての受講を完了することができる ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア形成について考えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
・必要に応じ資料を配付する。				
【参考書】				
・必要に応じ資料を配付する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、エルコア受講完了証明書の提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。 ・レポートの返却は行いません。				

- ・レポートの返却は行いません。
- ・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価 指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				20			10	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について(e-learningエルコアの方法)	講義・長谷川	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
2, 3	ゼミ活動-1 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
4, 5	ゼミ活動-2 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
6, 7, 8	エルコアの実施	演習	担当教員の指示に従ってください。	30
9, 10	Power BI①Power BIの概要と基本操作	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
11, 12	ゼミ活動-3 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
13, 14	Power BI②Excelデータの取り込みとクエリ	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
15, 16	Power BI③数表とフィルターリング	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30

17, 18	Power BI④グラフ表示と書式設定	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
19, 20	ゼミ活動-4 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
21, 22	ゼミ活動-5 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
23, 24	ゼミ活動-6 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
25, 26	ゼミ活動-7 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
27, 28	ゼミ活動-8 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定) ・ゼミ内での中間発表 (8月9日までに実施)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
29, 30	キャリア支援セミナー 「私と社会の未来を考えるキャリアガイダンス」	キャリア担当教員	キャリア担当教員の指示に従ってください。	30

【科目名】		基礎ゼミⅢ		【担当教員】	長谷川 裕、浅海 岩生
【授業区分】		教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0016-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(後期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～金 13:00-13:20
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神科領域で作業療法士として従事してきた経験から、他者とのコミュニケーション・協力・役割分担をしながら課題を解決する体験の場を構成して、講じていきます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・本科目の単位付与の条件としてエルコアを受講完了し証明書の提出が必要です。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。					
【講義概要】					
(目的)					
将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性： A-2,3					
(方法)					
このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。得られたデータの解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。					
【一般教育目標(GIO)】					
・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。					
【行動目標(SBO)】					
・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、Power BIを学習する。 ・e-learningとしてエルコアを授業の教材として用い、「医療倫理」についての受講を完了することができる ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア形成について考えることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
・必要に応じ資料を配付する。					
【参考書】					
・必要に応じ資料を配付する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、エルコア受講完了証明書の提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。					

- ・レポートの返却は行いません。
- ・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価 指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				20			10	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について(e-learningエルコアの方法)	講義・長谷川	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
2, 3	ゼミ活動-1 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
4, 5	ゼミ活動-2 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
6, 7, 8	エルコアの実施	演習	担当教員の指示に従ってください。	30
9, 10	Power BI①Power BIの概要と基本操作	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
11, 12	ゼミ活動-3 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
13, 14	Power BI②Excelデータの取り込みとクエリ	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
15, 16	Power BI③数表とフィルターリング	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30

17, 18	Power BI④グラフ表示と書式設定	配信・浅海先生	担当教員の指示に従ってください。	30
19, 20	ゼミ活動-4 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
21, 22	ゼミ活動-5 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
23, 24	ゼミ活動-6 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
25, 26	ゼミ活動-7 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
27, 28	ゼミ活動-8 (スケジュールは、ゼミ教員、ゼミ生で設定) ・ゼミ内での中間発表 (8月9日までに実施)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	30
29, 30	キャリア支援セミナー 「私と社会の未来を考えるキャリアガイダンス」	キャリア担当教員	キャリア担当教員の指示に従ってください。	30

【科目名】		基礎ゼミⅣ		【担当教員】	長谷川 裕、丁子 雄希
【授業区分】		教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0017-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(前期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神科領域で作業療法士として従事してきた経験から、他者とのコミュニケーション・協力・役割分担をしながら課題を解決する体験の場を構成して、講じていきます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。					
【講義概要】					
(目的)					
将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。この科目では、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性： A-2,3					
(方法)					
この科目では、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータを統計学的にまとめ、解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。					
【一般教育目標(GIO)】					
・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。					
【行動目標(SBO)】					
・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミⅢで学んだPower BIを活用できる。 ・文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。 ・学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。 ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア意識を醸成することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
・必要に応じ資料を配付する。					
【参考書】					
・必要に応じ資料を配付する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、ポートフォリオの提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。					

- ・レポートの返却は行いません。
- ・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価 指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・文献検索について	講義・長谷川	担当教員の指示に従ってください。	30
2, 3	文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。	配信・演習	担当教員の指示に従ってください。	30
4, 5	研究結果を統計学的にまとめる手順とそのプレゼンテーションの方法 (6月実施予定)	講義・丁子先生	担当教員の指示に従ってください。	30
6, 7, 8	防災訓練・研修		担当教職員の指示に従ってください。	30
9, 10	ゼミ活動-1 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
11, 12	ゼミ活動-2 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
13, 14	ゼミ活動-3 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
15, 16	ゼミ活動-4 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30

17, 18	ゼミ活動-5 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
19, 20	ゼミ活動-6 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
21, 22	ゼミ活動-7 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
23, 24	ゼミ活動-8 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
25, 26	ゼミ活動-9 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	30
27, 28	発表会	長谷川・担当教員	・発表の準備 ・発表	30
29, 30	キャリア支援セミナー 「進級に向けたキャリア意識の醸成」	キャリア支援担当教員	キャリア支援担当教員の指示に従ってください。	30

【科目名】		基礎ゼミⅣ		【担当教員】	長谷川 裕、丁子 雄希
【授業区分】		教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0017-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(後期)	【選択必修】	必修	hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木 13:00-13:20
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。 ・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。 ・障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。精神科領域で作業療法士として従事してきた経験から、他者とのコミュニケーション・協力・役割分担をしながら課題を解決する体験の場を構成して、講じていきます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。					
【講義概要】					
(目的)					
将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。この科目では、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性： A-2,3					
(方法)					
この科目では、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わり通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。文献検索を活用する。得られたデータを統計学的にまとめ、解析に数理データサイエンスを取り入れる。非営利組織等の実データを取り扱い、課題解決のためのデータ分析等の実践的な学習をおこなう。					
【一般教育目標(GIO)】					
・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。 ・他者と協力、役割分担をしながら課題を解決する体験を得る。					
【行動目標(SBO)】					
・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。 ・調査・研究の基礎的知識を得る。 ・数理データサイエンスの習熟のため、得られたデータの解析に基礎ゼミⅢで学んだPower BIを活用できる。 ・文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。 ・学習した文献検索方法を活用して、研究を進めるにあたり既に知られている知見を活用できる。 ・グループ活動での体験を参考に、キャリア支援セミナーに参加してキャリア意識を醸成することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
・必要に応じ資料を配付する。					
【参考書】					
・必要に応じ資料を配付する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・ゼミ担当教員による個別評価（グループ発表、最終レポート、学修に取り組む姿勢）、ポートフォリオの提出 ・レポート、成果発表、ポートフォリオの内容にて評価を行います。					

- ・レポートの返却は行いません。
- ・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				30	20		10	40	100
評価 指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				10			20	30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						10	20	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・オリエンテーション ・文献検索について	講義・長谷川	担当教員の指示に従ってください。	30
2, 3	文献検索についてのWeb配信を視聴し、課題を提出する。	配信・演習	担当教員の指示に従ってください。	30
4, 5	研究結果を統計学的にまとめる手順とそのプレゼンテーションの方法 (6月実施予定)	講義・丁子先生	担当教員の指示に従ってください。	30
6, 7, 8	防災訓練・研修		担当教職員の指示に従ってください。	30
9, 10	ゼミ活動-1 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
11, 12	ゼミ活動-2 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
13, 14	ゼミ活動-3 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
15, 16	ゼミ活動-4 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30

17, 18	ゼミ活動-5 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
19, 20	ゼミ活動-6 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
21, 22	ゼミ活動-7 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
23, 24	ゼミ活動-8 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、担当教員の指示に従ってください。	30
25, 26	ゼミ活動-9 (適宜、研究計画書に従い研究を実施し、得られたデータの解析、結果の考察を行う。)	担当教員・グループ学修	「調査・データ収集」、「データ整理」、発表準備、担当教員の指示に従ってください。	30
27, 28	発表会	長谷川・担当教員	・発表の準備 ・発表	30
29, 30	キャリア支援セミナー 「進級に向けたキャリア意識の醸成」	キャリア支援担当教員	キャリア支援担当教員の指示に従ってください。	30

【科目名】臨床倫理学		【担当教員】村井 絹子、山村 千絵
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	murai@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月・水8:30~17:30 (保健室)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。倫理学の基本的な知識・考え方を学び、医療現場の倫理的課題を取り上げ、どのようなことが倫理的視点から問題となるのか提示し考えていきます。看護に従事した経験から、実際に臨床現場で起きている身近な倫理問題を通して、一人ひとり異なる価値観を理解し、自分の考えを広め、思索することができるよう講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) オンデマンド配信でテキストにそって講義を行います。 講義を聞き、知識・考えを広め、自分の考えを自由記述でまとめる過程で学びを深めていきます。 課題は期限内に提出してください。試験・課題については、必要に応じて解説を行います。 生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、および、予復習、課題等の作成において自由に利用してください。 使用した場合にその旨を課題等に記載してください。		
【講義概要】 (目的) 医療従事者には、一般の人より多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事があります。臨床現場の倫理的問題を思索し、実践するための知識を深め、自己啓発に向けて修養することを目的としています。加えて、将来臨床現場に従事する学生として、生命倫理を中心に、現代医療をめぐる倫理的諸問題の題材を多角的に捉え、視野を広げる機会となることを目指します。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1 (方法) 主として教科書を中心に、パワーポイントを使用して講義を行います。 内容については、指定教科書に準じます。 関連資料がある場合は配布します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・将来、医療に関わる専門職としての倫理観を深め、「なぜ今、医療において倫理が問われるのか」「患者の人権や自律の尊重がなぜ必要なのか」について理解する。 ・一人ひとりが異なる価値観を有する他者の気持ちを理解し、柔軟な思考と態度を養い「医の倫理」の知識を修得する。		
【行動目標(SB0)】 ・医療における原理・原則について説明できる ・「倫理とはなにか」自分の言葉で述べることができる ・現代医療における具体的な倫理の諸問題について、自分の考えを述べることができる		
【教科書・リザーブドブック】 教科書：伏木信次、生命倫理と医療倫理第4版、金芳堂出版、2020年、¥2,700 (税別)		
【参考書】 雨宮処凛著、14歳からわかる生命倫理 河出書房新社 伊勢田哲治著、動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会 塩野寛他著、生命倫理への招待改訂6版 南山堂		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、期末試験及び課題レポート点により総合的に評価する。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することをお願いいたします。		

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	オリエンテーション 臨床倫理・医療倫理・生命倫理とは 道徳・倫理・法律について 生命倫理の基本原則について 生命倫理・臨床倫理の歴史的変遷	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 2～P. 13 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
3. 4	医療者と患者の関係 臨床現場でみられる医療者-患者関係 パートナーリズムとインフォームドコンセント 守秘義務について	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 23～P. 35 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
5. 6	医学研究、医療情報 研究と倫理 動物を対象とした医学研究 人を対象とした医学研究 個人情報の保護と倫理	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 202～P. 229 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
7. 8	生命誕生のあらまし 着床前診断と胚選別 人工妊娠中絶と出生前診断 生殖補助医療技術 小児医療における生命倫理	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 62～101 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
9. 10	臓器移植 脳死の定義 臓器移植法	オンデマンド 配信	教科書P. 131～P. 143 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
11. 12	高齢者の医療と福祉 エンドオブライフ・ケア（終末期医療） 安楽死と尊厳死	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 104～P. 115 教科書P. 116～P. 130 教科書P. 144～P. 153 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
13. 14	救急医療、災害医療 公衆衛生の倫理	オンデマンド 配信	予習：教科書P. 154～P. 165 教科書P. 230～P. 240 読んでおく 復習：課題レポート	30分 30分
15	まとめ 1～7回目を通して、倫理的問題の現状について 自分の考えをまとめる	オンデマンド 配信	予習：身近な臨床倫理問題を調べる 復習：課題レポート（まとめ）	30分

【科目名】		地域文化論		【担当教員】		桑原 猛	
【授業区分】		教養分野(人文科学)		【授業コード】		1-01-0005-2	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		15	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
特に無し							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。							
【講義概要】							
(目的)							
本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。							
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2							
(方法)							
本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。							
【一般教育目標 (GIO)】							
身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。							
【行動目標 (SB0)】							
毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。							
【教科書・リザーブドブック】							
教科書 桑原猛 地域文化論ノート『地域文化』 自費出版 2021 ¥1,500(税込)							
【参考書】							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。							



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	15		15					30
	思考・推論・創造の力	30		30					60
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	5		5					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	講義概要のガイダンス 城下町として発展してきた町。そこで培われて地域の歴史と文化は現在も生き続けている。ここでは村上城下の近世から現代までの変遷の中で城下町の機能、果たしてきた役割について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
3-4	城下町には、武家町と町人町があり、それぞれ特性を有していた。ここでは武家の住宅(屋敷)と町人地の住宅(町家)の比較から、町家の構造・特徴について考える。また、村上城下の通り名などから昔と現在の比較を行う。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
5-6	村上城下の祭 羽黒神社例大祭(村上大祭)と七夕祭・獅子舞などの歴史と、村上の伝統行事・地域文化を通して連綿と受け継がれてきた人々の思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 「地域文化論ノート」による学習	90
7-8	村上のお茶・村上漆器 村上の伝統産業としての村上茶と村上木彫堆朱の歴史と地域に及ぼしてきた物心両面から、地域文化として形成され根付いてきた背景をたどり、人々思いや心について考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 村上市内のお茶屋や堆朱販売店などを訪ねる。 「地域文化論ノート」による学習	90
9-10	村上の鮭 村上は古代から鮭とのつながりの深い町であり、村上独自の鮭文化を形成してきた。その鮭文化の原点ともいえる「種川の制」などを考証することによって、村上の人々の鮭への思いやこだわりについて考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) いよぼや会館を訪ね実際の鮭の静態を監察する。 「地域文化論ノート」による学習	90
11-12	村上に残る「九品仏」の由来などを通して、九品仏とその配置から鬼門鎮護の思想、及び「お地藏様」と民衆信仰について考える。 村上に残る地藏様と地藏様祭りを通して、庶民の身近な進行としての地藏様を考える。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
13-14	地域の記憶と地域文化 地域文化は地域の記憶として過去から現在へそして未来へ受け継がれていくことが大切である。そのためには、地域文化の持つホスピタリティ性が理解されなければならないという点から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90
15	地域文化と介護 地域文化の持つホスピタリティと介護との関係を、地域の人とのコミュニケーション形成のという面から考えていく。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	(復習) 「地域文化論ノート」による学習	90

【科目名】		日本語表現法	【担当教員】	上松 恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますので順番に授業を受けてください。				
【講義概要】 (目的) 正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会の言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法におけるデジタルカルテや報告レポートや小論文などの大学生に必要な、基本的な日本語に関するデジタルを使った表現法を理解できるようになる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2				
(方法) 基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、海外の母国語教育を題材にして、より正しい言葉を使った時代にあった表現方法を学習する。				
【一般教育目標(GIO)】 ・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々なオンライン上の日本語表現を理解する ・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる ・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する				
【行動目標(SBO)】 ・デジタルツールを使って日本語の正しい読み方、使い方を理解することができる ・様々なメディアに応じた言語をインターネットを用いて使いこなすことができる ・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる				
【教科書・リザーブドブック】 上松恵理子「小学校にオンライン教育がやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）				
【参考書】 講義内で適宜資料を指示する				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、出席、レポート提出状況、レポート提出内容、試験を総合的に判断、評価する。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	30	40					100
評価 指標	取り込む力・知識	10		10					20
	思考・推論・創造の力	10	10	10					30
	コラボレーションとリーダーシップ	10	10						20
	発表力		10	10					20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オンラインで医療を学ぶメリットデメリット	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	医療情報などのメディアの真偽を読み解く方法	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	オンラインを使った日本語表現	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	ネットを使った図書館資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	リハビリテーションの分野における今後のオンライ ンの可能性と課題	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	諸外国と日本語表現の違い	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	アンケートの収集方法についてーどのような方法でまとめ、どう考察するのかー	講義と実践	講義内で適宜指示	40
10	レポートの書き方 1 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	40
11	レポートの書き方 2 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	40
12	レポートの書き方 3 正しい日本語を使った発表の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
13	インターネットにおける日本語表現とスキル	講義と実践	講義内で適宜指示	40
14	日本語のリテラシーとは何か	講義と実践	講義内で適宜指示	40
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	40

【科目名】		心理学概論Ⅰ		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0015-3	(メールアドレス) nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識はすべての人に必要なものです。特に将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で貢献していくことを希望する学生には受講していただきたいと思います。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て配布資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータ（個人情報）は、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。 ②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。 ③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。 ④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。					
【当該科目と学位授与方針との関連性】 A-1, A-2, P-1, O-1, R-2					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 理解度確認テストを実施した場合は、回収後に解答の解説を行います。 心理テストの実施については、その目的や結果の解説は行いますが、データは回収しません（各自で適宜保管する）。					
【一般教育目標(GIO)】					
人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。 人の心のはたらきはどのようにして客観的に観察・測定されるのかを知る。 心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。 社会人として良好な人間関係が構築できるよう場面に相応しい態度やコミュニケーション能力を培う。					
【行動目標(SBO)】					
科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。 心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。 「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”（感情や態度）を自己コントロールできる。 保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2, 2,900円＋税, ISBN978-4-263-42223-6					
【参考書】					
フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学 第16版」 金剛出版, 2015/9/25, 24,200円(税込) 「ゼロからわかる心理学」増補第2版(Newtonムック別冊), 2021/1/18, (株)ニュートンプレス, 1,500円＋税 繁舩算男(編集)「心理学概論(公認心理師の基礎と実践 第2巻)」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う。					

・成績評価基準は各科目別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第1章「知覚」 知覚成立の基礎 ・感覚器官と適刺激 ・刺激の閾値 ・物理的環境と心理的環境	講義 討議：ストレスと知覚過敏	【予習】指定教科書p. 2-5を読む 【復習】知覚はどのように成り立っているのかを理解する	15 30
2	第1章「知覚」 知覚の体制化 ・図と地 ・恒常現象	講義 一部演習：知覚の体制化の体験	【予習】指定教科書p. 5-9 【復習】知覚成立の特徴を説明できる。	15 30
3	第1章「知覚」 知覚の諸相 ・錯視 ・時間・空間・運動の知覚	講義 一部実習：錯視現象の体験	【予習】指定教科書p. 10-12を読む 【復習】自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する。	15 30
4	第1章「知覚」 社会的知覚 ・欲求と価値 ・知覚的防衛 ・臨床応用	講義 討議：“ものの見方・見え方”の個人差	【予習】指定教科書p. 12-14を読む 【復習】注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する。	15 30
5	第2章「学習・記憶」 ・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・条件づけの臨床応用	講義 討議：条件づけ原理とPTSDのメカニズム	【予習】指定教科書p. 15-19 【復習】学習の定義を説明できる。 学習成立の主なメカニズムを理解する。	15 30
6	第2章「学習・記憶」 ・観察学習 ・自己効力感	講義 討議：社会的学習理論から考察する攻撃の心理	【予習】指定教科書p. 19-20を読む 【復習】社会的行動における観察学習の重要性を理解する。	15 30
7	第2章「記憶・記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	【予習】指定教科書p. 20-23を読む 【復習】記憶のモデル構造やその過程を理解する。記憶の測定法を説明できる。	15 30
8	第2章「記憶・記憶」 ・忘却のメカニズム ・記憶の歪み ・記憶障害の病理	講義 一部実習：記憶検査	【予習】指定教科書p. 24-26を読む 【復習】日常場面における記憶現象を知る。忘却の要因を説明できる。 記憶の歪みや病理を理解する。	15 30

9	第3章「動機づけ」 ・動機づけの定義 ・動機づけの分類と機能	講義 討議：やる気が失せる要因	【予習】教科書p. 27-34を読む 【復習】動機づけの分類とメカニズムを理解する。動機づけの適応的機能が理解できる。	15 30
10	第3章「動機づけ」 ・欲求 ・自己効力感/学習性無気力 ・セルフエフィカシーの測定	講義 一部実習：自己効力感の測定	【予習】教科書p34-38を読む 【復習】やる気の生起または消失の要因を理解する。セルフエフィカシーの概念を説明できる。	15 30
11	第4章「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義 討議：感情の発達と人格形成	【予習】教科書p. 39-45を読む 【復習】感情発生の機序を知る。感情の種類を知る。感情の適応的機能を理解する	15 30
12	第4章「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス ・ストレス・コーピング	講義	【予習】教科書p. 45-52を読む 【復習】欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。ストレスとその対処法を理解できる。	15 30
13	第12章「精神的健康」 ・WHO「健康」の定義 ・心の健康を測定する ・抑うつ/不安/ストレス尺度	講義 一部実習：ストレスの測定	【予習】教科書p. 150-153を読む 【復習】心が健康な状態を理解する。心の健康が損なわれているサイン（兆候）を把握することができる	15 30
14	第14章_4「健康心理学」 ・タイプA行動と特定疾患/寿命への影響 ・行動特性の修正（認知行動療法等）	講義 一部実習：タイプA行動のチェック	【予習】指定教科書p. 188, p. 202を読む 【復習】「タイプA」行動の特性を理解し、認知行動療法の実際を学ぶ。	15 30
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・傾聴と共感	講義	【予習】人の心の基本的な仕組みと働き、及び心の不適応状態を確認しておく 【復習】「優しい目、大きな耳、小さい口、広いところ」を身につける	30 15

【科目名】		心理学概論Ⅱ		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0020-3	(メールアドレス) nur-edu@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション）から、人の心の基本的な仕組みと心のケアについて講義・演習を行っていきます。心理学の基礎知識はすべての人に必要なものです。特に、将来、保健・医療・福祉・教育等の分野で貢献していくことを希望する学生には受講していただきたいと思います。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータ（個人情報）は、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。					
【講義概要】					
(目的)					
①心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学ぶ。 ②人間の心や行動の基本的な原理を学び、心のはたらきを理解する。 ③人間の行動特性、性格、感情、認知機能等を理解し、適切な対応ができる。 ④保健・医療・福祉・教育等の領域で、対象者の“こころ”を推察して適切な配慮ができるよう、臨床応用できる。					
【当該科目と学位授与方針との関連性】 A-1, A-2, P-1, O-1, R-2					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則、指定教科書に準じます。 毎回、講義用スライド資料及び関連する資料も配布します。 理解度確認テストを実施した場合は、回収後に解答の解説を行います。 心理テストの実施については、その目的や結果の解説は行いますが、データは回収しません（各自で適宜保管する）。					
【一般教育目標(GIO)】					
人の心の基本的な仕組み及びはたらきについて理解する。 人の心のはたらきはどのようにして客観的に観察・測定されるのかを知る。 心理学がどのような領域で社会貢献しているのかを理解する。 社会人として良好な人間関係が構築できるよう場面に相応しい態度やコミュニケーション能力を培う。					
【行動目標(SBO)】					
科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。 対象者の“こころ”を推察/理解するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。 心の“問題”や“障害”を理解し、適切に対処・配慮することができる。 「自己覚知」の重要性を認識し、自身の“こころ”（感情や態度）を自己コントロールできる。 保健・医療・福祉・教育等に携わる多職種連携チームにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版，医歯薬出版，2016/9/2， 2,900円＋税，ISBN978-4-263-42223-6					
【参考書】					
フレデリックセン他(著) 内田一成(監訳) 「ヒルガードの心理学 第16版」金剛出版，2015/9/25，24,200円(税込) 「ゼロからわかる心理学」増補第2版 (Newtonムック別冊)， 2021/1/18，(株)ニュートンプレス，1,500円＋税 「知能と心の科学」 (Newtonムック別冊)， 2012/11/01，(株)ニュートンプレス，2,300円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に準ずる。					

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		10		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	第5章「パーソナリティ」(1) ・パーソナリティの記述	講義	【予習】教科書p. 54-59を読む。 【復習】パーソナリティの主な分類法を学び、パーソナリティの特徴とその記述法を理解する。	15 30
2	第5章「パーソナリティ」(2) ・パーソナリティの測定法	講義	【予習】教科書p. 60-63を読む。 【復習】パーソナリティの構成要因とその測定法を理解する。	15 30
3	第5章「パーソナリティ」(3) ・演習：性格検査	演習：性格検査の実施と結果の評価	【予習】指定教科書p. 60-61を読む 【演習】パーソナリティはどのように客観的に測定されるのかを体験する。	30 60
4	第5章「パーソナリティ」(4) ・パーソナリティの異常と障害	講義 一部実習：人格障害チェックリスト	【予習】指定教科書p. 63-65を読む 【復習】パーソナリティの障害を理解し、適切に配慮できる。	15 30
5	第6章「知能」(1) ・知能の定義 ・知能の構造	講義	【予習】指定教科書p. 68-71を読む 【復習】知能検査開発の歴史的経緯を知り、知能の定義及び知能の構成要因を説明できる。	15 30
6	第6章「知能」(2) ・知能の測定 ・知的能力障害（知的発達症）	講義 一部演習：知能検査	【予習】指定教科書p. 71-79を読む 【復習】知能はどのように測定されるのかを学ぶ。知的発達症の定義（基準）を理解し、適切に配慮できる。	15 30
7	第7章「思考」(1) ・思考とは？ ・概念 ・問題解決	講義 討議：思考を言語及び概念の発達の観点から考察する。	【予習】指定教科書p. 82-86を読む 【復習】考える機能を説明でき、ヒトの思考と言語の関係を理解する。問題を解決する方略（思考）を学ぶ。	15 30
8	第7章「思考」(2) ・推論 ・創造性 ・創造的思考力の開発	講義 一部演習：思い込みの心理を体験する。	【予習】指定教科書p. 86-92を読む 【復習】推論とその誤りを知る。新たなものを創り出すプロセスを学び、創造性を開発する手法を理解する。	15 30

9	第10章「人間関係」(1) ・対人認知 ・帰属理論	講義 一部演習: 「P-0-Xモデル」で自身の人間関係を考察する。	【予習】教科書p. 126-131を読む。 【復習】他者の印象形成について学び、その誤りについて理解する。	15 30
10	第10章「人間関係」(2) ・対人魅力	講義 一部討議: 人に好かれる要因を心理学的に考察する。	【予習】教科書p. 131-134を読む。 【復習】他者に好感を、あるいは嫌悪感をいだく要因は何かを学び、良好な人間関係を構築する言動を身につける。	15 30
11	第11章「集団」(1) ・集団の心理 ・社会的影響	講義 一部討議: 周りに合わせる、傍観者になる心理を考察する。	【予習】教科書p. 136-143を読む。 【復習】集団の特徴と分類を学ぶ。また、他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる。	15 30
12	第11章「集団」(2) ・態度 ・流行と流言	講義 一部演習: 悪徳商法の心理テクニックを考察する。	【予習】教科書p. 143-148を読む。 【復習】態度の適応的機能を知り、相手の態度の変容を促す手法を学ぶ。個々人の欲求と社会現象との相互関係について理解する。	15 30
13	第14章「心理学の応用分野」(1) 「災害心理学」より ・被災者の心理状態 ・ASD/PTSDへの対応	講義 一部実習: ASD/PTSDチェックリスト	【予習】教科書p. 194-196を読む。 【復習】被災者への適切な対応、心のケアを理解する。	15 30
14	第14章「心理学の応用分野」(2) 「産業・組織心理学」より ・ライフ・キャリア・レインボー ・「働き方改革」ワーク・ライフ・バランス	講義 実習: 自身のキャリアレインボーを描く。	【予習】教科書p. 196-197を読む。 【演習】自身のキャリア・レインボーを描く。その過程を通して、自身の職業アイデンティティを考察する。	15 60
15	まとめ ・1～14コマ目までの重要事項の確認 ・質疑応答	講義 討議: 全体の質疑応答	【予習】アイデンティティの定義を確認する。 【復習】心理学の知識をいろいろな場面で応用できる。	15 30

【科目名】医療行動科学Ⅰ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0030-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) *1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを踏まえて受講してください。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。		
【講義概要】 (目的) 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2 (方法) 主として配布資料を使用して講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。 【行動目標(SB0)】 各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 山田富美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900（税別） 津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの作成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの作成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの作成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理 解することについて	講義	講義ノートの作成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの作成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの作成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの作成	90
15・試験	「医療行動科学Ⅰ」まとめ 試験	講義・試験	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】医療行動科学Ⅱ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(人文科学)	【授業コード】1-01-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) *1年生にとっては、入学後、日の浅い時期の講義です。 大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者は、医療行動科学Ⅰと医療行動科学Ⅱを併せて履修登録すること。		
【講義概要】 (目的) 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。 特に、健康の増進や疾病の改善を目的とする医療場面での患者・家族・医療従事者の行動特性を多角的に考察し、医療行動の促進を目指す。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針等との関連性；0-2 (方法) 配布資料を使用して講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 行動科学は学際性の高い学問であることを知る。 心理学、精神医学、社会学などの多領域で科学的に示される個人・集団の行動の原理を理解し、医療人としての態度を備える。 【行動目標(SB0)】 各講義のテーマについて、主体的に問題意識を持っていることを示せる。 各講義で説明したトピックを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 山田富美雄（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅰ、北大路書房、2015年、¥1,900（税別） 津田彰（編）、シリーズ医療の行動科学Ⅱ、北大路書房、2002年、¥2,400（税別）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの作成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやすい性別役割について	講義	講義ノートの作成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの作成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの作成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの作成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの作成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの作成	90
15・試験	「医療行動科学Ⅱ」まとめ 試験	講義・試験	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】		社会と健康 I		【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】		教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0000-2	(メールアドレス) yamakura@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	
【単位数】		1	【コマ数】	15	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高校・大学での学校臨床の経験や大学院附属の臨床心理センターでのカウンセリング経験から、社会生活で起こりうるメンタルヘルスの問題について、症状、予防法、治療的介入法を講義します。またストレスへの対処法や自己分析のツールについて解説します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・本科目では、具体的な疾患の病態や予防法に加え、健康を維持・増進するためのさまざまな概念を取り上げて、事例を交えながら解説します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。					
【講義概要】					
(目的)					
メンタルヘルスの問題について、症状、予防法、治療的介入法を理解することを目的とする。また、ストレスへの対処法や自己分析のツールについて理解することを目的とする。 ※当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。授業回によっては事例検討を組み入れて進行する。					
【一般教育目標(GIO)】					
現代社会におけるメンタルヘルスの問題について理解できる。 ストレスへの対処法や自己分析のツールについて理解できる。					
【行動目標(SB0)】					
メンタルヘルスの問題に対する予防方法や、介入方法について説明できる。 ストレスへの対処法や自己分析のツールについて説明できる。また、自身で活用することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
授業資料を毎回配布します。					
【参考書】					
ベティー・キッチナーほか／メンタルヘルス・ファーストエイド／創元社／2021年／3,600円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポートと定期試験を実施する。 ・レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。					

・ 山形県は詳細に召かまへん。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		45		35				20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25		20					45
	思考・推論・創造の力	20		15					35
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション ストレスマネジメント	講義	講義プリントの復習 ストレスに曝された時のセルフコン trolについて理解する	120
3-4	燃え尽き症候群（バーンアウト）	講義	講義プリントの復習 対人援助職によく起こり得る精神衛 生上の問題とそれに対する対処につ いて理解する	120
5-6	メンタルヘルスファーストエイド メンタルヘルスの問題（1）うつ病	講義	講義プリントの復習 メンタルヘルスファーストエイドに ついて、うつ病の症状と治療・介入 方法について理解する	120
7-8	メンタルヘルスの問題（2）不安障害、精神病、	講義	講義プリントの復習 不安障害、精神病の症状と治療・介 入方法について理解する	120
9-10	メンタルヘルスの問題（3）物質使用障害、ギャンブル依存	講義	講義プリントの復習 物質使用障害、ギャンブル依存の症 状と治療・介入方法について理解す る	120
11-12	メンタルヘルスの問題（4）摂食障害、自殺念慮 と自殺企図	講義	講義プリントの復習 摂食障害、自殺の現状と支援・介入 方法について理解する	120
13-14	復職支援と自己分析	講義	講義プリントの復習 休職に至る経過や復職支援の方法と 自己分析のためのツールについて理 解する	120
15	まとめ	講義	講義の振り返り	120

【科目名】		社会と健康Ⅱ		【担当教員】	柳澤 博
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0005-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yanagisawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜日～木曜日 13:00～13:20	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
医療者として、健康に対する意識を高める科目です。 社会と健康Ⅰを受講していること。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です、医療及び地域保健福祉機関で作業療法等のリハビリテーションに従事してきた経験から、社会と健康について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目は、実務経験者対応科目である。・講義は映像視聴、課題による方法で行う。・映像視聴と課題については、課題を提出することにより出席となります。・課題の提出期限は守ってください。・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 ＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1, 2、O-1, 2、R-1, 2					
【講義概要】					
(目的)					
人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。					
(方法)					
社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。 この授業はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料を必要に応じて配布					
【参考書】					
資料を必要に応じて配布					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	・オリエンテーション ・イントロダクション 社会と健康：「医療社会学とは」	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
3, 4, 5, 6	医療社会学 入門	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
7, 8, 9, 10	医療社会学 一批判的な観点から一	課題	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
11, 12, 13, 14	社会（文化・教育・テクノロジー）と健康との関 係	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分
15	まとめ	講義	講義内容に関することについて、予 習・復習を行っておくこと	30分

【科目名】法律と医療 I		【担当教員】向田 怜史
【授業区分】教養分野(社会科学)	【授業コード】1-02-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火・木 12:40-13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目である。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要である。可能な限り受講するのが望ましい。この講義は医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障がない限り返却する。1・2回目のみ対面講義とし、3回目以降はオンデマンド配信での講義とする。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2 (方法) 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心にを行い配布資料を補助的に用いる。 本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・法学について理解する。 ・憲法の基本的な考え方に基づき人権について理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・法学について説明出来る。 ・憲法の基本的な考え方に基づき人権について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会 法学一権利擁護と成年後見制度、へるす出版 2, 310円(税込) 野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、2011年、¥2,500円(税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。 ・レポートのフィードバックについては、個別にコメントをのけて返却する		

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	日本国憲法の基本原理・基本的人権	対面講義	日本国憲法とは何か、インターネットや文献などで予習。	90分
3・4	日本国憲法の基本原理・人権各論 生命・自由および幸福追求権	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
5・6	日本国憲法の基本原理・人権各論 法の下での平等	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
7・8	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(1)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
9・10	日本国憲法の基本原理・人権各論 精神的自由権(2)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
11・ 12	日本国憲法の基本原理・人権各論 経済的自由権	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
13・ 14	人権各論 身体・生命の自由(人身の自由)	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	90分
15	今までの振り返り	配信講義	今までの資料を復習しておくこと。	90分

【科目名】	法律と医療Ⅱ		【担当教員】	向田 怜史	
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0015-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・木 12：40～13：30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・法律と医療Ⅰを合わせて履修することが望ましい。 ・医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目である。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活においても必要である。可能な限り受講することが望ましい。この講義は、医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障がない限り返却する。1、2回目のみ対面講義とし、3回目以降はオンデマンド配信での講義とする。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2					
(方法)					
授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。 本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。					
【一般教育目標(GIO)】					
医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。					
【行動目標(SB0)】					
法律と医療の関連性について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特になし					
【参考書】					
安藤秀雄ほか、これだけは知っておきたい医療事務101法最新医療関連法の完全知識、医学通信社、2022年、3,200円（税別） 野崎和義、コ・メディカルのための医事法学概論、ミネルヴァ書房、2011年、2,500円（税別） 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会 法学－権利擁護と成年後見制度、へるす出版 2,310円(税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。 レポートのフィードバックについては、個別にコメントを付けて返却する。					

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	民法の理解 契約・不法行為	対面講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
3・4	民法の理解 親族・相続	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
5・6	行政法の理解	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
7・8	医療契約の基礎 医療契約・医療事故・医療過誤	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
9・10	個人情報保護法	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
11・ 12	医療と契約	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
13・ 14	脳死・臓器移植・安楽死・尊厳死	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分
15	今までの振り返り	配信講義	授業で自分がとったノートを読み返 しておくこと。	90分

【科目名】基礎生命科学		【担当教員】平田 恒彦
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0010-2	(メールアドレス) qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp (オフィスアワー) 来校時に対応
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】15コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。 高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。講義中に試験問題等を提供する。 試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。 試験後、回答例を示します。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必須な学習事項を中心に概説する。		
【一般教育目標 (GIO)】 世間一般で話題となっている「生命（いのち）＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。		
【行動目標 (SB0)】 「生命（いのち）＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。		
【教科書・リザーブドブック】 特に使用せずプリントを提供する。		
【参考書】 高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。 必要な場合にその都度紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価 指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	教科目「基礎生命科学」の内容紹介 (「生物〇〇・・・」の高校での学習の有無につ いてのアンケート調査) からだをつくる物質・単位・溶液	講義	新聞マスメディアの生命 (いのち) ＝生き物に関する記事を読むこと。	10
3-4	からだの中の(化学)反応(系) ～ ① 加水分解・酸化還元・酸と塩基 からだの中の(化学)反応(系) ～ ② 酵素	同上	同上	同上
5-6	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連 遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7-8	動物・ヒトの組織・器官 刺激と反応…そして、生活空間＝環境との関連	同上	同上	同上
9-10	循環 ～ ① 体液 循環 ～ ② 気体	同上	同上	同上
11-12	免疫 神経・ホルモン…そして、生活空間＝環境	同上	同上	同上
13-14	解剖生理学・生化学等との関連・・・ 病気に対して・・・	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】		医生物科学 I		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0015-2	(メールアドレス) qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp (オフィスアワー) 来校時に対応	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
高校等で「生物基礎」を選択履修したものとして講義を執り行う。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションという現実直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野に必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物（学）の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。これらの事柄と関連して、現代のAIがどの様に関わっている（関わってくる）か、についても学習する。					
【一般教育目標(GIO)】					
常識程度の医生物科学（生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学）を語れるようになること。					
【行動目標(SBO)】					
基礎医学及び医療に関する昨今話題をまとめ、語れるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
必要な資料を提示する。					
【参考書】					
高校の教科書・参考書、新聞 必要な場合にその都度紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。 講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。 試験後回答例を提示し、コメント					

映画後出賃割合を低減しよ。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5	0	0	0	5	100
評価 指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	10	0	0	0	0	0	0	10
	発表力	15	5	0	0	0	0	0	20
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	子供＝少年・少女時代に帰ってやってみよう。 「もの」を云いながらおしゃべりをしながらや てみよう。	講義	新聞等マスメディアの生命に関する 記事を熟読すること。	10分
3-4	「一」から「九」までの乗算数を書き並べて下 さい。	同上	同上	同上
5-6	テーマ：「動物の超能力」	同上	同上	同上
7-8	テーマ：「大超能力者から超能力とヒトの進化」	同上	同上	同上
9-10	テーマ：ヒトは「思う」・「考える」…「夢の 中」に居れる？居れない？	同上	同上	同上
11-12	テーマ：知能って？！	同上	同上	同上
13-14	テーマ：ヒト以外の動植物の知能とは？？？	同上	同上	同上
15	テーマ：AIはどこから…？！	同上	同上	同上
16	試験			

【科目名】		医生物科学Ⅱ	【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0020-2	(メールアドレス) qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp (オフィスアワー) 来校時に対応
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ヒトというものに対して科学的に考えてみたいな～の思いを持っていることを期待したい。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。 教師と学生との対話を心掛ける。 試験後回答例を提示します。				
【講義概要】 (目的) リハビリテーションという場を思いながら、現実直面する生きている人の肉体と心のあり方、それが人の生まれから生長（成長）への流れ＝赤子から老いの中で、どのような動きを見せ、人の消失へ繋がるのかを辿ってみる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 胎児のあり方、幼児～児童、少年少女、青年、壮年、晩年への辿りの中における人の「いのち（命）」のあり（＝有り～在り）様を伺う。				
【一般教育目標(GIO)】 人として生まれ・生きる・生きていることを「あらためて」思い・考えてみて、それを自分の実生活の中に反映させられるようになること。				
【行動目標(SB0)】 このコロナ時代にあって、人のいのち（命）についての思いを新たになされるようになること。				
【教科書・リザーブドブック】 特に使用せずプリントを提供する。				
【参考書】 高校の教科書・参考書、 必要な場合にはその都度紹介する。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価 指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	アトムは完成した。・・・が、生まれたのだろうか？ 「いのち」、この世への息吹きとは・・・??? 胎児への問い掛け（父親からの胎児への問い掛け）	講義	新聞・マスメディアの記事等に関心を抱くこと。	10分
3-4	赤ちゃんは顔を観・読む！ 赤ちゃんの学び・・・観る聞く・・・思って・考 えているのだろうか???	同上	同上	同上
5-6	聞いて・・・見て・・・の世界へ。童話・童謡の 世界へ・・・。	同上	同上	同上
7-8	幼児＝子どもの・・・生長（成長）しているヒト の・・・大人の・・・世界へ・・・。	同上	同上	同上
9-10	ヒトの世界へ・・・ヒトの社会生活・・・の世界 へ。	同上	同上	同上
11-12	ヒトの・・・生きものの・・・「いのち（命）」 とは・・・その「いのち（命）」が・・・。	同上	同上	同上
13-14	「いのち（命）」のあること・・・「生きる ≈ 生 きている」こと・・・その支え・・・へ。	同上	同上	同上
15 16	まとめ ≈ 「生きる ≈ 生きている」ことに何を思 う???	同上	同上	同上

【科目名】人間支援科学Ⅰ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0025-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は各専門領域の内容を踏まえて人間を支援する考え方や方法を講じる。 この授業はアクティブラーニングを用います。クリッカーを使用した双方向型講義です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義ではグループ演習を含む。		
【講義概要】 (目的) 多職種連携による支援方法を学び、自らが他者を労い支える基礎力としてコミュニケーションスキルを身に付けていくことを目的とする。 当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、O-1、A-1、A-2 (方法) 資料を元に、演習などを取り入れて講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。 社会人において必要なコミュニケーションスキルを理解し、身に付ける。		
【行動目標(SB0)】 講義を通じて人とのつながりに意識することができる。様々な集団の中で求められるコミュニケーションスキルを習得する。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 授業内また授業後に実施する小テスト、試験により評価する。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	コミュニケーションの構成要素	講義	講義ノートを作成する。	90
3. 4	言語・非言語コミュニケーション	講義	講義ノートを作成する。	90
5. 6	コミュニケーションスキル：自己を知る	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
7. 8	コミュニケーションスキル：自分の考えや気持ちを伝える	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
9. 10	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(1)	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
11. 12	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(2)	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
13. 14	治療的関係に求められるコミュニケーションスキル(3)	講義・演習	講義ノートを作成する。	90
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】	人間支援科学Ⅱ		【担当教員】	丁子 雄希
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tyouji@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール問い合わせにて随時対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
・全専攻1・2年生 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。作業療法士として従事してきた経験から、人間支援科学に関して講じていきます。 ・障がい等の理由により合理的な配慮が必要な場合は事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
レポートは、他に支障のない限り返却します。 生成AIの使用は禁止します。 授業はオンデマンド配信とアクティブラーニングから構成されます。				
【講義概要】				
(目的)				
人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2				
(方法)				
自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義する。				
【一般教育目標 (GIO)】				
生活に不都合を感じている方にとって、生活支援に役立つ「モノ」とは何かについて理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
各生活場面における、福祉用具、自助具について説明できる。 またその効能について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート・授業中の課題などにより総合的に評価する。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1、2	生活支援とは何か 生活分類について	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
3、4	生活支援の視点 FIMを用いて	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
5、6	ADL①に役立つモノについて 食事支援	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
7、8	ADL②に役立つモノについて 腰部・股関節疾患の事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
9、10	移動に役立つモノについて 車椅子	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
11、12	高次脳機能障害者に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
13、14	運転支援に役立つモノについて 連携シートの活用事例を通して	講義、演習	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30
15	発達障害児に役立つモノについて 生活支援事例を通して	講義	配布資料に関して該当箇所の復習を 行うこと。	30

【科目名】物理学 I		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】教養分野(自然科学)	【授業コード】1-03-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は実務経験者対応科目である。 ・授業方法が映像視聴や課題の場合には、課題の提出により出席になります。課題を提出しない場合には、欠席扱いとなります。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・物理学を学ぶのに、必要な数学を習得する。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 (方法) ・教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。 ・講義は、対面授業と映像視聴、課題による方法で行う。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。 ・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。 【行動目標(SB0)】 学習者が、リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年．¥2800		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 ・試験・レポートの解答の返却は行いません。リザーブドブックは必ず授業終了後返却する必要があります。		

・ 訳文 ・ レポートの勝負の返答はわかりません。レポートハックは必妥に心し備闘守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60					40		100
評価 指標	取り込む力・知識	20							20
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						40		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学・単位	講義（対面）・ 演習 星野浩通	復習：四則演算。単位を復習しておく	30
3, 4	バネの伸びと力の合成	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：教科書 p 5～12を読んでおく。 復習：P 1 2 練習問題の実施	30
5, 6	テコの原理と第 1 のテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 13～20を読んでおく 復習：P 20練習問題実施	30
7, 8	第 2 のテコと第 3 のテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 21～26を読んでおく 復習：P 26練習問題実施	30
9, 10	輪じく・滑車・歯車	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 27～35を読んでおく 復習：P 34～35練習問題実施	30
11, 12	生体内のテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 37～45を読んでおく 復習：P 45練習問題実施	30
13, 14	下肢の存在するテコ	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 47～50を読んでおく 復習：P 50練習問題実施	30
15	まとめ演習	講義（対面）・ 演習 星野浩通	予習：P 5～50を読んでおく 復習：各講の練習問題を復習する	30

[illegible]

【科目名】		物理学Ⅱ		【担当教員】	星野 浩通
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0040-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金曜日13時00分～13時25分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目は実務経験者対応科目である。履修規程に則り実施する。課題は、必ず指定した日時までに提出してください。・生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。					
【講義概要】					
(目的)					
・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。 ・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。 ・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2					
(方法)					
教科書と配布資料などによる講義（映像配信）と演習を行う。 対面講義で行う場合には、アクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。					
【行動目標(SB0)】					
学習者がリハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【PT】【OT】【PO】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年。¥2800					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。 試験・レポートの解答の返却は行いません。ワークブックは必要に応じて補講等に行いません。					

・ 訳文 ・ レポートの勝負の返答はわかりません。レポートハックは必妥に心し備講守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60					40		100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						40		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	作用・反作用、力の分解、斜面、振り子、摩擦力	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p51～59を読んでおく 復習：教科書p59の練習問題実施	30
3, 4	物体の位置と座標系 物体の速度と座標系	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p61～86を読んでおく 復習：教科書p72、86の練習問題実施	30
5, 6	物体の速度と加速度 力と加速度	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p87～105を読んでおく 復習：教科書p97、105の練習問題実 施	30
7, 8	力学的仕事とエネルギー	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p107～116を読んでおく 復習：教科書p116の練習問題実施	30
9, 10	浮力と水圧	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p117～128を読んでおく 復習：教科書p128の練習問題実施	30
11, 12	電気回路	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p129～140を読んでおく 復習：教科書p140の練習問題実施	30
13, 14	波・音・熱・光・電波	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p141～153を読んでおく 復習：今までの総復習	30
15	総まとめ演習の解説	講義・演習 星野浩通	予習：教科書p51～140を読んでおく 復習：教科書の練習問題を復習	30

[illegible]

【科目名】レクリエーション		【担当教員】上松 恵理子
【授業区分】教養分野(体育関係学)	【授業コード】1-04-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	uematsu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、随時メールで応じます
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。 ・この科目では、楽しさをとおして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。 ・実技試験は、グループで行います。授業を通して学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、この授業の基礎的な内容の確認を行います。		
【講義概要】 (目的) ・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等でチームで行う仕事に活かせる力をつける。 ・児童から高齢者まで幅広い対象者にして実技を通じて目的に応じた適応力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1 (方法) ・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。 ・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。		
【一般教育目標(GIO)】 ・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場の仕事の活動につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。		
【行動目標(SBO)】 1) レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。2) レクリエーションの機能・効能について説明できる。 3) 幅広い対象者に応じたレクリエーションの企画を立てることができる。4) レクリエーション活動実習をとおして実践ができる。5) レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明できる。6) レクリエーションの特性を踏まえた計画を立て、指導ができる。8) レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料は授業時に提示する		
【参考書】 無し		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・試験（筆記試験30%、レポート50%、実技20%）で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	0	50	0	20	0	0	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	0	0	0	0	0	0	30
	思考・推論・創造の力	0	0	50	0	0	0	0	50
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	20	0	0	20
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション レクリエーションとは何か レクリエーション科目の授業の説明	講義	予習：これまで経験したリクリエーションについての感想を考える 復習：授業の資料で指示 次の時間の予習も授業の資料で指示	30
3・4	レクリエーションの課題とポイント グループでオリジナルの作戦の立案と実践	講義、実技	授業の資料にて指示	30
5・6	自らの動きの映像を題材にポイントを学ぶ チームの改善点を議論し、作戦を修正する 修正した作戦で再度行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
7・8	フラッグフットボールのルールを変更し、変更に対応した作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する ルール変更したゲームを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
9・10	映像を元に変更したルールの対応 グループで作戦の修正を行う 作戦の修正を反映した動きを練習する 修正した作戦でレクリエーションを行う	講義、実技	授業の資料にて指示	30
11	これまで経験したレクリエーションの特徴を踏まえ、グループ別に内容を企画する	講義、実習	授業の資料にて指示	30
12・13・14	それぞれのグループが企画した内容でレクリエーション大会を実施する	実技	授業の資料にて指示	30
15	レクリエーション大会の評価と各大会の実施報告書の作成	講義、実習	授業の資料にて指示	30

[illegible]

【科目名】 コンピューターと人間の接点 I		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 教養分野(情報)	【授業コード】 1-05-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・IoT(物のインターネット)の仕組みを理解するため、その構成要素であるマイクロコンピュータと各種のセンサーについて学習する。またマイクロコンピュータよりのデータ収集方法(有線・無線・インターネットより)についても理解する。 ・IoTをリハビリテーション分野に応用する方法について理解する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・マイクロコンピュータ(MICRO:BIT)を使用し各種センサーを制御するプログラミングをブロックプログラム言語を用い演習する。 ・各種のセンサーより得られたデータを有線、無線あるいはインターネットを経由してパーソナルコンピュータに取り込み分析するプログラムについて演習する。 ・またリハビリテーション分野でのIoT利用例を示しプログラミング演習をおこなう。		
【一般教育目標(GIO)】 ・人間とコンピュータを結ぶセンサーについて説明できる。 ・各種のセンサーよりデータを取り込む方法を説明できる。 ・リハビリテーション分野でのIoT利用について利用例を説明できる。		
【行動目標(SBO)】 ・MICRO:BITの構造について説明できる。 ・MICRO:BITを使用した簡単なプログラミングが作成できる。 ・MICRO:BITを使用し各種のセンサーよりデータの取り込むプログラムを作成できる。 ・センサーよりのデータの収集法と分析方法について説明できる。 ・リハビリテーション分野でのIoTを活用したデータ収集について具体的事例を考案できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 必要に応じ資料を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション インターフェースとは IoTとその利用	講義	・ シラバスを読んでおく。 ・ MICRO:BITの概要について復習する。	10分 15分
2	ビッグデータと データエンジニアリング (☆) ・ ICT (情報通信技術) の進展、ビッグデータ・ ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス・ ビッグデータ活用事例・人の行動ログデータ、機 械の稼働ログデータ・ソーシャルメディアデータ	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
3	データ表現 (☆) ・ コンピュータで扱うデータ ・ 構造化データ、非構造化データ ・ 情報量の単位、二進数、文字コード ・ 配列、木構造、グラフ	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
4	データ収集 ・ IoTとインターフェイス ・ データ収集の事例	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
5	Micro:bitの基本構造と開発環境 プログラミング基礎 (※) -1 ・ LEDに文字を表示する ・ ハートマークを表示する ・ 音を発生させる	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
6	プログラミング基礎 (※) -2 ・ スイッチを使用したプログラム ・ データ型と変数 ・ 四則演算 ・ 時間を測定する	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
7	プログラミング基礎 (※) -3 ・ ジャンケンゲームの作成 ・ 揺れを感知する ・ 乱数の利用 ・ 条件分岐・反復処理	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
8	プログラミング基礎 (※) -4 ・ 温度と光の強さを測定する ・ 関数の使用 データ加工-1 ・ 測定値のグラフ化	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分

9	プログラミング基礎 (※) -5 ・シリアル通信の使用とデバイスモニタ データ加工-2 ・集計処理、四則演算、サンプリング処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
10	プログラミング基礎 (※) -6 ・加速度を測定する データ加工-3 ・クレンジング処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
11	プログラミング基礎 (※) -7 ・無線の利用 ・リモートサンプリング	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
12	プログラミング基礎 (※) -8 ・傾きを検知する ・関節角度を測定する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
13	プログラミング基礎 (※) -9 ・センサーを利用した運動プログラムを作成する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題12の作成	10分 15分
14	データベース ・データベースとは ・RSBについて ・測定データをクラウドに保存する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
15	ITセキュリティ ・セキュリティの3要素（機密性、可用性、完全性）・データの暗号化、復号化・データの盗聴、改ざん、なりすまし・電子署名、公開鍵認証基盤（PKI）・ユーザ認証とアクセス管理・マルウェアによるリスク	講義	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	30分 30分

【科目名】 コンピューターと人間の接点Ⅱ		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 教養分野(情報)	【授業コード】 1-05-0015-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・この科目では人工知能(AI)の概要を学習する。また強化学習を用いたモデル作成とプログラミングを行いAIの有用性を理解すると共に、リハビリテーション分野への応用についても考察する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・Google teachable machineを利用し画像認識・音声認識・姿勢認識のデータモデル作成しScratch言語でプログラムする方法について演習する。 ・これらの学習モデルをリハビリテーション分野に活用例を示し応用プログラムを作成する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・AIの概要について説明できる。 ・強化学習について説明できる。 ・AIのリハビリテーション分野での活用を説明できる。 【行動目標(SBO)】 ・AIの定義と強化学習について概要を説明できる。 ・強化学習モデルの作成方法について説明できる。 ・強化学習モデルをScratch言語を用いてプログラミングできる。 ・リハビリテーション分野での強化学習モデルの利用を具体的に考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・阿部和広 監修/横川耕二：おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション ￥1650 ・ScratchでAIを学ぼう ゲームプログラミングで強化学習を体験（日本語）単行本 ￥2090		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション AIの歴史と応用分野 (☆) ・ AIの歴史、推論、探索、 ・ 汎用AI/特化型AI (強いAI/弱いAI) ・ 人間の知的活動とAI技術 ・ AI技術の活用領域の広がり	講義	・ シラバスを見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
2	オリエンテーション AIの歴史と応用分野 (☆) ・ AIの歴史、推論、探索、 ・ 汎用AI/特化型AI (強いAI/弱いAI) ・ 人間の知的活動とAI技術 ・ AI技術の活用領域の広がり	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
3	機械学習の基礎と展望 (☆) ・ 実世界で進む機械 学習の応用と発展 (需要予測、異常検知、商品推 薦など) ・ 機械学習、教師あり学習、教師なし学 習、強化学習 ・ 学習データと検証データ ・ ホールドアウト法、交差検証法・過学習、バイア ス	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
4	深層学習の基礎と展望 (☆) ・ 実世界で進む深層 学習の応用と革新 (画像認識、自然言語処理、音 声生成など) ・ ニューラルネットワークの原理 ・ ディープニューラルネットワーク (DNN) ・ 学習 用データと学習済みモデル	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
5	認識 ・ 認識技術の活用事例 ・ パターン認識、特徴抽出、識別 ・ 数字認識、文字認識 ・ 画像認識、音声認識	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
6	予測・判断 ・ 予測技術の活用事例・決定木 (Decision Tree) ・ 混同行列、Accuracy、Precision、 Recall ・ MSE (Mean Square Error) ・ ROC曲線、 AUC (Area Under the Curve)	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
7	Scratch言語入門-1	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
8	Scratch言語入門-2	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分

9	Scratch言語入門-2	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
10	認識-2 機械学習モデルを使用したプログラムの作成 ・画像認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
11	認識-3 機械学習モデルを使用したプログラムの作成 ・音声認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
12	言語・知識-1 ・自然言語処理の活用事例 ・形態素解析、単語分割、係り受け解析	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
13	言語・知識-2 ・大規模言語モデルとChatGPT ・プロンプトエンジニアリング	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
14	身体・運動 ・AIとロボット ・家庭用ロボット、産業用ロボット、サービスロボット ・自動化機械、センサー、アクチュエータ ・シーケンス制御、フィードバック制御	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
15	AIの構築・運用 (☆) ・AIの学習と推論、評価、再学習・AIの開発環境と実行環境・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み・複数のAI技術を活用したシステム (スマートスピーカー、AIアシスタントなど)	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	50						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	50						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション テキストpp.1 2 3 5 8 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
3・4	テキストpp.9 10 11 13 14 15 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
5・6	テキストpp.17 18 20 21 22 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
7・8	テキストpp.23 24 26 27 28 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
9・10	テキストpp.29 30 33 34 35 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
11・12	テキストpp.36 37 40 41 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
13・14	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
15・16	中間試験 解説	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

17・18	テキストpp.43 44 46 47 48 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
19・20	テキストpp.49 50 52 53 54 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
21・22	テキストpp.55 56 58 59 60 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
23・24	テキストpp.61 62 64 66 67 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
25・26	テキストpp.68 69 70 72 73 74 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
27・28	テキストpp.76 77 78 81 82 83 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
29・30	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

【科目名】		医療英語アドバンス		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0000-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 授業後・教室or水曜12:40～13:30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この授業はアクティブラーニングを用います。 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。					
【講義概要】					
(目的)					
医学に関連する表現について、「聞く」「読む」を中心に講義と演習を通して医学の語彙や表現に慣れる。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
医学用のテキストを用い、講読と音声聴取により、医学用語を身につける。テキストの課題とシャドウイングに取り組み、定着を図る。 スマホまたはPCおよびイヤホンを使って授業を進めるので、毎回必ず持参すること。もし、それらを持参できない場合は、事前に教員に相談してください。					
【一般教育目標(GIO)】					
医療現場のカルテは、しばしば英語で書かれているため、それをある程度読解できることが必要である。そのために、医療現場における基礎英語運用能力を向上させる。					
【行動目標(SBO)】					
医療現場における基本的な言い回しを理解できるようになる、また、基礎的な医学用語を身につける。					
【教科書・リザーブドブック】					
仁木久恵 Nancy Sharts-Hopko 横田まり子 Let's Listen, Speak & Learn 臨床看護英語 医学書院 2020年 1700円＋税					
【参考書】					
生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
中間試験（50％）と期末定期試験（50％）により評価する。 出席点は評価に含まない。 試験については、結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学位規定のCPA制度に準ずる					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	50						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	50						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション テキストpp. 1-8 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
3・4	テキストpp. 9-16 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
5・6	テキストpp. 17-22 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
7・8	テキストpp. 23-28 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
9・10	テキストpp. 29-35 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
11・12	テキストpp. 36-42 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
13・14	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
15・16	中間試験 解説	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

17・18	テキストpp. 43-48 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
19・20	テキストpp. 49-54 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
21・22	テキストpp. 55-60 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
23・24	テキストpp. 61-67 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
25・26	テキストpp. 68-75 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
27・28	テキストpp. 76-83 読解、リスニング、シャドウイング	講義および演習	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分
29・30	Review	講義	ダイアログの復習。 単語、イディオム等の復習。	45分

【科目名】 医療英会話ベーシック		【担当教員】 Sam Suleiman
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	sammybegood666@hotmail.com
【単位数】 2	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 放課後、教室にて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。		
【講義概要】 (目的) 『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い、学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 英語教材で導入した基礎英会話・表現を使用し、会話の定着を図る。演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。		
【一般教育目標(GIO)】 英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。 【行動目標(SB0)】 日常英会話を聴き理解できるようになる。また英語で楽しく対話ができるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 OXFORD UNIVERSITY PRESS 『PASSPORT 2』 English for International Communication - SECOND EDITION		
【参考書】 辞書（英和、和英）あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 試験の結果、授業内参加度、配布されるプリントの習熟度、ノートの筆記状態の計4点を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： Unit 1 「What's the purpose of your visit?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： Unit 2 「How much is it?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： Unit 3 「When is the next train to Xi'an?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： Unit 4 「The TV is broken.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： Unit 5 「What is there to see?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： Unit 6 「I'd like to rent a snowboard, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： Unit 7 「Tell me about your country.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： Unit 8 「How was your weekend?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： Unit 9 「Does it hurt?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： Unit 10 「I'd like a cup of coffee please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： Unit 11 「Would you like to visit the Temple of Heaven?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： Unit 12 「I want to send an attachment.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： Unit 13 「I'd like a chicken sandwich, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： Unit 14 「Go straight along this road.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	試験	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【科目名】 医療英会話アドバンス		【担当教員】 Sam Suleiman
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0015-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	sammybegood666@hotmail.com
【単位数】 2	【コマ数】 30	(オフィスアワー) 放課後、教室にて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。		
【講義概要】 (目的) 『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 英語教材で導入した基礎英会話・表現を使用し、会話の定着を図る。演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。		
【一般教育目標(GIO)】 英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。 【行動目標(SB0)】 日常英会話を聴き理解できるようになる。また英語で楽しく対話ができるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 OXFORD UNIVERSITY PRESS 『PASSPORT 2』 English for International Communication - SECOND EDITION		
【参考書】 辞書（英和、和英）あるいは電子辞書を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 試験の結果、授業内参加度、配布されるプリントの習熟度、ノートの筆記状態の計4点を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 教科書： Unit 1 「What's the purpose of your visit?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： Unit 2 「How much is it?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： Unit 3 「When is the next train to Xi'an?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： Unit 4 「The TV is broken.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： Unit 5 「What is there to see?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： Unit 6 「I'd like to rent a snowboard, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： Unit 7 「Tell me about your country.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15-16	教科書： Unit 8 「How was your weekend?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

17-18	教科書： Unit 9 「Does it hurt?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
19-20	教科書： Unit 10 「I'd like a cup of coffee please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
21-22	教科書： Unit 11 「Would you like to visit the Temple of Heaven?」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
23-24	教科書： Unit 12 「I want to send an attachment.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
25-26	教科書： Unit 13 「I'd like a chicken sandwich, please.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
27-28	教科書： Unit 14 「Go straight along this road.」	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
29-30	試験	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

【科目名】		中国語		【担当教員】	橋本 親往
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0020-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	hashimoto@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 08:30～17:30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
初修中国語会話なので、中国や中国医学、中国語に関心のある人は誰でも履修することができる。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
すべて配信授業なので、毎回ビデオを積極的に視聴し、発音・発声すること、宿題・復習・予習することが求められる。 筆記具などの学習ツールを用意すること。					
【講義概要】					
(目的)					
日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人」で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現のしかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができたらよいが、本講義はその入門授業である。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2					
(方法)					
中国語の発音、ローマ字表記、初級会話や関連する単語・常用表現などを学ぶ。					
【一般教育目標 (GIO)】					
将来、本格的中国語の学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話を身につける。					
【行動目標 (SB0)】					
あいさつ、自己紹介や簡単な会話ができるようにする。					
【教科書・リザーブドブック】					
どんと来い中国語『無料中国語会話テキスト』の中国語本文を基に、日本語解説などを修正編集、PDFをMP4に変換。					
【参考書】					
小学館『中日辞典』『日中辞典』（電子辞書）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
毎回の視聴状況・課題または小テストにより総合的に評価。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60					40	100
評価 指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力		30						30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							15	15
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	「中国語」とは 発音……ローマ字「拼音」 単語＝文字のアクセント（声調）……四声、轻声 北京語音表	発音練習		30 60
3・4	北京語音表	発音練習		90
5・6	第1課 こんにちは 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：あいさつ言葉 語彙：指示代名詞 文法：「～嗎」の疑問文	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
7・8	第2課 お元気ですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：時間帯別のあいさつ言葉 文法：「也・都」の使い方 質問：「你早」と「早上好」のニュアンスの違い	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
9・10	第3課 お忙しいですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：否定詞を使った質問文「不～嗎」 語彙：時制をあらわす言葉 文法：自然な否定文「あまり～ない」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
11・12	第4課 家の中の様々な生活用品【単語】 リビングに関する単語／ベッドルームに関する単語／バスルームに関する単語／キッチンに関する単語／書斎に関する単語	発音練習	学習チェックテスト	90
13・14	第5課 お名前は 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①「私の名前は～です」②初対面で使う「お会いできてうれしいです」 文法：「就」の使い方	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
15・16	第6課 今日は何月何日 会話／単語／語彙：日付や曜日の言い方／注目フレーズ（常用語）：①「～でもいいですか」「～しましょうよ」②「だね」「だよ」色々な語気助詞／文法：「是」の省略 主語・補語を直結	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90

17・18	第7課 ご紹介します 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①「どなたですか」②「ちょっと～する」③「ご紹介します」④「道中気をつけて」／文法：①所有や所属を示す「的」②最も基本的文型「主語＋述語」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
19・20	第8課 何人家族ですか 会話／単語／語彙：家族関係を表す呼び名 文法：①所有や所在を表す「有」の文型 ②介詞「在」を使った文型	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
21・22	第9課 基本単語① 人称代名詞／指示代名詞／疑問詞／基本的な動詞	発音練習	学習チェックテスト	90
23・24	第10課 いま何時 会話／単語 語彙：時間の表し方 文法：時間詞を置く語順	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
25・26	第11課 お家はどこですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①数量の尋ね方②「ならばよかった」 文法：V1してV2する…二つの動作が連続する連動句	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
27・28	第12課 試着室はどこ 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：①ものを尋ねる「すみません」②文を強調「就」 文法：①方位詞②正反疑問文「V＋不＋V」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
29・30	第13課 基本単語② 助詞（介詞：時間／場所・範囲／方向／対象）／ 能願動詞（できる・したい・すべき） 基本的な形容詞	発音練習	学習チェックテスト	90



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	40					70
	思考・推論・創造の力		5	20					25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	講義・演習	例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑤ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
13-14	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑥ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分

[illegible]

【科目名】医療英文抄読法Ⅱ		【担当教員】原 亜由美	
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0027-2
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。以下の場合においては生成AIの利用を許可する。これ以外の場面での利用は禁止する。〈利用可の場面〉課題のための下訳作成や草稿作成 ※生成AIによる原稿を本人の推敲がされないままの課題提出は禁止する。			
【講義概要】			
(目的)			
将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけることができる。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2			
(方法)			
オンデマンド型講義。具体的には音声解説付きの授業ファイルに基づき、フォームズによる課題提出と添削コメントのteams上でのやりとりをする。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。オンラインの検索システムを利用した英語論文検索の演習も行う。			
【一般教育目標(GIO)】			
英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。			
【行動目標(SB0)】			
リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。学術論文の検索方法を知る。			
【教科書・リザーブドブック】			
指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400（税別）			
【参考書】			
様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	40					70
	思考・推論・創造の力		5	20					25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	演習	授業内容の復習 例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	医療学術論文検索についての演習①	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題①提出	90分
13-14	医療学術論文検索についての演習②	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題②提出	90分

[illegible]

【科目名】 解剖学・各論Ⅱ		【担当教員】 西野 幾子
【授業区分】 専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業終了後、非常勤控室で対応。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻2年次に在学している学生が対象。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。 小テストの結果は全て返却します。 定期試験結果については必要に応じて解説を行います。		
【講義概要】 (目的) 人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒(胴体と上・下肢)－(頭部と内臓)に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, 3		
(方法) 教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。 本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。		
【一般教育目標(GIO)】 医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。		
【行動目標(SB0)】 人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税		
【参考書】 藤田恒夫、入門人体解剖学 改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90	10						100
評価 指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
9・10	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
11・12	生殖器系： 女性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習 配布レジュメの理解	40分

【科目名】		解剖学実習		【担当教員】		松村 博雄	
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)		【授業コード】		2-11-0025-3	
【開講時期】		通年(前期)		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		45	
【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com							
(オフィスアワー) 火曜日12：50～13：20							
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のとき配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約，レポートの草稿作製，レジュメの草稿作成，プレゼン資料の原案作成については，生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載して下さい。これ以外の場面での利用は禁止します。							
【講義概要】							
(目的)							
解剖学実習は、脳科学なかんずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3							
(方法)							
医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。							
【一般教育目標(GIO)】							
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として，その構造や働きを理解する。							
【行動目標(SBO)】							
中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。							
【教科書・リザーブドブック】							
坂井建雄/監, 町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社, 2023年. ¥5,800＋税							
【参考書】							
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985年. ¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984年. ¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982年. ¥9,030 坂井建雄/監訳, 市村浩一郎・澤井直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』 医学書院 2022年 ¥9500＋税							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
成績評価基準は、本学学則規定のG P A制度に従う。出席点は評価に含めません。							



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	80		0					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	中枢神経系の概観――ニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)――視神経、嗅神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)――顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)――視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	中間試験 解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)――視床下部	講義	前回講義の復習	30分
29・30	大脳――皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

[illegible]

【科目名】		解剖学実習		【担当教員】		松村 博雄	
【授業区分】		専門基礎分野(基礎医学)		【授業コード】		2-11-0025-3	
【開講時期】		通年(後期)		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		45	
【大学取次】 nur-edu@nur05.onmicrosoft.com							
(オフィスアワー) 火曜日12：50～13：20							
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。「死体解剖資格」を持ち、医学部での解剖学実習を指導した経験から、局所解剖学的に人体の構造を講義します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを復習すること。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。試験・レポートは他に支障の無い限り返却します。講義のとき配布したプリントは次回以降の講義にも持参すること。講義資料の要約、レポートの草稿作製、レジュメの草稿作成、プレゼン資料の原案作成については、生成系AIの利用を許可します。使用した場合はその旨を記載して下さい。これ以外の場面での利用は禁止します。							
【講義概要】							
(目的)							
解剖学実習は、脳科学なかんづく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識を、心身機能と身体構造の結合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解・説明できるようにすることも重要な目標の一つである。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,A-3							
(方法)							
医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診・体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。							
【一般教育目標(GIO)】							
医学、医療について学ぶための基礎として、ヒトの中枢神経系を全体として、その構造や働きを理解する。							
【行動目標(SBO)】							
中枢神経系を全体として説明ができるようにします。運動や感覚の伝導路を説明できるようにします。							
【教科書・リザーブドブック】							
坂井建雄/監, 町田志樹/著 『解剖学 第2版』 羊土社, 2023年. ¥5,800＋税							
【参考書】							
森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985年. ¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984年. ¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982年. ¥9,030 坂井建雄/監訳, 市村浩一郎・澤井直/訳 『プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版』 医学書院 2022年 ¥9500＋税							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
成績評価基準は、本学学則規定のG P A制度に従う。出席点は評価に含めません。							



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	80		0					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	中枢神経系の概観――ニューロンとシナプス。脊髄(1)。	講義	解剖学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習。	40分
3・4	脊髄(2)。神経系の発生。	講義	前回講義の復習	30分
5・6	脳幹(1)。	講義	前回講義の復習	30分
7・8	脳幹(2)。頭部の骨格。	講義	前回講義の復習	30分
9・10	脳神経(1)――視神経、嗅神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、三叉神経	講義	前回講義の復習	30分
11・12	脳神経(2)――顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経。	講義	前回講義の復習	30分
13・14	小脳	講義	前回講義の復習	30分
15・16	間脳(1)――視床	講義	前回講義の復習	30分

17・18	中間試験 解剖学実習・見学のオリエンテーション	講義		
19・20	解剖学実習・見学の第1日目，午前	実習		
21・22	解剖学実習・見学の第1日目，午後	実習		
23・24	解剖学実習・見学の第2日目，午前	実習		
25・26	解剖学実習・見学の第2日目，午前午後	実習		
27・28	間脳(2)――視床下部	講義	前回講義の復習	30分
29・30	大脳――皮質，髄質	講義	前回講義の復習	30分
31・32	大脳基底核	講義	前回講義の復習	30分
33・34	大脳辺縁系	講義	前回講義の復習	30分
35・36	運動の伝導路と感覚の伝導路	講義	前回講義の復習	30分
37・38	脳の髄膜，脳室系，脳を栄養する動脈，硬膜静脈洞。	講義	前回講義の復習	30分

[illegible]

【科目名】		生理学実習	【担当教員】	木村 和樹、長谷川 裕、村井 絹子、星野 浩通、金子 巧、西倉 尊
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	45コマ	(オフィスアワー) 月曜日12：40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
1 年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。各実習は専門領域の教員が、機器の使用方法や目的を説明して実習を行う。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 そのため本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
実習時には白衣・KCを着用すること。実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。 各班ごとに、日時と開講場所が異なるので注意すること。 この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。この授業はアクティブラーニングを用います。生成AIは部分的に使用しても良い。レポートで使用する場合はその旨を記載すること。				
【講義概要】				
(目的)				
生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を学修することを目的とする。 ※当該科目と学位授与方針等との関連性:A-2				
(方法)				
前半では講義を行い、実習の内容を理解する。 後半では実習を行い、結果をまとめ、自身の考察を記載する。 ※新型コロナウイルスなどの感染状況によってはオンラインに切り替える可能性もあります。				
【一般教育目標(GIO)】				
生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を習得する。				
【行動目標(SB0)】				
生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
生理学実習プリント（オリエンテーション時もしくは各実習で配布）				
【参考書】				
貴邑 富久子, 根来 英雄・「シンプル生理学（改訂第 8 版）」南江堂, 2021 年. ¥3,300（税込） 大地陸男著・『生理学テキスト（第 9 版）』文光堂, 2022 年. ¥6,050（税込）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。 科目を修得するためには2/3以上の出席およびレポートの提出が条件である。 実習前動画レポートは20点満点、実習レポートは70点満点とした計100点のうち60点以上を合格とする。				

英音朗読レポートを30点満、英訳レポートを70点満とした計100点のうち80点以上を合格とする。
試験・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこなう。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			25	75					100
評価 指標	取り込む力・知識			25					25
	思考・推論・創造の力		25	25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			25					25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1コマ分	オリエンテーション	講義	各講義で準備することを確認する。 レポート作成と提出にあたり、注意 する事項を理解する。	60
2コマ分	心電図について	講義（長谷川）	講義内容を理解して復習すること。	60
2コマ分	バイタルについて	講義（村井）	講義内容を理解して復習すること。	60
2コマ分	呼吸機能について	講義（木村）	講義内容を理解して復習すること。	60
2コマ分	皮膚感覚について	講義（星野）	講義内容を理解して復習すること。	60
2コマ分	表面筋電図について	講義（金子）	講義内容を理解して復習すること。	60
1コマ分	小テスト	講義	5項目の講義内容を復習すること。	60
3コマ分	血圧測定の演習	実習（村井）	血圧測定の手順、留意点を理解する こと。	60

[illegible]

【科目名】		病理学概論	【担当教員】	平田 誠市
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0060-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	s.hirata@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 随時メールで応じます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。病院で病理検査業務を行ってきた経験を基に、疾病の原因、経過と結果について講義します。解剖学の知識を必要とするため、復習しておいてください。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義のレジュメは必要に応じ、各自でプリントアウトして活用すること。 ・記憶の定着のためにレポートは手書きで行うこと。 ・生成AIの私活用:可(文章の最後に利用した生成AI名を記入すること)				
【講義概要】 (目的) なぜ病気を発症し、症状が現れるのか。リハビリテーションにおける病態理解のために必要な病理学の知識を身につけることを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, A-2, A-3 (方法) 講義はオンデマンド型の動画を単元別に複数配信します。レポートは手書きしたものを写真撮影し、PDF形式で1枚にまとめ、Teams経由で提出してください。定期試験は全てのレポートを提出した人に行います。				
【一般教育目標(GIO)】 ・理学療法・作業療法を实践するために、病気がどのような原因で起こり、その結果、身体にどのような異常が起きるか、病理学の基礎的知識を理解することを目標とする。 【行動目標(SBO)】 ・病因論、退行性・進行性病変、代謝障害、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、老化、先天異常、奇形について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】 教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 第5版 医学書院 5,060円(税込み)				
【参考書】 ・なるほどなっとく!病理学 第2版 小林正伸 南山堂 2,420円(税込み) ・シンプル病理学 改訂第8版 笹野公伸/岡田保典/安井弥 改定第8版 南江堂 定価3,300円(税込み)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) マークシート方式の筆記試験(50%)、レポート(50%)で評価します。(成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。)				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	50		50					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	- 概要 - 病因論 - 老化について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書5-16, 95-102pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
3・4	- 退行性病変 - 進行性病変について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書17-27pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
5・6	代謝障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書29-37pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
7・8	循環障害について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書40-51pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
9・10	免疫について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書53-64pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
11・12	- 炎症 - 感染症について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書66-74pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
13・14	腫瘍について解説する。	オンデマンド型講義	予習;教科書76-93pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 240分
15	先天異常、奇形について解説する	オンデマンド型講義	予習;教科書103-114pを読んでおく。 復習;レポート課題に取り組み、講義内容の重要ポイントを覚える。	60分 120分

【科目名】	公衆衛生学 I		【担当教員】	高橋 英明
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hidencchi@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。				
【講義概要】				
(目的)				
これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症により全世界がその健康を脅かされることとなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生的視点を養うことを目的とします。				
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3				
(方法)				
医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作ることは重要です。そのために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。				
スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。何か疑問あれば課題の時間とその後5分の間に質問して下さい。最後に課題の解説をします。				
【一般教育目標 (GIO)】				
医療従事者として必要な公衆衛生学についての知識を習得しましょう。				
【行動目標 (SB0)】				
衛生学・公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は使いません。講義のスライドハンドアウトで復習するようにしてください。				
【参考書】				
小山洋、辻一郎監修「シンプル衛生公衆衛生学2024」南江堂、¥2,860				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（出席並びに課題の提出）により評価します。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 衛生と健康について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
2	② 保健統計・人口について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
3	③ 疫学について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
4	④ EBMについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
5	⑤ 疾病リスクについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
6	⑥ 健康増進について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
7	⑦ 健康格差について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
8	⑧ 感染症について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

9	⑨ 循環器系疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームについて	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	⑩ 癌予防について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	⑪ 食品保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	⑫ 環境管理について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	⑬ 環境要因について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	⑭ 空気、水、廃棄物について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	⑮ 死をめぐる問題について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
16	試験		講義1-12までの内容から出題します。	30分

【科目名】 公衆衛生学Ⅱ		【担当教員】 高橋 英明
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	hidencch@gmail.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 医療や福祉を目指す学生にとって公衆衛生学は必須の基礎知識です。日常にも多くの問題が関わっており、興味をもって知識を増やして行くと良いでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。		
【講義概要】 (目的) これまで医学や医療技術の進歩は目覚ましく、かつてない超高齢社会が形成されてきました。一方で、新型コロナウイルス感染症により全世界がその健康を脅かされることともなりました。現代における保健医療を理解して公衆衛生学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3 (方法) 医学や医療技術の進歩はあっても、一人一人の健康が守られ、社会としての健康を作ることは重要です。そのために必要な公衆衛生学を中心に講義を構成しています。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。何か疑問あれば課題の時間とその後5分の間に質問して下さい。最後に課題の解説をします。		
【一般教育目標(GIO)】 医療従事者として必要な公衆衛生学についての知識を習得しましょう。		
【行動目標(SB0)】 衛生学・公衆衛生学について説明できるようにします。健康と疾病について説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使いません。講義のスライドハンドアウトで復習するようにしましょう。		
【参考書】 小山洋、辻一郎監修「シンプル衛生公衆衛生学2024」南江堂、¥2,860		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（出席並びに課題の提出）により評価します。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 高齢者保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
2	② 母子保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
3	③ 学校保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
4	④ 歯科保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
5	⑤ 産業保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
6	⑥ 職業病について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
7	⑦ 精神保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
8	⑧ 障害者保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

9	⑨ 災害保険について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	⑩ 国際保健について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	⑪ 保健所、地域医療について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	⑫ チーム医療と医師法について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	⑬ 国民医療費と医療保障について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	⑭ 医療と福祉について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	⑮ 脳卒中の公衆衛生学的意義について	「講義」と講義後の「課題作成」	配布資料の復習を。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
16	試験		講義1-12までの内容から出題します。	30分

【科目名】 発達心理学 I		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業内にて知らせます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、発達心理学について講義します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性: A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) 講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)について考察し、適切な対処法を習得する。 本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期」などを講義する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【一般教育目標(GIO)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの 1. 身体的発達の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 胎児期及び乳幼児期～児童期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 各ステージの心理的危機に対して、適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 林 創(編著)「公認心理士スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学」 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】 本郷一夫編(2018) 発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房. 向田久美子(2017) 発達心理学概論. NHK出版. 秦野悦子・近藤清美編(2020) 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験60%(配布資料持ち込み可)・小テスト40%(出欠確認を兼ねる)で評価する。 試験・レポートの解答の返却はございません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	発達心理学の基礎 ・ 発達心理学とは ・ 発達の生物学的基礎	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
3. 4	出生前後～児童期までの発達 ・ 感覚と運動の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
5. 6	出生前後～児童期までの発達 ・ アタッチメントの発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
7. 8	出生前後～児童期までの発達 ・ 認知の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
9. 10	出生前後～児童期までの発達 ・ 社会性の発達 ・ 感情と自己の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
11. 12	出生前後～児童期までの発達 ・ 遊びと対人関係の発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
13. 14	出生前後～児童期までの発達 ・ 言葉と思考をめぐる発達	授業	教科書を読む 配布資料の復習 小テスト提出	240
15. 試験	まとめ・定期試験	授業	これまでの資料に目を通しておく	240

【科目名】 発達心理学Ⅱ		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 授業内にて知らせます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、発達心理学について講義します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎授業後、小テストを実施。また、定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-2, P-1, O-1, R-2 (方法) 講義が中心である。 講義資料は、当日に配布する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【一般教育目標(GIO)】 「生涯発達」という考え方を理解する。 青年期～成人期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。 1. 身体的発達(変化)の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 心理的危機に対して、適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書等は特になし。 毎回資料を配布する。		
【参考書】 本郷一夫編(2018) 発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻. 遠見書房. 向田久美子(2017) 発達心理学概論. NHK出版. 秦野悦子・近藤清美編(2020) 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学. 医歯薬出版.		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験60%(配布資料持ち込み可)、小テスト40%(出欠確認を兼ねる)で評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	青年期の発達(前期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
3. 4	青年期の発達(中期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
5. 6	青年期の発達(後期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
7. 8	成人期の発達(前期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
9. 10	成人期の発達(中期)	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
11. 12	成人期(後期)・老年期の発達	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
13. 14	定型発達と非定型発達 ・神経発達症群／神経発達障害群	講義	配布資料を読む、小テスト提出	240
15. 試験	まとめ・定期試験	講義	これまでの配布資料に目を通して おく	240

【科目名】 内科学 I		【担当教員】 杉谷 想一
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0025-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 火曜日 15:00~17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけ、病態をイメージし、深く理解できるように留意する。試験問題は求めがあった場合には開示する。筆記試験が合格点に達しない場合は、追試験あるいは課題に対するレポート提出により再評価し、十分な理解と知識を習得できたと認めた場合は合格とする。レポート作成に際して、具体的な使用箇所の申告と発展的内容の追記と考察の加筆を行うことを条件に、一部においてのみ生成AIの使用も認める。		
【講義概要】 (目的) 内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解し、内科学の基本概念と基礎知識、そして医療における役割を理解する。「感染症」「炎症」「アレルギー」など病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学、治療や予後を十分に理解する。これらにより、心身機能と身体構造、加齢変化、及び疾病や障害への理解、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病についても深く理解する。内科学 I では「消化器」「代謝」などの疾患を各論的に学習する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基本を理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 角田亘・岡崎史子他「Crosslinkbasic リハビリテーションテキスト・内科学」メジカルビュー社		
【参考書】 浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版 南山堂		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する、知識と応用力を確認する記述と選択による試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。		

成績計算は、試験を100点満点とし、80点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	内科学概論・解剖と生理・検査	講義	予習・復習	30
2	診断と症候学・臓器不全	講義	予習・復習	30
3	感染症Ⅰ（診断と治療）	講義	予習・復習	30
4	免疫と炎症のメカニズム	講義	予習・復習	30
5	腫瘍学総論（診断と治療）	講義	予習・復習	30
6	内分泌と代謝性疾患（Ⅰ）	講義	予習・復習	30
7	採血検査、画像検査、薬剤	講義	予習・復習	30
8	消化器概論	講義	予習・復習	30

9	消化管疾患とがん	講義	予習・復習	30
10	肝炎・代謝性肝疾患	講義	予習・復習	30
11	肝硬変・肝不全・肝がん	講義	予習・復習	30
12	胆道・膵疾患	講義	予習・復習	30
13	糖尿病・高脂血症・高尿酸血症	講義	予習・復習	30
14	内分泌・代謝疾患（2）各論	講義	予習・復習	30
15	前期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】 内科学Ⅱ		【担当教員】 杉谷 想一
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	s-sugitani@mgh.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 火曜日 15:00～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 医療概論、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。 試験問題は求めがあった場合には開示する。筆記試験が合格点に達しない場合は、追試験あるいは課題に対するレポート提出により再評価し、十分な理解と知識を習得できたと認めた場合は合格とする。レポート作成に際して、具体的な使用箇所の申告と発展的内容の追記と考察の加筆を行うことを条件に、一部においてのみ生成AIの使用も認める。		
【講義概要】 (目的) 基本的な内科学を講義する。ヒトの正常な解剖、生理機能を理解した上で内科学の概念と医療における役割を理解する。感染症や炎症、アレルギーなど病因を総論的に学び、疾病の概念、診断学、治療や予後など、内科学Ⅰでの総論的な理解に引き続き、内科学Ⅱでは「循環器」「呼吸器」「血液」「腎・泌尿器」「膠原病」などの疾患を各論的に学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書と配布資料を用いて、パワーポイントプレゼンテーションにより講義する。 内科学総論を学びながら解剖、生理学、生化学の基本を身につけた後、疾患の病態、診断法、治療法について解説する。 リハビリテーション医療は、高齢者を対象とする機会が多く、複数の疾患の合併があり、複雑な病態を呈する場合が多く、病因や病態を十分に理解できるように疾患のメカニズムを総論的に学習する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うために、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。 ・ヒトの正常な解剖、生理機能を学ぶことで、内科学の基礎と実際の役割について深く理解する。 ・病因を学ぶことで、疾病の概念、診断学の基礎、予後を十分に理解する。		
【行動目標(SBO)】 ・代表的な病態の概略を理解し、症状や病態の原因と解決方法について説明できる。 ・病態ごとに必要な検査や処置、緊急度や禁忌を考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 角田亘・岡崎史子他「Crosslinkbasic リハビリテーションテキスト・内科学」メジカルビュー社		
【参考書】 浅野嘉延編「なるほどなっとく内科学」改訂2版 南山堂		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 本講義に関する、知識と応用力を確認する記述と選択による試験を実施する。 成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。		

成績計算は、試験を100点満点とし、80点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	循環器概論（検査・症候学）	講義	予習・復習	30
2	循環器各論（高血圧・狭心症・心筋梗塞）	講義	予習・復習	30
3	循環器各論（心電図と不整脈）	講義	予習・復習	30
4	循環器各論（心筋疾患、心不全、心臓リハビリ）	講義	予習・復習	30
5	呼吸器概論	講義	予習・復習	30
6	呼吸器疾患の診断、検査、治療	講義	予習・復習	30
7	呼吸器各論（呼吸器感染症）	講義	予習・復習	30
8	呼吸器各論（慢性閉塞性肺疾患、アレルギー性肺疾患）	講義	予習・復習	30

9	血液概論	講義	予習・復習	30
10	血液疾患各論	講義	予習・復習	30
11	腎・泌尿器概論	講義	予習・復習	30
12	腎・泌尿器疾患各論	講義	予習・復習	30
13	免疫と膠原病	講義	予習・復習	30
14	免疫不全と感染症 II	講義	予習・復習	30
15	後期のまとめ	講義	予習・復習	30
16	テスト			

【科目名】	整形外科学 I		【担当教員】	伊藤 渉
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0035-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	w.ito@nur05.onmicrosoft.com ※Teamsチャットより連絡してください
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火・水 14:00～16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 2学年前期の必修科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 この科目は実務経験を有する教員が担当します。				
【講義概要】 (目的) 理学療法士、作業療法士として必要な整形外科に関する専門的知識を修得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1, P-2				
(方法) 教科書を用いて授業をすすめます。 授業の始めに解剖・運動学に関する小テストをおこないます。				
【一般教育目標 (GIO)】 整形外科に関する疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。 整形外科に関する疾患・障害を引き起こす主な疾患・障害の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。				
【行動目標 (SB0)】 整形外科に関する治療について説明できる 疫学，予後について説明できる 病因，症候について説明できる 検査（画像・生理検査を含む），診断，治療について説明できる 整形外科の一般的疾患について説明できる				
【教科書・リザーブドブック】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版，医学書院，染矢 富士子				
【参考書】				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従います。 出席点は評価に含みません。ただし，単位取得には授業の3分の2以上の出席が必要です。 単位取得には期末試験の得点率が6割以上必要となります。 期末試験の得点率が6割以下の場合，総合評価をおこなわず再試験となります。				

期不試験の得点率40割以上の場合は、総合評価をAとしたりBと試験となりま。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	30	20						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	整形外科基礎知識 ・骨の発生と成長 ・軟骨の基本構造 ・関節の基本構造 ・骨格筋の基本構造と機能 ・神経系の基本構造	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
3・4	整形外科基礎知識 ・骨・関節，筋・神経の病態生理 ・理学・作業療法との関連事項	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
5・6	整形外科的治療法 ・保存療法 ・手術療法 ・理学・作業療法との関連事項	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
7・8	骨折 ・骨折とは ・体幹の骨折 ・四肢の骨折 ・理学・作業療法との関連事項	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
9・10	関節における外傷性疾患 ・捻挫と脱臼 ・関節の外傷性疾患 ・理学・作業療法との関連事項 腱・靭帯における外傷性疾患 ・筋・腱・靭帯損傷 ・腱・靭帯の外傷性疾患	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
11・12	切断および離断 ・わが国の切断の現況 ・切断の実際 ・義肢 ・理学・作業療法との関連事項	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
13・14	末梢神経における外傷性疾患 ・神経損傷とは ・末梢神経の外傷性疾患各論 ・絞扼性神経障害 ・その他の末梢神経障害 ・理学・作業療法との関連事項	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30
15	まとめ	講義	予習：教科書の該当ページを熟読する 復習：授業内容とその内容に関する国家試験問題について	予習：30 復習：30

【科目名】整形外科学Ⅱ		【担当教員】栢森 良二
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0040-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	r.kayamori@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15 コマ	(オフィスアワー) 月曜日9:30-16:30 メールで対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーション医学に関連する整形外科学分野を学習する。この分野の疾病の病態，症候，治療学について理解することを目指す。解剖学，生理学，運動学の分野に関しては，教科書，コンピュータを積極的に活用して学習準備をすると良い。 *この科目は実務経験を有する教員が担当します。日本整形外科学会，日本リハビリテーション医学会の専門医として日常外来診療で運動器疾患の診断およびリハビリテーション医学に従事してきた経験から運動器疾患に関して講じます。難病診断指定医，身体障害者福祉法第15条指定医，補装具適合判定医師研修会修了医です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義の進行具合によって，講義内容が前後することがあります。 ・解剖学，組織学，病理学，生理学，運動学はある程度理解しているものとして講義を進めます。 ・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します。解答は講義終了後に学務課のTeams返却してください。 ・講義はすべて対面講義で実施します。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーション医学の中の整形外科学領域における疾患の病態，症候，診断，治療などについて理解をして，これを説明できる。 *当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2, A-3 (方法) ・骨，関節，軟部組織等身体各部位における代表的な運動器関連基礎疾患について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います。なお講義資料は指定教科書に基づいて作成されています。予習に用いる小テストも事前にTeamsで配布いたします。		
【一般教育目標(GIO)】 ・基本的なリハビリテーション医学に関連する整形外科学領域の疾患を説明ができる。 【行動目標(SB0)】 ・整形外科学で取り扱う運動器の疾病や外傷などの病態や治療アプローチを説明できる。 ・リハビリテーション医学の中の整形外科学領域の疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を関連付けて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論，第4版」（2024年，医歯薬出版）。講義資料は教科書から採用している。		
【参考書】 ・講義内容に関する項目を上記の教科書の目次，索引から検索して予習復習を行ってください。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。 ・小テスト，まとめの筆記試験などで総合的に評価します。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	・ 脊髄損傷一疫学と症候, 脊髄の機能解剖 ・ ASIA分類	講義, 小テスト	・ 外傷性脊髄損傷の発生頻度と好発年齢を理解する。脊髄の4つの上行路と下行路はどんなものがあるか-教科書p167-182。・ ASIA分類の内容を理解するp176-178。	90
3, 4	・ Zancolli分類 (1) , (2)	講義, 小テスト	・ 頸髄損傷の上肢の機能予後分類基準を学修するp179-180。・ C5, C6レベル損傷に必要な装具は何かを理解するp180。	90
5, 6	・ 脊髄損傷の臨床症候群 ・ 自律神経障害	講義, 小テスト	中心性頸髄症, Brown-Séquard症候群, 前・後脊髄症候群, 円錐症候群, 馬尾症候群等の病態と症候を理解するp171-173. 自律神経過反射, 排尿排便障害を学修するp173-176, 198-200。	90
7, 8	・ 脊椎症による椎間板ヘルニア ・ 慢性腰痛症	講義, 小テスト	・ 頸椎と腰椎の椎間板ヘルニアの病態の相違を理解する。・ 体幹装具と腰痛体操について学修する。講義資料を参照。	90
9, 10	・ 腰椎分離滑り症 ・ 腰部脊柱管狭窄症	講義, 小テスト	・ スポーツによる発育期疲労骨折による分離すべり症と変性すべり症の相違を理解する。・ 間欠性跛行の鑑別, 強直性脊椎炎を学修するp245。講義資料を参照。	90
11, 12	・ 小児股関節疾患 ・ 側彎症と骨端症	講義, 小テスト	・ 発育性股関節形成不全症, Perthes病, 大腿骨頭滑り症を学修するp216-219。・ 側彎症の分類, UnderarmとMilwaukee装具の相違, 骨端症の好発部位を理解するp223-225。	90
13, 14	・ 疼痛の分類 ・ 切断	講義, 小テスト	・ 複合局所疼痛症候群 (CRPS) の2つの分類や肩手症候群を学修するp72-77。・ 先天性と小児の切断の特徴や切断後の幻肢について理解するp118-121。	90
15	・ 熱傷	講義, 小テスト	・ 熱傷の重症度分類と合併症について学修する。講義資料を参照。	45

【科目名】臨床神経学 I		【担当教員】高橋 英明
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0045-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	hidencch@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くといいでしょう。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3 (方法) 神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学を脳血管障害や脳腫瘍などの疾患を通して臨床に即した講義を行います。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。何か疑問あれば課題の時間とその後5分の間に質問して下さい。最後に課題の解説をします。		
【一般教育目標(GIO)】 神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。 【行動目標(SB0)】 神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。		
【参考書】 医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経第2版」メディクメディア、¥4,290		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（出席並びに課題の提出）により評価します。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 脳卒中と脳出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
2	② 脳梗塞について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
3	③ トルーソー症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
4	④ もやもや病、脳動静脈奇形と脳血管の理解	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
5	⑤ 脳動脈瘤とくも膜下出血について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
6	⑥ 脳腫瘍概論、脳ヘルニア、てんかんについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
7	⑦ 良性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
8	⑧ 髄膜腫と神経症状について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

9	⑨ 悪性脳腫瘍と小児脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	⑩ 転移性脳腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	⑪ 髄膜癌腫症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	⑫ 頭蓋骨腫瘍について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	⑬ 高次脳機能障害の理解	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	⑭ 脳の手術（開頭術と穿頭術）について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	⑮ 脳血管内治療について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
16	試験		講義1-12までの内容から出題します。	30分

【科目名】臨床神経学Ⅱ		【担当教員】高橋 英明
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0050-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	hidencch@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来校時対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) PT、OT、STを目指す学生にとって臨床神経学は必須の基礎知識です。興味がでてきたら参考書で知識を増やして行くと良いでしょう。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 重要なことは配布資料にメモを取り、メディア等で調べ、空いた時間に知識の補填をしていくと将来にも役立つでしょう。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションの対象となる疾患の一つである神経系疾患は機能と障害を理解することでその病態や検査所見ならびに治療や予後に繋がる病気です。その代表的疾患を理解して臨床神経学的視点を養うことを目的とします。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3		
(方法) 神経疾患は多岐に渡っており、すべてを知り理解することは簡単なことでは有りませんが、その基本的な神経解剖と神経症候学を脳血管障害や脳腫瘍などの疾患を通して臨床に即した講義を行います。 スライドと配布資料にそって講義します。その後に課題を用紙に記入し提出して下さい。何か疑問あれば課題の時間とその後5分の間に質問して下さい。最後に課題の解説をします。		
【一般教育目標(GIO)】 神経系の構造・機能・病態についての基礎を、臨床的視点を中心に横断的に学びます。		
【行動目標(SB0)】 神経系の構造・機能・病態を説明できるようにします。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は用いません。配布資料と講義中のスライドをみて学びましょう。		
【参考書】 医療情報科学研究所編集「病気がみえるvol.7脳・神経第2版」メディクメディア、¥4,290		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従い、試験と受講状況（出席並びに課題の提出）により評価します。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	① 頭部外傷について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
2	② 認知症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
3	③ 髄膜炎と神経感染症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
4	④ 片頭痛について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
5	⑤ 変性疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
6	⑥ パーキンソン病について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
7	⑦ 脱髄疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
8	⑧ ミオパチーについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分

9	⑨ 水頭症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
10	⑩ 脊髄と脊椎疾患について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
11	⑪ 先天奇形と母斑症について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
12	⑫ 末梢神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
13	⑬ 自律神経障害について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
14	⑭ 延髄内側、外側症候群について	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
15	⑮ 脳卒中と癌のリハビリテーションについて	「講義」と講義後の「課題作成」	授業で臨床に即した画像や症例の経過を解説し、配布資料で習得すべき知識の骨子を示すので、それを読み返しましょう。またスマホ等で関連する知識を調べていきましょう。	30分
16	試験		講義1-12までの内容から出題します。	30分

【科目名】小児科学		【担当教員】栢森 良二
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	r.kayamori@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜日午前午後、メールにて対応
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
リハビリテーション医学における小児科学の領域は、心と身体の成長と発達につきる。臨床領域は解剖学、生理学、発生学、遺伝学、人間発達学など広範な基礎分野に支えられている。さらに成長発達障害の領域も講義に含まれる。事前に配布される講義資料をもとに、教科書、インターネットを積極的に活用して予習する必要がある。＊実務では脳性麻痺のボツリヌス治療外来を行っています。日本臨床神経生理学会脳波・筋電図部門の専門医です。またこれまでPTOT国家試験委員を務め、帝京大学、帝京平成大学の医学部、PTOT学科、特別支援コース、看護学科などで小児成長発達の講義を長年行っています。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・講義の進行具合によって、講義内容が前後することがあります。 ・発生学、遺伝学、人間発達学などの学習を必須です。 ・小テストは講義前に講義資料と一緒にTeamsで配布します。講義終了直後に学務課のTeamsに返却してください。 ・講義はすべて対面講義で実施します。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】		
(目的)		
小児のリハビリテーション分野は、[re]という「再び」元の状態に回復させることでないのでハビリテーションと呼んでいます。心と身体の成長発達とその障害を理解して、これを説明できるようにする。また小児の持っている能力を伸ばし社会参加を促進するにはどうするか理解する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3		
(方法)		
正常児の成長発達とその障害について事前にTeamsで配布した資料を用いて講義を行います。講義資料は指定教科書に基づいて作成されています。小テストも事前にTeamsで配布いたします。講義を十分に理解するには事前の教科書や講義資料と同時に配付される小テストを4時間ほどかけて予習する必要があります。疑問に思った点は講義やEメールで質問をする。さらに講義の後に理解したことを復習として十分な時間をかける必要があります。		
【一般教育目標(GIO)】		
出生から5、6歳までの粗大・微細運動、言葉、生活習慣、社会性などの成長と獲得月齢の関連を理解する。さらに主にEricksonに基づいた児童期、思春期の人間発達の課題、第二性徴、「三つ子の魂百まで」のパーソナリティ形成を習得する。認知、情意、精神運動が障害される自閉症スペクトラム、知的障害、学習障害、Down症候群、Duchenne型筋ジストロフィー、二分脊椎、脳性麻痺などについても理解する。		
【行動目標(SB0)】		
・個人-社会、粗大運動、手の微細運動、言語の分野の発達評価表を学修する。 ・原始反射と姿勢反応の順序を理解する。 ・小児期における獲得される人間発達の課題は何かを理解する。身体及び学習発達障害にはどんなものがあるか学修する。		
【教科書・リザーブドブック】		
・栢森良二「学生のためのリハビリテーション医学概論-第4版」(2024年、医歯薬出版)。講義資料は本書から採用している。		
【参考書】		
・講義内容に関する項目を上記教科書の目次、索引から検索して予習復習を行ってください。		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。 ・小テスト、まとめの筆記試験などを総合的に評価します。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	40						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・主な遺伝性疾患，染色体異常疾患とその特徴 ・原始反射	講義，小テスト	・Klenfelter, Turner, Down, 軟骨無形成症の病態と臨床像を学修する。 ・原始反射にはどんなものがあるか理解する。動画を添付するので事前に観ておく。教科書P78-81参照。	90
3・4	・姿勢反応の出現時期と臨床的意義 ・デンバー発達スクリーニングテスト (DDST)	講義，小テスト	・姿勢反応の中枢性発達と臨床的意義を理解する。 ・DDSTの臨床応用について学修するp79。	90
5・6	・遠城寺式乳幼児分析的発達検査 ・脳性麻痺 (1)	講義，小テスト	・遠城寺式テストの臨床応用を学修するp81。 ・肢体不自由児の中で最も頻度の高い脳性麻痺の定義，原因，病型分類，麻痺分布による分類，合併症について学ぶp247-253。	90
7・8	・脳性麻痺 (2) ー粗大運動機能分類法 (GMFCS) ・脳性麻痺 (3) ー痙直型とアトローゼ型の姿勢とアプローチの特徴	講義，小テスト	・GMFCSについて学ぶp252-253。 ・錐体路系と錐体外路系の臨床的特徴と治療アプローチの相違を学修するp64-66, p248。	90
9・10	・Duchenne型筋ジストロフィー ・Down症候群	講義，小テスト	・Duchenne型筋ジストロフィーの自然経過，侵される筋の順序と症候，呼吸管理を学修するp253-257。 ・Down症の乳幼児期の障害特徴を理解するp251-252。	90
11・12	・二分脊椎 ・てんかん	講義，小テスト	・脊髄髄膜瘤の合併症，Sharrard, Hofferの分類を理解するp257-260。 ・てんかん症候群の好発年齢と特徴を学修するp290-293。動画も参照。	90
13・14	・知的障害と発達障害 ・自閉症スペクトラム	講義，小テスト	・知的障害と発達障害のカテゴリーを理解するp26-28。 ・発達障害の中の学習障害と自閉症スペクトラムについて学修するp261-266。	90
15	・ライフサイクル	講義，小テスト	・Eriksonライフステージと乳幼児期における獲得される課題と陥る危険について理解するp133-144。	45

【科目名】 精神疾患とその治療		【担当教員】 向田 怜史、望月 佐衣子、塚原 智弘、藤井 純
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0060-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果は他に支障のない限り返却する。対面での講義を基本とし、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談すること。		
【講義概要】 (目的) この科目は理学療法士・作業療法士・公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、レゾン等を含み広くリハビリテーション分野および心理臨床分野での精神医学的アプローチを下記を中心に実践的に学ぶ。 ①精神疾患総論②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3, P-1, O-1, R-1 (方法) レジュメ、教科書を用いながら精神科医療に関する事例を取り上げ、疾患別に講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ ICDに準じた基本的な各精神疾患の概要について理解する。		
【行動目標(SBO)】 ・ ICDに準じた基本的な各精神疾患の概要を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 メディカルスタッフのための精神医学 谷岡哲也 友竹正人 安原由子 大坂京子 編集 中外医学社 2021年		
【参考書】 PT・OT・ST・心理職のための高次脳機能障害・精神医学・心理学必修キーワード 椿原彰夫 著 診断と治療社 2020年 標準理学療法学・作業療法学―専門基礎分野（精神医学）第4版 奈良勲 鎌倉矩子 上野武 2015年 医学書院		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・ 成績評価は定期試験により評価する。 ・ 出席点は評価に含めない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	精神医学の歴史 精神症状：客観症状と主観症状 意識の障害・自我意識の障害を中心に	対面講義	教科書P1～P20を読んでおくこと	90分
3・4回	ICDとDSMの違い 精神障害各論 ・物質使用及び嗜癖行動による障害 ・成人のパーソナリティおよび行動の障害	対面講義	前回の資料と教科書P150～P163、 P204～P208を読んでおくこと	90分
5・6回	精神障害各論 ・統合失調症と妄想性障害 ・気分障害	対面講義	前回の資料と教科書P165～P185を読 んでおくこと	90分
7・8回	薬物治療について	対面講義	前回の資料と教科書P45～P63を読ん でおくこと	90分
9・10回	精神障害各論 ・神経症性障害	対面講義	前回の資料と教科書P186～P196を読 んでおくこと	90分
11・12回	精神障害各論 児童期の精神障害 ・ASD、LD、ADHD、チック障害を中心に	対面講義	前回の資料と教科書P223～P237を読 んでおくこと	90分
13・14回	精神科リハビリテーションについて	対面講義	前回の資料と教科書P118～P128を読 んでおくこと	90分
15回	今までの振り返り	対面講義	今までの資料や教科書を復習してお くこと	90分

【科目名】リハビリテーション工学		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜～金曜 5時限
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 生活支援機器（車いす、杖、自助具、生活環境装置）についての説明を行います。生活支援機器に興味の持っている学生は受講を進めます。この科目は理学療法士として実務経験がある教員による講義です。生活支援機器を中心としたリハビリテーションに従事し、利用者の生活支援に必要な車いす、杖、生活支援機器全般について講じます。講義形態は講義とアクティブラーニングで構成します。＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。生成AIの利用については自由とします。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) パーソナルコンピューター、タブレットを使用して講義を行います。講義資料はteamsに電子媒体として配信します。必要であれば事前に印刷をするようにしてください。自学、講義演習としてとしてFUIOSN360を利用した3Dデータの作成などを行う予定です。車椅子など重いものを運ぶ場合があるので、授業準備は複数名（3名）くらいで来てください。課題はteamsから提出をお願いします。科目試験は事務局にて返却をします。試験結果について必要に応じて解説をします。再試験は返却しません。		
【講義概要】 (目的) 理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, P-3, O-3, R-1 (方法) 電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。 グループ学習とグループ発表を行います。 授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。		
【一般教育目標(GIO)】 人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。 【行動目標(SB0)】 生態におけるバイオメカニクスを説明する。 生活支援機器の種類や使用法を説明する。 生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。		
【教科書・リザーブドブック】 Teamsでの資料提示		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 ・出席率は評価に含まない。		

・ 山形県は詳細に書かない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	15		35				100
評価 指標	取り込む力・知識	50	15						65
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				35				35
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーション工学について オリエンテーション	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	3Dプリンターを利用した生活支援機器の開発 3DCDのモデリング、FOSION360	講義対面 星野浩通 指定教室	事前にFOSION360のダウンロードと登録をお願いします。	20
3	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車椅子パーツの名称を復習すること	20
4	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすパーツの名称を復習すること	20
5	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすに使用するシートの種類を復習すること	20
6	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子関連用品） （車椅子シーティング）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすに使用するシートの種類を復習すること	20
7	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（環境制御装置）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 環境制御の概要を復習すること	20
8	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（環境制御装置）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 環境制御の概要を復習すること	20

9	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器 (人の心の杖となれ)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 杖の種類と適応について復習すること	20
10	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器 (人の心の杖となれ)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 杖の種類と適応について復習すること	20
11	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 演習 (福祉機器の考察)	講義対面 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	45
12	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	20
13	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	20
14	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた準備	20
15	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた準備	20

【科目名】 薬理学		【担当教員】 桑島 治博
【授業区分】 専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】 2-12-0077-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。 解剖学および生理学の知識が必要なので復習しておいてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。 (フィードバック方法) 最終コマ講義の際に演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の作用機序、体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書と配付資料を用いて、リハビリテーション分野に関連する薬物療法を中心に講義を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物療法の基本原理を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ①用量と薬理作用の関係を説明する。 ②薬物の作用機序を説明する。 ③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。 ④薬物の副作用・有害作用を説明する。 ⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。		
【教科書・リザーブドブック】 イラストで理解するかみくだき薬理学(第2版) 南山堂 ¥2,300		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。 ・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	0	20	0	0	0	0	100
評価 指標	取り込む力・知識	80	0	10	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造の力	0	0	5	0	0	0	0	5
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	5	0	0	0	0	5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	薬理学の基礎知識（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
3. 4	薬理学の基礎知識（２）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
5. 6	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
7. 8	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
9. 10	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
11. 12	アレルギー、炎症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
13. 14	悪性腫瘍に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0
15	感染症に用いる薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。 講義後、課題２題を自己学習しレポートで提出する。 講義ごとに確認テストを行う。	3 0

【科目名】		感染症学		【担当教員】	平田 恒彦
【授業区分】		専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0085-3	(メールアドレス)
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
今後：臨床実習を行う学生には、感染症から自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。試験後回答例を提示する。					
【講義概要】					
(目的)					
数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌0-157が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの世界で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な場面があるが、忘れてはいけない医生物科学の分野である。そのため、感染症予防対策を伝染病という観点からも眺める。新型コロナウイルス感染症についても話題を提供する。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
本講座においては、他の生物の兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現象の中での具体的な問題を考察する。					
【一般教育目標(GIO)】					
・感染症について理解し、医療現場（特にリハビリテーション現場）での感染予防について理解することができること。					
【行動目標(SB0)】					
・感染症に関する話題を語れるようになること。					
【教科書・リザーブドブック】					
内山靖・藤飯浩美・立石雅子編「リハベーシック 生物学・生体防御学」医歯薬出版					
【参考書】					
講義内で必要であれば紹介する					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。					
成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		85	0	10	0	0	0	5	100
評価 指標	取り込む力・知識	0	0	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造の力	50	0	0	0	0	0	5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15	0	0	0	0	0	0	15
	発表力	10	0	5	0	0	0	0	15
	学修に取り組む姿勢	10	0	5	0	0	0	0	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	生物学・生体防御学とは	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
3-4	細胞の在り方	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
5-6	組織への分化	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
7-8	内分泌系へ そして感染とは	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
9-10	生体防御と免疫	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
11-12	生体の異常と老化へ	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
13-14	感染への仕組み	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
15	その他	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
16	試験	講義（補講） 16 コマ目		

【科目名】		社会保障論		【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0010-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この講義は医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じる。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障のない限り返却する。配信での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。					
生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。					
※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
(目的)					
本邦における社会保障の現状、社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障と財政、社会保険と社会扶助の関係、公的年金制度、医療保険制度の内容とその課題、制度の動向について学ぶことを目的とする。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
教科書、レジュメを用いて講じていく。					
【一般教育目標(GIO)】					
・ 社会保障制度の概要について理解する。					
・ 年金保険制度について理解する。					
・ 医療保険制度・介護保険制度について理解する。					
・ 社会福祉制度・サービスについて理解する。					
【行動目標(SB0)】					
・ 社会保障制度の概要について説明できる。					
・ 年金保険制度について説明できる。					
・ 医療保険制度・介護保険制度について説明できる。					
・ 社会福祉制度・サービスについて説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 社会保障 中央法規 2,900円+税 一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟 編集					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。					
・ 成績評価はレポートにより評価する。					
・ 出席点は評価に含めない。					
レポートのフィードバックについては、個別にコメントをのけて返却する。					

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	現代社会と社会保障	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	社会保障の概念や対象およびその理念	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	社会保障の財政	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	社会保障制度の体系①	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	社会保障制度の体系②	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	諸外国における社会保障制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：教科書と配布資料を事前に読 んでおく	90分

【科目名】		公的扶助論		【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0015-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12：40～13：30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この講義は、医療福祉分野の相談職としての臨床経験がある講師が講じていく。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートは他に支障がない限り返却する。対面での講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
【講義概要】					
(目的)					
公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とし、特に、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
・教科書と配布資料を用いて講じていく。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・公的扶助について理解する。 ・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。 ・生活保護制度の原理・原則・仕組みについて理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
・公的扶助とは何かを説明できる。 ・公的扶助が必要となるさまざまな社会的背景を説明できる。 ・生活保護制度の原理・原則・仕組みについて説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
貧困に対する支援 ミネルヴァ書房 2022年05月01日出版 2,400円+税 杉本 敏夫 監修 金子 充 田中 秀和 中村 健立 花 直樹 編著					
【参考書】					
・特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポートにより評価する。 ・出席点は評価に含めない。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	・ 貧困の概念と公的扶助の意義・範囲 ・ 貧困状態にある人と社会環境	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	・ 貧困状態にある人に対する福祉の理念 ・ 貧困観とスティグマ	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	・ 世界における貧困に対する制度の歴史 ・ 日本における貧困に対する制度の歴史	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	・ 生活保護法の概要と役割 ・ 生活困窮者自立支援制度の概要と役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	・ 低所得者対策の概要と役割 ・ ホームレス対策の概要と役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	・ 貧困に対する支援における関係機関の役割 ・ 貧困に対する支援における専門職の役割	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	・ 生活保護制度における専門職の役割と自立支援 ・ 生活困窮者自立支援制度における専門職の役割 と自立支援 ・ 生活福祉資金貸付制度にみる専門職の役割と自 立支援	対面講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	・ 今までの振り返り	対面講義	復習：配布資料、教科書を読んでお く	90分

【科目名】 権利擁護と成年後見制度論		【担当教員】 向田 怜史
【授業区分】 専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】 2-13-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木 12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は、医療福祉分野の相談職として臨床経験のある講師が講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) オンデマンド配信での講義であるがアクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。レポートについては、他の支障のない限り返却する。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 超高齢化社会と呼ばれる世の中で、認知症の方や障がいをもたれた方への支援に対する重要性が高まりつつある。この科目は特に権利擁護と成年後見制度についての基礎的知識を理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書とレジュメを用いて講じていく。オンデマンド配信にて講じていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ・権利擁護について理解する。 ・成年後見制度について理解する。 ・権利擁護と成年後見制度についての社会的背景を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・権利擁護について説明できる。 ・成年後見制度について説明できる。 ・権利擁護と成年後見制度についての社会的背景を説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 精神保健福祉士・社会福祉士 養成セミナー 法学 権利擁護と成年後見制度 編集 精神保健福祉士・社会福祉士 養成基礎セミナー編集委員会 へるす出版 2,100円+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う ・成績評価はレポートにより評価する ・出席点は評価に含まない		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	相談援助活動において想定される法律問題	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
3・4回	日本国憲法の基本原理の理解	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
5・6回	民法の理解	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
7・8回	成年後見制度	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
9・10回	日常生活自立支援事業	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
11・12回	成年後見制度利用支援事業	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
13・14回	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際	配信講義	予習：教科書を事前に読んでおく	90分
15回	今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料を読んでおく	90分

【科目名】福祉財政論		【担当教員】向田 怜史
【授業区分】専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】2-13-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火・木 12：40～13：30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この講義は、医療福祉分野の相談職として臨床経験がある講師が講じる。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートは他に支障のない限り返却する。配信講義であるが、アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください		
【講義概要】 (目的) 社会保障・福祉制度における国・都道府県・市町村の役割とその財源について理解することを目的とする。国と地方との関係、組織及び団体、専門職の役割等の概要について理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 教科書・レジュメを用いて講じていく		
【一般教育目標(GIO)】 ・社会福祉政策を遂行する行政システムや財政システムについて理解する。 ・福祉行財政について理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・日本の福祉行財政の動向について概説できる。 ・福祉行財政についての政治的経済的背景について説明できる ・社会福祉に関連する法規と課題について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 福祉+α 11 福祉財政 高端正幸 伊集守直 編集 橘木俊詔 宮本太郎 2018年9月20日 ミネルヴァ書房 3,500円+税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う ・成績はレポートにより評価する ・出席点は評価に含めない レポートのフィードバックについては、個別にコメントをつけて返却する		

・レポートのノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			45					45
	思考・推論・創造の力			45					45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	・日本における福祉財政の特徴 ・日本の福祉財政の歴史	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
3・4回	・税と社会保険料 ・福祉を支える政府間財政関係	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
5・6回	・年金財政 ・医療保障の財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
7・8回	・介護保障の財政 ・児童福祉財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
9・10回	・障害者の社会生活支援と財政 ・生活保護制度と財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
11・12回	・雇用保障の財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
13・14回	・諸外国の福祉財政	配信講義	予習：教科書を読んでおく	90分
15回	・今までの振り返り	配信講義	復習：配布資料、教科書を読んでおく	90分

【科目名】高次脳機能障害学概論		【担当教員】大平 芳則
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 水曜12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。		
【講義概要】 (目的) 我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 高次脳機能およびその障害像について講義を行なう。		
【一般教育目標(GIO)】 高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。		
【行動目標(SB0)】 高次脳機能とは、どのようなものか言える。 高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。 それぞれの高次脳機能障害につて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。		
【参考書】 石合純夫 高次脳機能障害学 医歯薬出版 2022年 4500円＋税 山鳥重 神経心理学入門 医学書院 1985年 6400円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は、毎回授業ごとの課題レポート100%とする。 出席点は評価に含まない。 課題レポートについては、その記載例をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学則規定のCPA制度に依る		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	高次脳機能障害とは 大脳	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
3. 4	意識障害 注意の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
5. 6	認知症	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
7. 8	言語の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
9. 10	行為の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
11. 12	視覚の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
13. 14	半側空間無視	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
15	その他の高次脳機能障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】 摂食・嚥下障害学概論		【担当教員】 山村 千絵
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0005-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月～金 11:30～12:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 摂食嚥下のメカニズムや、口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練・嚥下食等に興味を持ち、将来、臨床現場において、あるいは、食支援を必要とする家族等の介護場面において、本領域の知識や技術を活用したいと思う学生が聴講するのが望ましい。この科目は実務経験者（歯・口腔の機能とりわけ咀嚼機能に精通した歯科医師）が担当する科目である。受講生が所属する専攻分野に合わせて、歯科領域の専門的な内容についても、わかりやすく講じていく。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨する。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 頭頸部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の解剖学的模型のほか、臨床現場で実際に使用されている器具類を示しながら、講義を進めていく。1年次に「解剖学」・「生理学」・「人体の構造と機能及び疾病」等の科目で学んだ内容のうち、特に頭頸部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておく、本講義が理解しやすくなる。定期試験実施後のフィードバックについては、模範解答の配付を行うことで対応する。講義途中で課すレポートは、提出後に添削して返却するので確認すること。生成AIについては、「講義資料の要約、レポートの草稿作成」の場合においてのみ利用を許可する。		
【講義概要】 (目的) はじめに、摂食嚥下機能と関係の深い頭頸部や顎顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場、その他の食支援の場面等において、摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、理学療法士・作業療法士・心理専門職等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。 当該科目と学位授与方針等との関連性： A-2,3 P-2 O-2 R-1 (方法) パワーポイントスライドを主に使用して講義を進めていく。講義資料は毎回プリントして配付する。なお、予習に必要な資料については、前もって配付することがある。また、必要に応じて、各種の解剖学的模型を使用したり、口腔内を観察したり、臨床で使う器具類を提示・使用したり、嚥下食等の試食をしたり匂いを嗅いだりするなど、学生の五感をフルに活用させながら、立体的に講義を進めていく。これらの体験を実施する際は、十分な感染防止対策を実施したうえで行うが、感染症流行の状況によっては、体験の一部が制限される場合もある。		
【一般教育目標(GIO)】 摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、理学療法士・作業療法士・心理専門職として、基本的な役割を果たすために、摂食嚥下の機能および障害領域に関する基礎的事項を理解し、将来の臨床現場やその他の食支援の場面等において役に立つ知識や技術を身につける。		
【行動目標(SB0)】 ・ 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。 ・ 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。 ・ 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。 ・ 口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練を実施できる。 ・ 摂食嚥下障害に関するチーム医療の概要について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に教科書等は指定しない。講義内容は、プリント資料として配付する。		
【参考書】 向井美恵（他著）『摂食・嚥下障害ベストナッシング』 学研メディカル秀潤社，2010年． ¥2,640（税込） 倉智雅子（編著）『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』医歯薬出版，2013年． ¥4,840（税込） 山田好秋（著）『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版』医歯薬出版，2013年． ¥4,620（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価の基準については、本学学則に規定されているGPA制度に従う。 すべての講義終了後に記述式試験を実施するほか、講義途中においてもレポート等課題を課す。 講義終了後の試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度10%、学修に取り組む姿勢や態度（出席状況を除く）10% の割合で総合的に評価を行う。		

最終的に計画を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。 (それぞれの定義を理解する。)	講義	(復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	9 0 分
3, 4	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能 (口腔解剖学・口腔生理学の内容を深める。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習) これまでに学んできた 口腔・咽頭領域の 解剖・生理について 復習をしておく。	9 0 分
5, 6	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構 (生理学的観点から学ぶ。)	講義	(復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	9 0 分
7, 8	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構 (生理学的観点から学ぶ。)	講義	(復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	9 0 分
9, 10	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類 誤嚥性肺炎 (臨床につなげる。)	講義	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	3 0 分 6 0 分
11, 12	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下 (臨床につなげる。)	講義	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	3 0 分 6 0 分
13, 14	摂食・嚥下機能の検査・評価 摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査、スクリーニング 非VF系嚥下機能評価 (臨床につなげる。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	3 0 分 6 0 分
15	摂食・嚥下リハビリテーション(訓練・治療) 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て、間接訓練、直接訓練 ケアを必要とする人への接し方 (臨床につなげる。)	講義 アクティブ・ ラーニング演習	(予習) 事前に配付するプリントを 読んでおく。 (復習) 学修した内容を整理し ノート等にまとめる。	3 0 分 6 0 分

【科目名】		基礎運動学Ⅰ		【担当教員】	若菜 翔哉、知名 規人
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)		【授業コード】	2-14-0010-3	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期		【選択必修】	選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1		【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
- 解剖学と生理学の知識を定着させておくこと（解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります）。 - 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、運動学の基礎知識について講義を行います。 - 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
- 各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 - 試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から問題および解答用紙の返却はしません。 - 試験後、必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。					
【講義概要】					
(目的)					
リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です。本講義では、運動に関する用語や、身体運動に関する基本的概念を学びます。また、身体の構造や機能に関し、解剖学や生理学、物理学の知識を統合し、運動の捉え方を学習します。 *当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3					
(方法)					
- 主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。 - 毎講義ごとに小テストを行い、講義内容の理解度を確認します。 - この授業はアクティブラーニングを用います。 - この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。					
【一般教育目標(GIO)】					
運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し、記述・説明することができる					
【行動目標(SB0)】					
- 運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し、記述・説明することができる - 姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる					
【教科書・リザーブドブック】					
1. 弓岡光徳, 溝田勝彦, 村田伸, エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 原著第3版, 南江堂, 2020年, ¥5,800 (税別)					
【参考書】					
解剖学, 生理学の講義・実習で使用している教科書					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
- 成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従います。出席点は評価に含みません。 - 小テスト, 筆記試験を総合的に評価します。 - 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じて補講等にておこないます。 - 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内・予復習・成果物（レポート等含む）作成において自由に利用していただくものとします。					

・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	キネシオロジーの基本原則	・講義、演習 ・小テスト	講義および予習範囲：P1～19 講義までに上記範囲を最低1回は読 んでおくこと。	
3, 4	上肢の解剖学と運動学①	・講義、演習 ・小テスト	・上肢の解剖学の復習 (起始停止、支配神経、作用) ・講義内容の復習	
5, 6	上肢の解剖学と運動学②	・講義、演習 ・小テスト	・上肢の解剖学の復習 (起始停止、支配神経、作用) ・講義内容の復習	
7, 8	上肢の解剖学と運動学③	・講義、演習 ・小テスト	・上肢の解剖学の復習 (起始停止、支配神経、作用) ・講義内容の復習	
9, 10	下肢/体幹の解剖学と運動学①	・講義、演習 ・小テスト	・下肢の解剖学の復習 (起始停止、支配神経、作用) ・講義内容の復習	
11, 12	下肢/体幹の解剖学と運動学②	・講義、演習 ・小テスト	・下肢の解剖学の復習 (起始停止、支配神経、作用) ・講義内容の復習	
13, 14	下肢/体幹の解剖学と運動学③	・講義、演習 ・小テスト	・体幹の解剖学の復習 (起始停止、支配神経、作用) ・講義内容の復習	
15	まとめ			

【科目名】基礎運動学Ⅱ		【担当教員】若菜 翔哉
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0015-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・基礎運動学Ⅰの内容と関連付けて学習すること。 ・解剖学と生理学の知識を定着させておくこと（解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります）。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、運動学の基礎知識について講義を行います。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から問題および解答用紙の返却はしません。 ・試験後、必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。		
【講義概要】 (目的) ・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です。本講義では、運動学の基礎知識を学びます。また、運動学だけではなく解剖学や生理学の知識と統合し、姿勢や歩行分析など身体運動の分析に応用できるようになることを目的とする。 *当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 *当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1, 2 (方法) ・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。 ・毎講義ごとに小テストを行い、講義内容の理解度を確認します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。		
【一般教育目標(GIO)】 ・臨床に必要な運動学の基礎知識を理解できる。		
【行動目標(SBO)】 ・運動学の基礎知識を説明し記述することができる。 ・運動学、解剖学、生理学の内容を統合し、それぞれを関連付けて説明し記述することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 1. 弓岡光徳，溝田勝彦，村田伸，エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 原著第3版，南江堂，2020年，¥5,800（税別）		
【参考書】 ・解剖学，生理学の講義・実習で使用している教科書		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、本試験（筆記試験）と小テスト（毎講義実施）により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含まれません。・試験問題および解答用紙の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じて補講等にておこないます。・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内・予復習・配布物（レポート等含む）作成において自由に利用		

ご注意事項：・生成系 AI の利用を主目的に許可しませんが、参考文献、参考文献、成果物（レポート等）作成において自由にご利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	20						100
評価 指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	【第4章 肩複合体の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P51～88 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 肩関節複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
3, 4	【第5章 肘・前腕複合体の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P89～115 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 肘・前腕複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
5, 6	【第6章 手関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P117～133 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 肘・前腕複合体を構成する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
7, 8	【第8章 脊柱の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P169～216 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 脊柱に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
9, 10	【第9章 股関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P217～258 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 股関節に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
11, 12	【第10章 膝関節の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P259～292 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 膝関節に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
13, 14	【第11章 足関節と足部の構造と機能】	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P293～330 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 足関節に関与する骨格筋や関節について学習しておくこと。	60
15	総まとめ	・講義 ・小テスト	講義および予習範囲：P51～330、これまでの配布資料 講義までに上記範囲を復習しておくこと。	60

【科目名】 基礎運動学Ⅲ		【担当教員】 若菜 翔哉、押木 利英子
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0020-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	wakana@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・基礎運動学Ⅰ・Ⅱと関連付けて学習すること。 ・解剖学と生理学の知識を定着させておくこと（解剖学と生理学との関連付けが非常に大切になります）。 ・基礎運動学ⅠとⅡで学んだ内容を定着させておくこと。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で理学療法士としてリハビリテーションに従事してきた経験から、姿勢や歩行、運動発達について講義を行います。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・各自、教科書などの教材を利用し、事前学習および復習を行うこと。 ・試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが情報漏洩の観点から返却はしません。 ・試験後、必要に応じて試験内容を中心とした補講（試験内容の解説を含む）を行います。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) ・歩行分析および観察を実施する際に必要とされる基礎知識を学習する。 ・運動発達や運動学習についての基礎知識を学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2 P-1, 2		
(方法) ・主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。また必要に応じて実技を実施します。 ・講義内容に関するレポート課題を提示します。 ・この授業はアクティブラーニングを用います。 ・この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。		
【一般教育目標(GIO)】 ・歩行分析および観察の基礎知識を理解し、理学療法評価に関連付けることができる。 ・運動発達や運動学習に関する基礎知識を理解し、理学療法評価に関連付けることができる。		
【行動目標(SBO)】 ・歩行分析および観察に関する基礎知識を記述し説明することができる。 ・運動発達や運動学習に関する基礎知識を記述し説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 1. 弓岡光徳, 溝田勝彦, 村田伸, エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 原著第3版, 南江堂, 2020年, ¥5,800 (税別)		
【参考書】 ・中村隆一, 他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版. 2003年. ¥6,800 (税別) ・Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析, 医学書院. 2014. ¥5,000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、本試験（筆記試験）とレポート課題により総合的に評価する。 ・出席点は評価に含みません。 ・生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 ・試験・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて補講等で行ないます。		

胖谷の返却はわかりません。ノートブックは必妥に心し冊講守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90		10					100
評価 指標	取り込む力・知識	90		10					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	【歩行の運動学①】 歩行周期と重心移動	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 歩行周期，歩行の関連用語の意味を理解しておくこと。	60
3, 4	【歩行の運動学②】 関節運動学	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。歩行における各運動面状の各関節運動について学習しておくこと。	60
5, 6	【歩行の運動学③】 筋活動	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。 歩行における各筋活動について学習しておいてください。	60
7, 8	【歩行の運動学④】 運動力学 【レポート課題の提示】 「歩行周期について」	講義・実技（若菜）	講義および予習範囲：P331～348 講義までに上記範囲を最低1回は読んでおくこと。床反力について学習しておくこと。	60
9, 10	動作分析について	講義・演習（押木）	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について，復習しておいてください。	60
11, 12	発達分析について	講義・演習（押木）	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について，復習しておいてください。	60
13, 14	運動学習と臨床応用	講義（押木）	「発達障害理学療法学」前期に学習した正常運動発達について，復習しておいてください。	60
15	筆記試験	試験	1～14コマの内容を理解し、説明できるようにしておくこと。	60

【科目名】 予防リハビリテーション学		【担当教員】 長島 裕子
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0035-3	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	y.nagashima@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 毎週火曜日 12:50～13:20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション専門職ならびにリハビリテーションを学ぶ立場であることを認識し、本邦に生じている少子高齢化による社会的影響を予習しておくことを勧めます。 この科目は実務経験者（予防に精通した理学療法士）が担当する科目です。受講生にとって、予防の概念や実践方法についてわかりやすく講じていきます。 この授業はアクティブラーニングを用います。また、この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義開始後15分以降の入室の場合は遅刻とします。 ・介護予防の実践（体操等）を行う際は、動きやすい服装としてください。 ・生成系AIの利用は、一部の場面を除き許可しています（確認テストや期末試験、再試験での場面は禁止）。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 健康で生き生きとした生活を支援することを目指し、医療従事者が必要とする以下の疾病予防の3層について学ぶ。 ①日常生活を送る上で介護が必要な状態に陥ることを予防すること。 ②要介護状態にある方の場合には介護状態が重度化していくことを予防すること。 ③再び要介護状態に陥ることのないように再発予防を行うこと。 （当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2, 3） (方法) ・予防リハビリテーションの基礎知識と具体的対処方法を講義または実技を通して学ぶ。		
【一般教育目標(GIO)】 1. 予防の概念を理解する。 2. 予防に対するリハビリテーションの役割を理解する。		
【行動目標(SBO)】 1. 予防の概念を理解し、説明できる。 2. 予防に対するリハビリテーションの役割を理解し、その実践方法等について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書なし。 講義内で資料を配付する。		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価の基準については、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験（80％）・講義内の小テスト（20％）により総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。 講義内で小テストを実施し、授業出席率、期末試験結果について、解答を返却し、必要に応じてフィードバックを実施し、また		

講義内で小テストを実施し、休息後返却します。試験結果については、勝負を返却し必要に心してノートバックを実施します。
再試験該当となった場合、希望がある場合に限り補講を実施します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	20	10					100
評価 指標	取り込む力・知識	70	20	10					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	介護予防の必要性	講義	介護予防とは何かをインターネット 等で調べておくこと。	30
3・4	高齢者の身体的変化・精神的変化と特性	講義	骨・筋に対する生理学的知識を復習 しておくこと。 「うつ」についてインターネット等で 調べておくこと。	30
5・6	ロコモティブシンドローム・フレイルの概念と予 防	講義	日本整形外科学会公式ロコモティブ シンドローム予防啓発サイトをみて おくこと。	30
7・8	ロコモティブシンドローム・その他評価	実技	日本整形外科学会公式ロコモティブ シンドローム予防啓発サイトをみて おくこと。	30
9・10	転倒予防のメカニズムと予防	講義・実技	骨（特に大腿骨・脊椎）の生理学的 知識を復習しておくこと。	30
11・12	認知症のメカニズムと予防①	講義・実技	脳の生理学的知識を復習しておくこ と。	30
13・14	認知症のメカニズムと予防②	講義・実技	脳の生理学的知識を復習しておくこ と。	30
15	まとめ	講義	今までの講義を復習しておくこと。	30

【科目名】		老年心理学	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0040-3	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で、介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた臨床経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。 超高齢社会において、高齢者の心身の健康維持という課題は非常に重要です。幸福な一生涯を実現するために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。講義後にレポート課題を課すことがあります。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AIの出力を引用した箇所や生成AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。				
【講義概要】 (目的) 加齢に伴う心身の変化の特性とそれが日常・社会生活に及ぼす影響を学び、高齢者の社会適応や社会参加を促す心理支援法の基本を理解することを目的とします。 特に、加齢に伴う①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の変化を理解した上で、高齢期の発達課題とその克服について考察していきます。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1, P-2, O-1, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。				
【一般教育目標(GIO)】 「高齢期」の心身の変化の特徴と克服すべき課題を知る。 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期の認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 「サクセスフルエイジング」「補償を伴う選択的最適化理論」「エイジレス・ライフ」等の理論を理解する。 4. 高齢期の発達危機及び障害について理解し、適切な心理支援のあり方を理解する。				
【行動目標(SBO)】 「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者への”心のケア”ができる。 高齢者の心理的危機を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 高齢期の発達課題の克服及びその危機に対して、適切な心理支援ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介する。				
【参考書】 佐藤眞一（編著）「よくわかる高齢者心理学（〈わかる〉シリーズ）」／ミネルヴァ書房／2016年／2,700円 権藤 恭之（編集）「高齢者心理学（朝倉心理学講座）」／朝倉書店／2008年／3,888円				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学位規定のGPA制度に準ずる。				

・成績評価基準は全学子別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		20			20		100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義 情報リテラシー (図表の見方) を含む	【復習】(要点の整理) 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	20
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング/エイジレスライフ	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	【復習】(要点の整理) 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	20
3	高齢期の身体機能① ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	【復習】(要点の整理) 感覚機能(視聴覚等)低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	20
4	高齢期の身体機能② ・運動機能の変化 ・「フレイル」と「サルコペニア」 ・調査法	講義 演習:PBL(課題解決)を含む	【復習】(要点の整理) 「フレイル・サルコペニア」の定義、及びその状態が日常生活/健康寿命へ及ぼす影響を理解する。	20
5	「フレイル」予防と健康寿命 ・運動機能の観点から ・口腔機能と栄養の観点から	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	【復習】(要点の整理) フレイル予防を運動と栄養摂取の観点から支援することができる。	20
6	高齢期の精神機能① ・高齢期のストレス ・「喪失体験」と孤独/孤立 ・高齢期のうつ症状	講義	【復習】(要点の整理) 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程を理解する。	20
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・モーニングワーク	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	【復習】(要点の整理) 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。また、遺族の重篤な「喪失の体験」を理解し、当事者の心に寄り添う姿勢を学ぶ。	20
8	高齢期の精神機能② 「認知症」 ・記憶機能の低下 ・知的機能の変化_結晶性知能と流動性知能	講義 演習:必要な情報収集と分析の学習を含む	【復習】(要点の整理) 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	20

9	高齢期のメンタルヘルス① ・ 高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・ 加齢とパーソナリティの変化 ・ 「回想法」	講義 演習：PBL（シナリオに基づく実践）を含む	【復習】（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	20
10	高齢期のメンタルヘルス② ・ 生きがい・心と体の健康づくり ・ 「社会参加」への支援：“きょういくときょうよう”	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	【復習】（要点の整理） 高齢者の再適応能力を支援する方策を考える。	20
11	高齢者の人権擁護① ・ 高齢者の自殺（発生件数とその動機）	講義	【復習】（要点の整理） 高齢者の自殺件数とその状況から、自殺防止を考える。	20
12	高齢者の人権擁護② ・ 事例検討 ・ 高齢者虐待の防止 ・ 高齢者の養護者に対する支援	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	【復習】（要点の整理） 「高齢者虐待防止法」の主旨を理解する。	20
13	高齢者を尊重するケア技術① ・ パーソン・センタード・ケア	講義	【復習】（要点の整理） ”パーソン・センタード”の語源をも理解し、このケア法を技術と心の両面から理解する。	20
14	高齢者を尊重するケア技術② ・ ユマニチュード ・ バリデーション	講義 演習：PBL（事例への対応法を考える）を含む	【復習】（要点の整理） ”ユマニチュード””バリデーション”の語源をも理解し、これらケア法を技術と心の両面から理解する。	20
15	まとめ ・ 超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義	【復習】（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	20

【科目名】		認知症		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】		専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0041-3	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は1年次の脳の働きや病態についての知識が必要とされます。 この授業はアクティブラーニングを用います。 この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。					
【講義概要】					
(目的)					
認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。					
【一般教育目標(GIO)】					
高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。					
【行動目標(SB0)】					
認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料配布					
【参考書】					
田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ￥4,725					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。 生成系AIの利用を全面的に許可します。授業内、予備習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用していただく。					

生成 AI の利用を主体的に計画しより、提案内、J 後首、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。
使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力	80							80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	認知症とは	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3. 4	認知症になる原因は	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5. 6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7. 8	認知症者の心の内側は	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9. 10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11. 12	認知症者の脳の画像は	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13. 14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】		知覚・認知心理学Ⅰ		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0055-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。					
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3					
(方法)					
毎回の授業において講義動画を配信する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。					
【行動目標 (SB0)】					
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書は使用しない					
【参考書】					
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）					
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）					
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。					
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。					
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてまとめる	120
3・4	感覚の測定(1)	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異についてまとめる	120
5・6	感覚の測定(2)	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまとめる	120
7・8	感覚の測定(3)	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法についてまとめる	120
9・10	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行きなどの知覚および聴覚の仕組みについてまとめる	120
11・12	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達のプロセスについてまとめる	120
13・14	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】知覚・認知心理学Ⅱ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0060-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。		
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において講義動画を配信する。		
【一般教育目標 (GIO)】		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。		
【行動目標 (SB0)】		
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
教科書は使用しない		
【参考書】		
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）		
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）		
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。		
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	記憶（１）	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてま とめる	1 2 0
3・4	記憶（２）	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてま とめる	1 2 0
5・6	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまと める	1 2 0
7・8	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、 「概念」と言語との関連をまとめる	1 2 0
9・10	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理 についてまとめる	1 2 0
11・12	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およ びメタ認知の内容についてまとめる	1 2 0
13・14	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序について まとめる	1 2 0
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】 学習・言語心理学 I		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を習得していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の保健・医療・福祉・教育等の分野で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) グラフィック学習心理学: 行動と認知/ 山内光哉・春木豊(編著)/ サイエンス社(2001/3/10)/ ¥2,890(税込) 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は大学学習規定のGPA制度に従う		

・成績評価基準は全子子別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	学習とは何か 「学習」の定義 ・ 生得性行動と学習行動 ・ 初期学習 (刻印づけ、臨界期) ・ 馴化 古典的条件づけ (1) 基本原理と典型例 ・ パブロフの実験	講義 演習 p. 21/p. 54[復習 問題]解答	【復習】指定教科書p. 2 ・ 学習の定義を理解する 【復習】指定教科書p. 41-55 ・ 学習性行動の基礎を理解する	60
3. 4	古典的条件づけ (2) 条件づけの強化 ・ 条件刺激と無条件刺激の時間的關係 ・ 味覚嫌悪学習 古典的条件づけ (3) 条件づけの消去 ・ 消去法 ・ 自然回復	講義 討議: 「味覚嫌悪学習」について	【復習】指定教科書p. 6-8 【復習】指定教科書p. 56-68 ・ 古典的条件づけの基本的手続きを理解する。・ 生活場面での「自然的回復」現象を列挙してみる。	60
5. 6	古典的条件づけ (4) 汎化と弁別 ・ 恐怖の条件づけ ・ 実験神経症 古典的条件づけ (5) 臨床応用 ・ PTSDの機序 まとめ: 古典的条件づけ	講義 演習: p. 74-75[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 11-13 ・ 条件づけで強化された不安や恐怖等のネガティブ感情は消去されにくいことを理解する。	60
7. 8	オペラント条件づけ (1) 基本原理と典型例 ・ スキナーの実験 オペラント条件づけ (2) 条件づけの型 ・ 報酬訓練 ・ 罰訓練 ・ 逃避/回避訓練	講義	【復習】指定教科書p. 43-64 【復習】指定教科書p. 149-154 ・ オペラント条件づけの基本的手続きを理解する。	60
9. 10	オペラント条件づけ (3) 強化スケジュール ・ 連続強化 ・ 部分強化 オペラント条件づけ (4) 消去 ・ 連続強化/部分強化と消去抵抗	講義 討議: ギャンブルの心理を学習理論で考察する	【復習】指定教科書p. 64-74 ・ 私たちの生育過程や日常生活も強化スケジュールで条件づけられている場面が多くあることを理解する。	60
11. 12	オペラント条件づけ (5) 正・負の強化と弱化 ・ 日常場面での強化と弱化 オペラント条件づけ (6) 動機づけ ・ 迷信行動 ・ 罰の功罪 ・ 学習性無力感 まとめ: オペラント条件づけ	講義 演習: p. 74/96[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 74-92 ・ 教育場面や日常生活場面で使用されている「正の弱化 (罰)」の効果について、各自の体験に基づいて考察してみよう。	60
13. 14	問題解決 ・ 試行錯誤学習 (ソーニダイクの実験) ・ 洞察 (ケーラーの実験) ・ 潜在学習 (トールマンの実験) ・ 過去経験の正・負の影響	講義 演習: p. 109[水瓶問題]の体験	【復習】指定教科書p. 98-118 ・ 「ひらめき」が思い浮かんだ瞬間を思い起こし、それまでの過去の経験の影響を考えてみよう。	60
15	まとめ 古典的条件づけとオペラント条件づけ 問題解決	講義 演習: p. 119[復習問題]解答と解説	【予習】指定教科書p. 2-119 国試過去問の関連問題を通して、理解を深める。	60

【科目名】 学習・言語心理学Ⅱ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0070-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を習得していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) グラフィック学習心理学: 行動と認知/ 山内光哉・春木豊(編著)/ サイエンス社(2001/3/10)/ ¥2,890(税込) 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う		

・成績評価基準は全学子別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	技能学習(1) ・学習曲線 ・技能と脳 技能学習(2) ・結果の知識 ・条件：全習法/分習法、集中練習/分散練習	講義 一部演習	【復習】指定教科書p. 121-133 感覚系と運動系の協応からなる技能(スマホやPCの操作, 自転車や自動車の運転, 楽器演奏, スポーツ等)は日常生活に必須であることを理解する。	60
3. 4	技能学習(3) ・技能の記憶 ・レミニセンス ・転移 技能学習(4) ・効果的な学習法(構え) ・熟達と脳	講義	【復習】指定教科書p. 134-143 技能の学習は類似した技能の習得にもなっている, ある筋肉系の学習が他の筋肉系の学習を促進する現象を理解する。【復習問題】指定教科書p. 143	60
5. 6	社会的学習(1) ・定義 ・観察学習 ・模倣学習 社会的学習(2) ・社会的学習理論から考察する攻撃行動	講義 一部討議：・いじめや虐待の防止を学習理論から提案する。	【復習】指定教科書p. 145-159 学習は, 自分自身の体験からのみではなく, 他者の体験を見たり聞いたりするだけで自身も学習することができることを理解する。	60
7. 8	社会的学習(3) ・社会的学習理論のポジティブな側面とネガティブな側面 社会的学習(4) ・観察学習による効果的な動機づけ・自己効力感	講義 演習 p. 165[復習問題]解答	【復習】指定教科書p. 160-164 バンデューラの社会的学習理論に基づくセルフ・エフィカシーの概念を理解する。 【復習問題】指定教科書p. 165	60
9. 10	言語学習(1) 言語の機能(役割) 言語学習(2) 言語の獲得 ・N. Chomskyの言語理論 ・言語発達と概念形成 ・母語と外国語の獲得	講義 演習 p. 205[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 167-205 子どもの音声言語の発達過程(母語の音韻獲得)を理解する。言語獲得の「臨界期仮説」については、その科学的根拠を各自で調べる。	60
11. 12	言語学習(3) 言語と思考 ・内言/外言・J. PiagetとL. S. Vygotskyの論争 言語学習(4) 言語と脳 ・Broca野 ・Wernicke野	講義 演習：言語のしくみを脳の図解から理解する	【復習】指定教科書p. 207-226 言語が思考に果たす役割を理解するとともにその障害への適切な支援法を考案する。言語及び思考という高次脳機能を脳科学の観点からも理解する。	60
13. 14	言語学習(5) 言語・コミュニケーション障害 ・談話・会話の管理能力 ・失語症 ・失読失書 ・神経発達症群 言語学習(6) 障害への適切な支援 ・機能的障害 ・器質性障害	講義 視聴覚教材の活用	【復習】指定教科書p. 272-294 言語及びコミュニケーション障害の多様性への理解を深め, 適切な支援法を考案する。 【復習問題】 p. 294-295	60
15	まとめ	講義 演習：国試過去問の関連問題	【予習】指定教科書p. 167-295 国試過去問の関連問題を通して, 理解を深める。	60

【科目名】公認心理師の職責Ⅰ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 教科書の内容に沿って講じていきます。この講義はアクティブラーニングを用います。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑧を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがある。		
【一般教育目標(GIO)】 公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。		
【行動目標(SB0)】 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】 野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円＋税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	公認心理師とはどのような資格か	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理支援に必要な技能（コンピテンシー）	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理支援の専門職になるために	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理支援の専門職として働くために	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	公認心理師の今後の展開	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	公認心理師の法的義務と倫理	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		公認心理師の職責Ⅱ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】		専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0005-2	（メールアドレス）
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	（オフィスアワー）12:40～13:30（月～金、火除く）
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
教科書の内容に沿って講じていきます。この講義はアクティブラーニングを用います。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑧を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがある。					
【一般教育目標(GIO)】					
公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房（2,400円＋税）					
【参考書】					
野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房（2,000円＋税） 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館（2,200円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	情報の適切な取り扱い	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	チームや地域で連携して働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	保健医療分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	福祉分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	教育分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】心理学研究法Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目では心理学の主要な研究手法である実験法、調査法について主に解説します。実際の研究事例を用いながらそれぞれの研究法の内容について学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-2 (方法) 毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。実際に研究デザインを組み立てる演習を組み入れながら進行する。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学研究がどのような手法で行われているのかを、特に実験法および調査法による具体的な研究方法の手順を学びながら理解することを目指す。 【行動目標(SB0)】 心理学研究法における実験法について説明ができる。 心理学研究法における調査法について説明ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 三浦 麻子他(編)／心理学研究法／ミネルヴァ書房／2020年／2,650円		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・実験法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における実験法の概要を理解 する	1 2 0
3・4	・実験計画と研究デザイン	講義	講義プリントの復習 実験法における計画の立案の流れに ついて理解する	1 2 0
5・6	・実験結果を歪める要因	講義	講義プリントの復習 実験法における剰余変数をはじめと した結果を歪める要因について理解 する	1 2 0
7・8	・実験法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 実験結果の統計学的検定方法につい て理解する	1 2 0
9・10	・調査法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における調査法の概要を理解 する	1 2 0
11・12	・調査対象者の選択	講義	講義プリントの復習 調査法において対象者を募る際の注 意点や倫理的配慮について理解する	1 2 0
13・14	・調査結果の整理	講義	講義プリントの復習 調査の結果得られたデータのまとめ 方について理解する	1 2 0
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	1 2 0

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	調査法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 調査法により得られたデータの統計学的処理方法について理解する	120
3・4	観察法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学研究における観察法全体の概要を理解する	120
5・6	観察法における量的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた量的データの処理方法について学ぶ	120
7・8	観察法における質的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた質的データの処理方法について学ぶ	120
9・10	面接法について	講義	講義プリントの復習 構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いについて理解する	120
11・12	文献研究について	講義	講義プリントの復習 文献研究の意義、文献の検索方法について理解する	120
13・14	心理学研究の進め方	講義	講義プリントの復習 具体的な心理学の研究の進め方、レポートや論文執筆の作法について理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

【科目名】		心理学統計法 I	【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0020-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～木曜日 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的検定について電卓を使ってその方法を練習します。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓（√機能のついた電卓）を持参してください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。				
【講義概要】				
(目的)				
統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2、R-2 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。				
(方法)				
心理統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。 この講義はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標 (GIO)】				
統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析について説明ができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
授業資料を毎回配布します。				
【参考書】				
吉田（著）本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房，2018年，¥2,750				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストの成績と授業への参加態度を総合して評価する。 試験、小テストの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 心理学の学びに統計学が何故必要なのか	講義	心理学領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3-4	種々の変数について	講義・演習	心理学で扱われる種々の変数の違いを説明できる	120
5-6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7-8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9-10	散布度（分散と標準偏差）	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11-12	共分散と相関（１）	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13-14	共分散と相関（２）	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】心理学統計法Ⅱ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0025-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】		
(目的)		
統計学的な知識の習得を通じて行動やところを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2、R-2 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。		
(方法)		
心理学統計法Ⅰで学んだ記述統計の知識を土台として、推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】		
統計学的な考え方を身に着けるために、推測統計の基礎を理解する。		
【行動目標(SB0)】		
推測統計の考え方について説明ができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
授業資料を毎回配布します。		
【参考書】		
山田・村井(著) よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥2,800+税		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストの成績と授業への参加態度を総合して評価する。 試験、小テストの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	共分散と相関 (3)	講義・演習	共分散と相関の内容を理解できる	120
3-4	順位相関とクロス集計	講義・演習	順位相関とクロス集計を理解できる	120
5-6	推測統計について	講義・演習	推測統計および統計的仮説検定の意味を理解できる	120
7-8	正規分布と信頼区間	講義・演習	正規分布と信頼区間の考え方を理解できる	120
9-10	統計的仮説検定	講義・演習	統計的仮説検定の考え方を理解できる	120
11-12	対応のないt検定	講義・演習	対応のないt検定の考え方、またどのような場合に適用されるのかを理解できる	120
13-14	対応のあるt検定	講義・演習	対応のあるt検定の考え方、またどのような場合に適用されるのかを理解できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120

【科目名】心理学実験Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0030-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください)。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】 (目的) 主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) 15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。		
【行動目標(SBO)】 実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。 データの処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 実験・実習で学ぶ心理学の基礎／認定心理士資格認定委員会編集／日本心理学会／2,700円(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 授業への参加態度も評価に含みます。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。		

レコードの勝負の返却は行いません。ノートバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション ●実験1（鏡映描写） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	●実験1（鏡映描写） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	●実験1（鏡映描写） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	●実験2（触二点閾） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	●実験2（触二点閾） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	●実験2（触二点閾） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	●実験3（錯視） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	●実験3（錯視） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・18	●実験3（錯視） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・20	●実験4（記憶） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
21・22	●実験4（記憶） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
23・24	●実験4（記憶） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・26	●実験5（パーソナルスペース） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
27・28	●実験5（パーソナルスペース） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
29・30	●実験5（パーソナルスペース） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

【科目名】	心理学実験Ⅱ	【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0035-1
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修
【単位数】	1	【コマ数】	30
【注意事項】		(メールアドレス)	
(受講者に関わる情報・履修条件)			
本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。			
【講義概要】		(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30	
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
・本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください)。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。			
(目的)			
主的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2			
(方法)			
15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。 この講義はアクティブラーニングを用います。			
【一般教育目標(GIO)】			
心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。			
【行動目標(SBO)】			
実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。 データの処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
授業資料を毎回配布します。			
【参考書】			
実験・実習で学ぶ心理学の基礎／認定心理士資格認定委員会編集／日本心理学会／2,700円(税込)			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 授業への参加態度も評価に含みます。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 レポートの解答の訂正は行いますが、授業中に必要に応じて行います。			

レコードの勝負の返却は行いません。ノートバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	●実験1（ストループテスト） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	●実験1（ストループテスト） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	●実験1（ストループテスト） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	●実験2（社会的促進） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	●実験2（社会的促進） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	●実験2（社会的促進） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	●実験3（コミュニケーション） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	●実験3（コミュニケーション） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・1 8	●実験3（コミュニケーション） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	●実験4（調査法） 実験の説明、データ収集	講義 演習	調査データをまとめる	120
21・2 2	●実験4（調査法） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	調査データをまとめる	120
23・2 4	●実験4（調査法） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	●実験5（観察法） 実験の説明、データ収集	講義 演習	観察データをまとめる	120
27・2 8	●実験5（観察法） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	観察データをまとめる	120
29・3 0	●実験5（観察法） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

【科目名】	心理学実験Ⅲ	【担当教員】	大越 陽平
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0040-1
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ
		(メールアドレス)	
		ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com	
		(オフィスアワー) 授業内でお伝えします。	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。教育・福祉分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。本実験演習は、グループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。ノートパソコンを持参して下さい。合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。			
【講義概要】			
(目的)			
心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な①実験計画の立案の方法、②統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2			
(方法)			
毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 試験レポートの解答例は必要に応じて説明、フィードバックを行う。			
【一般教育目標(GIO)】			
臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。			
【行動目標(SBO)】			
こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
心理学基礎実験を学ぶ データ収集からレポート執筆まで／大和田智文／鈴木公啓（叢書出版）			
【参考書】			
村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592（税込）			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-4	■オリエンテーション ■心理検査について 演習の心得、報告書の作成	講義 演習	資料配布	225
5-16	実験1) 知能検査 知能検査の歴史, 田中ビネー検査, ウェクス ラー式知能検査	講義 演習	資料配布	675
17-28	実験2) 性格検査 TEG (東大式エゴグラム)	講義 演習	資料配布	675
29-30	実験3) 認知症のスクリーニング検査 (HDS-R、 MMSE、CDT)	講義 演習	資料配布	225

【科目名】心理学実験Ⅳ		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0045-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30コマ	(オフィスアワー) 授業内で知らせます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。教育・福祉分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。本実験演習は、グループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【講義概要】 (目的) 心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な①実験計画の立案の方法、②統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) 毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。		
【一般教育目標(GIO)】 臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。		
【行動目標(SB0)】 こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 心理学基礎実験を学ぶ データ収集からレポート執筆まで／大和田智文／鈴木公啓（叢書出版）		
【参考書】 村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	実験3) SCT(文章完成法)	講義 演習	資料配布	120
3-14	実験4) MMPI(性格検査)	講義 演習	資料配布	675
15-22	実験5) バウムテスト，風景構成法	講義 演習	資料配布	450
23-30	実験6) P-Fスタディ	講義 演習	資料配布	450

【科目名】感情・人格心理学Ⅱ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0055-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】		
(目的)		
心理学における感情の位置づけ、およびその諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】		
感情の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情の位置づけについて理解することを目指す。		
【行動目標(SB0)】		
感情喚起についての理論について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
毎回資料を配布します。		
【参考書】		
大平秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ (1,900円+税)		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感情の諸理論 (1) 抹消起源説、中枢起源説	講義	講義プリントの復習 感情の感情喚起に関する抹消起源説 と中枢起源説の違いをまとめる	1 2 0
3・4	感情の諸理論 (2) その他の理論	講義	講義プリントの復習 感情の感情喚起に関するその他の理 論についてまとめる	1 2 0
5・6	感情の発達と個人差	講義	講義プリントの復習 感情が発達するプロセスと発達過程 で生じる個人差をまとめる	1 2 0
7・8	感情と認知および言語との関係	講義	講義プリントの復習 感情と認知および言語との関係につ いてまとめる	1 2 0
9・10	感情と病理 (1) 不安障害、PTSD	講義	講義プリントの復習 感情と不安障害、PTSDとの関係をま とめる	1 2 0
11・12	感情と病理 (2) 抑うつ障害	講義	講義プリントの復習 感情と抑うつ障害との関係をまとめ る	1 2 0
13・14	感情と心身の健康	講義	講義プリントの復習 感情と心身の健康の関係についてま とめる	1 2 0
15	まとめ	講義	これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】感情・人格心理学Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0050-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】		
(目的)		
心理学における人格の位置づけ、およびの諸理論について理解することを目指す。具体的には遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】		
人格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における人格の位置づけについて理解することを目指す。		
【行動目標(SB0)】		
古典的な人格理論について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
授業資料を毎回配布します。		
【参考書】		
吉川眞理（編著）『よくわかるパーソナリティ心理学』 ミネルヴァ書房（2,600円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人格に関する諸理論（１）類型論と特性論	講義	講義プリントの復習 類型論と特性論の違いをまとめる	120
3・4	人格に関する諸理論（２）精神力動的アプローチ	講義	講義プリントの復習 精神力動的アプローチの内容につ いてまとめる	120
5・6	人格に関する諸理論（３）行動主義的アプローチ 、人間学的アプローチ	講義	講義プリントの復習 行動主義的アプローチ、人間学的ア プローチについてまとめる	120
7・8	人格の形成過程（１）性格と発達	講義	講義プリントの復習 性格がどのように発達していくかま とめる	120
9・10	人格の形成過程（２）環境要因と遺伝要因	講義	講義プリントの復習 人格の形成過程に関わる環境要因と 遺伝要因についてまとめる	120
11・12	性格の研究法：実験法、質問紙法、面接法、検査 法	講義	講義プリントの復習 性格を研究するための種々の方法に ついてまとめる	120
13・14	性格特性と疾患、パーソナリティ障害	講義	講義プリントの復習 性格特性と疾患、パーソナリティ障 害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】 神経・生理心理学 I		【担当教員】 加藤 真由美
【授業区分】 専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】 5-30-0060-2	(メールアドレス) ma.kato@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 「脳の構造と機能」について本講義では、精神・心理機能に関連している部分を主体に説明します。 神経解剖学、生理学の学問的領域を含みます。		
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、 ③脳神経系疾患への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：R-2、R-3 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義終了後に、小テストを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語等の神経心理学的メカニズムを説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④神経心理学的な観点と心理学的観点からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。 【行動目標(SBO)】 言語と思考、外界（環境）を知るしくみとその認知機能障害との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の障害が日常生活や社会活動全般に及ぼす影響を神経心理学的観点からも推察でき、適切に支援することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布します。		
【参考書】 緑川晶ほか（著）「公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学」医歯薬出版 ￥3,300（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	脳の構造と機能	講義	講義ノートの作成	240分
3・4	脳と意識	講義	講義ノートの作成	240分
5・6	高次脳機能障害の4大症状	講義	講義ノートの作成	240分
7・8	虐待と脳①	講義	講義ノートの作成	240分
9・10	虐待と脳②	講義	講義ノートの作成	240分
11・12	前頭前野の機能	講義	講義ノートの作成	240分
13・14	脳の機能局在と障害の関連	講義	講義ノートの作成	240分
15・試験	まとめ 試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	240分

【科目名】 神経・生理心理学Ⅱ		【担当教員】 加藤 真由美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 5-30-0065-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。この授業はアクティブラーニングを用います。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 「脳の構造と機能」について本講義では、精神・心理機能に関連している部分を主体に説明します。神経解剖学、生理学の学問的領域を含みます。		
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。当該科目と学位授与方針との関連性；R-2，R-3 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。講義終了後に、小テストを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語等の神経心理学的メカニズムを説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④心理学的観点からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。 【行動目標(SB0)】 記憶や思考・判断する高次脳機能や感情（情動）と脳機能との関連性を理解できる。 精神疾患について神経心理学的な側面からその機序を理解でき、適切な支援を実践することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布します。 尚、「（神経）解剖学」「（神経）生理学」のテキスト等で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。		
【参考書】 緑川晶ほか（著）「公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学」医歯薬出版(2018/4/6) ￥3,300（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	記憶と記憶障害①	講義	記憶とは何か、脳機能の観点から理解し、記憶障害の支援方法を理解する。講義ノートを作成する。	240分
3, 4	記憶と記憶障害②	講義	記憶とは何か、脳機能の観点から理解し、記憶障害の支援方法を理解する。講義ノートを作成する。	240分
5, 6	脳と生体機能	講義	脳と生体機能の関わりを理解する。講義ノートを作成する。	240分
7, 8	神経伝達物質の役割①	講義	様々な心理作用と脳の関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
9, 10	神経伝達物質の役割②	講義	様々な心理作用と脳の関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
11, 12	神経伝達物質の役割③	講義	様々な心理作用と脳の関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
13, 14	精神疾患と脳	講義	脳の作用機序と精神疾患の関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
15・試験	まとめ 試験	講義	重要キーワードとそれらの意味・概念を理解する。 これまでの講義をもとに講義ノートを作成させる。	240分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	30						50
	思考・推論・創造の力	20	30						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	社会・集団・家族心理学とは何か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	対人認知	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	態度と行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ステレオタイプと偏見	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	向社会的行動と反社会的行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	社会的促進と社会的抑制	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	社会的影響	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	30						50
	思考・推論・創造の力	20	30						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	集団過程	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	社会的相互作用	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	対人関係の形成と発展	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	家族の人間関係	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	ソーシャル・サポート	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	文化と社会心理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	集合行動とマスコミュニケーション	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】障害者・障害児心理学Ⅰ		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0080-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業科目です。大学での障害者（児）心理学に関する教育経験、医療・地域保健機関において言語・高次脳機能障害や精神機能障害等へのリハビリテーションに従事してきた臨床経験から、障害者・障害児の各疾患への理解とその支援法について講じていきます。 将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 講義後にレポート課題を課すことがあります。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) 障害について、日常生活、就学、就労、ライフイベント等において、障害者にとっての障壁を除去する方策を提案できる。 バリアフリー社会、共生社会を実現するため、合理的配慮、適切な心理支援とは何かを考え、実践することができる。 関連法規に基づき策定された障害者施策の基本的な考え方を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当者から資料を受け取り、必ず参照して下さい。 理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 身体障害の特性を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面から理解し、適切な心理支援のあり方を提案できる。 障害児・者の”生きづらさ”を理解し、障害特性に適した心理支援の在り方や家族支援について考察する。 「障害者総合支援法」の理念及び内容の主旨を理解し、障害者・障害児支援の根拠となる法制度を理解できる。 【行動目標(SBO)】 障害児・者が生活を営む上での社会的課題を踏まえ、適切な心理支援を実践できる。 障害により日常生活や社会生活を営む上で生ずる”心のバリア(障壁)”を取り除き、心のバリアフリー化を実践する。 共生社会、インクルーシブ教育の理念を理解し、その実現に務める。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料（関連法規等）を配布します。		
【参考書】 下山晴彦, 佐藤隆夫, 他「障害者・障害児心理学（公認心理師スタンダードテキスト13）」, ミネルヴァ書房(2022/4/18), ￥ 2,640 野島一彦, 繁樹算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房（2020/3/24）, ￥ 2,860 古賀精治（著）「障害者・障害児心理学（放送大学教材 1644）」, NHK出版(2021/3/20), ￥2,970		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が必要な学生は教員と事前にご相談するをお願いします。当 相談するとして不利益が生ずることはありません。		

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。同、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	0		10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	障害とは何か 身体障害、知的障害、精神障害 障害者基本法等の規定に見る「障害」の範囲	講義	【復習】障害の分類を理解する ・国際障害分類(ICIDH) ・国際生活機能分類(ICF)	30
2	障害児・障害者に対する支援(基本) 障害者差別解消法 障害者総合支援法 発達障害者支援法	講義	【復習】障害への支援を考える ・障害受容 ・二次障害 ・エビデンスに基づく障害支援	30
3	身体障害①_視覚障害 障害の理解	講義	【復習】視覚障害の医学・生理学的メカニズムを理解する ・盲 ・弱視	30
4	身体障害①_視覚障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 演習:様々な見えにくさに対する支援を考える	【復習】視覚障害への支援 ・点字 ・歩行 ・バーバリズム ・ブラインディズム	30
5	身体障害②_聴覚障害・平衡機能障害 障害の理解	講義	【復習】聴覚障害の医学・生理学的メカニズムを理解する ・聾 ・難聴(伝音性/感音性)	30
6	身体障害②_聴覚障害・平衡機能障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義、演習:事例検討”聞こえの障害”の特性に応じた適切な支援法を考える	【復習】聴覚障害への支援 ・言語の発達 ・コミュニケーション障害 ・補聴器 ・人工内耳 ・手話	30
7	身体障害③_音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 障害の理解	講義 討議:”話す障害”のそれぞれの特性に応じた支援法を考える	【復習】音声機能障害への支援 ・発声・発語器官 ・構音障害 ・脳機能と言語 ・吃音 ・発達障害	30
8	身体障害③_音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 討議:”食べる障害”に伴う心理的苦痛への支援法を考える	【復習】食べる機能の障害の医学・生理学的メカニズムを理解し、適切な支援法を考えることができる。	30

9	乳幼児における障害の早期発見とその支援	講義	【復習】障害の早期発見の重要性と療育制度を理解する ・母子保健 ・乳幼児健診 ・保育園・幼稚園での支援	30
1 0	特殊教育から特別支援教育へ 理念・制度の見直し	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】障害者施策の歴史的経緯を知る ・生活支援 ・教育支援 ・就学支援	30
1 1	身体障害④_肢体不自由 障害の理解	講義	【復習】肢体不自由の医学・生理学的メカニズムを理解する。 ・脳性まひ ・随伴障害 ・重複障害、重症心身障害	30
1 2	身体障害④_肢体不自由 適切な支援（家族支援を含む）	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】障害施策と医学/教育/医工学的リハビリテーションを知る ・早期療育 ・自立支援 ・訪問教育	30
1 3	身体障害⑤_内部障害 障害の理解と適切な支援（家族支援を含む）	講義	【復習】内部障害の医学・生理学的メカニズムを理解する。 ・心臓、腎臓、呼吸器機能の障害・膀胱、直腸、小腸の機能の障害・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害	30
1 4	身体障害⑤_内部障害 適切な支援（家族支援を含む）	講義 討議：身近な生活からUDとバリアフリーの具体例を探す。	【復習】医学/教育/職業/社会/支援工学リハビリテーションを知る ・医療的ケア ・ホスピタリズム ・ユニバーサル・デザイン(UD)	30
1 5	まとめ	講義	【復習】1 - 14コマ目の重要事項を理解する	60

【科目名】障害者・障害児心理学Ⅱ		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0085-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業科目です。大学での障害者（児）心理学に関する教育経験、医療・地域保健機関において言語・高次脳機能障害や精神機能障害等へのリハビリテーションに従事してきた臨床経験から、障害者・障害児の各疾患への理解とその支援法について講じていきます。 将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 講義後にレポート課題を課すことがあります。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) 障害について、医学・生理学的側面及び心理・社会的側面から理解し、適切な支援のあり方を提案できる。 日常生活、就学、就労、ライフイベント等において、障害者にとっての障壁を除去する方策を提案できる。 バリアフリー社会、共生社会を実現するため、合理的配慮、適切な心理支援とは何かを考え、実践することができる。 関連法規に基づき策定された障害者施策の基本的な考え方を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当者から資料を受け取り、必ず参照してください。 理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 知的障害、発達障害、精神障害の特性を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から捉えることができる。 当事者及び家族への心理支援の在り方を理解する。 「障害者総合支援法」の理念及び内容の主旨を理解し、障害者・障害児支援の根拠となる法制度を理解できる。		
【行動目標(SBO)】 障害児・者が生活を営む上での社会的課題を踏まえ、適切な心理支援を実践できる。 障害により日常生活や社会生活を営む上で生ずる”心のバリア(障壁)”を取り除き、心のバリアフリー化を実践する。 共生社会、インクルーシブ教育の理念を理解し、その実現に務める。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料（関連法規を含む）を配布します。		
【参考書】 下山晴彦, 佐藤隆夫, 他「障害者・障害児心理学（公認心理師スタンダードテキスト13）」, ミネルヴァ書房(2022/4/18), ￥ 2,640 野島一彦, 繁樹算男, 他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房（2020/3/24）, ￥ 2,860 太田 信夫(監), 柿澤 敏文(編)「障害者心理学（シリーズ心理学と仕事 15）」, 北大路書房(2017/7/21), ￥2,310		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学位規定のGPA制度に依る。		

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	知的障害 障害の理解	講義	【復習】知的障害の理解 ・ 知的障害の定義 ・ 知能検査 ・ 知的障害の分類 ・ 適応行動の検査	30
2	知的障害 適切な支援（家族支援を含む）	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	【復習】知的障害者への支援 ・ 療育手帳 ・ 知的障害者更生相談所	30
3	発達障害の理解と適切な支援① 広汎性発達障害 ・ 自閉 ・ アスペルガー症候群	講義	【復習】発達障害の理解 ・ 各障害の特性 ・ 適切な対応（合理的配慮） ・ ソーシャルスキルトレーニング (SST)	30
4	発達障害の理解と適切な支援② 注意欠陥多動性障害（AD/HD） レット症候群 小児期崩壊性障害 （強度）行動障害	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	【復習】発達障害の理解 ・ 各障害の特性 (例：不注意・多動性・衝動性) ・ アセスメント ・ 適切な対応（合理的配慮）	30
5	発達障害の理解と適切な支援③ 学習障害（LD）	講義	【復習】学習障害の理解 ・ LDの定義 ・ 認知処理特性に応じた教育法	30
6	発達障害の理解と適切な支援④ 家族支援と適切な養育 ペアレントトレーニング	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	【復習】家族支援 養育者へ障害特性の理解を促す ・ ペアレントトレーニング	30
7	精神障害の理解① 精神障害の定義（範囲） 適切な心理・社会的対応	講義	【復習】精神障害の理解 ・ 統合失調症 ・ 気分障害 ・ 神経症・ストレス関連障害 ・ パーソナリティ障害 等	30
8	精神障害の理解② 精神障害の定義（範囲） 適切な心理・社会的対応	講義	【復習】精神障害の理解	30

9	精神障害への社会保障制度① ・ 社会福祉 ・ 公的扶助 ・ 保健医療・公衆衛生	講義	【復習】障害等級の理解 ・ 精神障害者保健福祉手帳 ・ 障害等級判定基準	30
1 0	精神障害への社会保障制度② ・ 「社会保険」による障害年金制度	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】支援制度の理解 ・ 障害等級判定基準による公的生活（経済的）支援制度	30
1 1	・ 「大人の発達障害」とは ・ 「高次脳機能障害」とは	講義	【復習】各障害の「定義」の理解と合理的配慮 ・ 記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害など	30
1 2	高次脳機能障害者への生活・就労支援 ・ 自動車運転再開支援	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】地域での生活・就労支援の一環を知る ・ 新潟県内で「運転再開リハ」の実態調査	30
1 3	「就労移行支援」 ・ SST（社会生活技能訓練）	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】合理的配慮を理解する ・ 生活自立支援 ・ 社会参加支援	30
1 4	就労継続支援 ・ 就労継続支援A型 ・ 就労継続支援B型	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】障害者雇用 ・ 障害者への合理的配慮 ・ 自立支援 ・ 社会参加	30
1 5	まとめ ・ 「共生社会」の実現に向けて ・ 「障害者総合支援法」とは	講義	【復習】共生社会の課題を考える ・ 「障害者総合支援法」の理念を理解する	60

【科目名】 心理的アセスメントⅠ		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 5-30-0090-1	(メールアドレス) (オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) スライドによる授業を行う。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、④適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) スライドによる解説を行う。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 試験レポートの解答例は授業内にて説明、フィードバックを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。		
【行動目標(SB0)】 心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版（3,200円＋税）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 小テストと定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。 試験・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは授業内や別途講義にて行いません。		

訳読・レポートの勝負の返却はございません。ノートハックは必妥に心し備守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理的アセスメントの目的及び倫理① 心理的アセスメントの目的	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理的アセスメントの目的及び倫理② 心理的アセスメントの倫理	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理的アセスメントの観点及び展開① エビデンスベイスト・アプローチ	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理的アセスメントの観点及び展開② 生物心理社会モデル	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心理的アセスメントの観点及び展開③ 機能分析、ケースフォーミュレーション	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
11-12	心理的アセスメントの観点及び展開④ 保健医療、福祉の分野における心理的アセスメン トの実際	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心理的アセスメントの観点及び展開⑤ 教育、司法・犯罪、産業・労働の分野における心 理的アセスメントの実際	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	講義の復習をする。	120分

【科目名】心理的アセスメントⅡ		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】5-30-0095-1	（メールアドレス） （オフィスアワー）月木，12:30～13:30
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15コマ	
【注意事項】 （受講者に関わる情報・履修条件） 「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。 （受講のルールに関わる情報・予備知識） 毎回スライドを用いた授業を行います。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 （目的） この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、④適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 （方法） スライドを用いた講義を行う。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 試験レポートの解答例は授業内にて説明、フィードバックを行う。		
【一般教育目標（GIO）】 心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。		
【行動目標（SBO）】 心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし。		
【参考書】 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版（3,200円＋税）		
【評価に関わる情報】 （評価の基準・方法） 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。 試験レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは授業内で補講等に行いません。		

訳読・レポートの勝負の返却はございません。ノートハックは必妥に心し備守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	面接法について① 構造化面接・非構造化面接	講義	講義 関連する文献を読む	240分
3-4	面接法について② 心理面接の進め方、面接の中で用いられる技法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
5-6	観察法について① 自然観察法と実験観察法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
7-8	観察法について② 参与観察法と非参与観察法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
9-10	心理検査法について① 質問紙法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
11-12	心理検査法について② 投映法・作業検査法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
13-14	検査法について③ 知能検査・発達検査	講義	講義 関連する文献を読む	240分
15	まとめ	講義	講義 関連する文献を読む	120分

[illegible]

【科目名】		心理学的支援法Ⅰ		【担当教員】	大越 陽平
【授業区分】		専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0100-1	（メールアドレス） （オフィスアワー）月木，12:30～13:30
【開講時期】		前期	【選択必修】	必修	
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	
【注意事項】 （受講者に関わる情報・履修条件） 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育・福祉分野での心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。本講義の内容は心理学的支援法Ⅱと連続しています。 （受講のルールに関わる情報・予備知識） 毎回、講義資料を配布します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。					
【講義概要】 （目的） この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑥を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義 ③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮 ⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 （方法） 毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 レポートの解答例は授業内にて説明，フィードバックを行う。					
【一般教育目標（GIO）】 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。					
【行動目標（SB0）】 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。					
【参考書】 適宜紹介する。					
【評価に関わる情報】 （評価の基準・方法） 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	50						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	25						55
	思考・推論・創造の力	20	25						45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション，心理的支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	精神分析・力動的心理療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	芸術療法・表現療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	行動分析	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	認知療法・認知行動療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	ストレスと心の健康	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

【科目名】 心理学的支援法Ⅱ		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】 5-30-0105-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	
(オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回、講義資料を配布します。 本講義の内容は心理学的支援法Ⅰと連続しています。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑥を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義 ③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮 ⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 レポートの解答例は授業内にて説明、フィードバックを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。		
【行動目標(SB0)】 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。		
【参考書】 適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		44	56						100
評価指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション, パーソンセンタード・アプローチ	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	集団療法・グループカウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	家族療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	カウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	技法選択のエビデンス	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	コミュニティアプローチ, 訪問・地域支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	コミュニケーション, プライバシー, 支援者支援, 健康教育	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	30	20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20	10					50
	思考・推論・創造の力	20	10	10					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・ストレスとは何か ・ストレッサーとストレス反応	講義	講義プリントの復習 心理学的観点からストレスの概要を 理解する。	1 2 0
3・4	・ストレスとそのコントロール ・コーピングとソーシャルサポート	講義・演習	講義プリントの復習 ストレス緩和要因について理解す る。	1 2 0
5・6	・ストレス関連疾患（１） -心身症 -性格特性と関連のある疾患	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
7・8	・ストレス関連疾患（２） -心的外傷後ストレス障害について	講義	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
9・10	・ストレス関連疾患（３） -不安障害について	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
11・12	・ストレス関連疾患（４） -パニック障害について	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
13・14	・ストレス関連疾患（５） -強迫性障害について	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	1 2 0

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	30	20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20	10					50
	思考・推論・創造の力	20	10	10					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	医療現場における心理的支援（１） ・ チーム医療と多職種連携	講義・演習	講義プリントの復習 チーム医療と多職種連携について理 解する。	1 2 0
3・4	医療現場における心理的支援（２） ・ ASD、ADHD	講義・演習	講義プリントの復習 ASD及びASDの症状、心理的支援のあ り方を理解する。	1 2 0
5・6	医療現場における心理的支援（３） ・ SLD、知的能力障害	講義	講義プリントの復習 SLD及び知的能力障害の症状、心理的 支援のあり方を理解する。	1 2 0
7・8	医療現場における心理的支援（４） ・ 統合失調症	講義	講義プリントの復習 統合失調症の症状、治療法、心理的 支援のあり方を理解する。	1 2 0
9・10	地域保健活動における心理的支援（１） ・ 認知症高齢者支援	講義	講義プリントの復習 認知症高齢者やその家族への心理支 援について理解する。	1 2 0
11・12	地域保健活動における心理的支援（２） ・ 発達段階の理解と子育て支援	講義	講義プリントの復習 発達段階の理解と保健・医療分野に おける心理支援について理解する。	1 2 0
13・14	産業保健分野における心理的支援 ・ 休職者の職場復帰（リワーク）支援	講義	講義プリントの復習 産業保健分野における心理支援につ いて理解する。	1 2 0
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】福祉心理学 I		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0130-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業内でお知らせします。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は実務経験者対応科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回の授業内で出席を兼ねた小レポートの記入を求める。 ※レポートのフィードバックは授業内に行う。 定期試験は各回の授業で配布する資料すべて持ち込み可とする。 課題やレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めるが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①福祉現場において生じる問題及びその背景、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。		
【一般教育目標 (GIO)】 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。		
【行動目標 (SB0)】 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 中島健一（編）『福祉心理学』遠見書房（2,600円＋税）		
【参考書】 公認心理師カリキュラム準拠 福祉心理学		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30	10				40
	思考・推論・創造の力			30	10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	イントロダクション～講義についての説明 社会福祉の展開と心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	暴力被害者への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	子ども虐待①	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	子ども虐待②	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	社会的養護と心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	子どもと親への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	障害・疾病のある人への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

【科目名】福祉心理学Ⅱ		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0130-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業内でお知らせします。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は実務経験者対応科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回の授業内で出席を兼ねた小レポートの記入を求める。 ※レポートのフィードバックは授業内に行う。 定期試験は各回の授業で配布する資料すべて持ち込み可とする。 課題やレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めるが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①福祉現場において生じる問題及びその背景、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。		
【行動目標(SB0)】 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 中島健一（編）『福祉心理学』遠見書房（2,600円＋税）		
【参考書】 公認心理師カリキュラム準拠 福祉心理学		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30	10				40
	思考・推論・創造の力			30	10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	高齢者の心理支援①	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	高齢者の心理支援②	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	生活困窮・貧困者への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	ひきこもり・自殺予防の心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	精神障害者への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	家族・職員への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	多職種協働と心理職の位置づけ	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

収来への参加態度も詳細に召かまり。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	「教育・学校心理学」のとらえ方	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	教育・学校の組織・制度と支援の関係	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	学習・授業の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	学級経営の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	生徒指導の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	スクールカウンセラーとは？	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	キャリア教育の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		教育・学校心理学Ⅱ	【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0095-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
教科書の内容に沿って講じていきます。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①教育現場において生じる問題及びその背景 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法)				
教科書の内容に沿って講じる。教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。この講義はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GIO)】				
教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。				
【行動目標(SBO)】				
教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
小野瀬雅人 編 『教育・学校心理学』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)				
【参考書】				
石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房 (2,600円＋税) 石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房 (3,800円＋税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社 (2,400円＋税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 授業中の参加態度も評価に含まれる。				

収来への参加態度も詳細に召かまり。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	メンタルヘルス教育の課題と実践	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	健康教育の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	特別支援教育の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	教育・学校をめぐる新たな課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	学校・教育システムの連携による支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	多様な職種によるチーム援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	教育・学校心理学に基づく公認心理師に求められる実践と役割	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		司法・犯罪心理学Ⅰ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0130-2	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 12:40～13:30（月～金、火除く）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
教科書の内容に沿って講じる。 司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社（2,300円＋税）					
【参考書】					
原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2,400円＋税） 門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2,200円＋税） 原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 講談社（2,700円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪の生物学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	犯罪の心理学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	犯罪の社会学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	暴力犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	性犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	ドメスティック・バイオレンス、ストーキング、 虐待	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	窃盗・強盗・放火	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		司法・犯罪心理学Ⅱ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0135-2	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 12:40～13:30（月～金、火除く）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
教科書の内容に沿って講じる。 司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社（2, 300円＋税）					
【参考書】					
原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2, 400円＋税） 門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2, 200円＋税） 原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 講談社（2, 700円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪捜査	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	司法・裁判	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	防犯	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	矯正・更生保護	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動変容	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法面接	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	犯罪被害者支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		人体の構造と機能及び疾病Ⅰ		【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0145-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月・水 8:30～17:30 (保健室)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、看護の実務経験がある教員による授業科目です。心理職は、こころの専門職として人間の仕組みを「こころ」と「からだ」の両面から理解する必要があります。身体各部の構造を知り、どのように機能しているのか、また「こころ」とどのような繋がりがあるのかを理解し、専門的知識を身につける必要があります。看護師としての臨床経験から、身体の構造と機能及び疾患について、具体的にイメージができるよう、また専門用語を知識として定着できるように講じていきます。この科目は、公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目は、10分以上の遅れで遅刻となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。この講義のほかに、「解剖学」や「生理学」、「内科学」などの医学関連科目と関連し、より医学的専門知識の理解を深めることができます。毎回、講義の前に知識のポイントを復習します。小テストは正解を解説します。生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予復習において自由に利用してください。					
【講義概要】					
(目的)					
公認心理師とは、「保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識と技術をもって心理に関する様々な支援を行う者」とされています。心理に関する専門家として、人の「こころ」と「からだ」の成長・発達を解剖学的に理解し、日常生活への関連性を踏まえた支援を行うため、専門的医学知識を修得することを目的とします。人体の構造と機能及び疾患Ⅰは、正常な人体構造と機能の基礎知識を学んでいきます。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：R-1					
(方法)					
主として教科書を中心に、パワーポイントを使用し対面による講義を行います。					
内容については指定教科書に準じます。					
関連資料がある場合は必要に応じて配布します。					
【一般教育目標(GIO)】					
・こころの問題とそれが原因となる身体的問題を生物学的に理解するため、正常な人体構造と機能の基礎知識を修得する。					
・疾病がもたらす心理面への影響や支援のありかたを考察するため、人体についての医学的知識を修得する。					
【行動目標(SBO)】					
・身体各臓器の構造と機能を説明できる。					
・人体の解剖学的用語を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
武田克彦編著、公認心理師カリキュラム準拠人体の構造と機能及び疾病第2版、医歯薬出版、2024年、¥3,300 (税別)					
【参考書】					
さわ研究所講師陣著、解剖と疾患と看護がつながる、医歯薬出版、2015年					
小林芳郎編著、健康のための心理学、保育出版、2012年					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・出席点は評価に含みません。					
・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。					
・成績評価は、小テストの点数及び期末試験により総合的に評価する。					
※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。					

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	オリエンテーション (シラバスの説明) 細胞、組織、器官、器官系	講義	予習：教科書P14～19を読んでおく 復習：1. 2コマ小テスト	30分 15分
3・4	身体の構造と機能 物質の取り込み：呼吸器系・消化器系	講義	予習：教科書P19～22を読んでおく 復習：3. 4コマ小テスト 1. 2コマ振り返り	30分 15分 15分
5. 6	身体の構造と機能 物質の循環と排泄：血液・循環器系・泌尿器系	講義	予習：教科書P22～26を読んでおく 復習：5. 6コマ小テスト 3. 4コマ振り返り	30分 15分 15分
7. 8	身体の構造と機能 個体の複製：生殖系 形の維持と運動：運動器系	講義	予習：教科書P26～31を読んでおく 復習：7・8コマ小テスト 5・6コマ振り返り	30分 15分 15分
9・10	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：感覚器系	講義	予習：教科書P33～38を読んでおく 復習：9・10コマ小テスト 7・8コマ 振り返り	30分 15分 15分
11・12	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：神経系	講義	予習：教科書P38～49を読んでおく 復習：11. 12コマ小テスト 9・10コマ振り返り	30分 15分 15分
13・14	身体の構造と機能 心に関わる統合器系：内分泌系	講義	予習：教科書P49～53を読んでおく 復習：13・14コマ小テスト 11・12コマ振り返り	30分 15分 15分
15	身体の構造と機能 全コマのまとめ（各コマの小テストで振り返り）	講義	予習：1～14コマをまとめる 復習：小テストで振り返り	30 15

【科目名】		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ		【担当教員】	村井 絹子
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0150-2	(メールアドレス) murai@05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月・水 8：30～17：30（保健室）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本科目は、看護の実務経験のある教員による授科目です。人体の構造と機能Ⅰの知識を土台に、解剖学的構造と疾病の関係を深めていきます。疾病の原因、病態、治療、疾病が与える身体的影響、心理的影響について、看護師としての臨床経験をもとに、対象者の状態を具体的に講じていきます。人の一生を縦断的にみた加齢に伴う疾病について学び、健康への影響についても理解を深めていきます。この科目は公認心理師の資格を取得するための必修科目となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では、10分以上の遅れで遅刻となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。この講義のほかに、「解剖学」や「生理学」、「内科学」などの医学関連科目と関連し、より医学的専門知識の理解を深めることができます。毎回講義の前に、知識のポイントを復習します。小テストは正解を解説し返却します。生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予復習において自由に利用してください。					
【講義概要】					
(目的)					
生命の誕生から老化における身体の変移を理解し、各ライフステージで発症しやすい臓器別の疾患の概要、治療についての医学的知識を深めることを目的としています。人体の構造と機能Ⅰで得られた知識を基に、重要な疾病、社会環境の変化によって出現した疾病、生命を脅かす疾病、重大な感染症、心身の障害についても考え、これらの成り立ち、予防・治療についても説明できるよう学んでいきます。心理の専門職として、各疾患の心理的アプローチや社会的支援に繋がる医学的知識を修得することを目的としています。当該科目と学位授与方針等との関連性：R-1					
(方法)					
主として教科書を中心に、パワーポイントを使用し対面による講義を行います。内容については指定教科書に準じます。関連資料がある場合は必要に応じて配布します。					
【一般教育目標(GIO)】					
人体の構造と機能Ⅰの医学的基礎知識を活用し、身体各部の疾患、原因、病態、治療を踏まえた心理面的アプローチ方法を習得するため、人間を「こころ」と「からだ」の両面から理解する。 健康増進対策を実践するため、心理職がこころの健康づくりに果たす役割について理解する					
【行動目標(SB0)】					
・身体各部の疾患の成り立ちを、医学的知識を用いて説明できる。 ・心理職が、「こころ」と「からだ」の健康づくりに果たす役割について述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
武田克彦編著、公認心理師カリキュラム準拠人体の構造と機能及び疾病第2版、医歯薬出版、2024年、¥3,300（税別）					
【参考書】					
さわ研究所講師陣著、解剖と疾患と看護がつながる、医歯薬出版、2015年					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則規定GAP制度に従う。 ・成績評価は、小テストの点数及び期末試験により総合的に評価する。 ※障害のある学生が必要な場合は教員と事前に相談することをお願いいたします。					

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	疾病の概要と特徴 小児の成長発達と疾患 小児診療の特殊性、小児の成長と発達 小児に特徴的な疾患と障害 先天性疾患、遺伝性疾患	講義	予習：教科書P55～68を読んでおく 復習：1・2コマ小テスト	30分 15分
3・4	疾病の概要と特徴 加齢と疾患 加齢に伴う生理的変化の特徴 各器官系の老化と影響	講義	予習：教科書P69～81を読んでおく 復習：1・2コマ振り返り 3・4コマ小テスト	30分 15分 15分
5・6	疾病の概要と特徴 内科疾患 生活習慣病の実態と疾患への影響 内科疾患の特徴と実態	講義	予習：教科書P84～96を読んでおく 復習：3・4コマ振り返り 5・6コマ小テスト	30分 15分 15分
7・8	疾病の概要と特徴 がん がんの理解（疫学と特徴）、小児がんの理解 感染症 感染症の特徴、感染対策	講義	予習：教科書P97～119を読んでおく 復習：5・6コマ振り返り 7・8コマ小テスト	30分 15分 15分
9・10	疾病の概要と特徴 脳血管疾患 脳卒中の病型と特徴、脳血管疾患の主要症状 神経疾患 神経疾患の特徴、難病の各症状	講義	予習：教科書P120～139を読んでおく 復習：7・8コマ振り返り 9・10コマ小テスト	30分 15分 15分
11・12	疾病の概要と特徴 機能性疾患 てんかん、機能性神経疾患の分類、病態、治療 整形外科疾患 運動器の代表的疾患、ICF	講義	予習：教科書P140～167を読んでおく 復習：9・10コマ振り返り 11・12コマ小テスト	30分 15分 15分
13・14	疾病の概要と特徴 緩和ケア、終末期ケア 緩和ケアの概要、サイコオンコロジーの概要 健康と健康増進 健康の定義、疾病予防、ヘルスプロモーション	講義	予習：教科書P182～205を読んでおく 復習：11・12コマ振り返り 13・14コマ小テスト	30分 15分 15分
15	疾病の概要と特徴 1コマ～14コマの振り返り	講義	予習：全コマのポイントを振り返る	45分

【科目名】	食の心理学		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応				
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、食行動の基礎と食行動変容のプロセスを臨床的観点から解説します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
第一に食行動の基礎および食行動をはじめとする健康関連行動に関わる心理学的・行動科学的理論の理解を目標とする。第二に臨床現場における食行動変容の実践について、具体的な症例を対象としながら理解することを目標とする。				
(方法)				
毎回の授業において講義動画を配信する。				
【一般教育目標(GIO)】				
心理学的・行動科学的観点から食行動に関する知識を習得するため、発達・学習・社会・臨床心理学等各領域の観点から食行動の基礎と臨床を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
・食物の嗜好や嫌悪の獲得プロセスで学習理論が果たす役割を説明できる ・食行動の抑制、促進にかかわる社会文化的要因を説明できる ・食行動変容が起こるプロセスを理論を基に説明できる				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は使用しない				
【参考書】				
今田 純雄(編)／現代心理学シリーズ16 食行動の心理学／培風館／1997年／1,870円 中島 義明他(編)／たべるー食行動の心理学(人間行動学講座)／朝倉書店／1996年／3,850円				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。 ・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・学問としての食行動とは ・発達の観点からみた食行動	講義	講義動画を振り返っての復習 各発達段階における食行動の特徴を 理解する	1 2 0
3・4	・学習・動機づけの観点からの食行動	講義	講義動画を振り返っての復習 食物への嗜好、嫌悪が獲得される上 で重要な学習理論を理解する	1 2 0
5・6	・社会文化的観点からの食行動	講義	講義動画を振り返っての復習 食行動が抑制あるいは促進される社 会文化的要因を理解する	1 2 0
7・8	・食行動を中心とした健康関連行動についての理 論	講義	講義動画を振り返っての復習 食行動を中心とした健康的な生活習 慣を維持、阻害する要因に関する理 論を理解する	1 2 0
9・10	・食行動の異常	講義	講義動画を振り返っての復習 摂食障害の病態を理解する	1 2 0
11・12	・糖尿病患者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義動画を振り返っての復習 7・8回で学んだ理論を基にして実際 の事例を用いながら、食行動が変容 されるプロセスを理解する	1 2 0
13・14	・肥満者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義動画を振り返っての復習 7・8回で学んだ理論を基にして実 際の事例を用いながら、食行動が変 容されるプロセスを理解する	1 2 0
15	まとめ	講義	講義動画を振り返っての復習	1 2 0

【科目名】アート・セラピー I		【担当教員】長谷川 千種、的場 已知子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・体験による気づきを重視しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) アートセラピーの中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1 (方法) ・パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるよう、実際のセッション体験を取り入れた講義を行います。 ・自分と他者の視点を尊重できるよう、対話型アート鑑賞を取り入れた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、パーソン・センタード表現アートセラピーの理論と実際に体験して理解する。 【行動目標(SB0)】 パーソン・センタード表現アートセラピーを将来の対人援助もしくは実生活の中で、どのように応用することができるか考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ・ナタリー・ロジャーズ/著 小野京子・坂田裕子/訳「表現アートセラピー」誠信書房, 2000, ¥4,950 (税込) ・小野京子/著「癒しと成長の表現アートセラピー」岩崎学術出版社, 2011, ¥2,750 (税込) ・関則雄/著「臨床アートセラピーー理論と実践ー」日本評論社, 2016, ¥3,080 (税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力			60					60
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	PCA表現アートセラピーセッション体験 (1) ・絵を中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	・芸術療法とは何か ・アートセラピーにおける素材	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
5・6	PCA表現アートセラピーセッション体験 (2) ・粘土を中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	表現アートセラピーの適用 (1) ・精神科クリニックと高齢者施設	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
9・10	表現アートセラピーの適用 (2) ・高齢者へのセッション	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	・ダンスムーブメントセラピーとは ・ドラマセラピーとは	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
13・14	PCA表現アートセラピーセッション体験 (3) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	PCA表現アートセラピーセッション体験 (4) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分

【科目名】	アート・セラピーⅡ		【担当教員】	長谷川 千種、的場 巳知子	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0040-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・体験による気づきを重視しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。					
【講義概要】					
(目的)					
アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、高齢者の介護予防や認知症の予防などの効果が期待できる「臨床美術」を学ぶことによって、アートセラピーの意義と対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことができる。					
・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1					
(方法)					
・「臨床美術」独自のアートプログラムを用いた創作活動を取り入れた講義を行います。 ・作品を鑑賞する力を養う「対話型アート鑑賞」を取り入れた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、「臨床美術」の理論と実際に体験して理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
・臨床美術アートプログラムに沿って、作品の創作ができる。 ・将来の対人援助や実生活において、臨床美術がどのように応用できるかを考察できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書は使用しません。					
【参考書】					
・金子健二/編「改訂新版 臨床美術-認知症治療としてのアートセラピー」日本地域社会研究所, 2007, ￥2,750（税込） ・ベティ・エドワーズ/著「決定版 脳の右側で描け」河出書房新社, 2013, ￥2,915（税込） ・関根一夫/著「いてくれてありがとう」いのちのことば社・フォレストブックス, 2020, ￥1,540（税込）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	臨床美術アートプログラム体験（１） ・五感のアナログ画（音・味）	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	臨床美術とは何か	講義（配信）	講義内容の復習	45分
5・6	臨床美術アートプログラム体験（２） ・りんごの量感画	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	存在論的人間観	講義（配信）	講義内容の復習	45分
9・10	臨床美術アートプログラム体験（３） ・さつまいもの量感画	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	臨床美術のコミュニケーション	講義（配信）	講義内容の復習	45分
13・14	アートコミュニケーション ・作品鑑賞会一場創りから鑑賞まで	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	まとめ	講義（配信）	講義内容の復習	45分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	動作法とはなにか	講義	講義ノートを作成する。	180分
3-4	動作法Ⅰ	講義	講義ノートを作成する。	180分
5-6	動作法Ⅱ	講義	講義ノートを作成する。	180分
7-8	動作法Ⅲ	講義	講義ノートを作成する。	180分
9-10	動作法Ⅳ	講義・演習	講義ノートを作成する。	180分
11-12	動作法Ⅴ	講義・演習	講義ノートを作成する。	180分
13-14	動作法Ⅵ	講義・演習	講義ノートを作成する。	180分
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	180分

【科目名】音楽療法		【担当教員】大竹 孔三
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0075-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	soundingjoy.jp@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、メールにて応じます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 配布された資料の復習を行ってください。		
【講義概要】 (目的) 精神障害者・発達障害児(者)・高齢者に共通して有効な「音楽療法」を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患への技術の習熟を目的とする。また、音楽療法セッションプログラム立案を通し、現場で音楽療法の要素を応用できる力を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, O-2, R-1 (方法) 音楽療法の理論と実技を交えた講義を中心とする。終盤には、グループに分かれてセッション計画を立案し、発表する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ 各種の音もしくは音楽が人にもたらす利点と欠点を知る。 ・ その利点と欠点を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患へのより良い音楽の提供方法を知る。		
【行動目標(SBO)】 ・ 理論について学ぶと共に、実際にいくつかの種類の音楽を体感し、音楽療法について説明できる。 ・ 実際に音楽療法が使われている病院や施設の症例を見て、その有用性を理解できる。音楽療法セッションのプログラムを立案し、プログラムが有効かどうか様々な角度から考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義の内容に合わせて配布します。		
【参考書】 必要に応じて指示します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。出席点は評価に含まない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	60				100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20	20				40
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	・オリエンテーション ・音楽療法について 楽器体験・定義・歴史	講義・演習	配布された資料の復習	30分
3-4	・子どもの音楽療法 ・高齢者の音楽療法	講義・演習	配布された資料の復習	30分
5-6	・音楽療法の特性・対象者と目標等・リハビリ テーション・精神科・心療内科の音楽療法 ・緩和ケア・NICU・その他の音楽療法	講義	配布された資料の復習	30分
7-10	音楽療法プログラム立案及び音楽療法プログラム 発表の予行演習	講義・演習	配布された資料の復習	30分
11-12	音楽療法プログラム予行演習	演習	配布された資料の復習	30分
13-14	・グループ発表	演習	配布された資料の復習	30分
15	レポート課題	試験		

【科目名】		基礎ゼミⅤ		【担当教員】	星野 浩通
【授業区分】		教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】	1-07-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(前期)	【選択必修】	選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できるだけ受講してください。 ＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 生成系 AIの利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目は、キャリアセンター教員、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。 ・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。 ・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート（感想文含む）については返却します。 ・クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。					
【講義概要】					
(目的)					
3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。					
当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2					
(方法)					
就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。					
【一般教育目標(GIO)】					
就職に繋げるための活動のポイントを理解する					
【行動目標(SBO)】					
・自己分析を通して、自分を知り、自分の強みをアピールすることができる ・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる ・就職活動のスケジュールリングができる ・スケジュール管理ができる					
【教科書・リザーブドブック】					
なし					
【参考書】					
新潟リハビリテーション大学Placement Book					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う ・ポートフォリオ課題の評価、レポート（感想文含む）課題、その他を総合的に判断し成績評価とする ・出席点は評価に含まれない。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60			40		100
評価 指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	イントロダクション、就職活動の流れの説明（マイナビ）	講義 山倉 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
3. 4	自己分析講座（マイナビ）	講義 山倉 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
5. 6	ジョブカードを利用した自己理解セミナー（リスキング支援センター）	講義 大矢薫 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
7	就職活動ハンドブックを使った就職活動の始め方 キャリアタスUC登録と使用方法	講義・演習 星野、山倉 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
8・9	外部講師による履歴書・面接対策セミナー（マイナビ）	講義・演習 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
10・11	専攻別に実施 ・PTOT専攻は就職活動準備 ・RP専攻はインターシップ講座 ＊専攻別で時期・場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング PT星野、RP山倉 指定教室 専攻別	配布資料	30
12・13	専攻別に実施 ・PTOT専攻は就職活動につながる自己分析 ・RP専攻はインターンシップ・マナー講座 ＊専攻別で時期・場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング PT星野、RP山倉 指定教室 専攻別	配布資料	30
14・15	専攻別に実施 ・PTOT専攻はポートフォリオまとめ ・RP専攻はSPI対策講座 ＊専攻別で時期・場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング PT星野、RP山倉 指定教室 専攻別	配布資料	30

【科目名】基礎ゼミⅤ		【担当教員】星野 浩通、大矢 薫
【授業区分】 教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】1-07-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー)月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は選択科目ですが、将来就職に繋げる上で重要となってくる科目ですので、できるだけ受講してください。 *障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。 この科目は、アクティブラーニングを中心としてグループワークやディスカッションを行います。 生成系 AIの利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目は、キャリアセンター教員、外部講師も招いて就職に関連する内容について教授いただきます。面接の仕方や履歴書の書き方などについては、受講生の方に実際に行ってもらいます。 ・専攻により、授業日程・内容の順番が入れ替わることがあります。 ・受講した際にレポート課題を行ってもらいますが、レポート（感想文含む）については返却します。 ・クリッカーを用いた双方向授業を行う場合もある。		
【講義概要】 (目的) 3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1.2 (方法) 就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 就職に繋げるための活動のポイントを理解する		
【行動目標(SBO)】 ・自己分析を通して、自己を知り、自分の強みをアピールすることができる ・自分の目標とする職業・分野、やりたいことを見出し、就職活動に繋げることができる ・就職活動のスケジュールリングができる ・スケジュール管理ができる		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 新潟リハビリテーション大学Placement Book		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う ・ポートフォリオ課題の評価、レポート（感想文含む）課題、その他を総合的に判断し成績評価とする ・出席点は評価に含まれない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60			40		100
評価 指標	取り込む力・知識			20			20		40
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20			20		40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	イントロダクション、就職活動の流れの説明（マイナビ）	講義 山倉 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
3. 4	自己分析講座（マイナビ）	講義 山倉 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
5. 6	ジョブカードを利用した自己理解セミナー（リスティング支援センター）	講義 大矢薫 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
7	就職活動ハンドブックを使った就職活動の始め方 キャリアタスUC登録と使用方法	講義・演習 星野、山倉 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
8・9	外部講師による履歴書・面接対策セミナー（マイナビ）	講義・演習 外部講師 指定教室 3専攻合同	配布資料	30
10・11	専攻別に実施 ・PTOT専攻は就職活動準備 ・RP専攻はインターシップ講座 ＊専攻別で時期・場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング PT星野、RP山倉 指定教室 専攻別	配布資料	30
12・13	専攻別に実施 ・PTOT専攻は就職活動につながる自己分析 ・RP専攻はインターンシップ・マナー講座 ＊専攻別で時期・場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング PT星野、RP山倉 指定教室 専攻別	配布資料	30
14・15	専攻別に実施 ・PTOT専攻はポートフォリオまとめ ・RP専攻はSPI対策講座 ＊専攻別で時期・場所が違います。	講義・演習。アクティブラーニング PT星野、RP山倉 指定教室 専攻別	配布資料	30

【科目名】 コンピューターと人間の接点 I		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 教養分野(情報)	【授業コード】 1-05-0010-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・IoT(物のインターネット)の仕組みを理解するため、その構成要素であるマイクロコンピュータと各種のセンサーについて学習する。またマイクロコンピュータよりのデータ収集方法(有線・無線・インターネットより)についても理解する。 ・IoTをリハビリテーション分野に応用する方法について理解する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・マイクロコンピュータ(MICRO:BIT)を使用し各種センサーを制御するプログラミングをブロックプログラム言語を用い演習する。 ・各種のセンサーより得られたデータを有線、無線あるいはインターネットを経由してパーソナルコンピュータに取り込み分析するプログラムについて演習する。 ・またリハビリテーション分野でのIoT利用例を示しプログラミング演習をおこなう。		
【一般教育目標(GIO)】 ・人間とコンピュータを結ぶセンサーについて説明できる。 ・各種のセンサーよりデータを取り込む方法を説明できる。 ・リハビリテーション分野でのIoT利用について利用例を説明できる。		
【行動目標(SBO)】 ・MICRO:BITの構造について説明できる。 ・MICRO:BITを使用した簡単なプログラミングが作成できる。 ・MICRO:BITを使用し各種のセンサーよりデータの取り込むプログラムを作成できる。 ・センサーよりのデータの収集法と分析方法について説明できる。 ・リハビリテーション分野でのIoTを活用したデータ収集について具体的事例を考案できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 必要に応じ資料を配布する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		20	30					50
	思考・推論・創造の力		10	30					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション インターフェースとは IoTとその利用	講義	・ シラバスを読んでおく。 ・ MICRO:BITの概要について復習する。	10分 15分
2	ビッグデータと データエンジニアリング (☆) ・ ICT (情報通信技術) の進展、ビッグデータ・ ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス・ ビッグデータ活用事例・人の行動ログデータ、機 械の稼働ログデータ・ソーシャルメディアデータ	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
3	データ表現 (☆) ・ コンピュータで扱うデータ ・ 構造化データ、非構造化データ ・ 情報量の単位、二進数、文字コード ・ 配列、木構造、グラフ	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
4	データ収集 ・ IoTとインターフェイス ・ データ収集の事例	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
5	Micro:bitの基本構造と開発環境 プログラミング基礎 (※) -1 ・ LEDに文字を表示する ・ ハートマークを表示する ・ 音を発生させる	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
6	プログラミング基礎 (※) -2 ・ スイッチを使用したプログラム ・ データ型と変数 ・ 四則演算 ・ 時間を測定する	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
7	プログラミング基礎 (※) -3 ・ ジャンケンゲームの作成 ・ 揺れを感知する ・ 乱数の利用 ・ 条件分岐・反復処理	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分
8	プログラミング基礎 (※) -4 ・ 温度と光の強さを測定する ・ 関数の使用 データ加工-1 ・ 測定値のグラフ化	講義・演習	・ 配布資料を確認しておく。 ・ 課題の作成	10分 15分

9	プログラミング基礎 (※) -5 ・シリアル通信の使用とデバイスモニタ データ加工-2 ・集計処理、四則演算、サンプリング処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
10	プログラミング基礎 (※) -6 ・加速度を測定する データ加工-3 ・クレンジング処理	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
11	プログラミング基礎 (※) -7 ・無線の利用 ・リモートサンプリング	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
12	プログラミング基礎 (※) -8 ・傾きを検知する ・関節角度を測定する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
13	プログラミング基礎 (※) -9 ・センサーを利用した運動プログラムを作成する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題12の作成	10分 15分
14	データベース ・データベースとは ・RSBについて ・測定データをクラウドに保存する	講義・演習	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	10分 15分
15	ITセキュリティ ・セキュリティの3要素（機密性、可用性、完全性）・データの暗号化、復号化・データの盗聴、改ざん、なりすまし・電子署名、公開鍵認証基盤（PKI）・ユーザ認証とアクセス管理・マルウェアによるリスク	講義	・配布資料を確認しておく。 ・課題の作成	30分 30分

【科目名】 コンピューターと人間の接点Ⅱ		【担当教員】 浅海 岩生
【授業区分】 教養分野(情報)	【授業コード】 1-05-0015-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金曜(9-17時)Teamsにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業では自分のパソコンを使用し実習しますので各自のパソコンを使用してください。 ・授業での提示する教材はWindows PC(パソコン)を使用していますが、Mac, ChromeBook PCを使用しても構いません。 ・Office365に接続できるようメールアドレス・パスワードを控えておくこと(大学入学時に各学生に付与されたもの) ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・課題はMicrosoft Teamsを使用し提出してもらいます。 ・課題・テストは必要に応じTeamsを用い返却します。 ・本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主担当教員は総合病院に勤務した経験より医療施設での情報リテラシーと活用について必要とする知識を講義します。		
【講義概要】 (目的) ・この科目では人工知能(AI)の概要を学習する。また強化学習を用いたモデル作成とプログラミングを行いAIの有用性を理解すると共に、リハビリテーション分野への応用についても考察する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3 (方法) ・Google teachable machineを利用し画像認識・音声認識・姿勢認識のデータモデル作成しScratch言語でプログラムする方法について演習する。 ・これらの学習モデルをリハビリテーション分野に活用例を示し応用プログラムを作成する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・AIの概要について説明できる。 ・強化学習について説明できる。 ・AIのリハビリテーション分野での活用を説明できる。 【行動目標(SBO)】 ・AIの定義と強化学習について概要を説明できる。 ・強化学習モデルの作成方法について説明できる。 ・強化学習モデルをScratch言語を用いてプログラミングできる。 ・リハビリテーション分野での強化学習モデルの利用を具体的に考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 必要に応じ資料を配布する。		
【参考書】 ・阿部和広 監修/横川耕二：おとなも学びたいプログラミングSCRATCH入門、エムディエヌコーポレーション ¥1650 ・ScratchでAIを学ぼう ゲームプログラミングで強化学習を体験（日本語）単行本 ¥2090		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、小テストおよびレポート点等により総合的に評価する。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	40	50	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		20	25					45
	思考・推論・創造の力		20	25					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション AIの歴史と応用分野 (☆) ・ AIの歴史、推論、探索、 ・ 汎用AI/特化型AI (強いAI/弱いAI) ・ 人間の知的活動とAI技術 ・ AI技術の活用領域の広がり	講義	・ シラバスを見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
2	オリエンテーション AIの歴史と応用分野 (☆) ・ AIの歴史、推論、探索、 ・ 汎用AI/特化型AI (強いAI/弱いAI) ・ 人間の知的活動とAI技術 ・ AI技術の活用領域の広がり	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
3	機械学習の基礎と展望 (☆) ・ 実世界で進む機械学習の応用と発展 (需要予測、異常検知、商品推薦など) ・ 機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習 ・ 学習データと検証データ ・ ホールドアウト法、交差検証法・過学習、バイアス	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
4	深層学習の基礎と展望 (☆) ・ 実世界で進む深層学習の応用と革新 (画像認識、自然言語処理、音声生成など) ・ ニューラルネットワークの原理 ・ ディープニューラルネットワーク (DNN) ・ 学習用データと学習済みモデル	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
5	認識 ・ 認識技術の活用事例 ・ パターン認識、特徴抽出、識別 ・ 数字認識、文字認識 ・ 画像認識、音声認識	講義	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
6	予測・判断 ・ 予測技術の活用事例・決定木 (Decision Tree) ・ 混同行列、Accuracy、Precision、Recall ・ MSE (Mean Square Error) ・ ROC曲線、AUC (Area Under the Curve)	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
7	Scratch言語入門-1	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分
8	Scratch言語入門-2	講義・演習	・ 授業資料PDFで動画を見ておく ・ 課題を行う。	・ 10分 ・ 30分

9	Scratch言語入門-2	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
10	認識-2 機械学習モデルを使用したプログラムの作成 ・画像認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
11	認識-3 機械学習モデルを使用したプログラムの作成 ・音声認識プログラム	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
12	言語・知識-1 ・自然言語処理の活用事例 ・形態素解析、単語分割、係り受け解析	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
13	言語・知識-2 ・大規模言語モデルとChatGPT ・プロンプトエンジニアリング	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
14	身体・運動 ・AIとロボット ・家庭用ロボット、産業用ロボット、サービスロボット ・自動化機械、センサー、アクチュエータ ・シーケンス制御、フィードバック制御	講義・演習	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分
15	AIの構築・運用 (☆) ・AIの学習と推論、評価、再学習・AIの開発環境と実行環境・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み・複数のAI技術を活用したシステム (スマートスピーカー、AIアシスタントなど)	講義	・授業資料PDFで動画を見ておく ・課題を行う。	・10分 ・30分

【科目名】		中国語		【担当教員】	橋本 親往
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0020-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	hashimoto@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 08:30～17:30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
初修中国語会話なので、中国や中国医学、中国語に関心のある人は誰でも履修することができる。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
すべて配信授業なので、毎回ビデオを積極的に視聴し、発音・発声すること、宿題・復習・予習することが求められる。 筆記具などの学習ツールを用意すること。					
【講義概要】					
(目的)					
日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人」で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現のしかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができたらよいが、本講義はその入門授業である。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2					
(方法)					
中国語の発音、ローマ字表記、初級会話や関連する単語・常用表現などを学ぶ。					
【一般教育目標(GIO)】					
将来、本格的中国語の学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話を身につける。					
【行動目標(SB0)】					
あいさつ、自己紹介や簡単な会話ができるようにする。					
【教科書・リザーブドブック】					
どんと来い中国語『無料中国語会話テキスト』の中国語本文を基に、日本語解説などを修正編集、PDFをMP4に変換。					
【参考書】					
小学館『中日辞典』『日中辞典』（電子辞書）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
毎回の視聴状況・課題または小テストにより総合的に評価。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60					40	100
評価 指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力		30						30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							15	15
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	「中国語」とは 発音……ローマ字「拼音」 単語＝文字のアクセント（声調）……四声、轻声 北京語音表	発音練習		30 60
3・4	北京語音表	発音練習		90
5・6	第1課 こんにちは 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：あいさつ言葉 語彙：指示代名詞 文法：「～嗎」の疑問文	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
7・8	第2課 お元気ですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：時間帯別のあいさつ言葉 文法：「也・都」の使い方 質問：「你早」と「早上好」のニュアンスの違い	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
9・10	第3課 お忙しいですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：否定詞を使った質問文「不～嗎」 語彙：時制をあらわす言葉 文法：自然な否定文「あまり～ない」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
11・12	第4課 家の中の様々な生活用品【単語】 リビングに関する単語／ベッドルームに関する単語／バスルームに関する単語／キッチンに関する単語／書斎に関する単語	発音練習	学習チェックテスト	90
13・14	第5課 お名前は 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①「私の名前は～です」②初対面で使う「お会いできてうれしいです」 文法：「就」の使い方	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
15・16	第6課 今日は何月何日 会話／単語／語彙：日付や曜日の言い方／注目フレーズ（常用語）：①「～でもいいですか」「～しましょうよ」②「だね」「だよ」色々な語気助詞／文法：「是」の省略 主語・補語を直結	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90

17・18	第7課 ご紹介します 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①「どなたですか」②「ちょっと～する」③「ご紹介します」④「道中気をつけて」／文法：①所有や所属を示す「的」②最も基本的文型「主語＋述語」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
19・20	第8課 何人家族ですか 会話／単語／語彙：家族関係を表す呼び名 文法：①所有や所在を表す「有」の文型 ②介詞「在」を使った文型	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
21・22	第9課 基本単語① 人称代名詞／指示代名詞／疑問詞／基本的な動詞	発音練習	学習チェックテスト	90
23・24	第10課 いま何時 会話／単語 語彙：時間の表し方 文法：時間詞を置く語順	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
25・26	第11課 お家はどこですか 会話／単語／注目フレーズ（常用語）：①数量の尋ね方②「ならばよかった」 文法：V1してV2する…二つの動作が連続する連動句	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
27・28	第12課 試着室はどこ 会話／単語 注目フレーズ（常用語）：①ものを尋ねる「すみません」②文を強調「就」 文法：①方位詞②正反疑問文「V＋不＋V」	会話練習 教材音声 ♪ 学生	学習チェックテスト	90
29・30	第13課 基本単語② 助詞（介詞：時間／場所・範囲／方向／対象）／ 能願動詞（できる・したい・すべき） 基本的な形容詞	発音練習	学習チェックテスト	90



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	40					70
	思考・推論・創造の力		5	20					25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義	概要把握	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	講義・演習	例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑤ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
13-14	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習⑥ 教科書使用	講義・演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分

[illegible]

【科目名】		医療英文抄読法Ⅱ		【担当教員】	原 亜由美
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0027-2	(メールアドレス) ayumi.hara38@gmail.com	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール・チャットで随時受付	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 課題および小テストにはコメントを戻すので各自反映すること。課題提出期限、添削コメントの戻しはそれぞれ1週間以内とする。以下の場合においては生成AIの利用を許可する。これ以外の場面での利用は禁止する。〈利用可の場面〉課題のための下訳作成や草稿作成 ※生成AIによる原稿を本人の推敲がされないままの課題提出は禁止する。					
【講義概要】 (目的) 将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけることができる。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法) オンデマンド型講義。具体的には音声解説付きの授業ファイルに基づき、フォームズによる課題提出と添削コメントのteams上でのやりとりをする。主に教科書を使用し、各章において読解のための語彙演習を行う。オンラインの検索システムを利用した英語論文検索の演習も行う。					
【一般教育目標(GIO)】 英語で書かれた学術論文を読むための基礎知識を身につける。					
【行動目標(SB0)】 リハビリテーションにおける英語基本語彙を知る。医療にまつわる英文を読解し、要旨をまとめる。学術論文の検索方法を知る。					
【教科書・リザーブドブック】 指定教科書：清水 雅子、リハビリテーションの基礎英語、メジカルビュー社、2017年、¥2,400（税別）					
【参考書】 様式は問わないが辞書（英和、和英）を用意、使用のこと。					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 小テスト及び課題レポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まない。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			35	65					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	40					70
	思考・推論・創造の力		5	20					25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	45分
2	英文読解に必要な基礎事項の確認	演習	授業内容の復習 例文翻訳の小レポート提出	45分
3-4	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習① 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	90分
5-6	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習② 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
7-8	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習③ 教科書使用	演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
9-10	疾患／リハビリテーションにまつわる読解演習④ 教科書使用	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習 課題提出	90分
11-12	医療学術論文検索についての演習①	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題①提出	90分
13-14	医療学術論文検索についての演習②	演習	授業内容の復習 PubMed検索についての課題②提出	90分

[illegible]

【科目名】リハビリテーション工学		【担当教員】星野 浩通
【授業区分】専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】2-12-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	hoshino@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜～金曜 5時限
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 生活支援機器(車いす、杖、自助具、生活環境装置)についての説明を行います。生活支援機器に興味の持っている学生は受講を進めます。この科目は理学療法士として実務経験がある教員による講義です。生活支援機器を中心としたリハビリテーションに従事し、利用者の生活支援に必要な車いす、杖、生活支援機器全般について講じます。講義形態は講義とアクティブラーニングで構成します。＊障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員と事前に相談してください。生成AIの利用については自由とします。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) パーソナルコンピューター、タブレットを使用して講義を行います。講義資料はteamsに電子媒体として配信します。必要であれば事前に印刷をするようにしてください。自学、講義演習としてとしてFUIOSN360を利用した3Dデータの作成などを行う予定です。車椅子など重いものを運ぶ場合があるので、授業準備は複数名(3名)くらいで来てください。課題はteamsから提出をお願いします。科目試験は事務局にて返却をします。試験結果について必要に応じて解説をします。再試験は返却しません。		
【講義概要】 (目的) 理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, P-3, O-3, R-1 (方法) 電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。 グループ学習とグループ発表を行います。 授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。		
【一般教育目標(GIO)】 人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。 【行動目標(SB0)】 生態におけるバイオメカニクスを説明する。 生活支援機器の種類や使用法を説明する。 生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。		
【教科書・リザーブドブック】 Teamsでの資料提示		
【参考書】 なし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 ・出席率は評価に含まない		

・ 山形県は詳細に書かない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	15		35				100
評価 指標	取り込む力・知識	50	15						65
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				35				35
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーション工学について オリエンテーション	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	3Dプリンターを利用した生活支援機器の開発 3DCDのモデリング、FOSION360	講義対面 星野浩通 指定教室	事前にFOSION360のダウンロードと登録をお願いします。	20
3	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車椅子パーツの名称を復習すること	20
4	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすパーツの名称を復習すること	20
5	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすに使用するシートの種類を復習すること	20
6	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（車椅子関連用品） （車椅子シーティング）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 車いすに使用するシートの種類を復習すること	20
7	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（環境制御装置）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 環境制御の概要を復習すること	20
8	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器（環境制御装置）	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 環境制御の概要を復習すること	20

9	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器 (人の心の杖となれ)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 杖の種類と適応について復習すること	20
10	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 移動支援機器 (人の心の杖となれ)	講義対面 星野浩通 指定教室	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 杖の種類と適応について復習すること	20
11	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 演習 (福祉機器の考察)	講義対面 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	45
12	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	20
13	支援機器の作成作成案 グループ活動	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた作成 グループを作り、発表準備	20
14	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた準備	20
15	生活支援 (疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具) 成果発表	アクティブラーニング 星野浩通 指定教室	発表に向けた準備	20

【科目名】高次脳機能障害学概論		【担当教員】大平 芳則
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 水曜12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この授業はアクティブラーニングを用います。 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。		
【講義概要】 (目的) 我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2 (方法) 高次脳機能およびその障害像について講義を行なう。		
【一般教育目標(GIO)】 高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。		
【行動目標(SB0)】 高次脳機能とは、どのようなものか言える。 高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。 それぞれの高次脳機能障害につて説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。		
【参考書】 石合純夫 高次脳機能障害学 医歯薬出版 2022年 4500円＋税 山鳥重 神経心理学入門 医学書院 1985年 6400円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は、毎回授業ごとの課題レポート100%とする。 出席点は評価に含まない。 課題レポートについては、その記載例をもってフィードバックとする。 成績評価基準は本学学則規定のCPA制度に準ずる。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	高次脳機能障害とは 大脳	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
3. 4	意識障害 注意の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
5. 6	認知症	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
7. 8	言語の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
9. 10	行為の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
11. 12	視覚の障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
13. 14	半側空間無視	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	60分
15	その他の高次脳機能障害	講義 (オンデマンド)	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】 チーム医療学Ⅱ		【担当教員】 長谷川 裕、若菜 翔哉、高橋 明美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0030-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com/wakana@nur05.onmicrosoft.com/hasegawa.y@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ(45分)	(オフィスアワー) 月～金：13：00－13：20
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は実務経験のある教員による授業科目、実務経験者対応科目です。理学療法士、作業療法士の資格を持つ教員が、それぞれの立場、経験からチーム医療について講じていきます。 障害等があつて配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・復習を行い理解を深めること ・演習やグループ討論を行うので休まないこと ・生成AI 使用ルール：提出課題、発表用資料での直接的な使用（生成AIの文章等の複写等）は禁止します。アイデアを得るための使用は認めます。生成Aiから得た情報は必ず、文献、書籍等他の資料で確認してください。		
【講義概要】 (目的) 対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。 この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, 3 当該科目と学位授与方針等との関連性：P-2, O-2, R-2 (方法) 実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。 この授業はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。		
【行動目標(SBO)】 ・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。 ・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。 ・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。 ・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べるができる。		
【教科書・リザーブドブック】 指定しない。 必要に応じて資料を配付する。		
【参考書】 指定しない。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。 ・出席点は評価に含みません。 ・成績は、レポートにおける取組む力・知識、思考・推論・創造の力を総合的に評価する。 ・レポートの返却は行いません。フィードバックは講義終了後に行います。		

・レポートの返却は行いません。ノートブックは必要に応じ備前寺にておこないま

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2, 3	・科目の流れについてのオリエンテーション ・チーム医療について ・連携について考える	・講義 ・討論 (担当：長谷川)	・チームについて考える ・リハ専門職、関連専門職について 確認する	30分
4, 5	・専門職連携の実際例から学ぶ —提示症例に対する援助・支援、連携を考察する (その1：診療現場)—	・演習 ・討論 (担当：長谷川)	・自らの専門職について考える ・症例に対する連携をまとめる	30分
6, 7	・専門職連携の実際例から学ぶ —提示症例に対する援助・支援、連携を考察する (その2：訪問支援)—	・演習 ・討論 (担当：長谷川)	・前回の連携について確認する ・症例のリハビリテーションについて 考える	30分
8, 9	・専門職連携の実際例から学ぶ①	・講義 ・演習 (担当：若菜)	・事前に提示する症例に対して確認 しておく ・提示された症例に対する専門職連 携についてまとめる	30分
10, 11	・専門職連携の実際例から学ぶ②	・講義 ・演習 (担当：若菜)	・前回の連携について確認する ・提示された症例に対する専門職連 携についてまとめる	30分
12, 13	・病院や施設における専門職連携の実際について 知る	・講義 ・討論 ・発表 (担当：高橋)	病院や施設における専門職連携につ いて確認する ・症例に対する連携方法をまとめ、 発表する	30分
14, 15	・終末期医療における専門職連携を考える ・まとめ	・講義 ・討論 (担当：高橋)	・終末期医療の現状について調べる ・科目のまとめ	30分

【科目名】		老年心理学		【担当教員】		宮岡 里美	
【授業区分】		専門基礎分野(リハビリ関連科目)		【授業コード】		2-14-0040-3	
【開講時期】		後期		【選択必修】		必修	
【単位数】		1		【コマ数】		15コマ	
						(メールアドレス)	
						nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
						(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。医療及び保健福祉機関で、介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた臨床経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。 超高齢社会において、高齢者の心身の健康維持という課題は非常に重要です。幸福な一生涯を実現するために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。講義後にレポート課題を課すことがあります。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AIの出力を引用した箇所や生成AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。							
【講義概要】							
(目的)							
加齢に伴う心身の変化の特性とそれが日常・社会生活に及ぼす影響を学び、高齢者の社会適応や社会参加を促す心理支援法の基本を理解することを目的とします。 特に、加齢に伴う①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の変化を理解した上で、高齢期の発達課題とその克服について考察していきます。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, P-2, O-1, R-2							
(方法)							
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。							
【一般教育目標 (GIO)】							
「高齢期」の心身の変化の特徴と克服すべき課題を知る。 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期の認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 「サクセスフルエイジング」「補償を伴う選択的最適化理論」「エイジレス・ライフ」等の理論を理解する。 4. 高齢期の発達危機及び障害について理解し、適切な心理支援のあり方を理解する。							
【行動目標 (SBO)】							
「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者への”心のケア”ができる。 高齢者の心理的危機を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 高齢期の発達課題の克服及びその危機に対して、適切な心理支援ができる。							
【教科書・リザーブドブック】							
特に指定せず。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介する。							
【参考書】							
佐藤眞一（編著）「よくわかる高齢者心理学（〈わかる〉シリーズ）」／ミネルヴァ書房／2016年／2,700円 権藤 恭之（編集）「高齢者心理学（朝倉心理学講座）」／朝倉書店／2008年／3,888円							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に依る。							

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		20			20		100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義 情報リテラシー (図表の見方) を含む	【復習】(要点の整理) 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	20
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング/エイジレスライフ	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	【復習】(要点の整理) 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	20
3	高齢期の身体機能① ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	【復習】(要点の整理) 感覚機能(視聴覚等)低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	20
4	高齢期の身体機能② ・運動機能の変化 ・「フレイル」と「サルコペニア」 ・調査法	講義 演習:PBL(課題解決)を含む	【復習】(要点の整理) 「フレイル・サルコペニア」の定義、及びその状態が日常生活/健康寿命へ及ぼす影響を理解する。	20
5	「フレイル」予防と健康寿命 ・運動機能の観点から ・口腔機能と栄養の観点から	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	【復習】(要点の整理) フレイル予防を運動と栄養摂取の観点から支援することができる。	20
6	高齢期の精神機能① ・高齢期のストレス ・「喪失体験」と孤独/孤立 ・高齢期のうつ症状	講義	【復習】(要点の整理) 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程を理解する。	20
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・モーニングワーク	講義 演習:PBL(ディスカッション) を含む	【復習】(要点の整理) 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。また、遺族の重篤な「喪失の体験」を理解し、当事者の心に寄り添う姿勢を学ぶ。	20
8	高齢期の精神機能② 「認知症」 ・記憶機能の低下 ・知的機能の変化_結晶性知能と流動性知能	講義 演習:必要な情報収集と分析の学習を含む	【復習】(要点の整理) 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	20

9	高齢期のメンタルヘルス① ・ 高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・ 加齢とパーソナリティの変化 ・ 「回想法」	講義 演習：PBL（シナリオに基づく実践）を含む	【復習】（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	20
10	高齢期のメンタルヘルス② ・ 生きがい・心と体の健康づくり ・ 「社会参加」への支援：“きょういくときょうよう”	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	【復習】（要点の整理） 高齢者の再適応能力を支援する方策を考える。	20
11	高齢者の人権擁護① ・ 高齢者の自殺（発生件数とその動機）	講義	【復習】（要点の整理） 高齢者の自殺件数とその状況から、自殺防止を考える。	20
12	高齢者の人権擁護② ・ 事例検討 ・ 高齢者虐待の防止 ・ 高齢者の養護者に対する支援	講義 演習：PBL（ディスカッション）を含む	【復習】（要点の整理） 「高齢者虐待防止法」の主旨を理解する。	20
13	高齢者を尊重するケア技術① ・ パーソン・センタード・ケア	講義	【復習】（要点の整理） ”パーソン・センタード”の語源をも理解し、このケア法を技術と心の両面から理解する。	20
14	高齢者を尊重するケア技術② ・ ユマニチュード ・ バリデーション	講義 演習：PBL（事例への対応法を考える）を含む	【復習】（要点の整理） ”ユマニチュード””バリデーション”の語源をも理解し、これらケア法を技術と心の両面から理解する。	20
15	まとめ ・ 超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義	【復習】（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	20

【科目名】		認知症		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】		専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0041-3	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は1年次の脳の働きや病態についての知識が必要とされます。 この授業はアクティブラーニングを用います。 この授業はクリッカーを用いた、双方向授業をおこないます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。					
【講義概要】					
(目的)					
認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2					
(方法)					
座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。					
【一般教育目標(GIO)】					
高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく理解する。					
【行動目標(SB0)】					
認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料配布					
【参考書】					
田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ￥4,725					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 成績評価は期末試験およびレポート等により総合的に評価する。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。 生成系AIの利用を全面的に許可します。授業中、予備習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用していただく。					

生成 AI の利用を主体的に計画しより、提案内、J 後首、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。
使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識							10	10
	思考・推論・創造の力	80							80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	認知症とは	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
3. 4	認知症になる原因は	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
5. 6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
7. 8	認知症者の心の内側は	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
9. 10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
11. 12	認知症者の脳の画像は	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
13. 14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分
15	認知症の治療法	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	30分

【科目名】	心理測定法Ⅰ	【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0045-3
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応			
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。			
【講義概要】			
(目的)			
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1、R-2			
(方法)			
毎回の授業において講義動画を配信する。心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法Ⅱに向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定をを実践することで知識の定着を図る。			
【一般教育目標(GIO)】			
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。			
【行動目標(SBO)】			
精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
教科書は使用しない			
【参考書】			
山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。 ・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		30					70
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	1 2 0
3・4	測定の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	1 2 0
5・6	精神物理学的測定法（１）（刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異）	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	1 2 0
7・8	精神物理学的測定法（２）（調整法、極限法）	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	1 2 0
9・10	精神物理学的測定法（３）（恒常法、マグニチュード推定法）	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	1 2 0
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	1 2 0
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	1 2 0
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	1 2 0

【科目名】		心理測定法Ⅱ	【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0045-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応				
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1、R-2				
(方法)				
毎回の授業において講義動画を配信する。心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。				
【一般教育目標(GIO)】				
心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身に着けるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。				
【行動目標(SB0)】				
尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は使用しない				
【参考書】				
山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。 ・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		30					70
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	尺度構成法(1) 直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	120
3・4	尺度構成法(2) 間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD 法、MSD法が説明できる	120
5・6	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセス を説明できる	120
7・8	心理統計学(1) 度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	120
9・10	心理統計学(2) 散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	120
11・12	心理統計学(3) 共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	120
13・14	心理統計学(4) 統計的仮説検定 t検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解でき る	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに 学んだ内容を理解できる	120

【科目名】知覚・認知心理学Ⅰ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0055-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。		
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において講義動画を配信する。		
【一般教育目標 (GIO)】		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。		
【行動目標 (SB0)】		
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
教科書は使用しない		
【参考書】		
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）		
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）		
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。		
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてま とめる	1 2 0
3・4	感覚の測定（1）	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁 度可知差異についてまとめる	1 2 0
5・6	感覚の測定（2）	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまと める	1 2 0
7・8	感覚の測定（3）	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法につ いてまとめる	1 2 0
9・10	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行き知覚および聴 覚の仕組みについてまとめる	1 2 0
11・12	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達の プロセスについてまとめる	1 2 0
13・14	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	1 2 0
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】知覚・認知心理学Ⅱ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0060-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。		
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において講義動画を配信する。		
【一般教育目標 (GIO)】		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。		
【行動目標 (SB0)】		
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
教科書は使用しない		
【参考書】		
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）		
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）		
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。		
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	記憶（１）	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてま とめる	1 2 0
3・4	記憶（２）	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてま とめる	1 2 0
5・6	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまと める	1 2 0
7・8	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、 「概念」と言語との関連をまとめる	1 2 0
9・10	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理 についてまとめる	1 2 0
11・12	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およ びメタ認知の内容についてまとめる	1 2 0
13・14	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序について まとめる	1 2 0
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】 学習・言語心理学 I		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を習得していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SB0)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の保健・医療・福祉・教育等の分野で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) グラフィック学習心理学: 行動と認知/ 山内光哉・春木豊(編著)/ サイエンス社(2001/3/10)/ ¥2,890(税込) 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う		

・成績評価基準は全学子別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	学習とは何か 「学習」の定義 ・ 生得性行動と学習行動 ・ 初期学習 (刻印づけ、臨界期) ・ 馴化 古典的条件づけ (1) 基本原理と典型例 ・ パブロフの実験	講義 演習 p. 21/p. 54[復習 問題]解答	【復習】指定教科書p. 2 ・ 学習の定義を理解する 【復習】指定教科書p. 41-55 ・ 学習性行動の基礎を理解する	60
3. 4	古典的条件づけ (2) 条件づけの強化 ・ 条件刺激と無条件刺激の時間的關係 ・ 味覚嫌悪学習 古典的条件づけ (3) 条件づけの消去 ・ 消去法 ・ 自然回復	講義 討議: 「味覚嫌悪学習」について	【復習】指定教科書p. 6-8 【復習】指定教科書p. 56-68 ・ 古典的条件づけの基本的手続きを理解する。・ 生活場面での「自然的回復」現象を列挙してみる。	60
5. 6	古典的条件づけ (4) 汎化と弁別 ・ 恐怖の条件づけ ・ 実験神経症 古典的条件づけ (5) 臨床応用 ・ PTSDの機序 まとめ: 古典的条件づけ	講義 演習: p. 74-75[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 11-13 ・ 条件づけで強化された不安や恐怖等のネガティブ感情は消去されにくいことを理解する。	60
7. 8	オペラント条件づけ (1) 基本原理と典型例 ・ スキナーの実験 オペラント条件づけ (2) 条件づけの型 ・ 報酬訓練 ・ 罰訓練 ・ 逃避/回避訓練	講義	【復習】指定教科書p. 43-64 【復習】指定教科書p. 149-154 ・ オペラント条件づけの基本的手続きを理解する。	60
9. 10	オペラント条件づけ (3) 強化スケジュール ・ 連続強化 ・ 部分強化 オペラント条件づけ (4) 消去 ・ 連続強化/部分強化と消去抵抗	講義 討議: ギャンブルの心理を学習理論で考察する	【復習】指定教科書p. 64-74 ・ 私たちの生育過程や日常生活も強化スケジュールで条件づけられている場面が多くあることを理解する。	60
11. 12	オペラント条件づけ (5) 正・負の強化と弱化 ・ 日常場面での強化と弱化 オペラント条件づけ (6) 動機づけ ・ 迷信行動 ・ 罰の功罪 ・ 学習性無力感 まとめ: オペラント条件づけ	講義 演習: p. 74/96[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 74-92 ・ 教育場面や日常生活場面で使用されている「正の弱化 (罰)」の効果について、各自の体験に基づいて考察してみよう。	60
13. 14	問題解決 ・ 試行錯誤学習 (ソーンダイクの実験) ・ 洞察 (ケーラーの実験) ・ 潜在学習 (トールマンの実験) ・ 過去経験の正・負の影響	講義 演習: p. 109[水瓶問題]の体験	【復習】指定教科書p. 98-118 ・ 「ひらめき」が思い浮かんだ瞬間を思い起こし、それまでの過去の経験の影響を考えてみよう。	60
15	まとめ 古典的条件づけとオペラント条件づけ 問題解決	講義 演習: p. 119[復習問題]解答と解説	【予習】指定教科書p. 2-119 国試過去問の関連問題を通して、理解を深める。	60

【科目名】 学習・言語心理学Ⅱ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0070-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を習得していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) グラフィック学習心理学: 行動と認知/ 山内光哉・春木豊(編著)/ サイエンス社(2001/3/10)/ ¥2,890(税込) 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う		

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	技能学習(1) ・学習曲線 ・技能と脳 技能学習(2) ・結果の知識 ・条件：全習法/分習法、集中練習/分散練習	講義 一部演習	【復習】指定教科書p. 121-133 感覚系と運動系の協応からなる技能(スマホやPCの操作, 自転車や自動車の運転, 楽器演奏, スポーツ等)は日常生活に必須であることを理解する。	60
3. 4	技能学習(3) ・技能の記憶 ・レミニセンス ・転移 技能学習(4) ・効果的な学習法(構え) ・熟達と脳	講義	【復習】指定教科書p. 134-143 技能の学習は類似した技能の習得にもなっている, ある筋肉系の学習が他の筋肉系の学習を促進する現象を理解する。【復習問題】指定教科書p. 143	60
5. 6	社会的学習(1) ・定義 ・観察学習 ・模倣学習 社会的学習(2) ・社会的学習理論から考察する攻撃行動	講義 一部討議：・いじめや虐待の防止を学習理論から提案する。	【復習】指定教科書p. 145-159 学習は, 自分自身の体験からのみではなく, 他者の体験を見たり聞いたりするだけで自身も学習することができることを理解する。	60
7. 8	社会的学習(3) ・社会的学習理論のポジティブな側面とネガティブな側面 社会的学習(4) ・観察学習による効果的な動機づけ・自己効力感	講義 演習 p. 165[復習問題]解答	【復習】指定教科書p. 160-164 バンデューラの社会的学習理論に基づくセルフ・エフィカシーの概念を理解する。 【復習問題】指定教科書p. 165	60
9. 10	言語学習(1) 言語の機能(役割) 言語学習(2) 言語の獲得 ・N. Chomskyの言語理論 ・言語発達と概念形成 ・母語と外国語の獲得	講義 演習 p. 205[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 167-205 子どもの音声言語の発達過程(母語の音韻獲得)を理解する。言語獲得の「臨界期仮説」については、その科学的根拠を各自で調べる。	60
11. 12	言語学習(3) 言語と思考 ・内言/外言・J. PiagetとL. S. Vygotskyの論争 言語学習(4) 言語と脳 ・Broca野 ・Wernicke野	講義 演習：言語のしくみを脳の図解から理解する	【復習】指定教科書p. 207-226 言語が思考に果たす役割を理解するとともにその障害への適切な支援法を考案する。言語及び思考という高次脳機能を脳科学の観点からも理解する。	60
13. 14	言語学習(5) 言語・コミュニケーション障害 ・談話・会話の管理能力 ・失語症 ・失読失書 ・神経発達症群 言語学習(6) 障害への適切な支援 ・機能的障害 ・器質性障害	講義 視聴覚教材の活用	【復習】指定教科書p. 272-294 言語及びコミュニケーション障害の多様性への理解を深め, 適切な支援法を考案する。 【復習問題】p. 294-295	60
15	まとめ	講義 演習：国試過去問の関連問題	【予習】指定教科書p. 167-295 国試過去問の関連問題を通して, 理解を深める。	60

【科目名】公認心理師の職責Ⅰ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0000-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 教科書の内容に沿って講じていきます。この講義はアクティブラーニングを用います。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑧を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがある。		
【一般教育目標(GIO)】 公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。		
【行動目標(SB0)】 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】 野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円＋税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	公認心理師とはどのような資格か	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理支援に必要な技能（コンピテンシー）	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理支援の専門職になるために	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理支援の専門職として働くために	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	公認心理師の今後の展開	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	公認心理師の法的義務と倫理	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】公認心理師の職責Ⅱ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、公認心理師の職責について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 教科書の内容に沿って講じていきます。この講義はアクティブラーニングを用います。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑧を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥自己課題発見・解決能力、⑦生涯学習への準備、⑧多職種連携及び地域連携 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書の内容に沿って講じる。 公認心理師の職責の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがある。		
【一般教育目標(GIO)】 公認心理師の役割について理解する。 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。		
【行動目標(SB0)】 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編 『公認心理師の職責』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】 野島一彦 編 『公認心理師の職責』 遠見書房 (2,000円＋税) 松田純・江口昌克・正木祐史 編 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』 知泉書館 (2,200円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	情報の適切な取り扱い	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	チームや地域で連携して働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	保健医療分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	福祉分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	教育分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法・犯罪分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	産業・労働分野で働く	講義 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】心理学研究法Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目では心理学の主要な研究手法である実験法、調査法について主に解説します。実際の研究事例を用いながらそれぞれの研究法の内容について学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-2 (方法) 毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。実際に研究デザインを組み立てる演習を組み入れながら進行する。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学研究がどのような手法で行われているのかを、特に実験法および調査法による具体的な研究方法の手順を学びながら理解することを目指す。 【行動目標(SB0)】 心理学研究法における実験法について説明ができる。 心理学研究法における調査法について説明ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 三浦 麻子他(編)／心理学研究法／ミネルヴァ書房／2020年／2,650円		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・実験法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における実験法の概要を理解 する	1 2 0
3・4	・実験計画と研究デザイン	講義	講義プリントの復習 実験法における計画の立案の流れに ついて理解する	1 2 0
5・6	・実験結果を歪める要因	講義	講義プリントの復習 実験法における剰余変数をはじめと した結果を歪める要因について理解 する	1 2 0
7・8	・実験法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 実験結果の統計学的検定方法につい て理解する	1 2 0
9・10	・調査法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学における調査法の概要を理解 する	1 2 0
11・12	・調査対象者の選択	講義	講義プリントの復習 調査法において対象者を募る際の注 意点や倫理的配慮について理解する	1 2 0
13・14	・調査結果の整理	講義	講義プリントの復習 調査の結果得られたデータのまとめ 方について理解する	1 2 0
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	1 2 0

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	調査法にて用いられる心理統計学解析法	講義	講義プリントの復習 調査法により得られたデータの統計学的処理方法について理解する	120
3・4	観察法の概略	講義	講義プリントの復習 心理学研究における観察法全体の概要を理解する	120
5・6	観察法における量的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた量的データの処理方法について学ぶ	120
7・8	観察法における質的データの扱い方	講義	講義プリントの復習 観察法により得られた質的データの処理方法について学ぶ	120
9・10	面接法について	講義	講義プリントの復習 構造化面接、半構造化面接、非構造化面接の違いについて理解する	120
11・12	文献研究について	講義	講義プリントの復習 文献研究の意義、文献の検索方法について理解する	120
13・14	心理学研究の進め方	講義	講義プリントの復習 具体的な心理学の研究の進め方、レポートや論文執筆の作法について理解する	120
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	120

【科目名】心理学実験Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0030-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください)。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】 (目的) 主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) 15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。		
【行動目標(SBO)】 実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。 データの処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 実験・実習で学ぶ心理学の基礎／認定心理士資格認定委員会編集／日本心理学会／2,700円(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 授業への参加態度も評価に含みます。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 レポートの解答の返却は行いません。また、リザーブドブックは必要に応じて行います。		

レポートの勝負の返却は行いません。ノートバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	オリエンテーション ●実験1（鏡映描写） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	●実験1（鏡映描写） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	●実験1（鏡映描写） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	●実験2（触二点閾） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	●実験2（触二点閾） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	●実験2（触二点閾） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	●実験3（錯視） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	●実験3（錯視） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・1 8	●実験3（錯視） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	●実験4（記憶） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
21・2 2	●実験4（記憶） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
23・2 4	●実験4（記憶） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	●実験5（パーソナルスペース） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
27・2 8	●実験5（パーソナルスペース） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
29・3 0	●実験5（パーソナルスペース） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

【科目名】心理学実験Ⅱ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0035-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は「認定心理士」及び「公認心理師」資格を取得する上でも重要な科目です。単位数も他の心理学科目より多くなっています。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・本実験演習はペアあるいはグループで行います。特別の事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。実験後は毎回実験レポートを作成していただきます(病気や事故などで提出が遅れる場合はあらかじめ担当教員に連絡してください)。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】 (目的) 主体的に心理学実験データを収集する演習を通して、心理学におけるデータの扱い方を学ぶ。また、実験データに基づいたレポートの執筆を通して、科学的視点で物事を考える姿勢を習得することを目指す。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) 15回の授業の中で5種類の基本的な心理学実験を行う。それぞれの実験からデータを収集して要約し、その結果をレポートとしてまとめる。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学実験を通して得られたデータを扱うことを通して人間の行動を科学的に理解する。		
【行動目標(SBO)】 実験計画法を理解し、実験や検査を実施できる。 データの処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 実験・実習で学ぶ心理学の基礎／認定心理士資格認定委員会編集／日本心理学会／2,700円(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 授業への参加態度も評価に含みます。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 レポートの解答の返却は行いません。また、リザーブドブックは必要に応じて行います。		

レポートの勝負の返却は行いません。ノートバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							40	40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	●実験1（ストループテスト） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
3・4	●実験1（ストループテスト） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
5・6	●実験1（ストループテスト） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
7・8	●実験2（社会的促進） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
9・10	●実験2（社会的促進） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120
11・12	●実験2（社会的促進） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
13・14	●実験3（コミュニケーション） 実験の説明、データ収集	講義 演習	実験データをまとめる	120
15・16	●実験3（コミュニケーション） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	実験データをまとめる	120

17・1 8	●実験3（コミュニケーション） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
19・2 0	●実験4（調査法） 実験の説明、データ収集	講義 演習	調査データをまとめる	120
21・2 2	●実験4（調査法） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	調査データをまとめる	120
23・2 4	●実験4（調査法） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120
25・2 6	●実験5（観察法） 実験の説明、データ収集	講義 演習	観察データをまとめる	120
27・2 8	●実験5（観察法） データの収集、分析 質疑応答	講義 演習	観察データをまとめる	120
29・3 0	●実験5（観察法） レポート作成 質疑応答	講義 演習	レポート作成	120

【科目名】	心理学実験Ⅲ	【担当教員】	大越 陽平
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0040-1
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ
		(メールアドレス)	
		ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com	
		(オフィスアワー) 授業内でお伝えします。	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。教育・福祉分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。本実験演習は、グループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。ノートパソコンを持参して下さい。合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。			
【講義概要】			
(目的)			
心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な①実験計画の立案の方法、②統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2			
(方法)			
毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 試験レポートの解答例は必要に応じて説明、フィードバックを行う。			
【一般教育目標(GIO)】			
臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。			
【行動目標(SB0)】			
こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
心理学基礎実験を学ぶ データ収集からレポート執筆まで／大和田智文／鈴木公啓（叢樹出版）			
【参考書】			
村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592（税込）			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-4	■オリエンテーション ■心理検査について 演習の心得、報告書の作成	講義 演習	資料配布	225
5-16	実験1) 知能検査 知能検査の歴史, 田中ビネー検査, ウェクスラー式知能検査	講義 演習	資料配布	675
17-28	実験2) 性格検査 TEG (東大式エゴグラム)	講義 演習	資料配布	675
29-30	実験3) 認知症のスクリーニング検査 (HDS-R、MMSE、CDT)	講義 演習	資料配布	225

【科目名】心理学実験Ⅳ		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0045-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】30コマ	(オフィスアワー) 授業内で知らせます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は「公認心理師」資格を取得ための必須科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。教育・福祉分野における臨床心理学的援助に従事してきた経験から演習の指導にあたります。本実験演習は、グループで行います。特別な事情がない限り、遅刻・早退は厳禁です。 実験後はレポートを課し、レポートの提出あるいは発表していただきます。合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。また、本講義では対話・議論型授業型のアクティブラーニングを取り入れる。		
【講義概要】 (目的) 心理学の中でも特に臨床心理学に関わる検査を体験することにより、臨床心理学の基礎知識を修得し、既成の理論や法則を確認することを目的とする公認心理師のために必要な①実験計画の立案の方法、②統計に関する基礎的知識について理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-2 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) 毎回、臨床心理学の主要な検査法を題材として取り上げ測定等を行う。実験後に実験レポートを作成する。		
【一般教育目標(GIO)】 臨床心理学的な手法を用いて“こころ”の状態を測定する方法や査定する方法について学ぶ。		
【行動目標(SB0)】 こころの状態を査定する方法を理解し、実験や検査を実施できる。 実施した実験や検査の結果処理ができる。 考察の観点を明らかにし、研究レポートを作成できる。		
【教科書・リザーブドブック】 心理学基礎実験を学ぶ データ収集からレポート執筆まで／大和田智文／鈴木公啓（叢書出版）		
【参考書】 村上香奈・山崎浩一『よくわかる心理学実験実習』ミネルヴァ書房 2,592（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 「達成度評価」基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 試験・レポートの解答の返却はおこないません。フィードバックは必要に応じ補講等にておこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40	20			100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10	20			40

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	実験3) SCT(文章完成法)	講義 演習	資料配布	120
3-14	実験4) MMPI(性格検査)	講義 演習	資料配布	675
15-22	実験5) バウムテスト，風景構成法	講義 演習	資料配布	450
23-30	実験6) P-Fスタディ	講義 演習	資料配布	450

【科目名】感情・人格心理学Ⅱ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0055-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。		
【講義概要】		
(目的)		
心理学における感情の位置づけ、およびその諸理論について理解することを目指す。具体的には感情が喚起するまでのプロセスや感情が行動に影響を与えるプロセス等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】		
感情の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における感情の位置づけについて理解することを目指す。		
【行動目標(SB0)】		
感情喚起についての理論について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
毎回資料を配布します。		
【参考書】		
大平秀樹 『感情心理学・入門』 有斐閣アルマ (1,900円+税)		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感情の諸理論 (1) 抹消起源説、中枢起源説	講義	講義プリントの復習 感情の感情喚起に関する抹消起源説 と中枢起源説の違いをまとめる	1 2 0
3・4	感情の諸理論 (2) その他の理論	講義	講義プリントの復習 感情の感情喚起に関するその他の理 論についてまとめる	1 2 0
5・6	感情の発達と個人差	講義	講義プリントの復習 感情が発達するプロセスと発達過程 で生じる個人差をまとめる	1 2 0
7・8	感情と認知および言語との関係	講義	講義プリントの復習 感情と認知および言語との関係につ いてまとめる	1 2 0
9・10	感情と病理 (1) 不安障害、PTSD	講義	講義プリントの復習 感情と不安障害、PTSDとの関係をま とめる	1 2 0
11・12	感情と病理 (2) 抑うつ障害	講義	講義プリントの復習 感情と抑うつ障害との関係をまとめ る	1 2 0
13・14	感情と心身の健康	講義	講義プリントの復習 感情と心身の健康の関係についてま とめる	1 2 0
15	まとめ	講義	これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】	感情・人格心理学 I		【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0050-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～木曜日 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「心理学概論」「心理学統計法」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。				
【講義概要】				
(目的)				
心理学における人格の位置づけ、およびの諸理論について理解することを目指す。具体的には遺伝と環境により形成されるパーソナリティの個人差、性格が行動に与える影響等について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3				
(方法)				
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。 この講義はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GIO)】				
人格の古典的な理論や最新の知見を学習しながら、心理学における人格の位置づけについて理解することを目指す。				
【行動目標(SBO)】				
古典的な人格理論について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
授業資料を毎回配布します。				
【参考書】				
吉川眞理（編著）『よくわかるパーソナリティ心理学』 ミネルヴァ書房（2,600円＋税）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。				

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	人格に関する諸理論（１）類型論と特性論	講義	講義プリントの復習 類型論と特性論の違いをまとめる	120
3・4	人格に関する諸理論（２）精神力動的アプローチ	講義	講義プリントの復習 精神力動的アプローチの内容につい てまとめる	120
5・6	人格に関する諸理論（３）行動主義的アプローチ 、人間学的アプローチ	講義	講義プリントの復習 行動主義的アプローチ、人間学的ア プローチについてまとめる	120
7・8	人格の形成過程（１）性格と発達	講義	講義プリントの復習 性格がどのように発達していくかま とめる	120
9・10	人格の形成過程（２）環境要因と遺伝要因	講義	講義プリントの復習 人格の形成過程に関わる環境要因と 遺伝要因についてまとめる	120
11・12	性格の研究法：実験法、質問紙法、面接法、検査 法	講義	講義プリントの復習 性格を研究するための種々の方法に ついてまとめる	120
13・14	性格特性と疾患、パーソナリティ障害	講義	講義プリントの復習 性格特性と疾患、パーソナリティ障 害の概要についてまとめる	120
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	120

【科目名】 神経・生理心理学 I		【担当教員】 加藤 真由美
【授業区分】 専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】 5-30-0060-2	(メールアドレス) ma.kato@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 「脳の構造と機能」について本講義では、精神・心理機能に関連している部分を主体に説明します。 神経解剖学、生理学の学問的領域を含みます。		
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、 ③脳神経系疾患への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：R-2、R-3 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義終了後に、小テストを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語等の神経心理学的メカニズムを説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④神経心理学的な観点と心理学的観点からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。 【行動目標(SBO)】 言語と思考、外界（環境）を知るしくみとその認知機能障害との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の障害が日常生活や社会活動全般に及ぼす影響を神経心理学的観点からも推察でき、適切に支援することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布します。		
【参考書】 緑川晶ほか（著）「公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学」医歯薬出版 ￥3,300（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	脳の構造と機能	講義	講義ノートの作成	240分
3・4	脳と意識	講義	講義ノートの作成	240分
5・6	高次脳機能障害の4大症状	講義	講義ノートの作成	240分
7・8	虐待と脳①	講義	講義ノートの作成	240分
9・10	虐待と脳②	講義	講義ノートの作成	240分
11・12	前頭前野の機能	講義	講義ノートの作成	240分
13・14	脳の機能局在と障害の関連	講義	講義ノートの作成	240分
15・試験	まとめ 試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	240分

【科目名】 神経・生理心理学Ⅱ		【担当教員】 加藤 真由美
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 5-30-0065-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。この授業はアクティブラーニングを用います。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 「脳の構造と機能」について本講義では、精神・心理機能に関連している部分を主体に説明します。神経解剖学、生理学の学問的領域を含みます。		
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。当該科目と学位授与方針との関連性；R-2，R-3 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。講義終了後に、小テストを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語等の神経心理学的メカニズムを説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④心理学的観点からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。 【行動目標(SB0)】 記憶や思考・判断する高次脳機能や感情（情動）と脳機能との関連性を理解できる。 精神疾患について神経心理学的な側面からその機序を理解でき、適切な支援を実践することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布します。 尚、「（神経）解剖学」「（神経）生理学」のテキスト等で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。		
【参考書】 緑川晶ほか（著）「公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学」医歯薬出版(2018/4/6) ￥3,300（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1, 2	記憶と記憶障害①	講義	記憶とは何か、脳機能の観点から理解し、記憶障害の支援方法を理解する。講義ノートを作成する。	240分
3, 4	記憶と記憶障害②	講義	記憶とは何か、脳機能の観点から理解し、記憶障害の支援方法を理解する。講義ノートを作成する。	240分
5, 6	脳と生体機能	講義	脳と生体機能の関わりを理解する。講義ノートを作成する。	240分
7, 8	神経伝達物質の役割①	講義	様々な心理作用と脳の間接関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
9, 10	神経伝達物質の役割②	講義	様々な心理作用と脳の間接関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
11, 12	神経伝達物質の役割③	講義	様々な心理作用と脳の間接関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
13, 14	精神疾患と脳	講義	脳の作用機序と精神疾患の間接関係を理解する。講義ノートを作成する。	240分
15・試験	まとめ 試験	講義	重要キーワードとそれらの意味・概念を理解する。 これまでの講義をもとに講義ノートを作成させる。	240分

【科目名】		社会・集団・家族心理学Ⅰ	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0070-1	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 12:40～13:30（月～金、火除く）
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「心理学概論」など心理学の基礎的な科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、社会・集団・家族心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、試験などは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 ②人の態度及び行動、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法)				
教科書の内容に沿って講じる。 社会・集団・家族心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GIO)】				
社会・集団・家族心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。 実生活での家族を含む対人関係や社会的事象を科学的に理解するための視点を獲得する。				
【行動目標(SBO)】				
対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。 人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
竹村和久 編 『社会・集団・家族心理学』 遠見書房（2,600円＋税）				
【参考書】				
湯川進太郎・吉田富二雄 編 『スタンダード社会心理学』 サイエンス社（2,600円＋税） 中金洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 『家族心理学－家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣（2,500円＋税）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	30						50
	思考・推論・創造の力	20	30						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	社会・集団・家族心理学とは何か	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	対人認知	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	態度と行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	ステレオタイプと偏見	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	向社会的行動と反社会的行動	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	社会的促進と社会的抑制	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	社会的影響	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	30						50
	思考・推論・創造の力	20	30						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	集団過程	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	社会的相互作用	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	対人関係の形成と発展	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	家族の人間関係	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	ソーシャル・サポート	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	文化と社会心理	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	集合行動とマスコミュニケーション	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】障害者・障害児心理学Ⅰ		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0080-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業科目です。大学での障害者（児）心理学に関する教育経験、医療・地域保健機関において言語・高次脳機能障害や精神機能障害等へのリハビリテーションに従事してきた臨床経験から、障害者・障害児の各疾患への理解とその支援法について講じていきます。 将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 講義後にレポート課題を課すことがあります。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) 障害について、日常生活、就学、就労、ライフイベント等において、障害者にとっての障壁を除去する方策を提案できる。 バリアフリー社会、共生社会を実現するため、合理的配慮、適切な心理支援とは何かを考え、実践することができる。 関連法規に基づき策定された障害者施策の基本的な考え方を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当者から資料を受け取り、必ず参照して下さい。 理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 身体障害の特性を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面から理解し、適切な心理支援のあり方を提案できる。 障害児・者の”生きづらさ”を理解し、障害特性に適した心理支援の在り方や家族支援について考察する。 「障害者総合支援法」の理念及び内容の主旨を理解し、障害者・障害児支援の根拠となる法制度を理解できる。 【行動目標(SB0)】 障害児・者が生活を営む上での社会的課題を踏まえ、適切な心理支援を実践できる。 障害により日常生活や社会生活を営む上で生ずる”心のバリア(障壁)”を取り除き、心のバリアフリー化を実践する。 共生社会、インクルーシブ教育の理念を理解し、その実現に務める。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料（関連法規等）を配布します。		
【参考書】 下山晴彦, 佐藤隆夫, 他「障害者・障害児心理学（公認心理師スタンダードテキスト13）」, ミネルヴァ書房(2022/4/18), ￥ 2,640 野島一彦, 繁樹算男他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房（2020/3/24）, ￥ 2,860 古賀精治（著）「障害者・障害児心理学（放送大学教材 1644）」, NHK出版(2021/3/20), ￥2,970		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ※障害への配慮が可能な学生は教員と事前にご相談するを推奨します。尚、相談するをしづ不利が生ずるを認めません。		

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。同、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ	0		0					0
	発表力	0		0					0
	学修に取り組む姿勢	0		10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	障害とは何か 身体障害、知的障害、精神障害 障害者基本法等の規定に見る「障害」の範囲	講義	【復習】障害の分類を理解する ・国際障害分類(ICIDH) ・国際生活機能分類(ICF)	30
2	障害児・障害者に対する支援(基本) 障害者差別解消法 障害者総合支援法 発達障害者支援法	講義	【復習】障害への支援を考える ・障害受容 ・二次障害 ・エビデンスに基づく障害支援	30
3	身体障害①_視覚障害 障害の理解	講義	【復習】視覚障害の医学・生理学的メカニズムを理解する ・盲 ・弱視	30
4	身体障害①_視覚障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 演習:様々な見えにくさに対する支援を考える	【復習】視覚障害への支援 ・点字 ・歩行 ・バーバリズム ・ブラインディズム	30
5	身体障害②_聴覚障害・平衡機能障害 障害の理解	講義	【復習】聴覚障害の医学・生理学的メカニズムを理解する ・聾 ・難聴(伝音性/感音性)	30
6	身体障害②_聴覚障害・平衡機能障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義、演習:事例検討”聞こえの障害”の特性に応じた適切な支援法を考える	【復習】聴覚障害への支援 ・言語の発達 ・コミュニケーション障害 ・補聴器 ・人工内耳 ・手話	30
7	身体障害③_音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 障害の理解	講義 討議:”話す障害”のそれぞれの特性に応じた支援法を考える	【復習】音声機能障害への支援 ・発声・発語器官 ・構音障害 ・脳機能と言語 ・吃音 ・発達障害	30
8	身体障害③_音声機能障害・言語機能障害またはそ しゃく機能障害 適切な支援(家族支援を含む)	講義 討議:”食べる障害”に伴う心理的苦痛への支援法を考える	【復習】食べる機能の障害の医学・生理学的メカニズムを理解し、適切な支援法を考えることができる。	30

9	乳幼児における障害の早期発見とその支援	講義	【復習】障害の早期発見の重要性と療育制度を理解する ・母子保健 ・乳幼児健診 ・保育園・幼稚園での支援	30
1 0	特殊教育から特別支援教育へ 理念・制度の見直し	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】障害者施策の歴史的経緯を知る ・生活支援 ・教育支援 ・就学支援	30
1 1	身体障害④_肢体不自由 障害の理解	講義	【復習】肢体不自由の医学・生理学的メカニズムを理解する。 ・脳性まひ ・随伴障害 ・重複障害、重症心身障害	30
1 2	身体障害④_肢体不自由 適切な支援（家族支援を含む）	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】障害施策と医学/教育/医工学的リハビリテーションを知る ・早期療育 ・自立支援 ・訪問教育	30
1 3	身体障害⑤_内部障害 障害の理解と適切な支援（家族支援を含む）	講義	【復習】内部障害の医学・生理学的メカニズムを理解する。 ・心臓、腎臓、呼吸器機能の障害・膀胱、直腸、小腸の機能の障害・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害	30
1 4	身体障害⑤_内部障害 適切な支援（家族支援を含む）	講義 討議：身近な生活からUDとバリアフリーの具体例を探す。	【復習】医学/教育/職業/社会/支援工学リハビリテーションを知る ・医療的ケア ・ホスピタリズム ・ユニバーサル・デザイン(UD)	30
1 5	まとめ	講義	【復習】1 - 14コマ目の重要事項を理解する	60

【科目名】障害者・障害児心理学Ⅱ		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0085-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後※随時メールにて
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業科目です。大学での障害者（児）心理学に関する教育経験、医療・地域保健機関において言語・高次脳機能障害や精神機能障害等へのリハビリテーションに従事してきた臨床経験から、障害者・障害児の各疾患への理解とその支援法について講じていきます。 将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する学生には受講していただきたいと思います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 講義後にレポート課題を課すことがあります。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) 障害について、医学・生理学的側面及び心理・社会的側面から理解し、適切な支援のあり方を提案できる。 日常生活、就学、就労、ライフイベント等において、障害者にとっての障壁を除去する方策を提案できる。 バリアフリー社会、共生社会を実現するため、合理的配慮、適切な心理支援とは何かを考え、実践することができる。 関連法規に基づき策定された障害者施策の基本的な考え方を理解する。 当該科目と学位授与方針との関連性；R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当者から資料を受け取り、必ず参照してください。 理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 知的障害、発達障害、精神障害の特性を医学・生理学的側面及び心理・社会的側面の両面から捉えることができる。 当事者及び家族への心理支援の在り方を理解する。 「障害者総合支援法」の理念及び内容の主旨を理解し、障害者・障害児支援の根拠となる法制度を理解できる。		
【行動目標(SBO)】 障害児・者が生活を営む上での社会的課題を踏まえ、適切な心理支援を実践できる。 障害により日常生活や社会生活を営む上で生ずる”心のバリア(障壁)”を取り除き、心のバリアフリー化を実践する。 共生社会、インクルーシブ教育の理念を理解し、その実現に務める。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず 毎回、講義スライド資料及び関連資料（関連法規を含む）を配布します。		
【参考書】 下山晴彦, 佐藤隆夫, 他「障害者・障害児心理学（公認心理師スタンダードテキスト13）」, ミネルヴァ書房(2022/4/18), ￥ 2,640 野島一彦, 繁樹算男, 他「公認心理師の基礎と実践 13 障害者・障害児心理学」, 遠見書房（2020/3/24）, ￥ 2,860 太田 信夫(監), 柿澤 敏文(編)「障害者心理学（シリーズ心理学と仕事 15）」, 北大路書房(2017/7/21), ￥2,310		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学位規定のGPA制度に依る。		

・成績評価基準は各科目別規定のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		10					50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	知的障害 障害の理解	講義	【復習】知的障害の理解 ・知的障害の定義 ・知能検査 ・知的障害の分類 ・適応行動の検査	30
2	知的障害 適切な支援（家族支援を含む）	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	【復習】知的障害者への支援 ・療育手帳 ・知的障害者更生相談所	30
3	発達障害の理解と適切な支援① 広汎性発達障害 ・自閉 ・アスペルガー症候群	講義	【復習】発達障害の理解 ・各障害の特性 ・適切な対応（合理的配慮） ・ソーシャルスキルトレーニング (SST)	30
4	発達障害の理解と適切な支援② 注意欠陥多動性障害（AD/HD） レット症候群 小児期崩壊性障害 （強度）行動障害	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	【復習】発達障害の理解 ・各障害の特性 (例：不注意・多動性・衝動性) ・アセスメント ・適切な対応（合理的配慮）	30
5	発達障害の理解と適切な支援③ 学習障害（LD）	講義	【復習】学習障害の理解 ・LDの定義 ・認知処理特性に応じた教育法	30
6	発達障害の理解と適切な支援④ 家族支援と適切な養育 ペアレントトレーニング	講義 演習PBL（事例検 討）を含む	【復習】家族支援 養育者へ障害特性の理解を促す ・ペアレントトレーニング	30
7	精神障害の理解① 精神障害の定義（範囲） 適切な心理・社会的対応	講義	【復習】精神障害の理解 ・統合失調症 ・気分障害 ・神経症・ストレス関連障害 ・パーソナリティ障害 等	30
8	精神障害の理解② 精神障害の定義（範囲） 適切な心理・社会的対応	講義	【復習】精神障害の理解	30

9	精神障害への社会保障制度① ・ 社会福祉 ・ 公的扶助 ・ 保健医療・公衆衛生	講義	【復習】障害等級の理解 ・ 精神障害者保健福祉手帳 ・ 障害等級判定基準	30
1 0	精神障害への社会保障制度② ・ 「社会保険」による障害年金制度	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】支援制度の理解 ・ 障害等級判定基準による公的生活（経済的）支援制度	30
1 1	・ 「大人の発達障害」とは ・ 「高次脳機能障害」とは	講義	【復習】各障害の「定義」の理解と合理的配慮 ・ 記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害など	30
1 2	高次脳機能障害者への生活・就労支援 ・ 自動車運転再開支援	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】地域での生活・就労支援の一環を知る ・ 新潟県内で「運転再開リハ」の実態調査	30
1 3	「就労移行支援」 ・ SST（社会生活技能訓練）	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】合理的配慮を理解する ・ 生活自立支援 ・ 社会参加支援	30
1 4	就労継続支援 ・ 就労継続支援A型 ・ 就労継続支援B型	講義 演習PBL（事例検討）を含む	【復習】障害者雇用 ・ 障害者への合理的配慮 ・ 自立支援 ・ 社会参加	30
1 5	まとめ ・ 「共生社会」の実現に向けて ・ 「障害者総合支援法」とは	講義	【復習】共生社会の課題を考える ・ 「障害者総合支援法」の理念を理解する	60

【科目名】 心理的アセスメント I		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】 5-30-0090-1	(メールアドレス) (オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) スライドによる授業を行う。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、④適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) スライドによる解説を行う。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 試験レポートの解答例は授業内にて説明、フィードバックを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。		
【行動目標(SB0)】 心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版（3,200円＋税）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 小テストと定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。 試験・レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは授業内や別途講義にて行いません。		

訳読・レポートの勝負の返却はございません。ノートハックは必妥に心し備守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理的アセスメントの目的及び倫理① 心理的アセスメントの目的	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
3-4	心理的アセスメントの目的及び倫理② 心理的アセスメントの倫理	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
5-6	心理的アセスメントの観点及び展開① エビデンスベースト・アプローチ	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
7-8	心理的アセスメントの観点及び展開② 生物心理社会モデル	講義	講義プリントの完成・復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	心理的アセスメントの観点及び展開③ 機能分析、ケースフォーミュレーション	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
11-12	心理的アセスメントの観点及び展開④ 保健医療、福祉の分野における心理的アセスメン トの実際	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
13-14	心理的アセスメントの観点及び展開⑤ 教育、司法・犯罪、産業・労働の分野における心 理的アセスメントの実際	講義	講義。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	講義の復習をする。	120分

【科目名】心理的アセスメントⅡ		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】5-30-0095-1	（メールアドレス） （オフィスアワー）月木，12:30～13:30
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15コマ	
【注意事項】 （受講者に関わる情報・履修条件） 「臨床心理学概論」などの臨床心理学に関する科目を履修しておく、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、心理的アセスメントについて講じます。 （受講のルールに関わる情報・予備知識） 毎回スライドを用いた授業を行います。 講義中に参考文献を紹介するので、図書館で借りたり購入したりして読んでください。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 （目的） この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開 ③心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、④適切な記録及び報告 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 （方法） スライドを用いた講義を行う。 心理学的アセスメントの各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 試験レポートの解答例は授業内にて説明、フィードバックを行う。		
【一般教育目標（GIO）】 心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈できる。 生育歴等の情報、行動観察、心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈できる。 適切に記録、報告、振り返り等ができる。		
【行動目標（SBO）】 心理的アセスメントに有用な情報（生育歴や家族の状況等）及びその把握の手法等について概説できる。 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について概説や実施ができる。 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界について概説できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし。		
【参考書】 下山晴彦 『臨床心理アセスメント入門』 金剛出版（3,200円＋税）		
【評価に関わる情報】 （評価の基準・方法） 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。 試験レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは授業内で補講等に行いません。		

訳読・レポートの勝負の返却はございません。ノートバックは必妥に心し備誦守にしてください。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	面接法について① 構造化面接・非構造化面接	講義	講義 関連する文献を読む	240分
3-4	面接法について② 心理面接の進め方、面接の中で用いられる技法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
5-6	観察法について① 自然観察法と実験観察法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
7-8	観察法について② 参与観察法と非参与観察法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
9-10	心理検査法について① 質問紙法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
11-12	心理検査法について② 投映法・作業検査法	講義	講義 関連する文献を読む	240分
13-14	検査法について③ 知能検査・発達検査	講義	講義 関連する文献を読む	240分
15	まとめ	講義	講義 関連する文献を読む	120分

[illegible]

【科目名】		心理学的支援法Ⅰ		【担当教員】	大越 陽平
【授業区分】		専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0100-1	（メールアドレス） （オフィスアワー）月木，12:30～13:30
【開講時期】		前期	【選択必修】	必修	
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	
【注意事項】 （受講者に関わる情報・履修条件） 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育・福祉分野での心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。本講義の内容は心理学的支援法Ⅱと連続しています。 （受講のルールに関わる情報・予備知識） 毎回、講義資料を配布します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。					
【講義概要】 （目的） この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑥を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義 ③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮 ⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 （方法） 毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 レポートの解答例は授業内にて説明，フィードバックを行う。					
【一般教育目標（GIO）】 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。					
【行動目標（SB0）】 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。					
【参考書】 適宜紹介する。					
【評価に関わる情報】 （評価の基準・方法） 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	50						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	25						55
	思考・推論・創造の力	20	25						45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション，心理的支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	精神分析・力動的心理療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	芸術療法・表現療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	行動分析	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	認知療法・認知行動療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	ストレスと心の健康	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

【科目名】 心理学的支援法Ⅱ		【担当教員】 大越 陽平
【授業区分】 専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】 5-30-0105-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	
(オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に福祉・教育分野での心理支援に従事してきた経験から、心理学的支援法について講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回、講義資料を配布します。 本講義の内容は心理学的支援法Ⅰと連続しています。 定期試験は各回授業で配布する資料全て持ち込み可とする。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑥を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義 ③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮 ⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 毎回、講義資料を配布する。 心理学的支援法の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 学生の理解度を確認するために、クリッカーや匿名チャット等を用いる。 レポートの解答例は授業内にて説明、フィードバックを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。		
【行動目標(SBO)】 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。		
【参考書】 適宜紹介する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		44	56						100
評価 指標	取り込む力・知識	30	28						58
	思考・推論・創造の力	14	28						42
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション, パーソンセンタード・ア プローチ	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
3-4	集団療法・グループカウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
5-6	家族療法	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
7-8	カウンセリング	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
9-10	技法選択のエビデンス	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
11-12	コミュニティアプローチ, 訪問・地域支援	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
13-14	コミュニケーション, プライバシー, 支援者支 援, 健康教育	講義	講義資料の復習。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの講義資料の復習をする。	120分

【科目名】健康・医療心理学Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】5-30-0110-1	(メールアドレス) yamakura@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【開講時期】後期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高校・大学での学校臨床の経験や大学院附属の臨床心理センターでのカウンセリング経験から、ストレスが心身に及ぼす影響と日常生活や就労等への支援法について講じていきます。 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目ではストレスが生成されるまでのメカニズムやそれが種々の疾患の発症にどのようにかかわっているのかを学ぶことを目的とする。また、心身の健康を維持、増進するための予防的行動のあり方についても主要な理論を援用しながら学ぶ。 当該科目と学位授与との関連性：R-2 (方法) 毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学的観点から「ストレス」という言葉の実際の内容を説明でき、それが心身の健康とどのようにかかわっているのかを説明できることを目指す。 【行動目標(SBO)】 ストレス生成の心理学的・生理学的メカニズムを説明できる。 ストレス緩和要因について説明できる。 ストレスが引き金となって生じる心身の問題およびその予防について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 宮脇 稔（編）／健康・医療心理学（公認心理師カリキュラム準拠）第2版／医歯薬出版／2025年／3,000円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	30	20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20	10					50
	思考・推論・創造の力	20	10	10					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・オリエンテーション ・ストレスとは何か ・ストレッサーとストレス反応	講義	講義プリントの復習 心理学的観点からストレスの概要を 理解する。	1 2 0
3・4	・ストレスとそのコントロール ・コーピングとソーシャルサポート	講義・演習	講義プリントの復習 ストレス緩和要因について理解す る。	1 2 0
5・6	・ストレス関連疾患（１） -心身症 -性格特性と関連のある疾患	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
7・8	・ストレス関連疾患（２） -心的外傷後ストレス障害について	講義	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
9・10	・ストレス関連疾患（３） -不安障害について	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
11・12	・ストレス関連疾患（４） -パニック障害について	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
13・14	・ストレス関連疾患（５） -強迫性障害について	講義・演習	講義プリントの復習 ストレスが引き金となって生じる疾 患のメカニズムを理解する。	1 2 0
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】健康・医療心理学Ⅱ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】5-30-0115-1	(メールアドレス) yamakura@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【開講時期】後期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高校・大学での学校臨床の経験や大学院附属の臨床心理センターでのカウンセリング経験から、ストレスが心身に及ぼす影響と日常生活や就労等への支援法について講じていきます。 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目では臨床現場におけるチーム医療介入の実際について、講義および実際の事例を検討しながら学ぶことを目的とする。また、地域保健活動や産業保健領域における心理職の役割について学ぶ。 当該科目と学位授与との関連性：R-2 (方法) 毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。演習の一環として、実際の心理検査や事例検討を組み入れて進行する。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 チーム医療における多職種連携およびその中での心理職の役割やその活動の実際について説明することができる。 【行動目標(SBO)】 チーム医療の多職種連携の必要性について説明できる 地域保健活動における心理職の役割について説明できる 産業保健領域における心理職の役割について説明できる		
【教科書・リザーブドブック】 授業資料を毎回配布します。		
【参考書】 宮脇 稔（編）／健康・医療心理学（公認心理師カリキュラム準拠）／医歯薬出版／2025年／3,000円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 授業への参加態度も評価に含まれる。		

・ 投票への参加態度も評価に含めます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	30	20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20	10					50
	思考・推論・創造の力	20	10	10					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	医療現場における心理的支援（１） ・ チーム医療と多職種連携	講義・演習	講義プリントの復習 チーム医療と多職種連携について理 解する。	1 2 0
3・4	医療現場における心理的支援（２） ・ ASD、ADHD	講義・演習	講義プリントの復習 ASD及びASDの症状、心理的支援のあ り方を理解する。	1 2 0
5・6	医療現場における心理的支援（３） ・ SLD、知的能力障害	講義	講義プリントの復習 SLD及び知的能力障害の症状、心理的 支援のあり方を理解する。	1 2 0
7・8	医療現場における心理的支援（４） ・ 統合失調症	講義	講義プリントの復習 統合失調症の症状、治療法、心理的 支援のあり方を理解する。	1 2 0
9・10	地域保健活動における心理的支援（１） ・ 認知症高齢者支援	講義	講義プリントの復習 認知症高齢者やその家族への心理支 援について理解する。	1 2 0
11・12	地域保健活動における心理的支援（２） ・ 発達段階の理解と子育て支援	講義	講義プリントの復習 発達段階の理解と保健・医療分野に おける心理支援について理解する。	1 2 0
13・14	産業保健分野における心理的支援 ・ 休職者の職場復帰（リワーク）支援	講義	講義プリントの復習 産業保健分野における心理支援につ いて理解する。	1 2 0
15	まとめ	講義	講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】福祉心理学 I		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0130-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業内でお知らせします。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は実務経験者対応科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回の授業内で出席を兼ねた小レポートの記入を求める。 ※レポートのフィードバックは授業内に行う。 定期試験は各回の授業で配布する資料すべて持ち込み可とする。 課題やレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めるが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにする。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①福祉現場において生じる問題及びその背景、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。		
【行動目標(SB0)】 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 中島健一（編）『福祉心理学』遠見書房（2,600円＋税）		
【参考書】 公認心理師カリキュラム準拠 福祉心理学		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30	10				40
	思考・推論・創造の力			30	10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	イントロダクション～講義についての説明 社会福祉の展開と心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	暴力被害者への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	子ども虐待①	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	子ども虐待②	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	社会的養護と心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	子どもと親への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	障害・疾病のある人への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

【科目名】福祉心理学Ⅱ		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0130-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohkoshi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業内でお知らせします。
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件) この科目は実務経験者対応科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回の授業内で出席を兼ねた小レポートの記入を求める。 ※レポートのフィードバックは授業内に行う。 定期試験は各回の授業で配布する資料すべて持ち込み可とする。 課題やレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めるが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにする。		
【講義概要】		
(目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～④を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①福祉現場において生じる問題及びその背景、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③虐待についての基本的知識 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3		
(方法) 教科書と配布資料を使用して講義を行います。 必要に応じてグループワーク、発表、参加型演習などを実施します。		
【一般教育目標(GIO)】		
福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について理解する。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について理解する。		
【行動目標(SB0)】		
福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
中島健一（編）『福祉心理学』遠見書房（2,600円＋税）		
【参考書】		
公認心理師カリキュラム準拠 福祉心理学		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験と学修に取り組む姿勢により総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			30	10				40
	思考・推論・創造の力			30	10				40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	高齢者の心理支援①	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
3-4	高齢者の心理支援②	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
5-6	生活困窮・貧困者への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
7-8	ひきこもり・自殺予防の心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
9-10	精神障害者への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
11-12	家族・職員への心理支援	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
13-14	多職種協働と心理職の位置づけ	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分
15	まとめ	講義	教科書を読む 講義プリントの復習 関連した文献を読む	240分

【科目名】教育・学校心理学Ⅰ		【担当教員】山倉 辰裕
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0090-1	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。 生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①教育現場において生じる問題及びその背景 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 教科書の内容に沿って講じる。 教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標 (GIO)】 教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。		
【行動目標 (SB0)】 教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 小野瀬雅人 編 『教育・学校心理学』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)		
【参考書】 石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房 (2,600円＋税) 石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房 (3,800円＋税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社 (2,400円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 授業への参加態度も評価に含まれる。		

収来への参加態度も詳細に召かまり。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	「教育・学校心理学」のとらえ方	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	教育・学校の組織・制度と支援の関係	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	学習・授業の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	学級経営の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	生徒指導の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	スクールカウンセラーとは？	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	キャリア教育の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		教育・学校心理学Ⅱ	【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0095-1	(メールアドレス) yamakura@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 火～木曜日12:40～13:30
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、教育・学校心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。 生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①教育現場において生じる問題及びその背景 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法)				
教科書の内容に沿って講じる。 教育・学校心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。				
【一般教育目標(GIO)】				
教育・学校心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。				
【行動目標(SBO)】				
教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
小野瀬雅人 編 『教育・学校心理学』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)				
【参考書】				
石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房 (2,600円＋税) 石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房 (3,800円＋税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社 (2,400円＋税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。 小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 授業中の参加態度も評価に含まれる。				

収束への参加態度も詳細に召かまり。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	メンタルヘルス教育の課題と実践	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	健康教育の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	特別支援教育の課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	教育・学校をめぐる新たな課題と支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	学校・教育システムの連携による支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	多様な職種によるチーム援助	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	教育・学校心理学に基づく公認心理師に求められる実践と役割	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		司法・犯罪心理学Ⅰ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0130-2	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 12:40～13:30（月～金、火除く）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
教科書の内容に沿って講じる。 司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社（2,300円＋税）					
【参考書】					
原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2,400円＋税） 門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2,200円＋税） 原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 講談社（2,700円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪の生物学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	犯罪の心理学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	犯罪の社会学的原因論	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	暴力犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	性犯罪	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	ドメスティック・バイオレンス、ストーキング、 虐待	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	窃盗・強盗・放火	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		司法・犯罪心理学Ⅱ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0135-2	(メールアドレス) ohya@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 12:40～13:30（月～金、火除く）	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「発達心理学」「臨床心理学概論」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、司法・犯罪心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
教科書の内容に沿って講じる。 司法・犯罪心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 理解度を把握するために講義内に質問をし、それに答えるという双方向型のやりとりがあります。 この講義はアクティブラーニングを用います。					
【一般教育目標(GIO)】					
司法・犯罪心理学の各トピックに関する基本的な知識を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
犯罪、非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を概説できる。 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
越智啓太 『司法犯罪心理学』 サイエンス社（2, 300円＋税）					
【参考書】					
原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2, 400円＋税） 門本泉 編 『司法・犯罪心理学』 ミネルヴァ書房（2, 200円＋税） 原田隆之 編 『司法・犯罪心理学』 講談社（2, 700円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	犯罪捜査	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	司法・裁判	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	防犯	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	矯正・更生保護	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	行動変容	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	司法面接	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	犯罪被害者支援	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		産業・組織心理学	【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0140-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「臨床心理学概論」「心理的アセスメント」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、産業・組織心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
教科書の内容に沿って講じていきます。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～②を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法 ②組織における人の行動 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法)				
オンデマンド講義である。 教科書の内容に沿って講じる。 産業・組織心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 講義動画1つにつき、小テストを1つ出し、Teamsでの提出を求める。				
【一般教育目標 (GIO)】				
職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について理解する。 組織における人の行動について理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
職場における問題に対して必要な心理に関する支援及びその方法について説明できる。 組織における人の行動について概説できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
加藤容子・三宅美樹 編 『産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 (2, 200円＋税)				
【参考書】				
新田泰生 編 『産業・組織心理学』 遠見書房 (2, 600円＋税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	産業・組織心理学を学ぶ意義 組織とは	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	組織における労働契約・法規 キャリア	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ワーク・モチベーションと組織コミットメント リーダーシップ	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	職場の人間関係 職業性ストレスとメンタルヘルス	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	作業と安全衛生 産業・組織心理臨床の実際	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	産業精神保健 ストレスチェック制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	多様性に配慮した支援 組織開発	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		関係行政論 I	【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0155-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (火・木)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まる。「関係行政論Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野で相談職として従事してきた経験から、関係行政について講じていく。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果は他に支障のない限り返却する。対面での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください				
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①保健医療分野に関係する法律、制度、②福祉分野に関係する法律、制度、③教育分野に関係する法律、制度 ④司法・犯罪分野に関係する法律、制度、⑤産業・労働分野に関係する法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法) 教科書・資料を用いて講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。				
【一般教育目標(GIO)】 保健医療分野に関係のある法律、制度について理解できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について理解できる。 教育分野に関係のある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について理解できる。				
【行動目標(SB0)】 保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。				
【教科書・リザーブドブック】 伊藤直文/岡田裕子/下山晴彦 編 『関係行政論』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)				
【参考書】 子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣 (1,600円＋税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版 (3,200円＋税)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験により評価する。 出席点は評価に含めない。 レポート等のフィードバックについては、個別にコメントを添えて返却する。				

レコード等のノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	公認心理師と法律	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
3・4回	法の世界を理解する	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
5・6回	教育領域の制度と法	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
7・8回	福祉領域の制度と法（1）障害者（児）福祉	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
9・10回	福祉領域の制度と法（2）児童福祉	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
11・12回	福祉領域の制度と法（3）高齢者福祉	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
13・14回	産業・労働領域の制度と法	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
15回	今までのふりかえり	対面講義	復習：教科書、配布資料を読んでおく。	90分

【科目名】		関係行政論Ⅱ	【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0160-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (火・木)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「関係行政論Ⅰ」を受講する合わせて受講することが望ましい。「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解がより深まる。 本科目は実務経験のある教員による授業科目である。主に精神医療分野で相談職として従事してきた経験から、関係行政について講じていく。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験結果は他に支障のない限り返却する。対面での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください				
【講義概要】				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①保健医療分野に関係する法律、制度、②福祉分野に関係する法律、制度、③教育分野に関係する法律、制度 ④司法・犯罪分野に関係する法律、制度、⑤産業・労働分野に関係する法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法)				
教科書、資料を用いて講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。				
【一般教育目標(GIO)】				
保健医療分野に関係のある法律、制度について理解できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について理解できる。 教育分野に関係のある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について理解できる。				
【行動目標(SB0)】				
保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
伊藤直文/岡田裕子/下山晴彦 編 『関係行政論』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)				
【参考書】				
子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣 (1,600円＋税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版 (3,200円＋税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験により評価する。 出席点は評価に含めない。 レポート等のフィードバックについては、個別にコメントを添えて返却する。				

レコード等のノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	保健・医療領域の制度と法 (1) 医療の仕組み	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
3・4回	保健・医療領域の制度と法 (2) 精神科医療	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
5・6回	保健・医療領域の制度と法 (3) 地域保健と医療	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
7・8回	司法・犯罪分野領域の制度と法 (1) 刑事	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
9・10回	司法・犯罪分野領域の制度と法 (2) 少年司法	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
11・12回	司法・犯罪分野領域の制度と法 (3) 民事・家事	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
13・14回	あらためて、なぜ関係行政論を学ぶのか	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
15回	今までのふりかえり	対面講義	復習：教科書、配布資料を読んでおく。	90分

【科目名】心理演習 I		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0170-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目履修までに、公認心理師の職責、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学を理解することが望ましい。 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な科目であるため、原則、公認心理師を目指す学生のみ履修可。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に保健医療、福祉、教育分野で心理に関する支援に従事してきた経験から、講じていきます。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床場面を想定した実践的な演習となります。 ロールプレイング、事例検討、グループワークなど、他の受講生との交流時間の割合が多くなります。 受講者全員が安心して参加できる雰囲気を全員で作るよう心掛けてください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のための必修科目である。 具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例検討を通して、公認心理師に必要な知識及び技術の基本的な水準の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 主にロールプレイング、事例検討、グループワークを行う。 この科目はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能の修得。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能の修得。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。 【行動目標(SB0)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深め、説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書なし。毎回資料を配布する予定。		
【参考書】 下山晴彦・中嶋義文(2016) 公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法。医学書院。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート60%、実技20%、学修に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイング、事例検討、グループワークなどへの積極的参加、授業内または授業後に課題が与えられた場合にはその内容が評価対象となる。		

かめる場合については、内容が許御対象となる。

レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 公認心理師の職業倫理と法的義務	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
3-4	心理支援のコミュニケーション技法演習 (1)	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
5-6	心理支援のコミュニケーション技法演習 (2)	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
7-8	心理支援のコミュニケーション技法演習 (3)	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
9-10	心理支援のコミュニケーション技法演習 (4)	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
11-12	心理アセスメントと支援計画の立て方 (1)	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
13-14	心理アセスメントと支援計画の立て方 (2)	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
15	まとめ	ロールプレイング、事例検討、 グループワーク	今までの復習をする	120

【科目名】心理演習Ⅱ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0170-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目履修までに、公認心理師の職責、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学を理解することが望ましい。 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な科目であるため、原則、公認心理師を目指す学生のみ履修可。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に保健医療、福祉、教育分野で心理に関する支援に従事してきた経験から、講じていきます。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床場面を想定した実践的な演習となります。 ロールプレイング、事例検討、グループワークなど、他の受講生との交流時間の割合が多くなります。 受講者全員が安心して参加できる雰囲気を全員で作るよう心掛けてください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のための必修科目である。 具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通して、公認心理師に必要な知識及び技術の基本的な水準の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 主にロールプレイング、事例検討、グループワークを行う。 この科目はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能の修得。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能の修得。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。 【行動目標(SB0)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深め、説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書なし。毎回資料を配布する予定。		
【参考書】 下山晴彦・中嶋義文（2016）公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法、医学書院。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート60%、実技20%、学修に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイング、事例検討、グループワークなどへの積極的参加、授業内または授業後に課題が与えられた場合にはその内容が評価対象となる。		

かめる場合については、内容が許御対象となる。

レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理面接の演習 (1)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
3-4	心理面接の演習 (2)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
5-6	事例検討①：保健医療分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
7-8	事例検討②：福祉分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
9-10	事例検討③：教育分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
11-12	事例検討④：司法・犯罪分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
13-14	事例検討⑤：産業・労働分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
15	まとめ	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	今までの復習をする	120

【科目名】	食の心理学		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0000-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応				
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験から、食行動の基礎と食行動変容のプロセスを臨床的観点から解説します。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
第一に食行動の基礎および食行動をはじめとする健康関連行動に関わる心理学的・行動科学的理論の理解を目標とする。第二に臨床現場における食行動変容の実践について、具体的な症例を対象としながら理解することを目標とする。				
(方法)				
毎回の授業において講義動画を配信する。				
【一般教育目標(GIO)】				
心理学的・行動科学的観点から食行動に関する知識を習得するため、発達・学習・社会・臨床心理学等各領域の観点から食行動の基礎と臨床を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
・食物の嗜好や嫌悪の獲得プロセスで学習理論が果たす役割を説明できる ・食行動の抑制、促進にかかわる社会文化的要因を説明できる ・食行動変容が起こるプロセスを理論を基に説明できる				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は使用しない				
【参考書】				
今田 純雄（編）／現代心理学シリーズ16 食行動の心理学／培風館／1997年／1,870円 中島 義明他（編）／たべる－食行動の心理学（人間行動学講座）／朝倉書店／1996年／3,850円				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。 ・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・学問としての食行動とは ・発達の観点からみた食行動	講義	講義動画を振り返っての復習 各発達段階における食行動の特徴を 理解する	1 2 0
3・4	・学習・動機づけの観点からの食行動	講義	講義動画を振り返っての復習 食物への嗜好、嫌悪が獲得される上 で重要な学習理論を理解する	1 2 0
5・6	・社会文化的観点からの食行動	講義	講義動画を振り返っての復習 食行動が抑制あるいは促進される社 会文化的要因を理解する	1 2 0
7・8	・食行動を中心とした健康関連行動についての理 論	講義	講義動画を振り返っての復習 食行動を中心とした健康的な生活習 慣を維持、阻害する要因に関する理 論を理解する	1 2 0
9・10	・食行動の異常	講義	講義動画を振り返っての復習 摂食障害の病態を理解する	1 2 0
11・12	・糖尿病患者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義動画を振り返っての復習 7・8回で学んだ理論を基にして実際 の事例を用いながら、食行動が変容 されるプロセスを理解する	1 2 0
13・14	・肥満者に対する食行動変容介入の実際	講義・演習	講義動画を振り返っての復習 7・8回で学んだ理論を基にして実 際の事例を用いながら、食行動が変 容されるプロセスを理解する	1 2 0
15	まとめ	講義	講義動画を振り返っての復習	1 2 0

【科目名】精神障害生活支援論		【担当教員】向田 怜史
【授業区分】専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ(45分)	(オフィスアワー)火・木 12:40-13:30
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 精神疾患を持つ方への支援をするためには、当事者の理解や制度に関する理解は必須である。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートについては他に支障のない範囲で可能な限り返却する。対面での講義であるがアクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
【講義概要】 (目的) 精神疾患をもつ方への支援や方法、制度について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3 (方法) 教科書・資料を用いて講義形式で行う。		
【一般教育目標(GIO)】 精神的な病を抱えている当事者への生活支援や制度について理解する。		
【行動目標(SB0)】 障害の定義について説明できる。 障害を抱えている当事者、特に精神的な病を抱えている当事者が利用する生活上の問題や現状について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 精神保健福祉士シリーズ8 精神障害者の生活支援システム[第3版]、弘文堂、2018年、2,700円(税別)		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験、レポートを中心的な評価基準とする。 出席点は評価に含めない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	35		10					45
	思考・推論・創造の力	35		10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・精神障害者の生活支援とは何か 精神障害者とは 障害の概念について	対面講義	教科書P2-12の予習	90
3・4	・精神障害者の基本的理解 精神障害者の定義とは	対面講義	前回の復習 教科書P16-P30の予習	90
5・6	・精神疾患について 統合失調症・気分障害について ICDとDSMの違いについて	対面講義	前回の復習 精神疾患についての予習	90
7・8	・精神障害者の生活 精神障害者の生活実態と取り巻く環境について	講義	前回の復習 予習教科書P32-52を読んでおく	90
9・10	・精神障害者の生活と人権 権利擁護・居宅支援・就労支援について	講義 課題	前回の復習 予習教科書P54-109、P112-139を読んでおく	90
11・12	・精神障害者への地域でのサポート 自助グループ・地域支援について	講義	前回の復習 予習教科書P142-165を読んでおく	90
13・14	・精神障害者への地域でのサポート 医療機関や行政機関の役割について	講義	前回の復習 予習教科書P166-183を読んでおく	90
15	・今までの振り返り	講義	前回の復習	90

【科目名】	リハビリテーション心理学Ⅰ		【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
リハビリテーション概論について知識を有していること。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
受講者はリハビリテーション心理学Ⅰとリハビリテーション心理学Ⅱを併せて履修登録すること。 本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションや演習を多く取り入れる。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1, 2, 3				
(方法)				
講義および症例を元にしたディスカッションを行う。				
【一般教育目標(GI0)】				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
【行動目標(SB0)】				
リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
テキストとなる資料を配布する。				
【参考書】				
「リハビリテーション心理学入門」南雲直二著 荘道社 ¥1,760				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 ただし演習におけるサポートとしての使用は許可します。 試験レポートのフィードバック方法、必要に応じて講義にておこないます。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーション心理学とは	講義	講義ノートの作成	90
3-4	リハビリテーション心理学の歩み	講義	講義ノートの作成	90
5-6	障害の構造と理解	講義	講義ノートの作成	90
7-8	障害受容について	講義	講義ノートの作成	90
9-10	障害適応へのアプローチ(1) 心理的問題の要因	講義・演習	講義ノートの作成	90
11-12	障害適応へのアプローチ(2) 当事者と家族	講義・演習	講義ノートの作成	90
13-14	障害適応へのアプローチ(3) 身体症状症	講義・演習	講義ノートの作成	90
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】リハビリテーション心理学Ⅱ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0015-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション概論および臨床心理学について基本的知識を有していること。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者はリハビリテーション心理学Ⅰとリハビリテーション心理学Ⅱを併せて履修登録すること。 本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションや演習を多く取り入れる。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1, 2, 3 (方法) 講義および症例を元にしたディスカッション、演習を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な、障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。 【行動目標(SB0)】 リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 「リハビリテーション心理学入門」 南雲直二著 荘道社 ￥1,760		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 ただし、演習におけるサポートとして使用することは許可します。 試験・レポートのフィードバック方法・必要に応じて補講等についてお伝えします。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	20	30					100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20	10					70
	思考・推論・創造の力	10		20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーションにおける心理学的対応(1) 災害心理支援	講義	講義ノートの作成	90
3-4	リハビリテーションにおける心理学的対応(2) 症例別アプローチ	講義	講義ノートの作成	90
5-6	リハビリテーションにおける心理学的対応(3) 症例検討	講義、演習	講義ノートの作成	90
7-8	リハビリテーションにおける心理学的対応(4) 症例検討	講義、演習	講義ノートの作成	90
9-10	リハビリテーションにおける心理学的対応(5) 職業倫理	講義	講義ノートの作成	90
11-12	リハビリテーションにおける心理学的対応(6) 症例別アプローチ	講義	講義ノートの作成	90
13-14	リハビリテーションにおける心理学的対応(7) 症例検討	講義、演習	講義ノートの作成	90
15・試験	まとめ・試験	講義・試験	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】 ポジティブ心理学 I		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0020-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) オンデマンド講義である。 ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 講義動画1つにつき、小テストを1つ出し、Teamsでの提出を求める。		
【一般教育目標(GIO)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践するためにポジティブ心理学の知識を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。		
【参考書】 島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店 (1,800円＋税) 堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社 (2,400円＋税) J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房 (2,700円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	ポジティブ心理学とは	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
3-4	幸福	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
5-6	ポジティブ感情	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
7-8	ウェルビーイング	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
9-10	フロー体験	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
11-12	強み	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
13-14	レジリエンス	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】 ポジティブ心理学Ⅱ		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0020-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) オンデマンド講義である。 ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 講義動画1つにつき、小テストを1つ出し、Teamsでの提出を求める。		
【一般教育目標(GIO)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践するためにポジティブ心理学の知識を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。		
【参考書】 島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店 (1,800円＋税) 堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社 (2,400円＋税) J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房 (2,700円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	楽観主義	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
3-4	希望	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
5-6	感謝	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
7-8	セルフ・コンパッション	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
9-10	心的外傷後成長 (PTG)	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
11-12	ワーク・エンゲイジメント	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
13-14	人生の意味	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		認知行動療法		【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】		専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0030-2	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
公認心理師取得を目指す方や心理臨床で働きたい方向けの講義となります。 「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義後、小テストを実施する。					
【講義概要】					
(目的)					
認知行動療法の考えを対人場面と自分のセルフケアに活かすことができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
毎回、講義資料を配布する。演習はグループまたは1対1の形式で行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
認知行動療法の理論の概観を理解する。					
【行動目標(SBO)】					
認知行動療法の技術を一部実践できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料を配布する。					
【参考書】					
実践家のための認知行動療法テクニックガイド：行動変容と認知変容のためのキーポイント 鈴木 伸一、神村 栄一（著），坂野雄二（監修） 北大路書房 ￥2,750					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	認知行動療法とはなにか	講義	講義ノートを作成する。	240分
3-4	認知行動療法Ⅰ	講義	講義ノートを作成する。	240分
5-6	認知行動療法Ⅱ	講義	講義ノートを作成する。	240分
7-8	認知行動療法Ⅲ	講義	講義ノートを作成する。	240分
9-10	認知行動療法Ⅳ	講義	講義ノートを作成する。	240分
11-12	認知行動療法Ⅴ	講義・演習	講義ノートを作成する。	240分
13-14	認知行動療法Ⅵ	講義・演習	講義ノートを作成する。	240分
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。。	120分

【科目名】アート・セラピー I		【担当教員】長谷川 千種、的場 已知子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・体験による気づきを重視しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) アートセラピーの中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1 (方法) ・パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるよう、実際のセッション体験を取り入れた講義を行います。 ・自分と他者の視点を尊重できるよう、対話型アート鑑賞を取り入れた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、パーソン・センタード表現アートセラピーの理論と実際に体験して理解する。 【行動目標(SB0)】 パーソン・センタード表現アートセラピーを将来の対人援助もしくは実生活の中で、どのように応用することができるか考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ・ナタリー・ロジャーズ/著 小野京子・坂田裕子/訳「表現アートセラピー」誠信書房, 2000, ￥4,950 (税込) ・小野京子/著「癒しと成長の表現アートセラピー」岩崎学術出版社, 2011, ￥2,750 (税込) ・関則雄/著「臨床アートセラピーー理論と実践ー」日本評論社, 2016, ￥3,080 (税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30						30
	思考・推論・創造の力			60					60
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	PCA表現アートセラピーセッション体験 (1) ・絵を中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	・芸術療法とは何か ・アートセラピーにおける素材	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
5・6	PCA表現アートセラピーセッション体験 (2) ・粘土を中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	表現アートセラピーの適用 (1) ・精神科クリニックと高齢者施設	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
9・10	表現アートセラピーの適用 (2) ・高齢者へのセッション	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	・ダンスムーブメントセラピーとは ・ドラマセラピーとは	講義 (配信)	講義内容の復習	45分
13・14	PCA表現アートセラピーセッション体験 (3) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	PCA表現アートセラピーセッション体験 (4) ・ダンスムーブメント、ドラマを中心として ・対話型アート鑑賞	講義 一部演習	講義内容の復習	45分

【科目名】 アート・セラピーⅡ		【担当教員】 長谷川 千種、的場 已知子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0040-2	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 月～金 10:00～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、個人を尊重し共感的に相手を理解する力を養う科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・体験による気づきを重視しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、高齢者の介護予防や認知症の予防などの効果が期待できる「臨床美術」を学ぶことによって、アートセラピーの意義と対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1 (方法) ・「臨床美術」独自のアートプログラムを用いた創作活動を取り入れた講義を行います。 ・作品を鑑賞する力を養う「対話型アート鑑賞」を取り入れた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 対人援助者として必要な態度、感覚、技術を習得するために、「臨床美術」の理論と実際を体験して理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・臨床美術アートプログラムに沿って、作品の創作ができる。 ・将来の対人援助や実生活において、臨床美術がどのように応用できるかを考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ・金子健二/編「改訂新版 臨床美術－認知症治療としてのアートセラピー」日本地域社会研究所,2007, ¥2,750（税込） ・ベティ・エドワーズ/著「決定版 脳の右側で描け」河出書房新社,2013, ¥2,915（税込） ・関根一夫/著「いてくれてありがとう」いのちのことば社・フォレストブックス,2020, ¥1,540（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	臨床美術アートプログラム体験（１） ・五感のアナログ画（音・味）	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	臨床美術とは何か	講義（配信）	講義内容の復習	45分
5・6	臨床美術アートプログラム体験（２） ・りんごの量感画	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	存在論的人間観	講義（配信）	講義内容の復習	45分
9・10	臨床美術アートプログラム体験（３） ・さつまいもの量感画	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	臨床美術のコミュニケーション	講義（配信）	講義内容の復習	45分
13・14	アートコミュニケーション ・作品鑑賞会一場創りから鑑賞まで	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	まとめ	講義（配信）	講義内容の復習	45分

【科目名】	コスメティック・セラピー I		【担当教員】	長谷川 千種、的場 已知子	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0045-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 10：00～17：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・この科目は整容による心理的・身体的な効果を学ぶ科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・自身や他者に対する化粧を実施しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。					
【講義概要】					
(目的)					
・整容の臨床的な応用である「コスメティック・セラピー（化粧療法）」の実践を学ぶ前段階として、化粧に関する心理的・身体的な知識を学び、自分自身への活かし方を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1					
(方法)					
・コスメティック・セラピーの技法と理論を理解できるよう実技を交えた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
コスメティック・セラピーの概要を理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
コスメティック・セラピーの概要を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書は使用しません。					
【参考書】					
・阿部恒之/著「ストレスと化粧の社会生理心理学」フレグランスジャーナル社, 2002, ￥3, 300 ・鈴木公啓/著「装いの心理学」北大路書房, 2020, ￥2, 970 (税込) ・平松隆円/著「化粧にみる日本文化」水曜社, 2009, ￥2, 970 (税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30				0	60
	思考・推論・創造の力			30				0	30
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	化粧とは何か ・人は何のために装うのか ・日本と西洋の化粧史	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
3・4	化粧の機能 ・化粧行為の目的と機能 ・化粧の心理的作用	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
5・6	化粧の知覚心理学（１） ・印象分析 ・パーツバランス	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
7・8	化粧の知覚心理学（２） ・化粧の錯視 ・眉メイク	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
9・10	色彩心理学 ・色の基礎知識 ・色の効果	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
11・12	パーソナルカラー ・高齢者の衣生活とおしゃれ ・介護スタッフのユニフォーム	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
13・14	化粧療法（１） ・化粧療法とは ・介護・医療現場における化粧の位置付け	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
15	化粧療法（２） ・高齢者に対する化粧療法	講義 一部演習	講義資料の復習	45分

【科目名】 コスメティック・セラピーⅡ		【担当教員】 長谷川 千種、的場 已知子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0050-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金 10：00～17：00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、整容による心理的・身体的な効果を学ぶ科目です。 ・「コスメティック・セラピーⅠ」を履修していること。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・自身や他者に対する化粧を実施しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) ・整容の臨床的な応用である「コスメティック・セラピー（化粧療法）」の概要とその実践を学ぶことによって、対人援助者としての対象者への関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1 (方法) ・コスメティック・セラピーの技法と理論を理解できるよう演習を交えた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 コスメティック・セラピーを対人援助の場面で応用するために、その概要と技術を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・コスメティック・セラピーの概要を説明できる。 ・コスメティック・セラピーを将来の対人援助において、どのように応用することができるか考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ・池山和幸/著「装うことで健康寿命を伸ばす化粧療法ーエビデンスに基づく超高齢社会への多職種連携アプローチ」クインテッセンス出版, 2019, ¥2, 420（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30				0	60
	思考・推論・創造の力			30				0	30
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	高齢者への化粧療法（１） ・タッチケア ・アロマハンドトリートメント	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	高齢者への化粧療法（２） ・アロマハンドトリートメント ・ネイルケア	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
5・6	高齢者への化粧療法（３） ・高齢者にとって化粧とは ・心、脳、身体運動、口腔へのアプローチ	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	高齢者への化粧療法（４） ・ADL向上のための整容	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
9・10	高齢者への化粧療法（５） ・ADL向上のための整容 ・ペア演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	高齢者への化粧療法（６） ・ADL向上のための整容 ・ペア演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
13・14	高齢者への化粧療法（７） ・ADL向上のための整容 ・グループ演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	高齢者への化粧療法（７） ・ADL向上のための整容 ・グループ演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分

【科目名】	グループカウンセリングⅠ		【担当教員】	大越 陽平	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0055-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
(オフィスアワー) 月木、12:30~13:30					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」等の科目を履修していると、本講義の理解が深まります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
コミュニケーションやチームによるグループワークを多く取り扱う授業である。 授業ごとにレポートを課す。また、最終試験の代わりに最終レポートを課す。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。					
【講義概要】					
(目的)					
本講義ではグループカウンセリングを理解する上での基礎知識となる対人相互作用に関するトピックについて講義する。 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-1、R-2					
(方法)					
毎回の講義において必要な資料を配布し、パワーポイントを用いながら進行する。演習を多く取り入れる。					
【一般教育目標(GIO)】					
さまざまな理論を援用しながら対人相互作用が形成される過程、機序について理解する。					
【行動目標(SBO)】					
心理学的観点から、対人相互作用が形成される過程、機序について説明できる。 適切なコミュニケーションが取れる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回の授業で資料を配布する。					
【参考書】					
ケアする人の対話スキルABCD 堀越 勝（著）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テストと定期試験を実施する。 ・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 出席率は評価に含めず、出席しない場合は欠席扱いとする。					

・ 出席率は評価に反映しません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60		40			100
評価 指標	取り込む力・知識			40		20			60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	コミュニケーション基礎 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
3・4	コミュニケーション基礎 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
5・6	対話スキル 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
7・8	対話スキル 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
9・10	グループ心理療法 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
11・12	グループ心理療法 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
13・14	コミュニケーション実践	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
15	まとめ	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240

【科目名】		グループカウンセリングⅡ		【担当教員】	大越 陽平
【授業区分】		専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0060-2	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	
【単位数】		1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」等の科目を履修していると、本講義の理解が深まります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
コミュニケーションやチームによるグループワークを多く取り扱う授業である。 授業ごとにレポートを課す。また、最終試験の代わりに最終レポートを課す。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。					
【講義概要】					
(目的)					
本講義では各心理療法における集団療法について演習も交えながら講義する。 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-1、R-2					
(方法)					
毎回の講義において必要な資料を配布し、パワーポイントを用いながら進行する。講義が中心となるが適宜演習を取り入れる。					
【一般教育目標(GIO)】					
グループによる心理療法の効能と限界、また個人による心理療法との違いについて理解する。					
【行動目標(SBO)】					
グループによる心理療法の効能と限界、また個人による心理療法との違いについて説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回の授業で資料を配布する。					
【参考書】					
授業で紹介する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小レポートとを実施する。 ・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 出席率は評価に含まれない。					

・ 山形県は詳細に召かまへん。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	40						60
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	構成的エンカウンター（１）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
3・4	構成的エンカウンター（２）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
5・6	ソーシャルスキル・トレーニング（１）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
7・8	ソーシャルスキル・トレーニング（２）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
9・10	アサーション・トレーニング	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
11・12	集団認知行動療法 1	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
13・14	集団認知行動療法 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
15	まとめ	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							0	0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	動作法とはなにか	講義	講義ノートを作成する。	180分
3-4	動作法Ⅰ	講義	講義ノートを作成する。	180分
5-6	動作法Ⅱ	講義	講義ノートを作成する。	180分
7-8	動作法Ⅲ	講義	講義ノートを作成する。	180分
9-10	動作法Ⅳ	講義・演習	講義ノートを作成する。	180分
11-12	動作法Ⅴ	講義・演習	講義ノートを作成する。	180分
13-14	動作法Ⅵ	講義・演習	講義ノートを作成する。	180分
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	180分

【科目名】英書講読		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0070-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 英語の文献講読に関心がある、また卒業論文を執筆し大学院での心理学の研究の継続を検討している受講生に推奨される科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・これまでの心理学関連の授業で学んだ内容を英語で読解する授業となるため、これまでの学びの基礎知識が必要である。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 心理学のテーマを扱った英語論文の読み方と読解の基礎について学ぶ。 (方法) 毎回の授業において講読箇所の担当者を割り振って、その内容について発表する。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 各領域の心理学のを英語で講読することにより、英文を読むことに慣れるとともに、内容を正しく理解する。 【行動目標(SB0)】 心理学の重要なキーワードについて英語で表現することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義資料はその都度配布する。		
【参考書】 ・ Susan Nolen-Hoeksema 他 / Atkinson & Hilgard's introduction to psychology / Cengage Learning EMEA / 2014年 ・ Susan Nolen-Hoeksema 他, 内田 一成 監訳 / ヒルガードの心理学 / 金剛出版 / 2015年		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポートと成果発表を実施する。 ・レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席率は評価に含めず、主として		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	30			10	100
評価 指標	取り込む力・知識			30	20				50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (1)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
3-4	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (2)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
5-6	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (3)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
7-8	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (4)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
9-10	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (5)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
11-12	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (6)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
13-14	発表	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
15	まとめ	講義	これまでの内容の復習	120

【科目名】音楽療法		【担当教員】大竹 孔三
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0075-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	soundingjoy.jp@gmail.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 授業終了後、メールにて応じます。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 配布された資料の復習を行ってください。		
【講義概要】 (目的) 精神障害者・発達障害児(者)・高齢者に共通して有効な「音楽療法」を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患への技術の習熟を目的とする。また、音楽療法セッションプログラム立案を通し、現場で音楽療法の要素を応用できる力を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, O-2, R-1 (方法) 音楽療法の理論と実技を交えた講義を中心とする。終盤には、グループに分かれてセッション計画を立案し、発表する。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ 各種の音もしくは音楽が人にもたらす利点と欠点を知る。 ・ その利点と欠点を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患へのより良い音楽の提供方法を知る。		
【行動目標(SBO)】 ・ 理論について学ぶと共に、実際にいくつかの種類の音楽を体感し、音楽療法について説明できる。 ・ 実際に音楽療法が使われている病院や施設の症例を見て、その有用性を理解できる。音楽療法セッションのプログラムを立案し、プログラムが有効かどうか様々な角度から考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義の内容に合わせて配布します。		
【参考書】 必要に応じて指示します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・ 成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。出席点は評価に含まない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	60				100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20	20				40
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	・オリエンテーション ・音楽療法について 楽器体験・定義・歴史	講義・演習	配布された資料の復習	30分
3-4	・子どもの音楽療法 ・高齢者の音楽療法	講義・演習	配布された資料の復習	30分
5-6	・音楽療法の特性・対象者と目標等・リハビリ テーション・精神科・心療内科の音楽療法 ・緩和ケア・NICU・その他の音楽療法	講義	配布された資料の復習	30分
7-10	音楽療法プログラム立案及び音楽療法プログラム 発表の予行演習	講義・演習	配布された資料の復習	30分
11-12	音楽療法プログラム予行演習	演習	配布された資料の復習	30分
13-14	・グループ発表	演習	配布された資料の復習	30分
15	レポート課題	試験		

【科目名】心理学応用ゼミ・3年Ⅰ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(ゼミナール)	【授業コード】U52868	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学専攻3年生対象の必修科目です。 3年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するように努めてください。 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの心理学関連領域の社会的な問題や課題について、常に関心を持っていてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 3年生となり、各自の将来像をある程度明確にしていく必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。		
【講義概要】 (目的) ゼミ活動を通じて、これまで学修してきた心理学を各自の将来へ向けてどのように展開していくのか、一定のイメージを確立する。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2、RP-1, 2, 3 (方法) ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方（方法）を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 一例として、各自が関心のあるテーマを取り上げ、必要な情報を収集してまとめ、プレゼンテーションを行う。 その後、ゼミ学生全員で、そのテーマについてディスカッションを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事や職業はどのようなものがあるのかを知る。 自分自身の能力（強み）、適性を客観的に自覚できる。 【行動目標(SB0)】 自分自身の関心のある事柄について、情報や文献を検索することができる。 自分自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自分の意見や気づきも含めて発表することができる。 文献検索などの情報収集やゼミ学生とのディスカッションを通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力を身につける。 本科目を通じて、現代の社会や人間が抱える課題に対して、心理学がいかに貢献できるのかをある程度イメージできる。		
【教科書・リザーブドブック】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【参考書】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。 レポートの添削やフィードバックについては、各ゼミ担当教員に一任される。		

レポートの返却やノートハックについては、各ゼミ担当教員に任せられる。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10		10		30

[illegible]

【科目名】心理学応用ゼミ・3年Ⅱ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(ゼミナール)	【授業コード】U52869	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学専攻3年生対象の必修科目です。 3年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するように努めてください。 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの心理学関連領域の社会的な問題や課題について、常に関心を持っていてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 3年生となり、各自の将来像をある程度明確にしていく必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。		
【講義概要】 (目的) 「心理学応用ゼミ・3年Ⅰ」を引き継ぎ、更に展開させていく。 「心理学応用ゼミ・3年Ⅰ」とは異なる観点で、自らの進路や将来像をこれまで以上に明確にしていく。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2、RP-1, 2, 3 (方法) ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方（方法）を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 一例として、 各自が関心のあるテーマを取り上げ、必要な情報を収集してまとめ、プレゼンテーションを行う。 その後、ゼミ学生全員で、そのテーマについてディスカッションを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事や職業はどのようなものがあるのかを知る。 自分自身の能力（強み）、適性を客観的に自覚できる。		
【行動目標(SB0)】 自分自身の関心のある事柄について、情報や文献を検索することができる。 自分自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自分の意見や気づきも含めて発表することができる。 文献検索などの情報収集やゼミ学生とのディスカッションを通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力を身につける。 本科目を通じて、現代の社会や人間が抱える課題に対して、心理学がいかに貢献できるのかをある程度イメージできる。		
【教科書・リザーブドブック】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【参考書】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。 レポートの添削やフィードバックについては、各ゼミ担当教員に一任される。		

レポートの返却やノートバックについては、各ゼミ担当教員に任せられる。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10		10		30

[illegible]

【科目名】基礎ゼミ VI		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】1-07-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は就職後のキャリアデザインについて考える科目です。選択科目ですが、なるべく履修することをすすめます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 生成系AIの利用を全面的に許可しています。講義内、および、予習復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用してください。使用した場合は、その旨をレポート等に記載してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目は、RP専攻はオンデマンド講義になります。 レポートなどは原則として返却しません。 レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 卒業後のキャリアビジョンについて展望し、キャリアデザインの組み立てについて学ぶ。 また、就職後のライフプランの在り方について長期的な視座で学ぶ。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-1, 2、R-1 (方法) この科目は、RP専攻はオンデマンド講義である。		
【一般教育目標(GIO)】 自分の将来についてのキャリアイメージを持ち、キャリアデザインやライフプランを考える。		
【行動目標(SB0)】 自分のキャリアデザインを考え、説明することができる。 自分のキャリアデザインを組み立て、ライフプランの設計と関連させながら、説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 なし		
【参考書】 新潟リハビリテーション大学Placement Book		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート、その他を総合的に判断し成績評価とする。 出席点は評価に含まれない。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	金融と経済を学ぶ	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
3-4	ライフプランを描く	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
5-6	お金を借りる	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
7-8	お金を増やす	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
9-10	リスクに備える トラブルを避ける	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
11-12	労働条件セミナー (1)	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
13-14	労働条件セミナー (2)	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
15	労働条件セミナー (3)	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30

【科目名】		基礎ゼミⅥ		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】		教養分野(高年次教養教育)	【授業コード】	1-07-0005-2	(メールアドレス)
【開講時期】		通年(後期)	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は就職後のキャリアデザインについて考える科目です。選択科目ですが、なるべく履修することをすすめます。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。生成系AIの利用を全面的に許可しています。講義内、および、予習復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合は、その旨をレポート等に記載してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目は、RP専攻はオンデマンド講義になります。レポートなどは原則として返却しません。レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
卒業後のキャリアビジョンについて展望し、キャリアデザインの組み立てについて学ぶ。また、就職後のライフプランの在り方について長期的な視座で学ぶ。当該科目と学位授与方針との関連性：A-1, 2、R-1					
(方法)					
この科目は、RP専攻はオンデマンド講義である。					
【一般教育目標(GIO)】					
自分の将来についてのキャリアイメージを持ち、キャリアデザインやライフプランを考える。					
【行動目標(SB0)】					
自分のキャリアデザインを考え、説明することができる。自分のキャリアデザインを組み立て、ライフプランの設計と関連させながら、説明することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
なし					
【参考書】					
新潟リハビリテーション大学Placement Book					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。レポート、その他を総合的に判断し成績評価とする。出席点は評価に含まれない。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	金融と経済を学ぶ	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
3-4	ライフプランを描く	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
5-6	お金を借りる	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
7-8	お金を増やす	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
9-10	リスクに備える トラブルを避ける	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
11-12	労働条件セミナー (1)	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
13-14	労働条件セミナー (2)	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30
15	労働条件セミナー (3)	オンデマンド講義	講義内容を踏まえて、自分のキャリアデザインやライフプランを考える。	30

【科目名】	心理測定法Ⅰ	【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0045-3
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	15
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応			
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。			
【講義概要】			
(目的)			
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1、R-2			
(方法)			
毎回の授業において講義動画を配信する。心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法を学ぶ。また、心理測定法Ⅱに向けて、変数の種類や尺度水準、尺度構成における信頼性と妥当性について学ぶ。講義で得た知識を実際に自ら測定をを実践することで知識の定着を図る。			
【一般教育目標(GIO)】			
心理測定法の中でも主に精神物理学的測定法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。			
【行動目標(SBO)】			
精神物理学的測定法、変数の種類や尺度水準、信頼性と妥当性の概要について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
教科書は使用しない			
【参考書】			
山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込） 市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。 ・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		30					70
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	1 2 0
3・4	測定の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	1 2 0
5・6	精神物理学的測定法（１）（刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異）	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	1 2 0
7・8	精神物理学的測定法（２）（調整法、極限法）	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	1 2 0
9・10	精神物理学的測定法（３）（恒常法、マグニチュード推定法）	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	1 2 0
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	1 2 0
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	1 2 0
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	1 2 0

【科目名】		心理測定法Ⅱ	【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0045-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応				
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。				
注意：心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。				
障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。				
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。				
【講義概要】				
(目的)				
心理測定法や統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。				
当該科目と学位授与方針等との関連性； S-1、R-2				
(方法)				
毎回の授業において講義動画を配信する。心理測定法の中でも主に尺度構成法を学ぶ。また、心理統計学の基礎として代表値、散布度、相関関係、統計的仮説検定の考え方について学ぶ。				
【一般教育目標(GIO)】				
心理測定法の中でも主に尺度構成法の手法を身に着けるため、その手法で用いられる種々の方法論を理解する。また、統計学的考え方を身に着けるため、記述統計と推測統計の考え方を理解する。				
【行動目標(SB0)】				
尺度構成法および記述統計、推測統計について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は使用しない				
【参考書】				
山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込）				
市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。				
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。				
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		30					70
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	尺度構成法(1) 直接法 ME法、MP法	講義、演習	直接法のME法とMP法の説明ができる	120
3・4	尺度構成法(2) 間接法 一対比較、評定尺度法、SD法、MSD法	講義、演習	間接法の一対比較、評定尺度法、SD 法、MSD法が説明できる	120
5・6	調査法 質問紙構成のプロセス	講義、演習	質問紙が作成されるまでのプロセス を説明できる	120
7・8	心理統計学(1) 度数分布と代表値	講義、演習	度数分布と代表値が説明できる	120
9・10	心理統計学(2) 散布度 分散と標準偏差	講義、演習	分散と標準偏差が説明できる	120
11・12	心理統計学(3) 共分散と相関	講義、演習	共分散と相関が説明できる	120
13・14	心理統計学(4) 統計的仮説検定 t検定	講義、演習	統計的仮説検定の考え方が理解でき る	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに 学んだ内容を理解できる	120

【科目名】		知覚・認知心理学Ⅰ		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0055-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。					
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3					
(方法)					
毎回の授業において講義動画を配信する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。					
【行動目標 (SB0)】					
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書は使用しない					
【参考書】					
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）					
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）					
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。					
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。					
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてま とめる	1 2 0
3・4	感覚の測定（1）	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁 度可知差異についてまとめる	1 2 0
5・6	感覚の測定（2）	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまと める	1 2 0
7・8	感覚の測定（3）	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法につ いてまとめる	1 2 0
9・10	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行き知覚および聴 覚の仕組みについてまとめる	1 2 0
11・12	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達の プロセスについてまとめる	1 2 0
13・14	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	1 2 0
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】知覚・認知心理学Ⅱ		【担当教員】中川 明仁
【授業区分】専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】2-14-0060-3	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】15	
(オフィスアワー) Teamsのチャット機能等で適宜対応		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
「公認心理師」の資格取得にかかわる必修科目です。また、「認定心理士」資格取得のための必須科目です。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
・毎回の授業において講義動画を配信します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案については他に支障がない限りコメントを付けて返却します。		
・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】		
(目的)		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3		
(方法)		
毎回の授業において講義動画を配信する。		
【一般教育目標 (GIO)】		
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。		
【行動目標 (SB0)】		
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
教科書は使用しない		
【参考書】		
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房（2,600円＋税）		
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社（2,400円＋税）		
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社（2,950円＋税）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		
・毎回の授業での授業中課題と定期試験にあたる最終課題を課す。		
・毎回の授業中課題の提出をもって出席とみなす。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	30		20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	記憶（１）	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてま とめる	1 2 0
3・4	記憶（２）	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてま とめる	1 2 0
5・6	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまと める	1 2 0
7・8	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、 「概念」と言語との関連をまとめる	1 2 0
9・10	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理 についてまとめる	1 2 0
11・12	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およ びメタ認知の内容についてまとめる	1 2 0
13・14	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序について まとめる	1 2 0
15	まとめ		これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【科目名】 学習・言語心理学 I		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0065-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を習得していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, R-2 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の保健・医療・福祉・教育等の分野で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) グラフィック学習心理学: 行動と認知/ 山内光哉・春木豊(編著)/ サイエンス社(2001/3/10)/ ¥2,890(税込) 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う		

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	学習とは何か 「学習」の定義 ・生得性行動と学習行動 ・初期学習(刻印づけ、臨界期)・馴化 古典的条件づけ(1) 基本原理と典型例 ・パブロフの実験	講義 演習 p. 21/p. 54[復習 問題]解答	【復習】指定教科書p. 2 ・学習の定義を理解する 【復習】指定教科書p. 41-55 ・学習性行動の基礎を理解する	60
3. 4	古典的条件づけ(2) 条件づけの強化 ・条件刺激と無条件刺激の時間的關係 ・味覚嫌悪学習 古典的条件づけ(3) 条件づけの消去 ・消去法 ・自然回復	講義 討議: 「味覚嫌 悪学習」につい て	【復習】指定教科書p. 6-8 【復習】指定教科書p. 56-68 ・古典的条件づけの基本的手続きを 理解する。・生活場面での「自然的 回復」現象を列挙してみる。	60
5. 6	古典的条件づけ(4) 汎化と弁別 ・恐怖の条件づけ ・実験神経症 古典的条件づけ(5) 臨床応用 ・PTSDの機序 まとめ: 古典的条件づけ	講義 演習: p. 74- 75[復習問題]解 答と解説	【復習】指定教科書p. 11-13 ・条件づけで強化された不安や恐怖 等のネガティブ感情は消去されにく いことを理解する。	60
7. 8	オペラント条件づけ(1) 基本原理と典型例 ・スキナーの実験 オペラント条件づけ(2) 条件づけの型 ・報酬訓練 ・罰訓練 ・逃避/回避訓練	講義	【復習】指定教科書p. 43-64 【復習】指定教科書p. 149-154 ・オペラント条件づけの基本的手続 きを理解する。	60
9. 10	オペラント条件づけ(3) 強化スケジュール ・連続強化 ・部分強化 オペラント条件づけ(4) 消去 ・連続強化/部分強化と消去抵抗	講義 討議: ギャンブ ルの心理を学習 理論で考察する	【復習】指定教科書p. 64-74 ・私たちの生育過程や日常生活も強 化スケジュールで条件づけられてい る場面が多くあることを理解する。	60
11. 12	オペラント条件づけ(5) 正・負の強化と弱化 ・日常場面での強化と弱化 オペラント条件づけ(6) 動機づけ ・迷信行動 ・罰の功罪 ・学習性無力感 まとめ: オペラント条件づけ	講義 演習: p. 74/96[復習問 題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 74-92 ・教育場面や日常生活場面で使用さ れている「正の弱化(罰)」の効果 について、各自の体験に基づいて考 察してみよう。	60
13. 14	問題解決 ・試行錯誤学習(ソーンダイクの実験) ・洞察(ケーラーの実験) ・潜在学習(トールマンの実験) ・過去経験の正・負の影響	講義 演習: p. 109[水 瓶問題]の体験	【復習】指定教科書p. 98-118 ・「ひらめき」が思い浮かんだ瞬間 を思い起こし、それまでの過去の経 験の影響を考えてみよう。	60
15	まとめ 古典的条件づけとオペラント条件づけ 問題解決	講義 演習: p. 119[復 習問題]解答と解 説	【予習】指定教科書p. 2-119 国試過去問の関連問題を通して、理 解を深める。	60

【科目名】 学習・言語心理学Ⅱ		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0070-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 授業終了後 ※随時メールにて対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学での学習・言語心理学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験(言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下障害へのリハビリテーション)から、人の言語及び行動の基本的な仕組みとその障害への適切な対応について講義していきます。人は置かれた環境によりよく適応して生きていけるよう、経験に基づいて柔軟に学習していく能力を備えていることを講じていきます。 ※本科目は、心理学専攻の必修科目であり、公認心理師国家試験受験資格を取得するための指定科目です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では10分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て、資料を受け取り、必ず参照して下さい。 授業中に実施した心理テスト等のデータは、原則提出を求めません。 生成系 AI の利用を全面的に許可します。授業内、予復習、成果物(レポート等含む)作成において自由に利用して下さい。 使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記して下さい。		
【講義概要】 (目的) ①経験に基づく行動の変化、及び②言語習得の機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を習得していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する適切な支援法を実践できることを目的とします。 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライドのPDF資料は配布し、関連する参考文献を紹介します。 欠席した場合には、後日担当教員に申し出て資料を受け取り、必ず参照して下さい。 課題レポートや理解度確認テストは、回収後に解答の解説を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。		
【行動目標(SBO)】 人間の行動は変化するものであることを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 学習・言語障害に対して適切な支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】 学習・言語心理学(ライブラリ心理学の杜7)/ 木山幸子・大沼卓也 他(著)/ サイエンス社(2022/10)/ ¥3,135(税込)		
【参考書】 学習と言語の心理学/ 中島定彦(著)/ 昭和堂(2020)/ ¥2,750(税込) グラフィック学習心理学: 行動と認知/ 山内光哉・春木豊(編著)/ サイエンス社(2001/3/10)/ ¥2,890(税込) 学習の心理 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ2)/ 実森正子・中島定彦(著)/ サイエンス社(2019)/ ¥2,530(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 ・定期試験を実施する。 ・出席点は評価に含まれない。 ・成績評価基準は本学学習規定のGPA制度に従う		

・成績評価基準は全女子別院生のGPA制度に従う。

※障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談して下さい。尚、相談することで不利益が生ずることはありません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1. 2	技能学習(1) ・学習曲線 ・技能と脳 技能学習(2) ・結果の知識 ・条件：全習法/分習法、集中練習/分散練習	講義 一部演習	【復習】指定教科書p. 121-133 感覚系と運動系の協応からなる技能(スマホやPCの操作, 自転車や自動車の運転, 楽器演奏, スポーツ等)は日常生活に必須であることを理解する。	60
3. 4	技能学習(3) ・技能の記憶 ・レミニセンス ・転移 技能学習(4) ・効果的な学習法(構え) ・熟達と脳	講義	【復習】指定教科書p. 134-143 技能の学習は類似した技能の習得にもなっている, ある筋肉系の学習が他の筋肉系の学習を促進する現象を理解する。【復習問題】指定教科書p. 143	60
5. 6	社会的学習(1) ・定義 ・観察学習 ・模倣学習 社会的学習(2) ・社会的学習理論から考察する攻撃行動	講義 一部討議：・いじめや虐待の防止を学習理論から提案する。	【復習】指定教科書p. 145-159 学習は, 自分自身の体験からのみではなく, 他者の体験を見たり聞いたりするだけで自身も学習することができることを理解する。	60
7. 8	社会的学習(3) ・社会的学習理論のポジティブな側面とネガティブな側面 社会的学習(4) ・観察学習による効果的な動機づけ・自己効力感	講義 演習 p. 165[復習問題]解答	【復習】指定教科書p. 160-164 バンデューラの社会的学習理論に基づくセルフ・エフィカシーの概念を理解する。 【復習問題】指定教科書p. 165	60
9. 10	言語学習(1) 言語の機能(役割) 言語学習(2) 言語の獲得 ・N. Chomskyの言語理論 ・言語発達と概念形成 ・母語と外国語の獲得	講義 演習 p. 205[復習問題]解答と解説	【復習】指定教科書p. 167-205 子どもの音声言語の発達過程(母語の音韻獲得)を理解する。言語獲得の「臨界期仮説」については、その科学的根拠を各自で調べる。	60
11. 12	言語学習(3) 言語と思考 ・内言/外言・J. PiagetとL. S. Vygotskyの論争 言語学習(4) 言語と脳 ・Broca野 ・Wernicke野	講義 演習：言語のしくみを脳の図解から理解する	【復習】指定教科書p. 207-226 言語が思考に果たす役割を理解するとともにその障害への適切な支援法を考案する。言語及び思考という高次脳機能を脳科学の観点からも理解する。	60
13. 14	言語学習(5) 言語・コミュニケーション障害 ・談話・会話の管理能力 ・失語症 ・失読失書 ・神経発達症群 言語学習(6) 障害への適切な支援 ・機能的障害 ・器質性障害	講義 視聴覚教材の活用	【復習】指定教科書p. 272-294 言語及びコミュニケーション障害の多様性への理解を深め, 適切な支援法を考案する。 【復習問題】 p. 294-295	60
15	まとめ	講義 演習：国試過去問の関連問題	【予習】指定教科書p. 167-295 国試過去問の関連問題を通して, 理解を深める。	60



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	産業・組織心理学を学ぶ意義 組織とは	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
3-4	組織における労働契約・法規 キャリア	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
5-6	ワーク・モチベーションと組織コミットメント リーダーシップ	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
7-8	職場の人間関係 職業性ストレスとメンタルヘルス	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
9-10	作業と安全衛生 産業・組織心理臨床の実際	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
11-12	産業精神保健 ストレスチェック制度	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
13-14	多様性に配慮した支援 組織開発	講義	教科書を利用して講義内容の予習・ 復習をする。 関連する文献を読む。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		関係行政論Ⅰ		【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】		専門分野（公認心理師養成科目）	【授業コード】	5-30-0155-2	（メールアドレス） mukaida@nur05.onmicrosoft.com （オフィスアワー）12:40～13:30（火・木）
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択	
【単位数】		1	【コマ数】	15	
【注意事項】					
（受講者に関わる情報・履修条件） 「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まる。「関係行政論Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に精神医療分野で相談職として従事してきた経験から、関係行政について講じていく。					
（受講のルールに関わる情報・予備知識） 試験結果は他に支障のない限り返却する。対面での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください					
【講義概要】					
（目的） この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①保健医療分野に関係する法律、制度、②福祉分野に関係する法律、制度、③教育分野に関係する法律、制度 ④司法・犯罪分野に関係する法律、制度、⑤産業・労働分野に関係する法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3					
（方法） 教科書・資料を用いて講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。					
【一般教育目標（GIO）】					
保健医療分野に関係のある法律、制度について理解できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について理解できる。 教育分野に関係のある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について理解できる。					
【行動目標（SB0）】					
保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
伊藤直文/岡田裕子/下山晴彦 編 『関係行政論』 ミネルヴァ書房（2,400円＋税）					
【参考書】					
子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣（1,600円＋税） 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版（3,200円＋税）					
【評価に関わる情報】					
（評価の基準・方法） 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験により評価する。 出席点は評価に含めない。 レポート等のフィードバックについては、個別にコメントを添えて返却する。					

レコード等のノードハックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	公認心理師と法律	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
3・4回	法の世界を理解する	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
5・6回	教育領域の制度と法	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
7・8回	福祉領域の制度と法（1）障害者（児）福祉	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
9・10回	福祉領域の制度と法（2）児童福祉	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
11・12回	福祉領域の制度と法（3）高齢者福祉	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
13・14回	産業・労働領域の制度と法	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
15回	今までのふりかえり	対面講義	復習：教科書、配布資料を読んでおく。	90分

【科目名】		関係行政論Ⅱ	【担当教員】	向田 怜史
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0160-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (火・木)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「関係行政論Ⅰ」を受講する合わせて受講することが望ましい。「公認心理師の職責」「心理学的支援法」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解がより深まる。 本科目は実務経験のある教員による授業科目である。主に精神医療分野で相談職として従事してきた経験から、関係行政について講じていく。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験結果は他に支障のない限り返却する。対面での講義である。アクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等について合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください				
【講義概要】 (目的) この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①保健医療分野に関係する法律、制度、②福祉分野に関係する法律、制度、③教育分野に関係する法律、制度 ④司法・犯罪分野に関係する法律、制度、⑤産業・労働分野に関係する法律、制度 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3				
(方法) 教科書、資料を用いて講じる。 公認心理師が関係する法律と制度について、具体例を挙げながら解説する。				
【一般教育目標(GIO)】 保健医療分野に関係のある法律、制度について理解できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について理解できる。 教育分野に関係のある法律、制度について理解できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について理解できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について理解できる。				
【行動目標(SB0)】 保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。				
【教科書・リザーブドブック】 伊藤直文/岡田裕子/下山晴彦 編 『関係行政論』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)				
【参考書】 子安増生・丹野義彦 編 『公認心理師エッセンシャルズ』 有斐閣 (1,600円＋税) 山崎久美子・津田彰ほか 編 『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』 ナカニシヤ出版 (3,200円＋税)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、定期試験により評価する。 出席点は評価に含めない。 レポート等のフィードバックについては、個別にコメントを添えて返却する。				

レコード等のノートバックについては、個別にコメントを付けて返却する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	45							45
	思考・推論・創造の力	45							45
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2回	保健・医療領域の制度と法 (1) 医療の仕組み	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
3・4回	保健・医療領域の制度と法 (2) 精神科医療	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
5・6回	保健・医療領域の制度と法 (3) 地域保健と医療	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
7・8回	司法・犯罪分野領域の制度と法 (1) 刑事	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
9・10回	司法・犯罪分野領域の制度と法 (2) 少年司法	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
11・12回	司法・犯罪分野領域の制度と法 (3) 民事・家事	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
13・14回	あらためて、なぜ関係行政論を学ぶのか	対面講義	予習：教科書を読んでおく。	90分
15回	今までのふりかえり	対面講義	復習：教科書、配布資料を読んでおく。	90分

【科目名】心理演習 I		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0170-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目履修までに、公認心理師の職責、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学を理解することが望ましい。 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な科目であるため、原則、公認心理師を目指す学生のみ履修可。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に保健医療、福祉、教育分野で心理に関する支援に従事してきた経験から、講じていきます。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床場面を想定した実践的な演習となります。 ロールプレイング、事例検討、グループワークなど、他の受講生との交流時間の割合が多くなります。 受講者全員が安心して参加できる雰囲気を全員で作るよう心掛けてください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のための必修科目である。 具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)や事例検討を通して、公認心理師に必要な知識及び技術の基本的な水準の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 主にロールプレイング、事例検討、グループワークを行う。 この科目はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能の修得。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能の修得。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。 【行動目標(SB0)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深め、説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書なし。毎回資料を配布する予定。		
【参考書】 下山晴彦・中嶋義文(2016) 公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法。医学書院。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート60%、実技20%、学修に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイング、事例検討、グループワークなどへの積極的参加、授業内または授業後に課題が与えられた場合にはその内容が評価対象となる。		

かめる場合については、内容が許御対象となる。

レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 公認心理師の職業倫理と法的義務	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
3-4	心理支援のコミュニケーション技法演習 (1)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
5-6	心理支援のコミュニケーション技法演習 (2)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
7-8	心理支援のコミュニケーション技法演習 (3)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
9-10	心理支援のコミュニケーション技法演習 (4)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
11-12	心理アセスメントと支援計画の立て方 (1)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
13-14	心理アセスメントと支援計画の立て方 (2)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
15	まとめ	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	今までの復習をする	120

【科目名】心理演習Ⅱ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0170-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目履修までに、公認心理師の職責、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学を理解することが望ましい。 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な科目であるため、原則、公認心理師を目指す学生のみ履修可。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に保健医療、福祉、教育分野で心理に関する支援に従事してきた経験から、講じていきます。障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床場面を想定した実践的な演習となります。 ロールプレイング、事例検討、グループワークなど、他の受講生との交流時間の割合が多くなります。 受講者全員が安心して参加できる雰囲気を全員で作るよう心掛けてください。 レポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイディアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のための必修科目である。 具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を通して、公認心理師に必要な知識及び技術の基本的な水準の修得を目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 主にロールプレイング、事例検討、グループワークを行う。 この科目はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能の修得。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能の修得。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能の修得。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。 【行動目標(SB0)】 ・心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・心理に関する支援を要する者を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチに関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・多職種連携及び地域連携に関する知識及び技能を修得し、説明できる。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を深め、説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書なし。毎回資料を配布する予定。		
【参考書】 下山晴彦・中嶋義文（2016）公認心理師必携精神医療・臨床心理の知識と技法、医学書院。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート60%、実技20%、学修に取り組む姿勢20%で評価する。 具体的には、授業内で実施するロールプレイング、事例検討、グループワークなどへの積極的参加、授業内または授業後に課題が与えられた場合にはその内容が評価対象となる。		

かめる場合については、内容が許件対象となる。

レポートの解答の返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60		20		20	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理面接の演習 (1)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
3-4	心理面接の演習 (2)	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
5-6	事例検討①：保健医療分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
7-8	事例検討②：福祉分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
9-10	事例検討③：教育分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
11-12	事例検討④：司法・犯罪分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
13-14	事例検討⑤：産業・労働分野における多職種連携と地域支援	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
15	まとめ	ロールプレイング、事例検討、グループワーク	今までの復習をする	120

【科目名】心理実習 (80 時間以上)		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0175-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(前期)	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】2	【コマ数】71	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目の履修条件は原則、心理演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることである。 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な科目であるため、原則、公認心理師を目指す学生のみ履修可。 本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 学内実習では、事前学習、学生紹介用紙、実習施設・機関の概要、実習日誌、実習のまとめなどを作成していただきます。 学外実習(実習先)だけではなく、学内実習についても無断欠席、遅刻は厳禁です。事前に連絡し、相談してください。 身だしなみや振る舞いなどに対する指導に従わない場合は、学外実習への参加を認めず、単位不認定の可能性あります。 実習施設・機関の順序や数は変更となる場合があります。 生成AIについては使用する場面がありません。		
【講義概要】 (目的) 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のための必修科目である。 実習施設・機関の見学を通して、公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携、心理状態の観察及び結果の分析、心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)などを理解し、体感することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 事前学習(学内実習)、実習施設・機関の見学(学外実習)、事後学習(学内実習)の流れで行う。 この科目はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 実習施設・機関の見学を通して、公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携、心理状態の観察及び結果の分析、心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)などを理解し、体感する。		
【行動目標(SB0)】 実習施設・機関の見学を通して、公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携、心理状態の観察及び結果の分析、心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)などを理解し、体感したことを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 オリエンテーションの際に配布する「心理実習実施要綱」		
【参考書】 鈴木伸一 監修 『公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック』 北大路書房 (2,700円＋税) 友久久雄・吉川悟 編 『臨床心理実習マニュアル』 遠見書房 (2,200円＋税) 津川律子・橋玲子 編 『心理職を目指す大学院生のための精神科実習ガイド』 誠信書房 (2,500円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、事前学習と事後学習で作成する書類、学内実習と学外実習での姿勢、実習指導者からの評価により総合的に評価する。 出席率は評価に含めません。		

山形県は許しません。

事前学習、実習中、事後学習で作成する書類は返却します。フィードバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				25		75			100
評価 指標	取り込む力・知識			25		15			40
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					60			60

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	【学内実習】オリエンテーション	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
3-6	【学内実習】保健医療分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
7-14	【学外実習】保健医療分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
15-18	【学内実習】保健医療分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
19-22	【学内実習】福祉分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
23-27	【学外実習】福祉分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
28-31	【学内実習】福祉分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
32-35	【学内実習】教育分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30

36-40	【学外実習】 教育分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
41-44	【学内実習】 教育分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
45-48	【学内実習】 司法・犯罪分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
49-54	【学外実習】 司法・犯罪分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
55-58	【学内実習】 司法・犯罪分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
59-62	【学内実習】 産業・労働分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
63-67	【学外実習】 産業・労働分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
68-71	【学内実習】 産業・労働分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30

【科目名】心理実習 (80 時間以上)		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】5-30-0175-2	(メールアドレス)
【開講時期】通年(後期)	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】2	【コマ数】71	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目の履修条件は原則、心理演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることである。 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のために必要な科目であるため、原則、公認心理師を目指す学生のみ履修可。 本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 学内実習では、事前学習、学生紹介用紙、実習施設・機関の概要、実習日誌、実習のまとめなどを作成していただきます。 学外実習(実習先)だけではなく、学内実習についても無断欠席、遅刻は厳禁です。事前に連絡し、相談してください。 身だしなみや振る舞いなどに対する指導に従わない場合は、学外実習への参加を認めず、単位不認定の可能性あります。 実習施設・機関の順序や数は変更となる場合があります。 生成AIについては使用する場面がありません。		
【講義概要】 (目的) 本科目は公認心理師国家試験受験資格取得のための必修科目である。 実習施設・機関の見学を通して、公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携、心理状態の観察及び結果の分析、心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)などを理解し、体感することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) 事前学習(学内実習)、実習施設・機関の見学(学外実習)、事後学習(学内実習)の流れで行う。 この科目はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 実習施設・機関の見学を通して、公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携、心理状態の観察及び結果の分析、心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)などを理解し、体感する。		
【行動目標(SB0)】 実習施設・機関の見学を通して、公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携、心理状態の観察及び結果の分析、心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)などを理解し、体感したことを説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 オリエンテーションの際に配布する「心理実習実施要綱」		
【参考書】 鈴木伸一 監修 『公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック』 北大路書房 (2,700円＋税) 友久久雄・吉川悟 編 『臨床心理実習マニュアル』 遠見書房 (2,200円＋税) 津川律子・橋玲子 編 『心理職を目指す大学院生のための精神科実習ガイド』 誠信書房 (2,500円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、事前学習と事後学習で作成する書類、学内実習と学外実習での姿勢、実習指導者からの評価により総合的に評価する。 出席率は評価に含みません。		

山形県は許しません。

事前学習、実習中、事後学習で作成する書類は返却します。フィードバックは必要に応じて行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				25		75			100
評価 指標	取り込む力・知識			25		15			40
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					60			60

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	【学内実習】オリエンテーション	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
3-6	【学内実習】保健医療分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
7-14	【学外実習】保健医療分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
15-18	【学内実習】保健医療分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
19-22	【学内実習】福祉分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
23-27	【学外実習】福祉分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
28-31	【学内実習】福祉分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
32-35	【学内実習】教育分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30

36-40	【学外実習】教育分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
41-44	【学内実習】教育分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
45-48	【学内実習】司法・犯罪分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
49-54	【学外実習】司法・犯罪分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
55-58	【学内実習】司法・犯罪分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
59-62	【学内実習】産業・労働分野の事前学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
63-67	【学外実習】産業・労働分野	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30
68-71	【学内実習】産業・労働分野の事後学習	実習 能動的学習（アクティブラーニング）	実習内容の振り返り 関連する文献を読む	30

【科目名】	精神障害生活支援論		【担当教員】	向田 怜史	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0005-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	mukaida@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ(45分)	(オフィスアワー) 火・木 12：40-13：30	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
精神疾患を持つ方への支援をするためには、当事者の理解や制度に関する理解は必須である。この講義は、精神保健福祉分野の臨床経験のある講師が経験を交えながら講じていく。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
レポートについては他に支障のない範囲で可能な限り返却する。対面での講義であるがアクティブラーニングの手法を用いて、主に問題解決型学習を焦点とした双方向の講義を展開していく。 生成系 AI の利用を全面的に許可する。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してよい。ただし、使用した場合にその旨をレポート等に記載すること。 ※障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
【講義概要】					
(目的)					
精神疾患をもつ方への支援や方法、制度について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, A-3					
(方法)					
教科書・資料を用いて講義形式で行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
精神的な病を抱えている当事者への生活支援や制度について理解する。					
【行動目標(SB0)】					
障害の定義について説明できる。 障害を抱えている当事者、特に精神的な病を抱えている当事者が利用する生活上の問題や現状について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
精神保健福祉士シリーズ8 精神障害者の生活支援システム[第3版]、弘文堂、2018年、2,700円(税別)					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 定期試験、レポートを中心的な評価基準とする。 出席点は評価に含めない。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価 指標	取り込む力・知識	35		10					45
	思考・推論・創造の力	35		10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	・精神障害者の生活支援とは何か 精神障害者とは 障害の概念について	対面講義	教科書P2-12の予習	90
3・4	・精神障害者の基本的理解 精神障害者の定義とは	対面講義	前回の復習 教科書P16-P30の予習	90
5・6	・精神疾患について 統合失調症・気分障害について ICDとDSMの違いについて	対面講義	前回の復習 精神疾患についての予習	90
7・8	・精神障害者の生活 精神障害者の生活実態と取り巻く環境について	講義	前回の復習 予習教科書P32-52を読んでおく	90
9・10	・精神障害者の生活と人権 権利擁護・居宅支援・就労支援について	講義 課題	前回の復習 予習教科書P54-109、P112-139を読んでおく	90
11・12	・精神障害者への地域でのサポート 自助グループ・地域支援について	講義	前回の復習 予習教科書P142-165を読んでおく	90
13・14	・精神障害者への地域でのサポート 医療機関や行政機関の役割について	講義	前回の復習 予習教科書P166-183を読んでおく	90
15	・今までの振り返り	講義	前回の復習	90

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション心理学Ⅰ		【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0010-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション概論について知識を有していること。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者はリハビリテーション心理学Ⅰとリハビリテーション心理学Ⅱを併せて履修登録すること。 本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションや演習を多く取り入れる。				
【講義概要】				
(目的) リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1, 2, 3				
(方法) 講義および症例を元にしたディスカッションを行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。				
【行動目標(SBO)】				
リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
テキストとなる資料を配布する。				
【参考書】				
「リハビリテーション心理学入門」南雲直二著 荘道社 ¥1,760				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 ただし演習におけるサポートとしての使用は許可します。 試験・小テストのみで評価するため、筆記形式の方法が必要に応じて講義にておこなわれます。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーション心理学とは	講義	講義ノート作成	90
3-4	リハビリテーション心理学の歩み	講義	講義ノート作成	90
5-6	障害の構造と理解	講義	講義ノート作成	90
7-8	障害受容について	講義	講義ノート作成	90
9-10	障害適応へのアプローチ(1) 心理的問題の要因	講義・演習	講義ノート作成	90
11-12	障害適応へのアプローチ(2) 当事者と家族	講義・演習	講義ノート作成	90
13-14	障害適応へのアプローチ(3) 身体症状症	講義・演習	講義ノート作成	90
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

リハビリテーション学科

【科目名】リハビリテーション心理学Ⅱ		【担当教員】加藤 真由美
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0015-1	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) リハビリテーション概論および臨床心理学について基本的知識を有していること。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 受講者はリハビリテーション心理学Ⅰとリハビリテーション心理学Ⅱを併せて履修登録すること。 本講義では、様々な疾患や障害をもつ方々の心理にどう寄り添っていくかを中心に考えていく。講義はディスカッションや演習を多く取り入れる。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーション心理学が働きかける対象と障害構造について理解できる。 障害受容とその阻害要因について理解できる。 リハビリテーション心理学のアセスメントと援助の実際を理解できる。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-3 当該科目と学位授与方針との関連性；R-1, 2, 3 (方法) 講義および症例を元にしたディスカッション、演習を行う。		
【一般教育目標(GIO)】 リハビリテーションを促進するためのこころの支援に必要な、障害の受容や心の回復について理解し、自らの関与について見解をまとめる。		
【行動目標(SBO)】 リハビリテーション心理学が介入すべき心の課題について説明することができる。 必要な介入方法について説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 「リハビリテーション心理学入門」 南雲直二著 荘道社 ￥1,760		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 ただし、演習におけるサポートとして使用することは許可します。 試験、レポート、小テスト、演習の方法、必要に応じて講義に振りかえります。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	20	30					100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20	10					70
	思考・推論・創造の力	10		20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	リハビリテーションにおける心理学的対応(1) 災害心理支援	講義	講義ノートの作成	90
3-4	リハビリテーションにおける心理学的対応(2) 症例別アプローチ	講義	講義ノートの作成	90
5-6	リハビリテーションにおける心理学的対応(3) 症例検討	講義、演習	講義ノートの作成	90
7-8	リハビリテーションにおける心理学的対応(4) 症例検討	講義、演習	講義ノートの作成	90
9-10	リハビリテーションにおける心理学的対応(5) 職業倫理	講義	講義ノートの作成	90
11-12	リハビリテーションにおける心理学的対応(6) 症例別アプローチ	講義	講義ノートの作成	90
13-14	リハビリテーションにおける心理学的対応(7) 症例検討	講義、演習	講義ノートの作成	90
15・試験	まとめ・試験	講義・試験	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。	90

【科目名】 ポジティブ心理学Ⅰ		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0020-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) オンデマンド講義である。 ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 講義動画1つにつき、小テストを1つ出し、Teamsでの提出を求める。		
【一般教育目標(GIO)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践するためにポジティブ心理学の知識を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。		
【参考書】 島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店 (1,800円＋税) 堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社 (2,400円＋税) J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房 (2,700円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	ポジティブ心理学とは	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
3-4	幸福	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
5-6	ポジティブ感情	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
7-8	ウェルビーイング	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
9-10	フロー体験	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
11-12	強み	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
13-14	レジリエンス	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】 ポジティブ心理学Ⅱ		【担当教員】 大矢 薫
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0020-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」「感情・人格心理学」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 本科目は実務経験のある教員による授業科目です。主に教育分野で教育や心理に関する支援に従事してきた経験から、ポジティブ心理学について講じていきます。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。 小テスト、レポートなどは原則として返却しません。小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行います。 小テストやレポートを作成する際、生成AIの利活用は認めますが、出力結果をそのまま利用するのではなく、自分自身のオリジナルの考えやアイデアと組み合わせるようにしてください。		
【講義概要】 (目的) ポジティブ心理学を日常生活や将来の社会人生活に活かすことができるようになることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3 (方法) オンデマンド講義である。 ポジティブ心理学の各トピックについて、具体例を挙げながら解説する。 講義動画1つにつき、小テストを1つ出し、Teamsでの提出を求める。		
【一般教育目標(GIO)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践するためにポジティブ心理学の知識を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ポジティブ心理学の知識を日常生活で実践する。		
【教科書・リザーブドブック】 毎回、講義資料を配布する。		
【参考書】 島井哲志 『ポジティブ心理学入門』 星和書店 (1,800円＋税) 堀毛一也 『ポジティブなこころの科学』 サイエンス社 (2,400円＋税) J・J・フロウ、A・C・パークス 編 『ポジティブ心理学を味わう』 北大路書房 (2,700円＋税)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、小テストおよびレポートにより総合的に評価する。 出席点は評価に含みません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			60	40					100
評価 指標	取り込む力・知識		30	20					50
	思考・推論・創造の力		30	20					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	楽観主義	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
3-4	希望	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
5-6	感謝	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
7-8	セルフ・コンパッション	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
9-10	心的外傷後成長 (PTG)	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
11-12	ワーク・エンゲイジメント	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
13-14	人生の意味	講義	講義内容に関連する関連する文献を 読み、予習・復習をする。	240分
15	まとめ	講義	今までの復習をする。	120分

【科目名】		認知行動療法		【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】		専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0030-2	(メールアドレス)
【開講時期】		前期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】		1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
公認心理師取得を目指す方や心理臨床で働きたい方向けの講義となります。 「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」など心理学の科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 この授業はアクティブラーニングを用います。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義後、小テストを実施する。					
【講義概要】					
(目的)					
認知行動療法の考えを対人場面と自分のセルフケアに活かすことができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2、R-1, 2, 3					
(方法)					
毎回、講義資料を配布する。演習はグループまたは1対1の形式で行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
認知行動療法の理論の概観を理解する。					
【行動目標(SBO)】					
認知行動療法の技術を一部実践できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
講義資料を配布する。					
【参考書】					
実践家のための認知行動療法テクニックガイド：行動変容と認知変容のためのキーポイント 鈴木 伸一、神村 栄一（著），坂野雄二（監修） 北大路書房 ￥2,750					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストやレポート作成において、生成AIの使用は許可しません。 試験・レポートのフィードバック方法：必要に応じ補講等にて解説をおこないます。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	認知行動療法とはなにか	講義	講義ノートを作成する。	240分
3-4	認知行動療法Ⅰ	講義	講義ノートを作成する。	240分
5-6	認知行動療法Ⅱ	講義	講義ノートを作成する。	240分
7-8	認知行動療法Ⅲ	講義	講義ノートを作成する。	240分
9-10	認知行動療法Ⅳ	講義	講義ノートを作成する。	240分
11-12	認知行動療法Ⅴ	講義・演習	講義ノートを作成する。	240分
13-14	認知行動療法Ⅵ	講義・演習	講義ノートを作成する。	240分
15・試験	まとめ・試験	講義	これまでの講義をもとに講義ノート を完成させる。。	120分

【科目名】	コスメティック・セラピー I		【担当教員】	長谷川 千種、的場 已知子	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0045-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 10：00～17：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・この科目は整容による心理的・身体的な効果を学ぶ科目です。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・自身や他者に対する化粧を実施しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。					
【講義概要】					
(目的)					
・整容の臨床的な応用である「コスメティック・セラピー（化粧療法）」の実践を学ぶ前段階として、化粧に関する心理的・身体的な知識を学び、自分自身への活かし方を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1					
(方法)					
・コスメティック・セラピーの技法と理論を理解できるよう実技を交えた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
コスメティック・セラピーの概要を理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
コスメティック・セラピーの概要を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書は使用しません。					
【参考書】					
・阿部恒之/著「ストレスと化粧の社会生理心理学」フレグランスジャーナル社, 2002, ￥3, 300 ・鈴木公啓/著「装いの心理学」北大路書房, 2020, ￥2, 970 (税込) ・平松隆円/著「化粧にみる日本文化」水曜社, 2009, ￥2, 970 (税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。					



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30				0	60
	思考・推論・創造の力			30				0	30
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	化粧とは何か ・人は何のために装うのか ・日本と西洋の化粧史	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
3・4	化粧の機能 ・化粧行為の目的と機能 ・化粧の心理的作用	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
5・6	化粧の知覚心理学（１） ・印象分析 ・パーツバランス	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
7・8	化粧の知覚心理学（２） ・化粧の錯視 ・眉メイク	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
9・10	色彩心理学 ・色の基礎知識 ・色の効果	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
11・12	パーソナルカラー ・高齢者の衣生活とおしゃれ ・介護スタッフのユニフォーム	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
13・14	化粧療法（１） ・化粧療法とは ・介護・医療現場における化粧の位置付け	講義 一部演習	講義資料の復習	45分
15	化粧療法（２） ・高齢者に対する化粧療法	講義 一部演習	講義資料の復習	45分

【科目名】 コスメティック・セラピーⅡ		【担当教員】 長谷川 千種、的場 已知子
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】 5-31-0050-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	c_hasegawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金 10：00～17：00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・この科目は、整容による心理的・身体的な効果を学ぶ科目です。 ・「コスメティック・セラピーⅠ」を履修していること。 ・この講義はアクティブラーニングを用います。 ・自身や他者に対する化粧を実施しますので、演習に参加することが必須の科目です。 ・障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・この科目では10分以上の遅れで遅刻となります。 ・小テストの結果は返却します。 ・生成系AIの利用は禁止しています。		
【講義概要】 (目的) ・整容の臨床的な応用である「コスメティック・セラピー（化粧療法）」の概要とその実践を学ぶことによって、対人援助者としての対象者への関わり方を学ぶことができる。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1 (方法) ・コスメティック・セラピーの技法と理論を理解できるよう演習を交えた講義を行います。 ・状況に応じて配信講義を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 コスメティック・セラピーを対人援助の場面で応用するために、その概要と技術を理解する。		
【行動目標(SB0)】 ・コスメティック・セラピーの概要を説明できる。 ・コスメティック・セラピーを将来の対人援助において、どのように応用することができるか考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ・池山和幸/著「装うことで健康寿命を伸ばす化粧療法ーエビデンスに基づく超高齢社会への多職種連携アプローチ」クインテッセンス出版, 2019, ¥2, 420（税込）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従います。 ・成績評価は下記の評価基準により100点満点で60点以上を合格とします。 ・出席点は評価に含まれません。		



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		0	30	60	0	0	0	10	100
評価 指標	取り込む力・知識		30	30				0	60
	思考・推論・創造の力			30				0	30
	コラボレーションとリーダーシップ							0	0
	発表力							0	0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	高齢者への化粧療法（１） ・タッチケア ・アロマハンドトリートメント	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
3・4	高齢者への化粧療法（２） ・アロマハンドトリートメント ・ネイルケア	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
5・6	高齢者への化粧療法（３） ・高齢者にとって化粧とは ・心、脳、身体運動、口腔へのアプローチ	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
7・8	高齢者への化粧療法（４） ・ADL向上のための整容	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
9・10	高齢者への化粧療法（５） ・ADL向上のための整容 ・ペア演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
11・12	高齢者への化粧療法（６） ・ADL向上のための整容 ・ペア演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
13・14	高齢者への化粧療法（７） ・ADL向上のための整容 ・グループ演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分
15	高齢者への化粧療法（７） ・ADL向上のための整容 ・グループ演習	講義 一部演習	講義内容の復習	45分

【科目名】	グループカウンセリングⅠ		【担当教員】	大越 陽平	
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0055-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15		
(オフィスアワー) 月木、12:30~13:30					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」等の科目を履修していると、本講義の理解が深まります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
コミュニケーションやチームによるグループワークを多く取り扱う授業である。					
授業ごとにレポートを課す。また、最終試験の代わりに最終レポートを課す。					
合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。					
生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。					
【講義概要】					
(目的)					
本講義ではグループカウンセリングを理解する上での基礎知識となる対人相互作用に関するトピックについて講義する。					
当該科目と学位授与方針等との関連性； R-1、R-2					
(方法)					
毎回の講義において必要な資料を配布し、パワーポイントを用いながら進行する。演習を多く取り入れる。					
【一般教育目標 (GIO)】					
さまざまな理論を援用しながら対人相互作用が形成される過程、機序について理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
心理学的観点から、対人相互作用が形成される過程、機序について説明できる。					
適切なコミュニケーションが取れる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回の授業で資料を配布する。					
【参考書】					
ケアする人の対話スキルABCD 堀越 勝（著）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。					
・小テストと定期試験を実施する。					
・小テストのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。					
出席率は評価に含めず、出席状況は出席簿で確認する。					

・ 山形県は詳細に召かまへん。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60		40			100
評価 指標	取り込む力・知識			40		20			60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	コミュニケーション基礎 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
3・4	コミュニケーション基礎 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
5・6	対話スキル 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
7・8	対話スキル 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
9・10	グループ心理療法 1	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
11・12	グループ心理療法 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
13・14	コミュニケーション実践	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240
15	まとめ	講義	配布資料を利用して講義内容の予習・復習をする。	240

【科目名】	グループカウンセリングⅡ		【担当教員】	大越 陽平
【授業区分】	専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】	5-31-0060-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	15	
(オフィスアワー) 月木, 12:30~13:30				
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
「臨床心理学概論」「社会・集団・家族心理学」等の科目を履修していると、本講義の理解が深まります。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
コミュニケーションやチームによるグループワークを多く取り扱う授業である。 授業ごとにレポートを課す。また、最終試験の代わりに最終レポートを課す。 合理的配慮が必要な学生に関しては、学務や学科に申請の上対応を行う。 生成AIに関しては、原則使用不可とするが利用したい場合は教員に申し出ることとする。				
【講義概要】				
(目的)				
本講義では各心理療法における集団療法について演習も交えながら講義する。 当該科目と学位授与方針等との関連性； R-1、R-2				
(方法)				
毎回の講義において必要な資料を配布し、パワーポイントを用いながら進行する。講義が中心となるが適宜演習を取り入れる。				
【一般教育目標 (GIO)】				
グループによる心理療法の効能と限界、また個人による心理療法との違いについて理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
グループによる心理療法の効能と限界、また個人による心理療法との違いについて説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
毎回の授業で資料を配布する。				
【参考書】				
授業で紹介する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小レポートとを実施する。 ・小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。				

・ 出席率は評価に反映しません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40	60						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	40						60
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	構成的エンカウンター（１）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
3・4	構成的エンカウンター（２）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
5・6	ソーシャルスキル・トレーニング（１）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
7・8	ソーシャルスキル・トレーニング（２）	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
9・10	アサーション・トレーニング	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
11・12	集団認知行動療法 1	講義・演習	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
13・14	集団認知行動療法 2	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240
15	まとめ	講義	配布資料を利用して講義内容の予 習・復習をする。	240

【科目名】英書講読		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】 専門分野(リハビリテーション心理学)	【授業コード】5-31-0070-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 英語の文献講読に関心がある、また卒業論文を執筆し大学院での心理学の研究の継続を検討している受講生に推奨される科目である。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・これまでの心理学関連の授業で学んだ内容を英語で読解する授業となるため、これまでの学びの基礎知識が必要である。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。		
【講義概要】 (目的) 心理学のテーマを扱った英語論文の読み方と読解の基礎について学ぶ。 (方法) 毎回の授業において講読箇所の担当者を割り振って、その内容について発表する。 この講義はアクティブラーニングを用います。		
【一般教育目標(GIO)】 各領域の心理学のを英語で講読することにより、英文を読むことに慣れるとともに、内容を正しく理解する。 【行動目標(SB0)】 心理学の重要なキーワードについて英語で表現することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義資料はその都度配布する。		
【参考書】 ・ Susan Nolen-Hoeksema 他 / Atkinson & Hilgard's introduction to psychology / Cengage Learning EMEA / 2014年 ・ Susan Nolen-Hoeksema 他, 内田 一成 監訳 / ヒルガードの心理学 / 金剛出版 / 2015年		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポートと成果発表を実施する。 ・レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。 ・出席率は評価に含めず、レポートと成果発表の成績で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	30			10	100
評価 指標	取り込む力・知識			30	20				50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (1)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
3-4	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (2)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
5-6	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (3)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
7-8	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (4)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
9-10	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (5)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
11-12	心理学領域の英語で書かれた文献の講読 (6)	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
13-14	発表	講義	心理学英語の読解を通してその表現 を読み取る力を養う	240
15	まとめ	講義	これまでの内容の復習	120

【科目名】リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年Ⅰ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(ゼミナール)	【授業コード】U52870	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学専攻4年生対象の必修科目です。 4年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの心理学関連領域の社会的な問題や課題について、常に関心を持っていてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 4年生となり、各自の将来像をある程度明確にし、進路を決定する必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。		
【講義概要】 (目的) 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年Ⅱ」を引き継ぎ、更に展開させていく。 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・3年Ⅱ」とは異なる観点で、自らの進路や将来像をこれまで以上に明確にしていく。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2、RP-1, 2, 3 (方法) ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方(方法)を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 一例として、 各自が関心のあるテーマを取り上げ、必要な情報を収集してまとめ、プレゼンテーションを行う。 その後、ゼミ学生全員で、そのテーマについてディスカッションを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事や職業はどのようなものがあるのかを知る。 自分自身の能力(強み)、適性を客観的に自覚できる。		
【行動目標(SB0)】 自分自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自分の意見や気づきも含めて発表することができる。 グループでの活動を通じて、チームでの協力や連携の姿勢を身につける。 ゼミ活動の実践を通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力と問題解決力を身につける。 本科目を通じて、自分自身の進路を自分の意思である程度選択することができるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【参考書】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。 レポートの添削やフィードバックについては、各ゼミ担当教員に一任される。		

レポートの返却やノートバックについては、各ゼミ担当教員に任せられる。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10		10		30

[illegible]

【科目名】リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年Ⅱ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(ゼミナール)	【授業コード】U52871	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学専攻4年生対象の必修科目です。 4年生は全員が必ず履修登録し、単位を修得するよう努めてください。 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの心理学関連領域の社会的な問題や課題について、常に関心を持っていてください。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 4年生となり、各自の将来像をある程度明確にし、進路を決定する必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 ゼミ活動を通して、どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思を明確にもてるようになることが期待されます。		
【講義概要】 (目的) 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年Ⅰ」を引き継ぎ、更に展開させていく。 「リハビリテーション心理学応用ゼミ・4年Ⅰ」とは異なる観点で、自らの進路や将来像をこれまで以上に明確にしていく。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2、RP-1, 2, 3 (方法) ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方（方法）を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 一例として、 各自が関心のあるテーマを取り上げ、必要な情報を収集してまとめ、プレゼンテーションを行う。 その後、ゼミ学生全員で、そのテーマについてディスカッションを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 心理学を学修している自分が、近い将来どのような人生を歩んでいきたいのか、各自の意思をある程度明確にする。 心理学が現代社会でどのように必要とされ、活かされているのかを知る。 心理学に関連する仕事や職業はどのようなものがあるのかを知る。 自分自身の能力（強み）、適性を客観的に自覚できる。		
【行動目標(SB0)】 自分自身の関心のある事柄について調査し、その結果をまとめ、自分の意見や気づきも含めて発表することができる。 グループでの活動を通じて、チームでの協力や連携の姿勢を身につける。 ゼミ活動の実践を通じて、多様な価値観をもつ人間への理解力と問題解決力を身につける。 本科目を通じて、自分自身の進路を自分の意思である程度選択することができるようになる。		
【教科書・リザーブドブック】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【参考書】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、グループワーク、発表、レポートなどから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。 レポートの添削やフィードバックについては、各ゼミ担当教員に一任される。		

レポートの返却やノートバックについては、各ゼミ担当教員に任せられる。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			20			10		30
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10		10		30

[illegible]

【科目名】リハビリテーション心理学特講・A I		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(ゼミナール)	【授業コード】5-32-0020-2	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学専攻4年生の中で就職を希望する学生が対象の科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 4年生となり、各自の将来像をある程度明確にし、進路を決定する必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は①を希望する学生を対象とする科目です。		
【講義概要】 (目的) 本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にしていく。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2、RP-1		
(方法) ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方（方法）を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 一例として、 企業研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接練習、就職活動の振り返りなどを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にする。		
【行動目標(SB0)】 企業研究をすることができる。 履歴書を作成することができる。 就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に活かす方法を考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【参考書】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、発表、ポートフォリオなどから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。 発表やポートフォリオに対するフィードバックについては、各ゼミ担当教員に一任される。		

発表や小レポート等に対するフィードバックについては、各ゼミ担当教員に任せられる。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					30		50	20	100
評価指標	取り込む力・知識						20	10	30
	思考・推論・創造の力						20		20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10	10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	企業研究 働きたい企業を書籍やインターネットで検索し、その概要をまとめる。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	企業研究を行う。	240
3-6 一例	履歴書作成 働きたい企業へ提出する履歴書を作成する。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	履歴書を作成する。	240×2
7-10 一例	筆記試験対策 働きたい企業が課す筆記試験に対応できるよう、対策本などを利用して準備を行う。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	筆記試験に向けて準備を行う。	240×2
11-14 一例	面接練習 働きたい企業での面接に向けて、ゼミ担当教員を面接官として練習を行う。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	面接において尋ねられる質問内容やその返答を考える。	240×2
15 一例	まとめ 自分自身の就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に活かす方法を考える。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	自分自身の就職活動を振り返る。	120

【科目名】リハビリテーション心理学特講・AⅡ		【担当教員】大矢 薫
【授業区分】専門分野(ゼミナール)	【授業コード】5-32-0025-2	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学専攻4年生の中で就職を希望する学生が対象の科目です。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 4年生となり、各自の将来像をある程度明確にし、進路を決定する必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は①を希望する学生を対象とする科目です。		
【講義概要】 (目的) 「リハビリテーション心理学特講・AⅠ」を引き継ぎ、更に展開させていく。 本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にしていく。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2、RP-1 (方法) ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方（方法）を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 一例として、 企業研究、履歴書作成、筆記試験対策、面接練習、就職活動の振り返りなどを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 本科目を通して、自らの進路を決定し、卒業後の将来像を明確にする。		
【行動目標(SB0)】 企業研究をすることができる。 履歴書を作成することができる。 就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に活かす方法を考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【参考書】 各ゼミ担当教員の指示・助言による。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、発表、ポートフォリオなどから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。 発表やポートフォリオに対するフィードバックについては、各ゼミ担当教員に一任される。		

発表や小レポート等に対するフィードバックについては、各ゼミ担当教員に任せられる。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					30		50	20	100
評価 指標	取り込む力・知識						20	10	30
	思考・推論・創造の力						20		20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢				10		10	10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	企業研究 働きたい企業を書籍やインターネットで検索し、その概要をまとめる。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	企業研究を行う。	240
3-6 一例	履歴書作成 働きたい企業へ提出する履歴書を作成する。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	履歴書を作成する。	240×2
7-10 一例	筆記試験対策 働きたい企業が課す筆記試験に対応できるよう、対策本などを利用して準備を行う。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	筆記試験に向けて準備を行う。	240×2
11-14 一例	面接練習 働きたい企業での面接に向けて、ゼミ担当教員を面接官として練習を行う。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	面接において尋ねられる質問内容やその返答を考える。	240×2
15 一例	まとめ 自分自身の就職活動を振り返り、この経験を今後の人生に活かす方法を考える。	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	自分自身の就職活動を振り返る。	120

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション心理学特講・BⅠ(卒業研究)		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	5-32-0030-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
心理学専攻4年生の中で大学院進学を希望する学生が対象の科目です。 「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「心理学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修しておくことが望ましい。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
4年生となり、各自の将来像をある程度明確にし、進路を決定する必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は②を希望する学生を対象とする科目です。				
【講義概要】				
(目的)				
卒業論文に取り組むことを通して、論理的な思考力を向上させることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2, 3、RP-1, 2, 3				
(方法)				
ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方(方法)を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 中間発表会を行う。(8月を予定) 最終発表会を行う。(12月を予定)				
【一般教育目標(GIO)】				
研究テーマを設定し、研究計画を作り、実際に研究を実施する。 結果をまとめ、考察を書く。				
【行動目標(SB0)】				
卒業論文を完成させるための1年間のタイムテーブルと具体的な行動目標を作成することができる。 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成することができる。 研究結果をまとめることができる。 研究結果と先行研究を照らし合わせ、考察を加えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
各ゼミ担当教員の指示・助言による。				
【参考書】				
小塩真司・宅香菜子 『心理学の卒業研究ワークブック』 金子書房 (2, 500円＋税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、卒業論文、成果発表などから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。				

卒業論文、卒業発表に対するノートバックについては、各ゼミ担当教員に示される。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					90			10	100
評価 指標	取り込む力・知識				20				20
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢				20			10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	オリエンテーション 研究テーマの設定	演習 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	研究テーマを考える。	240
3-6 一例	先行研究を収集・精読 調査法の検討	演習 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	先行研究を収集し、精読する。	240×2
7-10 一例	データ収集	演習 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	収集したデータを整理する。	240×2
11-12 一例	データ分析	演習 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	データの分析を行う。	240
13-14 一例	中間発表会の準備 抄録や発表用スライドの作成	演習 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	抄録や発表用スライドを作成する。	240
15	中間発表会	演習 能動的学習（ア クティブラーニ ング）	中間発表会でのコメントから、今後の研究計画の軌道修正、データ追加などを検討する。	120

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション心理学特講・BⅡ (卒業研究)		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門分野(ゼミナール)	【授業コード】	5-32-0035-2	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
心理学専攻4年生の中で大学院進学を希望する学生が対象の科目です。 「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「心理学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修しておくことが望ましい。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
4年生となり、各自の将来像をある程度明確にし、進路を決定する必要があります。 進路は、①学部卒業後に就職するコースと、②大学院へ進学するコースの2つに大別されます。 ①の場合は、自分自身の能力と適性に合った職業に就くために、多種多様な業種の中から選択していくことになります。 ②の場合は、公認心理師を目指すコースと一般心理学を深く研究するコースに分かれます。 本科目は②を希望する学生を対象とする科目です。				
【講義概要】				
(目的)				
「リハビリテーション心理学特講・BⅠ (卒業研究)」を引き継ぎ、更に展開させていく。 卒業論文に取り組むことを通して、論理的な思考力を向上させることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性；A-1, 2, 3、RP-1, 2, 3				
(方法)				
ゼミ担当教員の指導の下、各ゼミごとに進め方 (方法) を決定する。 この科目はアクティブラーニングを用います。 中間発表会を行う。(8月を予定) 最終発表会を行う。(12月を予定)				
【一般教育目標(GIO)】				
研究テーマを設定し、研究計画を作り、実際に研究を実施する。 結果をまとめ、考察を書く。				
【行動目標(SB0)】				
卒業論文を完成させるための1年間のタイムテーブルと具体的な行動目標を作成することができる。 研究テーマに関連した文献を抄読し、文献リストを作成することができる。 研究結果をまとめることができる。 研究結果と先行研究を照らし合わせ、考察を加えることができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
各ゼミ担当教員の指示・助言による。				
【参考書】				
小塩真司・宅香菜子 『心理学の卒業研究ワークブック』 金子書房 (2, 500円＋税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、卒業論文、成果発表などから総合的に評価する。出席点は評価に含まれない。 評価基準の詳細は、各ゼミ担当教員に一任される。				

卒業論文、卒業発表に対するノートバックについては、各ゼミ担当教員に示される。
生成系 AI の利用については、各ゼミ担当教員の指示に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					90			10	100
評価 指標	取り込む力・知識				20				20
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢				20			10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2 一例	卒業論文の題目設定	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	今までの研究計画を振り返り、今後の研究計画を立てる。	240
3-6 一例	追加データの収集 データ分析	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	追加データを収集し、分析する。	240×2
7-8 一例	結果のまとめ 考察の観点を検討 関連する文献の追加収集	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	結果や考察を検討する。 文献を追加収集する。	240
9-12 一例	卒業論文の執筆・推敲 (修正)	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	卒業論文の執筆・推敲 (修正) を行う。	240×2
13-14 一例	最終発表会の準備 抄録や発表用スライドの作成	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	抄録や発表用スライドを作成する。	240
15	最終発表会	演習 能動的学習 (アクティブラーニング)	最終発表会でのコメントから、自分自身の研究を振り返る。	120